

『ジェイン・エア』とその娘たち
—ヴィクトリア時代の文献に現れる女性の姿—

Jane Eyre and Its Daughters

—Studies on Women in the Literatures about Victorian Society—

鹿児島大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程 地域政策科学専攻

加塩里美

目次

序章 イギリス社会と『ジェイン・エア』

- 第1節 先行研究と問題の所在
- 第2節 研究の目的と方法
- 第3節 本論文の構成

第一部『ジェイン・エア』に見られるヴィクトリア朝イギリス社会

第1章 イギリス社会と『ジェイン・エア』

- 第1節 世界的規模の変革の動きと産業革命の影響 1
- 第2節 ゲーツヘッドでの厄介者 2
- 第3節 鬱屈した階級意識 3

第2章 ヴィクトリア時代の女性達

- 第1節 階級をめぐる状況 8
- 第2節 中流階級の女性達をめぐる状況 11
- 第3節 労働者階級の女性達をめぐる状況 12

第3章 中流階級の女性の結婚

- 第1節 「女余り現象」と結婚 13
- 第2節 神からの使命と人間 16
- 第3節 ジェインの結婚 18

第4章 作品に見られるキリスト教

- 第1節 カルヴィニズムの影響 20
- 第2節 ヘレン・パーンズの宗教観 23
- 第3節 ジェイン自身の信仰 24

第5章 精神疾患と神秘性

- 第1節 バーサ・メイスンとその一族 27
- 第2節 作品と骨相学 31
- 第3節 『ジェイン・エア』の中の超自然 33

第6章	大英帝国と植民地	
第1節	ジャマイカ	42
第2節	マデイラ	44
第3節	インド	45
第7章	誇り高き大英帝国	
第1節	イギリス女性としてのジェイン・エア	48
第2節	様々な国の労働者階級の娘たち	52
第3節	身びいきの奥に透けて見える矛盾	53
第一部	まとめ	56
第二部	『ジェイン・エア』の娘たち	
第1章	ジェイン・エアの娘たち	
第1節	「女余り現象」とガヴァネス	59
第2節	個へのパラダイム・シフト	66
第3節	「女余り」がもたらしたもの	67
第2章	『少女たちの世界』にみられる『ジェイン・エア』の影響	
第1節	ミードとブロンテ	69
第2節	作品内に描かれる牧師	70
第3節	キリスト教の影響	71
第3章	両作品の関連	
第1節	主人公、並びにその美德を際立たせる存在	72
第2節	ラベンダー・ハウスと、校長ウィリス夫人	77
第3節	禁書としての『ジェイン・エア』	79
第4章	作品におけるジプシー像	
第1節	作品内のジプシー	81
第2節	作中でのジプシーの役割	85
第3節	ミードが理想とした若い女性像	87

第5章	ヴィクトリア時代と『アタランタ』	
第1節	時代背景と女子教育	90
第2節	「女性の雇用」	94
第3節	「アタランタ奨学金と読書クラブ」	98
第6章	「モリフクロウ」と「アタランタ手紙靴」	
第1節	2つの企画の特徴	103
第2節	チャーチ教授の「教育」と読者の意見	106
第3節	チャーチ教授の「若い女性のための本棚」と読者の意見	109
第7章	「アタランタ」にみられる日本	
第1節	イトウ・ウタ (<i>O-WUTA-SAN.</i>)	113
第2節	カミ (<i>My Japanese Handmaiden.</i>)	116
第3節	日本のアタランタとしての福澤滝	119
第二部	まとめ	123
結論		125
謝辞		127
参考文献		129
参考資料		
資料(1)	『アタランタ』掲載記事一覧	135
資料(2)	「時事新報」明治25年7月14日号	234

序章

第1節 先行研究と問題の所在

1847年出版の『ジェイン・エア』は、ヴィクトリア女王をはじめ、多くの人々を熱狂させた。主人公ジェインの生き方は、当時の女性達があこがれた、自分の人生に対するひたむきさや誇り高く生きていく強さを持ち合わせていた。この主人公の人生は、とりもなおさず作者シャーロット・ブロンテが追い求めた美徳の具現でもある。

この小説については、これまで多くの研究者が、様々な側面から分析を行ってきた。それら先行研究は、主としてヴィクトリア朝の社会規範と女性の生き方との対比からこの作品に焦点をあてたものや、作者の生活環境から生じた怒りがこの小説の原動力であるにとらえたもの、さらには、植民地政策と帝国主義とのかかわりという側面から検証したものなどである。

例をあげるならば、たとえば白井義昭は、聖書と作品のかかわりという視点から、この作品は新約聖書に倣って書かれた父権制的な色彩の濃い作品だとし、父権制の枠組みから脱却し得ていないという考察をしている。¹

また山根木加名子は、帝国主義と植民地政策の観点から、この作品とジーン・リースの『広いサルガッソー海』を比較考察し、『ジェイン・エア』の「帝国主義、及びロゴス中心主義」対、『広いサルガッソー海』の「ポスト植民地主義、及び西洋中心主義批判」という構図が見いだされることや、19世紀大英帝国の国民に違わず、シャーロット・ブロンテ自身が西洋中心的、帝国主義的思想を持っていたことを指摘している。²

さらに、渡辺千枝子は作者の生活環境と作品の関連性から、この作品は作者自身の自己の主観性から客観性へ、激情から理性的良心への成長を克明に証言したものであると読み解いている。³

『ジェイン・エア』はこれらの主張からわかるとおり、様々な視点からの研究がなされているにも関わらず、小説に描かれる主人公の生き方が、ヴィクトリア時代の女性達の心の中に、何を涵養しどのような影響を与えたのかという点に関しては、あまり研究がなされていない。そこで本論文において、この小説が現実を生きる若い女性たちの精神にどのような影響を及ぼしたのかを中心に検証する。

¹ 白井義昭『シャーロット・ブロンテの世界——父権制からの脱却』彩流社、1992年、128ページ。

² 山根木加名子『現代批評でよむ英国女性小説——ウルフ、オースティン、ブロンテ、エリオット、ボウエン、リース』鷹書房弓プレス、2005年、23ページ。

³ 渡辺千枝子「『ジェイン・エア』の成功の秘密：ドッペルゲンガー (Doppelgänger) の探求」、『水の流れに：松浦暢教授古稀記念論集』（松浦暢教授古稀記念論集刊行委員会）所収、2000年、65ページ。

『ジェイン・エア』と若い女性達との仲介をした人物の1人として、作家L. T. ミードが挙げられる。そこでミードに焦点を当て、彼女の作品並びに、彼女が編集者としてかかわった雑誌を分析し、若い女性に影響を与えた『ジェイン・エア』の精神とはどのようなものであるかを探ることは、重要な意味を持つものであると考える。

19世紀半に若い女性の読者層から絶大な人気を誇ったミードは、自著『少女たちの世界』の中で『ジェイン・エア』をメタ・テキストとして重要な場面で用いているが、2つの作品を分析研究した報告はこれまでなされていない。さらに、ミードが編集者としてかかわった当時の実際の女性向け雑誌における女性像を抽出し、より具体的な形で『ジェイン・エア』の影響を研究したものもほとんどない。

本論文の主眼は、雑誌を通して若い女性達の意見形成を促し、彼女らを先導していくことを望んだミードを通して『ジェイン・エア』の主人公の精神が19世紀を生きる女性たちどのような影響を与えているのかを探ることである。

本論文では『ジェイン・エア』の生き方を踏襲したかのような、気高さや前向きさ、優しさと強さを備えた女性、またそうありたいと努力する女性を「ジェイン・エアの娘たち」と定義づける。ジェインと、「娘たち」との間に介在し、両者を結びつけているのは、シャーロット・ブロンテと同じ、牧師の娘として育ってきた作家、L. T. ミードであるといえよう。彼女の代表作『少女たちの世界』と『ジェイン・エア』との関係からは、新しい女性の理想像という共通項が浮かび上がる。この事実を踏まえて、その後ミードが編集者として従事した雑誌『アタランタ』を用いて、若い女性読者を彼女がどのように導いて行こうとしたのか、そして読者は雑誌から何を受け取ったのかを本論文において検証する。

第2節 研究の目的と方法

本論文では、ヴィクトリア朝中期から後期にかけて、生き方の転換を迫られた若い女性たちの姿を、当時の文献の中から読み解き検証する。ここで素材とする文献は、シャーロット・ブロンテの小説『ジェイン・エア』と、L. T. ミードの小説『少女たちの世界』、並びに彼女が編集した雑誌『アタランタ』である。

2人の作家には、作品を通じて強い関係性が存在する。この関係性を詳細に分析し、考察対象とする。それによって、2人の文学的な関連性を明らかにするものである。また、雑誌『アタランタ』の希求する読者像の中に、ジェインの目指した理想がどのように影響しているかについて論じる。

第3節 本論文の構成

本論文では、まず第一部では「『ジェイン・エア』に見られるヴィクトリア朝イギリス社会」というタイトルの下に、ヴィクトリア朝中期に光を当て、ジェインが求め続けた女性としての生き方を究明する。

第1章「イギリス社会と『ジェイン・エア』」では、この作品の周りを取り巻く社会状況を考察の対象とする。人々がこの小説に共感し、反響を巻き起こしたという事実に着目し、主人公の言動に込めた作者の思いを明らかにする。

第2章「ヴィクトリア時代の女性たち」では、イギリスに存在する階級制度に光を当てる。

第3章「中流階級の女性の結婚」では、この階級の人々の結婚観について考察する。当時顕著になりつつあった「女余り現象」が、この作品にどのような影響を及ぼしているかを指摘し、女性の生き方という観点から検証を加える。

第4章「作品に見られるキリスト教」では、作品の中に様々な形で現れるキリスト教を、作者の宗教に対する考え方に基づいて解明する。また、作者の往復書簡などを手掛かりに、ブロンテの死生観を明確にする。

第5章「精神疾患と神秘性」では、登場人物の一人が患っていた精神疾患に対する当時の考え方を究明する。さらに、作中に独特の雰囲気醸し出している神秘性について考察を加える。

第6章「大英帝国と植民地」では、小説内の描写や登場人物の発言から、当時の社会における植民地と宗主国の関係を取り上げ、おもに男性の生き方という観点から作品を考察する。

第7章「誇り高き大英帝国」では、当時のイギリスの女性や文化と、他国の女性や文化とを比較する。これらの描写から、他国の女性に対する当時のイギリスの人々の意識を作中から読み解く。さらにそこから見えてくる作者の意識の矛盾を明るみにする。

次に、第二部では『ジェイン・エア』の娘たち」というタイトルの下に、ヴィクトリア朝後期のイギリスの女性たちに焦点を当てる。ミードの作品や『アタランタ』を手掛かりとして、ジェインが求め続けた理想が、彼女の娘世代とも言える女性たちの心の中でどう変化せざるを得なかったのか、あるいは変化しなかったのかを指摘する。

第1章「ジェイン・エアの娘たち」では、個人の抱える「孤独」が「社会」を変革する原動力になることを指摘する。「女余りの時代」を経て、新しい存在となり得た女性たちのエネルギーが、社会全体の転換に寄与したことを指摘する。

第2章「『少女たちの世界』に見られる『ジェイン・エア』の影響」では、両作品に色濃く反映するキリスト教の影響について比較する。

第3章「両作品の関連」では、ミードが『ジェイン・エア』をメタ・テキストとして『少女たちの世界』の中で登場させ、読者に紹介しているという事実に着目する。2つの作品の主要登場人物の比較と共に、『ジェイン・エア』を自著に載せた理由を探る。これらの考察を通じて本研究者は、ミードは自分の小説内の禁止事項とは裏腹に、実際には、時代を切り開いて生きていく女性の模範として読者に積極的に『ジェイン・エア』を奨励したい気持ちがあった、というテーゼを提出したい。

第4章「作品におけるジプシー像」では、『少女たちの世界』におけるミードの創作方針を明らかにする。この新しいタイプの主人公は、変化しつつある社会状況をたくましく勇敢に乗り切っていく「ジェイン・エアの娘」ともいうべき、当時の女性の「あらまほしき姿」であることを本章の結論とする。

第5章「ヴィクトリア時代と『アタランタ』」では、ミードが編集者として従事した若い女性向けの雑誌『アタランタ』を取り上げる。本章では2008年から2010年にかけて復刻版として出版された1887年創刊時からミードが編集者を辞するまで6年分の雑誌『アタランタ』について検証を加え、どのような雑誌であったのかを明らかにする。

第6章「モリフクロウ」と「アタランタ手紙靴」では、特色のあるこれら2つの記事を取り上げる。これらの企画に込められた編集者の意図を究明する。

第7章「『アタランタ』にみられる日本」では、日本人を物語の中心に据えた2作品を分析する。また、「モリフクロウ」に掲載された日本女性「タキ」の投書については、当時の新聞や資料を分析し、その姿を明確にする。

ジェイン・エアの理念を受け継いだミードの編集する『アタランタ』の読者である「娘たち」は、「女性の雇用」の職業案内の傾向からみられるとおり、個人で生きることを選んだ。やがて、「個」として独立することで、自らが抱えていた悩みや苦しみを「集団」として共有し、団結して社会変革や女性の社会進出に道を開いた。これこそ「余った女」の持つ、未知なる将来を切り開くエネルギーの象徴である。ジェインが目指した前向きに生きる独立した「個」を自覚した「娘たち」は、他人を理解し、協調して生きていこうとする懐の深さを手に入れ、「新しい存在」としての強いエネルギーを秘めた力となりえたことを本論文の結論とする。

第一部『ジェイン・エア』に見られるヴィクトリア朝イギリス社会

第1章 イギリス社会と『ジェイン・エア』

第1節 世界的規模の変革の動きと産業革命の影響

シャーロット・ブロンテ (Charlotte Brontë, 1816-55) は、1816年4月21日にパトリック・ブロンテ (Patrick Brontë) とマリア・ブロンテ夫妻の3番目の子供として、ヨークシャーのブラッドフォード近郊、ソーントン (Thornton) で生まれた。彼女が生まれた頃は、ヨークシャーでのラダイツ運動は徐々に下火になり、それに代わって「もっと一般的な政治的急進派の台頭」⁴ がみられた時期である。一例をあげるならば、1815年穀物法の制定と1819年マンチェスターで起こった穀物法廃止や選挙法改正を訴える労働者の集会を騎馬警官隊が襲撃し、11名の死者を出した「ピーター・ルーの虐殺」 (Peterloo Massacre) がそれにあたる。

シャーロットが成長していくのは、産業革命と共にイギリスが変化していく時期である。1832年選挙法改正、1833年工場法成立、1834年救貧法見直し、1846年穀物法廃止など、世の中のひずみに対して人々が関心を向け、より良い暮らしを求める意識が高まった時代であるといえよう。このような当時の政治情勢や産業革命の影響、社会の風潮、大衆の動きなどに彼女が敏感であったことは、よく知られている。

当時が、国際的にも不安定な時代であったことは、次のような史実からも理解できる。1830年にはパリで7月革命が、スペインやポルトガルでは独裁政治に対する反乱が起きている。また同年、ベルギーの独立が保証されたことなどがある。このように、イギリスも近隣諸国のみならず世界全体の動きを見据える必要がある時期であった。

イギリス国内は、産業革命に影響されて、毛織物工業の驚異的な伸びから労働者達はさらなる苦役を強いられていた。労働者のみならず、当時は児童労働の問題が深刻であった。この時代には、こどもは「小さなおとな」とみなされていたのである。所帯主の週給だけで一家を支えられない労働者家庭は、子供の稼ぐ賃金も大切な収入源となっていた。その背景には、労働の細分化や単純化により低年齢の子供でも労働力となることが可能になったことがある。⁵ これらを受けて、1830年にリチャード・オーストラ (Richard Oastler) は、ブラッドフォードの繊維工場で働く子供たちの雇用の実態を描いた「ヨークシャーの奴隷制度」 ('Yorkshire Slavery') という記事⁶ を

⁴ Charlotte Brontë, *Jane Eyre*. Edited by Margaret Smith Chronology, xlvii.

⁵ 当時は「体の小さな子供たちは大人には狭くて無理な所でも、もぐりこんで仕事ができるので、自動紡績機の下で作業をさせられたり、細い坑道などで使われたりするので、その危険性が問題になった」と、指 昭博は指摘する。指 昭博『図説イギリスの歴史』河出書房新社、2004年、97ページ参照。

⁶ Chronology, xlvii

書き、それに触発されて、悲惨な児童労働に改善を求める声が多くの人々からあがった。1833年には工場法が制定され、児童と未成年者の労働時間にそれぞれ法的な限界を定めた。その後1838年の市民憲章を経て、1842年には「シャフツベリー卿の鉱山法が成立し、10歳以下の児童や婦人の地下炭鉱内での労働が禁止」⁷になるなどの変革が行われた。

シャーロットの伝記から、『ジェイン・エア』(Jane Eyre, 1847)執筆の基礎となるこの時代の行動を拾い上げてみる。1824年、『ジェイン・エア』のローウッド学院のモデル、カウアン・ブリッジ・スクールに入学する。1826年の初頭、10歳の彼女は、初めての物語を書く。同年6月には弟や妹たちと、後に『グラスタウン物語』と呼ばれる架空の町の出来事を題材にした物語群の制作に熱中する。この空想の遊びは、シャーロットがロウ・ヘッド校に入るまで5年間ほど続き、ブロンテ文学の基礎をはぐくんだ。また、1839年には『ジェイン・エア』の登場人物、セント・ジョン・リヴァース(Saint John Rivers)のモデルの1人とされるヘンリー・ナッシー(Henry Nussey)からのプロポーズを断ったという記録が残されている。

また、彼女の作品に強い影響を与えたガヴァネスとしての経験を積んだのもこの時期である。1839年にはストーンガッペ(Stonegappe)のシズウィック家(Sidgwick), 1841年にはアッパーウッド・ハウス(Upperwood House)のホワイト家で、それぞれガヴァネスとして従事している。その後、1842-43年にはブリュッセルのマダム・エジェ(Mme Heger)の寄宿学校に留学し、そこでフランス語を学んでいる。この留学経験やつらい恋愛体験を反映させた作品が『教授』(The Professor)である。帰国後は、1844年にハワースの牧師館で学校を開く計画に向けて、妹たちと共に行動したが、思い通りには進まなかった。1846年に『教授』(1857年、死後出版)を書いたのち、1847年に『ジェイン・エア』が出版され、一躍人気作家となるのである。このように、彼女は作家としての名声を得るまでに様々な世の中の動きを見て、自分の心の中に取り込んできたことがうかがえる。

次節以降は、作品『ジェイン・エア』の中から、現実社会の動きと連動する描写や発言をもとに作者の心を探る。

第2節 ゲーツヘッドでの厄介者

主人公のジェイン・エア(Jane Eyre)は、幼いころ父母を亡くし、母方の伯父の家であるリード家に引き取られた。彼女は、血のつながりのないリード夫人(Mrs. Reed)の庇護の下、つらい生活を送っていた。この家では、厄介者として扱われていたのである。リード夫人は次のように話す。「とんでもないお荷物が残されたものだよ。あの理解しがたい性格が、いつ何時でも面倒をひきおこすんだ。おまけに、突然かんし

⁷ ジョージ・M・トレヴェリアン、松浦高嶺・今井宏共訳 『イギリス社会史 2』みすず書房、2000年、447ページ参照。

やくをおこすのさ。人の動きを絶えず観察するような、あの子の尋常でない眼差しで言ったらないよ。」(Ch.21, p.231) ⁸

ジェインの伯父であるリード氏は、亡くなる間際、夫人にジェインを託し、家族同様に育てることを約束させた。しかし、夫人の目には「……この子は私が望んだとおりの性格や気質を持っているとは言い難い」(Ch.4, p.33)と映り、愛情を持たなかったようで、酷い扱いをする。その息子のジョン・リードも、絶えずジェインをいじめ、暴力をふるう(Ch.1, p.11)。夫人の2人の娘たちは、強情で利己的な娘と辛らつで意地悪で傲慢な娘である(Ch.2, p.15)。

この家でのジェインの立場は、「ヨークシャーの奴隷制度」をほうふつとさせる「ゲーツヘッドの奴隷制度」の中の奴隷と位置づけられる。そのことは、次の場面に如実に表れている。ジェインが「私は召使いですか」と小間使いのベッシーに問うと、「いいえ、あなたは召使いにも劣ります、自活する道がないのですから」(Ch.2, p.12)と答える。ジョン・リードは、ジェインをいじめ、彼女に向かって「……お前は文無しだ、父親が何にも遺してくれなかったんだ。物乞いをしろ」(Ch.1, p.11)と暴言を吐く。そして、言葉のみならず、小間使いはジェインに、召使いよりさらに下級の、言うなれば奴隷が行うような仕事をさせる。部屋の片付けや椅子のほこりを払わせるのである。ジェインはつぶやく。「ベッシーは今や、しばしば私を子供部屋の女中の下働きとして使う。」(Ch.4, p.30)

これらの出来事の後ジェインは、あまりにも不当なジョン・リードのふるまいに怒りを爆発させ、暴力をふるう。この時、彼女が心情を吐露した表現は、注目に値する。

「……私は、反乱を起こした奴隷のような気分がして、苦々しい力を内に秘めたまま、息巻いていました。」(Ch.2, p.14) 自分を奴隷になぞらえたこの言葉は、宗主国の人々、支配者の不当な仕打ちに対して、植民地の人々、奴隷の暴動を起こした後の心情そのものである。勝利を収めたとしても、それは一時的な喜びにすぎず、圧倒的な力を前にして、後悔の念や後味の悪さが心の中に渦巻いている。このジェインの子供時代の体験は、子供、奴隷、労働、反抗、暴動などがキーワードとなっている。作者ブロンテの目を通した、イギリス社会の姿の一部を取り出し、『ジェイン・エア』というフィクションの中に描きこんだのである。

第3節 鬱屈した階級意識

ジェインは、ローウッド学院 (Lowood Institution) を卒業した後、18歳まで教師として同学院に務める。その後、新しい勤め口を探し、ソーンフィールド・ホール (Thornfield Hall) にガヴァネスとして落ち着く。ここでは、フェアファックス夫人

⁸ 日本語は加塩訳。引用はすべて以下のテキストに従い、本文引用末尾に章とページ数を記載する。Charlotte Brontë, *Jane Eyre*. Edited by Margaret Smith. With an Introduction and revised Notes by Sally Shuttleworth. New York : Oxford University Press, 2000.

(Mrs. Fairfax) や教え子のアデル・バランス (Adèle Varens) と打ち解けることができ、穏やかな生活を送る。この後、ジェインは人生に大きな影響を与えるエドワード・フェアファックス・ロチェスター (Edward Fairfax Rochester) と出会い、新たな人生が展開していく。

彼が登場する前の屋敷での生活は、あまりにも単調で静かであり、ジェインは物足りなさを感じる。そして、ここではなく違う場所で、もっと生き生きとした人たちと交わりたいと思うようになる。庭に出て、門を通して外の世界を見た時や屋上で遠くに見える野山や地平線を見た時など、動きのある世界に思いを馳せ、そこへ行きたいと思う (Ch.12, p.109)。ジェインは、そのような落ち着かない心を抱く自分という存在に関して、本文中で発言する。「(平穏な生活に満足できない私を) 非難したい人は誰でもそうすればいいわ」(Ch.12, p.108) という発言と「誰が私のことをとがめるかしら。多くの人よね、間違いなく。私を満足することを知らない人だと言うでしょう」(Ch.12, p.109) という2つの発言である。ここには、誰からの批判にも動じない意志や自分の落ち着かない心を肯定し、変化を望む気持ちを奮い立たせようとする強い自我が存在する。その後内なる声の語る物語に耳を傾け、三階の廊下を行ったり来たりするのである。

サリー・シャトルワース (Sally Shuttleworth) は、このように自分の心情を吐露すること、つまり自我を意識することを、心理学と当時のイギリス社会とを関連付けて次のように述べている。

心理学は、ヴィクトリア時代には、今日のように、決して無害な学問ではありませんでした。自我について書くことは政治的な行動であります。⁹

ここからわかるとおり、主人公に心情を告白させる行為、それが女主人公であればなおさらのこと、そこにエリザベス・リグビー (Elizabeth Rigby) のように、不穏な空気を読み取る人々が存在したのも理解できる。さらに言えば、その内容も過激といえるほどの明確な意志表明である。そこには上昇志向を持つ女性の、次のような現状に対する不満や積極的行動を求める抑えきれない心の高ぶりが読み取れる。

人々に穏やかな生活に満足せよと言っても無駄なこと。行動を起こさなくてはいけない。どこにも行動する場がなかったら作りだせばよい。何百万もの人が私より静かな運命を与えられ、そして何百万もの人が、その運命に対して、無言の反乱を起こしている。政治的な反乱は別にしても、どれほど多くの地球上の一般

⁹ Sally Shuttleworth, *Charlotte Brontë and Victorian Psychology*. Cambridge University Press, 1996. p.148; Psychology however, has never been an innocent discipline: in the Victorian period, as today, the writing of the self is a political act.

大衆の心の中に、反抗する気持ちが育っているのか誰にもわからない。(Ch.12, p.109)

ここには、ジェインの口を借りたブロンテの、当時の社会への思いが込められている。しかしそれは、彼女個人の不満や怒りにとどまらない。

この時代、中流階級の人々の間では、女性は穏やかで控え目な性質を持っているので、守られるべき存在として人生を送り、結婚後は「家庭の天使」となり、家庭に安住することを望む存在である、という考え方が大半を占めていた。この発言の中に込められているのは、そのような考え方によって作られた、目には見えないが拘束力の強い鎖に対する女性達の不満でもある。さらには、仕事を持って男性以上の働きをしているという自負があるのに女性であるというだけで低い報酬に甘んじなければならなかった働く女性の怒りとも考えられる。¹⁰

また、この「平穏を打破したい心」は、性差のみならず、階級差に阻まれ不公平や不当な仕打ちにも声を上げられずにいた「一般大衆」(the masses)の「変えたい」という望みを表したものとも考えられる。「上流、富裕層」(the classes)と対照的な「一般大衆、庶民、労働者階級」(the masses)の不満や抑圧感は計り知れないものであったろう。シャーロットがここで、“the masses”という「当時の政治的流行語」¹¹を用いていることは注目すべきである。

人民憲章が採択され、チャーチスト運動が隆盛を極め、人々の間では政治や社会に対する関心が盛り上がっていた時代である。この時代に小説を書くにあたって作者は、主人公に自我を見つめさせ、その自我を肯定させている。その上、発言内容も、当時の社会では女性らしくないと受け取られかねない内容である。しかし、この小説が、発売当時熱狂的な支持を持って受け入れられたことを考え合わせるならば、主人公のこの言葉に多くの人々が共感したことがうかがえる。

温和なフェアファックス夫人の話し相手やアデルの教育だけに飽き足らず、もっと自分がやりたいこと、自分にふさわしいと思えることを求め、上昇しようと模索し続ける。特権階級の者にとっては、下位の者が自分の立場を甘受し盲目的に服従してくれなければ、自分たちの快適な生活は成り立たない。ましてや、作品中でジェインがロチェスターに言い放つように、神の下では人間は平等だからという理由から、持って生まれた格差を批判するようになると、階級社会は根本から崩れてしまう。

ジェインの、この一般大衆に蜂起を促すようにも取れる発言を批判する者も少なからず存在した。その代表格ともされる前述のエリザベス・リグビーは「この小説を書

¹⁰ シャーロット自身、弟のブランウェルが、男であるというだけで、駅の職員になり、後には駅長にまでなっていて、はるかにつらい労働をしている自分より高い俸給を受け、優遇されていたことに強い怒りを感じていた、という事実がある。

¹¹ Introduction, xiv.

かせた精神は、権威を転覆させ、チャーチスト運動や反乱を助長するものと同じである」¹²と発言し、痛烈に批判している。しかし、同じ意味合いのことを肯定的な立場からとらえた者もいた。その1人、エレン・モアズ (Ellen Moers) は自著の中で次のように述べ、主人公と作者との精神性の一致を指摘する。

彼女 (ブロンテ) の想像力は、子供時代のジェーン・エアと同様に、「心中ひそかになぞらえる」ことによって刺戟されたのだ—自分の個人的状況と、圧迫に苦しみ謀反を起こしそうな他の階級や人種の人々とを。¹³

このような重圧を彼女は、ガヴァネスという立場をもって味わうことになる。それは、館の主ロチェスターと、自分と同じ中流階級に属するブランシュ・イングラム (Blanche Ingram) が結婚するのではないかと思われた時期のことである。

ガヴァネスという仕事に携わる女性の立場についてブランシュは、どのように考えていたのだろうか。それは、ブランシュの母の次の発言から読み取れる。「私は、骨相学の判断ができるのよ。あの子の顔には、あの階級の欠点がつぶさに表れているわ。」(強調は筆者) (Ch.17, p.177) つまり、母親はガヴァネスをするような女性の階級は、自分たちとは接点の無い低い階級だと考えているのである。ガヴァネスは当時、中流階級に属する女性の中で、やむなく経済活動に従事しなければならなかった女性の受け皿となった職業である。教育を受ける側も、同じ階級に属する人物でなければ、自分たちの子女に教育を施してほしくないという要求があった。同じ階級に属していながらも、経済的格差により、低い立場であるとみなされ、ガヴァネスは、弱くあまいな立場であったことがうかがえる。

ブランシュも母親と同じような理解であり、それを裏付ける行動が描き出されている。彼女は、ジェインが、離れた部屋にいるロチェスターにワインを届けようと、ブランシュのいる居間でグラスに注いでいるのを見かける。その光景を、ジェイン自身がワインを飲むために注いでいるのだと誤解し、地位の低い家庭教師が自由にふるまうのは不愉快だと言わんばかりに顔をしかめる (Ch.20, p.204)。

もう1つは、ジェインが休暇をもらう許しを請いにロチェスターに会いに行った時の場面である。ジェインは、自分に対するブランシュのまなざしを、強烈な比喻で描き出している。

私が近づくとブランシュは振り返り、高慢そうな目を向けた。その目はあたかも、這い回っている生き物が、いったい今頃何の用事があるっていうの、と言っ

¹² Judith O'Neill, *Critics on Charlotte and Emily Brontë*. University of Miami Press, Florida, 1972, Cf. p. 15.

¹³ エレン・モアズ『女性と文学』青山誠子訳, 研究社, 1980年, 29ページ。

ている様であった。(Ch.21, p.222)

しかし、そのガヴァネスが、ひそかに彼女の人間性を値踏みの対象とし、痛烈に批判しているなど想像も及ばない。ジェインは、ブランシュのことを階級的に高く裕福ではあっても、人間的、精神的に劣る存在であると判断している(Ch.19, p.185)。厳格に存在している「階級」をやすやすと飛び越え、言い放った言葉「ブランシュは嫉妬にも値しない人間である」(Ch.18, p.185)はジェインの「純粋に内なるプライド」(Ch.24, p.270)である。

ジェインは、雇い主ロチェスターの人間としての評価も、自分の目を通して下す。「次第に、私は主に対してとても寛大になっていった、彼の欠点をすべて忘れつつあった。」(Ch.18, p.187) 彼女は、ロチェスターの欠点を冷静に指摘し、その上で、許そうとしているのである。ここには、「純粋に内なるプライド」つまり自分の内面の美しさに対する自負と共に、熱い思いが存在する。それは、ロチェスターに対して断言した「あなたの心に話しかけているのは私の心です、それはまるで2人が墓を通り越し、神の足元に立っているように。平等なのです、わたしたちは。」(Ch.23, p.253)でありたいと願う気持ちである。

与えられた地位に満足し、上の者に服従するという封建的な美徳よりも、魂の気高さこそが人間の価値を決めるものである、と真摯に考えるジェインの態度がこの時代の抑圧された多くの人々から受け入れられたのであろう。サッカレーもこの本を読み、「すぐにその真価を認め、出版社への特徴的な手紙の中で、その作品の比類なき価値を認め」¹⁴ ている。また、著者シャーロット・ブロンテの前で一部を暗唱して、彼女を驚かせたという逸話¹⁵も残っている。さらには、ヴィクトリア女王も、この本を読んで感動した¹⁶という記録が残されている。階級を問わず多くの読者を熱狂の渦に巻き込んだのは、このヒロインの持つ「魂の気高さ」、「志の高さ」に他ならない。

『ジェイン・エア』という虚構の中には、現実のヴィクトリア時代を生きる人々の、声にならない声や気持ちが込められている。作者ブロンテの自由な発想が描き出した虚構の中で、当時の社会情勢や人々の思いなどが複雑にからみあい、豊かな色彩を持つ彼女の代表作が出来上がったのである。このような分析をふまえて、『ジェイン・エア』が書かれた時代の「階級」と「女性の立場」について第2章で考察する。

¹⁴ エリザベス・ギヤスケル、『シャーロット・ブロンテの生涯』山脇百合子訳、ギヤスケル全集7 大阪教育図書、2005年。272 - 73 ページ。

¹⁵ 青山誠子『ブロンテ姉妹 人と思想 128』清水書院、1994年、134 ページ参照。

¹⁶ 青山誠子、前掲書、121 ページ。

第2章 ヴィクトリア時代の女性達

第1節 階級をめぐる状況

産業革命を経て、ヴィクトリア時代には、イギリスに3つの社会的階級が存在するようになった。ここではまず、当時の社会構造を踏まえて、それぞれの階級の女性達の生活を検証したい。

下記の表は、ヴィクトリア時代の各階級の特徴と平均年収やその上限と下限、そして特徴的な女性の生活について挙げたものである。

	構成, 人口比	年収	女性	階級の特徴
上流階級	王室関係者 貴族, ジェントリ (不労所得) 全人口の2~3%	£1000が下限。 平均年収は £3000以上。	父親, 夫に 従う生活	裕福な生活に安住し, 変化を望まない。
中流階級	ブルジョワジー 専門職, 知的労働 者(月給制) 全人口の20%程 度。	£100が下限。 平均年収は £300程度。	家庭の天使 アイドル・ ウーマン	勤勉, 節約, 努力次第 で生活が向上。
労働者階級	肉体労働者 (週給制) 全人口の78%程 度。	£100前後が上 限。 年収£50以下 は, 貧困層。	家事と労働の2 重苦	政治, 経済とは無関係 な従属階級

長島伸一『世紀末までの大英帝国—近代イギリス社会生活史素描』法政大学出版局, 1987年, を参照に筆者作成。

第1項 上流階級

上流階級は、土地から上がる収益や利子による莫大な不労所得に支えられていたため、労働による生活費を稼ぐ必要がなかったことから、別名レジャー・クラスとも呼ばれていた。そのため、男性は国会議員や地方の治安判事職などの歳費の支給のない名誉職に就くことが多かった。女性も、家事を複数の召使に行わせ、自分は白い手袋をつけて、それを汚すこともなく日々を送っていた。嫁ぐ日までは父に従い、結婚後は夫に従う生活であった。

このような生活を送る女性達について、自らも上流階級に属していた看護師のナイチンゲールは、厳しく批判している。彼女は、この階級に属する若い貴婦人たちの間では、食事を摂らないことが流行していて、自室でお茶とパウンド・ケーキとで一日

の食事をすませることや、肌を美しくしようと強力な下剤を常用し、極度に疲れたと
いってはオーデコロンや炭酸アンモニア水やエーテルを飲用して食物の消化力をいっ
そう弱めていることを指摘する。その上自著の中で、このような女性達について手厳
しく非難し、この不健康が、上流階級の婦人たちの間で「遺伝」となりつつあること
に、次のように警鐘を鳴らすのである。

哀れにも虚弱で気力乏しく、使いふるしの襤褸のような人間たち——役立たず
で墮落した生活を送る一生の間、一様に道徳的にも肉体的にも病いに冒されて過
ごす高貴な家系の末裔ども——そんな人間たちをあなた方はよく見ているであろ
う。¹⁷

ここに書かれたナイチンゲールの表現は、厳しさと強さの両方を兼ね備えている。
それは彼女が、自分が育ってきた環境に対して冷静に批判できるほどの、知性に裏打
ちされた聡明さを持ち合わせていることの表れである。上流階級におけるナイチンゲ
ールの存在は例外であるかもしれない。しかし、正しい知識を蓄え、合理的で客観的
な判断ができる理性を育むならば、上流階級に属する女性も自立する道が全く閉ざさ
れていたわけではないことを、彼女の人生が裏付けている。

第2項 中流階級

中流階級は、3つの階級の中で最も幅広い層から構成され、上流階級とも労働者階
級とも接点があるという特徴をもつ。当時、上流階級に属する地主や貴族階級の相続
慣行は長子相続制が一般的であった。相続からの恩恵を受けられない長男以外の息子
たちは、聖職者や研究職、軍隊の士官などに就いていた。これらの職業の人々は、中
流階級の上位の、上層中流階級に属するとされていた。逆に下層中流階級には、も
ともと労働者階級の出身でありながら、教育の恩恵を受け、事務職に就いたり小売業を
営んだりする人々が含まれていた。それゆえ、下層中流階級は、労働者階級とのつな
がり強いのである。

ヴィクトリア期を通じて台頭してきたこの中流階級は、勤労と節約を美德とし、努
力と創意工夫次第では収入増加の道が開けていた。そのため、今よりも豊かな暮らし
を望んで、下層中流階級と、労働者階級の中でも上層の熟練労働者世帯は、この時代
の大衆化現象をリードしていくこととなった。

産業革命による鉄道網の発達や万国博覧会の開催、選挙法の改正など様々な要因が、
一般大衆を歴史の表舞台へと導く後押しをした。中流階級が、人道主義的立場から奴

¹⁷ フロレンス・ナイチンゲール『看護覚え書』湯楨ます、薄井坦子、小玉香津子、田村真、
小南吉彦訳、現代社、1985年。42ページ。

隷貿易廃止を唱えたり、牢獄改革や児童労働保護を唱えたりして福音主義運動の中心的役割を果たしたことも見逃せない。「家庭は城」「家庭は避難所」という男女の役割分業を前提としたブルジョワ的家庭観が当時定着していたことは、中流階級の観念が「時代の精神」を代表していたことの証といえる。

第3項 労働者階級

労働者階級は肉体労働の代価で暮らす厚い階層で、19世紀末には全人口の78%を占めていた。この労働者階級のさらに下には、年収が50ポンドに満たない貧困層が存在した。産業革命による繁栄から取り残され、自分の周囲を取り巻く劣悪な環境に身をゆだねる以外に方法はなかった人々である。チャールズ・ブースはロンドン市民の生活を調査し、1週間の収入が21シリング（年収54ポンド）と22シリング（年収57ポンド）の間に「貧困線」を引き、貧困線以下の世帯は、普通の生活が営めない状態であることを明らかにした。ロンドンでは、当時、この貧困線以下の暮らしをしている世帯が約3割に上っていたという事実があった。¹⁸

ナイチンゲールは『看護覚え書』の中で、当時の下層労働者は過酷な労働や栄養不足、劣悪な労働環境などから、大多数が肺結核で若死にしていることを指摘している。¹⁹ また、この階級に限定された事ではないが、彼女は同書の中で幼児死亡率が異常に高いことを次のように述べ、警告を鳴らしている。

この文明国である英国で、七人中一人の赤ん坊が一歳にならないうちに死んでいるのを知っているだろうか。ロンドンでは五歳になるまでに五人に二人までが死亡しているし、また英国の他の大都市では、それがほぼ二人に一人だということを知っているだろうか。²⁰

そしてその原因は主として、清潔への取り組みが不完全であることが挙げられ、「家庭衛生の欠陥」をその理由としている。労働者階級の劣悪な住宅環境や衛生観念の低さがこの数字に大きく反映していることは想像に難くない。

さらには、この時代の労働者達の現状を、次の平均寿命の統計が如実に表している。この統計は、1840年にリヴァプールで取られた統計である。

職種	平均寿命
ジェントリ，専門職	35歳

¹⁸ 長島伸一『世紀末までの大英帝国—近代イギリス社会生活史素描』法政大学出版局、1987年、238ページ参照。

¹⁹ ナイチンゲール、前掲書、16-17ページ参照。

²⁰ 同書、4-5ページ。

商人，比較的恵まれた地位の手工業者	22 歳
労働者，日雇い人夫，被雇用者一般	15 歳

21

これらのことからわかるように、ヴィクトリア朝の労働者階級の人々は、現代の人々が想像もできないほど短命で、その人生の大半を日々の糧を得るためだけの労働に費やしていた。それゆえ、国家や社会への不満など抱くゆとりもほとんどなかったことが見て取れる。

第2節 中流階級の女性達をめぐる状況

ヴィクトリア時代に次第に裕福となった中流階級では、家事・育児のみに専念し、経済活動に携わらない専業主婦が誕生した。摩擦の多い外の世界と隔絶した安らぎの場、家庭を守ることに身を捧げた女性、「家庭の天使」を理想とする観念が社会に広まったのである。か弱さを身につけ、常に男性の庇護下でなければ生活できないイメージが付きまとうようになってしまった。松浦京子が「さまざまな面で因習を偏見に支配された二等市民ともいうべき地位」²² と指摘するように、女性は弱い立場に置かれていたことがうかがえる。

女性は、経済活動に携わるのではなく、趣味や余暇活動、あるいはボランティア活動に生活時間を費やすべきだという考え方が生まれた。これら、「アイドル・ウーマン」(idle woman)は、独身時代には父親の、結婚してからは夫の、経済力を内外に誇示するという使命を帯びていたという特徴があった。それゆえ、この階級の女性が、自ら働いて賃金を稼ぐということは、本人のみならず、家族や親族にとっても、恥ずべきこととして考えられていた。

社会が女性に課したこのような役割の他に、「医学的見地」からの女性の行動に対する制約があったことも見逃せない。デボラ・ティーチマンは、この制約に対して次のように述べている。

19 世紀にはほとんどの医者たちは、女性達はあまり学問や読書をしないほうが良いと勧めている。知的探求は妊娠能力や母性本能の活力を奪うと考えられていたのである。その結果、子宮や卵巣を衰弱させるので子どもを生み育てることはできないだろう、と考えられていた。²³

²¹ 長島伸一，前掲書 135 - 36 ページから引用し，筆者が表として作成した。

²² 松浦京子「子ども・老人・女性—近世から近代への変化のなかで—」(第7章)，井野瀬久美恵編『イギリス文化史入門』所収，昭和堂，1994年，132ページ。

²³ Debra Teachman, *Understanding Jane Eyre* Westport : Greenwood Press, 2001 Cf. p.15.

さらに、「ナニー」(nanny)と呼ばれる子守りの職業に従事していた女性の姿が、ティーチマンのこの論を裏付ける。ナニーは当時、上層中流階級以上の家庭で雇われ、子守りの仕事に従事していた女性である。このような家庭では、子供は生まれた時からナニーに預けら

これらのことから、当時の中流階級の女性は学問や教養からは縁遠い生活を余儀なくされていたことが見て取れる。女性が身につけるべきは、上手なピアノの弾き方や歌い方といった人々を魅了するテクニックや、使用人を従え家事全般を取り仕切るマネージメント力であると考えられていた。

さらに女性は男性と異なり、もともと商業や専門職の仕事に就くために必要な頭脳を持っていないと考えられていたこともあり、性差の壁に阻まれ女性の社会進出はさらに困難なものとなっていた。

このように、中流階級の女性達は否応なしに、結婚して良き母になるという人生目標を設定されていた。教養を身につけることはよくないことだとされ、文学や学問からは遠ざけられた。「あまりにも厳しい制限と、徹底的な沈滞」²⁴ とシャーロット・ブロンテが『ジェイン・エア』の中で表現したように、見えない鎖となって、女性達を縛りつけていたのである。

第3節 労働者階級の女性達をめぐる状況

労働者階級でも「家庭の天使」という考え方が浸透し、女性は家庭的であることが最も大切で、経済的に自立しないことが理想と考えられた。そのため家計の上では実現不可能でありながら、女性達は専業主婦であることを期待された。一人の収入だけで一家を支えられない家庭では、女性も生活の糧を稼がなくてはならず、その上、専業主婦と同様の家事、子育てを担うことを要求された。「家庭の天使」の理想と現実の生活とのギャップに加えて、劣悪な賃金労働というさらなる重荷に、女性達はあえいでいた。

労働に関して言えば、職を必要とする女性は多く、大量に雇用できたから、雇う側は低賃金を支払えば済み、これが悪循環を生んで性別、年齢を問わず健康な家族は誰であろうと働かねばならなくなった。季節によっては農地で、あるいは手作業の仕事場、工場、鉱山などで牛馬のように働かされた。女性は児童労働者と同様、労働者の中では一番搾取された存在であった。

この事実をふまえ、1842年には「鉱山法」が成立し、10歳以下の児童や婦人の地下炭鉱内での労働が禁止になった。しかしその後も、少女を含めた女性労働力は、婦人

れ、彼女らが両親の代わりにトイレット・トレーニングを始め、しつけの全般を行っていた。成長した子供たちの教育にあたるガヴァネスが、雇い主と同じ階級の女性であることを要求されたのとは対照的に、幼児の面倒をみるナニーは、低い階級、つまり下層中流階級の女性や労働者階級の女性から選ばれていた。ここからも、教育を受けられず教養のない女性ほど、動物的本能の1つである母性本能が強いと考えられていたことが理解される。

²⁴ Ch.12, p.109.

服、紳士服業界、マッチ製造業などで、苦役を強いられていた。毎日、午前6時から午後12時までほとんど休まずお針子として働いても、貧困線以下の暮らししかできず、やむなく売春婦となってわずかな金を稼ぎ、自分や子供らのパンを得た多くの女性達の手記は、その悲惨な状況を如実に物語っている。²⁵

長時間機械やテーブルにくぎづけになっている女性達には、家庭や子供の面倒をみるエネルギーは残されていなかった。劣悪な労働環境で疲労困憊し、まともな医療が受けられないことに加え、繰り返しお産をすることの負担により、この階級の働く女性達は20代にして老いていた。第1節では、労働者階級の平均寿命の低さを述べたが、女性の場合は経済的な理由から、産後あまり時間をおかずに労働を強いられることも多かった。このことから、子供を産み育てる母親たちは、男性以上に過酷で悲惨な生活を送っていたことは想像に難くない。

第3章 中流階級の女性の結婚

第1節 「女余り現象」と結婚

ジェインは、ロチェスターが妻帯者であることを知るまで、彼に対して好意を抱いていた。彼女は、ロチェスターに対し、「……私が呼吸し、何かを考えることができる間じゅう、私は彼を愛さなければならぬ」（Ch. 17, p. 175）という気持ちを抱き、別の場面でも「……私なら愛することのできる女性を妻として迎えるだろう」（Ch. 18, p. 187）と述べている。これらのことから、現代ならば、ジェインはロチェスターと結婚するだろう、何らかの支障があつてできないならば、たぶん誰とも結婚しないだろうと予測する。しかし、現代とは異なり、ブランシュの次のような発言に、この時代の女性の結婚に対する考え方が表れている。

「私は、夫にはライバルではなく、私の引き立て役になってもらいます。王座の近くには、競争相手は必要ありません。私は、ありったけの忠誠を要求します。私と鏡の中の自分とに愛情を分けるような人は嫌です。」（Ch. 17, p. 179）

この発言は名家の出で、美貌を誇るブランシュが自分の結婚相手に望む条件である。この結婚観の中には、ジェインが大切に思う「愛情」が全く含まれていないことは特

²⁵ ヘンリー・メイヒュー『ヴィクトリア朝ロンドンの下層社会』松村昌家、新野緑編訳、ミネルヴァ書房、2009年、63-89ページ参照。また、この階級の若い女性の労働条件に関しては、フィクションではあるが、L. T. ミードの *A Princess of the Gutter: SLUM FICTION: Representation of Life in London's East End, 1880-1920, Volume 7*, Tokyo, Athena Press, 2011. の pp. 127-30 にも記述されている。

筆に値する。ブランシュにとって、夫からの賞賛は必要ではあるが、愛情は求めてはいない、ましてや自分の側からの愛情については一言も触れられていない。

ロチェスターは、耳に心地よい言葉と優しいふるまいで、ブランシュに心酔しているような態度を取り続けた。その行動からジェインは、2人は結婚するだろうと思うが、実際、彼にはその気はまったく無い。ジェインも、彼がブランシュを愛していないことを見抜き、「自分ならば最愛の人を伴侶としたいと思うが、利害の絡んだ結婚をするように教育を受けている人達のことは私の理解できる範囲ではない」(Ch. 18, p. 187) と述べ、ある程度の理解を見せている。

一片の愛情も無い歯の浮くような言葉と愛想笑い、虚ろな艶やかさと恋愛劇、ロチェスターと社交界の友人との交わりはそれらで占められている。ロチェスターにあれほど微笑みかけ、惹きつけようとしたブランシュの側にも愛情はない。このことはブランシュが、彼の財産が予想されたものの3分の1しかないといううわさを聞いて、手のひらを返したようにロチェスターに冷たい態度をとることからも明らかである。

ジェインの言う、中流階級の人々の愛の無い結婚は、当時は珍しいことではなかった。人を愛することと、結婚とが別のものであるとして考えられていたのである。

この時代のイギリスは、産業化の進展が職場と家庭の完全な分離をもたらし、活動領域を家庭においていた中流階級の女性達は、社会の経済活動とは無縁の存在となった。これについて井野瀬久美恵は次のように述べ、男女の性差から、女性は外に出て働くことには不向きであると考えられていたことを指摘する。

簡単に図式化してしまえば、思考は男性領域、感情は女性領域に属しており、精神面で男性は強く、女性は弱い。だからこそ、男性は公的な領域である外の世界が、女性は家庭という私的な領域が、それぞれの居場所とされた。²⁶

つまり彼女達は、妻となり母となるために必要な教養と才芸だけを身に着ければよかった。レディとして恥ずかしくないだけの一通りのもので充分であったのである。働いてお金を稼ぐことは、レディの概念に抵触するばかりか、彼女達には不必要なことであった。このような中流階級の女性の有閑生活は、娘時代の家父長に経済的に依存していた立場から、結婚して夫に庇護される専業主婦の立場へと移行できてこそ可能であった。19世紀初頭までは、男女の人口差が際立ったものではなかったため、結婚に対する考え方と現実とがうまく歩調を合わせることができたのである。

少し時代をさかのぼるが、イギリスの風刺画の第1人者ウィリアム・ホガース(William Hogarth, 1697-1764)は、1745年に「当世風の結婚」(Marriage-à-la-Mode)という6枚構成の絵画物語を描いた。その第1図は、成金で裕福な市民の娘と、家柄は古いが経済的に行き詰った伯爵の息子の婚約を描いた作品である。誇らしげに家系

²⁶ 井野瀬久美恵『女たちの大英帝国』講談社現代新書 1407, 1998年。pp. 21-22.

図を指さす伯爵と元ロンドン市長は、子ども達を結婚させることで、自分に有利な条件を引き出そうとしている。

結婚する予定の2人は絵の片隅にいて、互いに背を向けており、娘は弁護士の甘言に耳を傾けている。この物語全体は、財産と身分・家柄が絡んだ親同士の思惑による愛のない結婚が理由となり、お互いに不義の道へと走った若夫婦の哀れな末路を描き出している。



第1図 The marriage settlement (結婚契約) 27

この絵画によって、ヴィクトリア時代にも同様のことが行われていたということが容易に推察される。この絵の情景と酷似しているのが、ロチェスターとバーサ (Bertha Mason) の結婚である。バーサとの結婚に際して、彼女の美貌に魅了されたロチェスターは、彼女を愛していると思い込んでいた。しかし、バーサの側からの愛情を伝える表現は無い。身内に狂人がいるという負い目は、現代人が考える以上に深刻であったろうと予想はつくが、それと共に、莫大な持参金を背景に名家と縁戚関係になりたい、というメイスン家の下心が見える。

さらに、「1882年に既婚婦人財産法が制定されるまでは、女性の財産はすべて結婚

²⁷ デイヴィッド・ダビディーン『大英帝国の階級・人種・性—W・ホガースにみる黒人の図像学』松村高夫、市橋秀夫訳、同文館出版、1992年、118ページ。

に際して夫の所有となっていた」²⁸ という事実から、結婚により夫の所有となった女性の財産は、離婚する際に再び自分のものとなることはなく、すべてを失うことになっていたのである。このことから、裕福であっても自分の人生を決定できず、夫に頼る結婚以外の選択肢を持たない女性が多く存在していたことがわかる。

その上、「女余り現象」により、結婚相手をなかなか見つけられない時代が到来した。この時代のイギリスは、海軍力を背景とした強大な力を持ち、影響力を諸外国に強めていった。そのため、多くの人々、特に男性が、キリスト教の布教活動や商売の規模を広げる目的で、世界各地に乗り出して行った。帝国主義を進めていたイギリス本国からは、結婚適齢期の男性が多く国外へ移動した。さらに、ナポレオン戦争の影響で成人男子の数が減少したことや、経済力を蓄えてからの結婚を望み、晩婚化が進んだことなどが社会に大きな影響を与えた。結婚適齢期でありながら、結婚できない女性が多く存在するという、極端な「女余り現象」が起こったのである。当時の記録から、渡会好一は次のように指摘している。

スコットランドも合わせた 1851 年当時の人口は、男よりも女が約 51 万人多かった。20 歳以上の女性が 100 人集まると、未婚が 30 人、未亡人が 13 人もいて「余った女」が社会問題になっていたから、愛していなくても、求婚されたらチャンス逃さず、結婚しなさい、こんな忠告がまかり通っていた。²⁹

この 51 万人という男女差は、当時の総人口が 2088 万人ほどであったことを考え合わせると、深刻な事態であったことがうなずける。

反対に独身のままでいるにしても、意に沿わぬ相手と結婚して辛い婚姻関係を続けるにしても、女性たちにとって人生の進路を自分で決められない困難な時代であったことが、理解されるのである。

第 2 節 神からの使命と人間

ジェインは、自分は愛情を重要視し、それに基づいた結婚をしたいと考えていた。しかし、ロチェスターの妻の存在が明るみに出されると、自分の愛情と結婚は結びつけることができないのだと悟る。その結果、見知らぬ町を放浪し、ムーア・ハウス／マーシュ・エンド (Moor House / Marsh End) へとたどりつき、セント・ジョンや妹達と知り合う。そこで彼女は、再びソーンフィールドの時とは全く逆の、自分の気持ち (愛情) と結びつかない結婚の可能性に遭遇する。

ジェインは、子供の頃から自分から愛することができる対象を欲する人間であった。

²⁸ John Guy, *Victorian Life*. Ticktock Publishing, Great Britain, 1997, Cf. p. 23.

²⁹ 渡会好一『ヴィクトリア朝の性と結婚——性をめぐる 26 の神話』中公新書, 1997 年, 59 ページ。

それは、ゲーツヘッドにいる頃の次のような描写に表れている。

人は愛する対象が必要であるが、私は愛情をかける価値のある者を持たなかったので、色あせ、すりきれた小さな案山子のような人形に愛情を注ぐことに喜びを見いだそうとした。……人形が、私のガウンにしっかりと包まれていないと眠ることができなかった。安全に温かくくるまれているのを見ると、安心した。人形もわたしと同じように心安らかなのだろう、と思いながら。(Ch. 4, p. 28)

ジェインが我慢できないと考えた愛の無い結婚、特に自分の感情とは全く結び付かない結婚の申し込みが、セント・ジョンの口から出る。彼の心の中には、人間に対する真の愛情は存在しないのではないかと感じさせるほどの、強烈な信仰心がある。オリヴァー嬢の美しさに対する賛美の気持ちはあるが、それ以上のものではない。セント・ジョンにおいては、すべてが宗教心という名の下に支配されているのである。また、「私は常に、妹達を愛してきたし、その愛情が何に基づいているのかも自覚している。妹達の間人としての価値に対する尊敬と、彼女らの才能に対する賛辞である」(Ch.33, p.388)という言葉からは、愛するには理由が必要である、という理屈っぽさを感じられ、それと同時に、自分の妹であるというだけで理屈抜きの盲目的な愛情を持っているわけではない、という冷淡さが透けて見える。

この態度は、ジェインがロチェスターに対し、「わたしもバーサと同じように狂ってしまったら、やはり嫌うのでしょうか」という問いかけに答えた彼の愛情表現とは著しい違いを見せ、2人の性格の相違を際立たせている。

「あなたの心は、私の宝だ。そしてもし、それが壊れたとしても、それでもなお、宝物だ。あなたが荒れ狂ったなら、窮屈な緊縛衣ではなく、この腕の中に閉じ込めよう。あなたの抱擁は、たとえそれが憤激からであったとしても、私には魅力的だ。今朝、あの女性が私に飛びかかってきたのと同じように、荒々しくあなたが飛びかかってきたら、抱きしめて受け止めよう。」(Ch. 27, p. 301)

ここには魂から搾り出すようなロチェスターの、熱く人間的な愛情、つまりセント・ジョンが、神から自分に与えられた使命を優先させるために切り捨てた人間の心がある。ロチェスターが「火」のように熱い情熱を持っているとするならば、セント・ジョンは、「水」のような冷静さを備えた理性が形を成したものと理解できる。結婚と関連付けてジェインは、セント・ジョンの心性を、水にたとえて次のように述べている。

もし、私が彼の妻であるならば、善良で、太陽の届かないほど深い水源のよう

に純粋なこの人は、私の血管から一滴の血液を流すこともなく、即座に死なせることができるであろう、と思った。自分の水晶のような良心に、罪のかすかな汚点を残すこともなく。(Ch. 35, p. 411)

セント・ジョンは、その冷酷とも言えるほどの純粋さでジェインに結婚を迫る。自分から愛情を注ぐことができる対象を求め続けたジェインに対して、セント・ジョンは、神への奉仕や義務を優先させようとし「判断の誤り」(an error of judgment; Ch. 35, p. 418)を犯させようとした。しかし、「感情、情熱を人間存在の核と見なすジェインが、セント・ジョンのこうした生き方に共鳴できるはずがない」³⁰ことから理解できるように、最終的に彼女は「.....わたしと同等なものはここにいる」(...my equal is here; Ch. 23, p. 254)と明言する、自分と同じ情熱を持つロチェスターの元へと帰っていくのである。

これまで見てきたように、地位や財産、一族の都合などから親や親族によって決められた結婚、また神に対する義務を自分の気持ちに優先させた結婚をして、自分の愛情を押し殺して家庭に入り、穏やかな顔をして生活を営むことが女性に要求されることも多かった。小説における「自分の性質の持つ炎は、絶えず低く保つことを強いられ、心の内部で燃やすことを強要され、決して泣き声を上げず、閉じ込められた炎が内臓を次々と焼き尽くす」(Ch.34, p.408)有様は、ジェインのみの心の状態にとどまらなかったのである。

第3節 ジェインの結婚

ロチェスターからの「違法のロマンス」(illegal romance)³¹も、セント・ジョンからの「合法的売春」(legalized prostitution)³²も退けたジェインは、その後ファーンディーン(Ferndean)でロチェスターと再び出会うことになる。ソーンフィールドにいた頃のジェインには身寄りも財産もなく、ロチェスターとの関係は雇い主と使用人の関係であった。また、ロチェスターには、狂ってはいたけれども妻がいるゆえに、彼は正式には結婚できる立場ではなかった。

しかしその後、ジェインが親族や財産を手に入れている間に、バーサが死亡し、ソーンフィールドは焼け落ちてなくなり、ロチェスターは視力と左腕を失った。彼に降りかかった災難は、あたかもソーンフィールドを去ることができなければ、ジェインの良心が自分に科すといった刑罰と同じ状況であった。それは、まさしく「お前は、自らの手で右の眼をくりぬき、右の手を切り落とさねばならない」(Ch. 27, p. 297)という表現に表れている。ロチェスターはこの、良心が科した罰を実際に受けたことに

³⁰ 神山妙子編『愛と結婚——イギリス小説の場合』国研出版、1989年、83ページ。

³¹ Shuttleworth, Introduction, xxx.

³² Ibid., xxxi.

より、贖罪を果たしたと考えられる。³³

バーサが死に、ロチェスターがその罪を償った後では、2人の結婚には何の障害もない。ジェインとロチェスターは、結婚にあたって次のような会話を交わす。「それならば、お選びください、あなたを最も愛する女性を。」「私は選ぶのだ、少なくとも自分が最も愛する女性を。」（“Choose then, sir—her who loves you best.” “I will at least choose—her I love best.”; Ch. 37, p. 445）。「あなたを最も愛する女性」と「自分が最も愛する女性」が一致し結婚することは、ヴィクトリア時代にあっても多くの人々の望みであったと思われる。また、「私の信頼のすべては彼にあり、彼の信頼のすべては私にあった。私達は、性格が完全に適合しており、完全なる一致がその結果であった」³⁴ (Ch. 38, p. 451)という様子は、時代を超えて最良の伴侶とめぐり会いたいと思っている人々の理想の姿である。当時、「この小説がセンセーションを巻き起こし、賞賛の嵐が起こった」³⁵ ことがそれを裏付けている。

山本紀美子は、「現世に重点をおき精神の糧としての神を信じる敬虔なクリスチャンである Miss Templeこそジェインの理想の女性として描かれている」³⁶ とした上で、「テンプル先生は牧師と結婚して学校を去り「家庭内天使」という道を選んだのであった。ジェインの人生の選択はすでにここに示されていると言えるだろう」³⁷ と述べている。つまり、ジェインが最終的に結婚し、家庭に入ることは既に予定されていたことであると考えるのである。

この小説は、2人が結婚して10年経ってから書かれたものという設定である。ロチェスターは、結婚して2年後には片目の視力がよみがえり、その後息子を胸に抱き自分によく似た黒い瞳を見ることができた。ジェインの「これまで、私ほど自分の伴侶に近い女性はいない。さらに、もっと完全に、私の骨は彼の骨であり、肉は彼の肉で

³³ シャトルワースは、このことについて次のように指摘している。

“The exhortation to purify by self-mutilation occurs elsewhere in the gospels, but significantly it is in this particular passage that it is associated with condemnation of adultery. Joseph Prescott...sees the verses as a commentary on the intended adultery, and actual maiming, of Rochester.”

(Shuttleworth, p. 478, n. 297.; cf. *Matthew*. 5:27-32.) この大意を記せば、「キリスト教の中では、身体的機能を自ら不具にすることで犯した罪の浄化が起こり得ると考えられていた。マタイ伝の1節では、そのような罪の浄化が、姦淫に対する断罪と関連づけられている。ジョセフ・プレスコットは、故意に重婚を企て、結果的に姦淫の罪を犯そうとしたロチェスターの身にその刑罰が降りかかり、不自由な体になったことを表している、と考える。」

³⁴ All my confidence is bestowed on him; all his confidence is devoted to me: we are precisely suited in character; perfect concord is the result.

³⁵ Shuttleworth, cf. Introduction vii.

³⁶ 山本紀美子『『ジェイン・エア』—ジェインの倫理的意識』、内田能嗣編『ヴィクトリア朝の小説—女性と結婚』英宝社所収、1999年、25ページ。

³⁷ 山本、前掲書、25ページ。

ある」³⁸ (Ch. 38, p. 450) という言葉は、次の、神がアダムとイブを作り出した人類創世の歴史から引用されている。

そしてアダムは言った、この者の骨は今や私の骨であり、肉は私の肉である。
この者は女性と呼ばれるであろう、なぜならば、男性から作られた者であるから³⁹。

この場面でジェインとロチェスターは、お互いにとって唯一無二の存在であることが理解できるのである。

第3章では、主人公ジェインを中心として、その愛情と結婚について「女余り現象」という史実を踏まえた上で考察を加えた。当時の女性の結婚に対する理想と、彼女らが直面していた現実には大きな隔たりがあるものの、最終的にロチェスターとジェインが勝ち取った結婚生活は、同じように結婚を望む女性達の理想の姿であることは否めない。

第4章 作品に見られるキリスト教

第1節 カルヴィニズムの影響

ジェインは子供の頃、時々聖書を開き、自分の気に入った黙示録やダニエル書などを読んでいた。しかし、初めて本格的にキリスト教と出会うのは、ブロクルハースト師に会った時である。

ジェインに会ったブロクルハーストは、彼女が詩篇を面白くないと言ったことに対して、「その言葉が、君がよくない心の持ち主であることを示している」(Ch. 4, p. 33)と決め付ける。そして、悪い子は地獄に落ちるのだと言い、その恐怖でジェインの心を宗教に縛りつけようとする。しかし、彼の「地獄に落ちないようにするにはどうすればよいか」という巧みに仕込まれた罠のような問いに対して、ジェインは熟慮の末に答えを引き出す。彼女は「健康に気をつけて死なないようにしなくてははいけません」(Ch. 4, p. 32)と答えたのである。

この問いと答えは、ブロクルハーストとジェイン、2人の宗教における方向性の違いを際立たせている。ブロクルハーストの考える宗教は、恐怖で人心を信仰に繋ぎ止め、形式を重視し、表面の信仰心を要求するものである。これに対し、ジェインは素直に神を敬愛している。彼女には、神の裁きに対する恐れやそれを避けるための便宜的な信仰心などなく、純粹に神と自分との関係を切り拓いていこうとするひたむきさ

³⁸ No woman was ever nearer to her mate than I am: ever more absolutely bone of his bone, and flesh of his flesh.

³⁹ “And Adam said, this is now bone of my bones, and flesh of my flesh: she shall be called Woman, because she was taken out of Man.” (Gen. 2:23)

が見られる。長じてからの行動を見ればわかるとおり、現実を直視し、その中で人の心にも神の御心にも沿った道を模索しようとするのである。

牧師であるブロクルハーストの心の中のキリスト教は形骸化している。そのことは、「お菓子をもらうよりも天使が歌う詩篇を覚えるほうがいい」と口先だけで信心深さを示す男の子 (Ch. 4, p. 33) をほめたたえていることから理解できる。また、彼は学院では「肉体の飢えにパンを与えることで、かえって魂を飢えさせることになる」とか「この世の肉体の欲望を抑え、つつましくすべし」などと唱え、学院生には耐えがたいほどの窮乏を強いている。その反面、家族には「……ベルベットや絹や毛皮で立派に」 (Ch. 7, p. 64) 着飾らせている。彼は、自分の言葉に矛盾を生じていることを何とも思わず、都合のいいように宗教を取り込むエゴイストである。

このブロクルハーストは、キリスト教の中のカルヴィニズムを信奉している。彼の「この子は選ばれた若木の育苗園に入ります。—彼女はそこで、神による選択の計り知れない恩恵に浴することに感謝するでしょう」⁴⁰ (Ch. 4, p. 35) という言葉の中の「選ばれた」「神による選択」という表現は、カルヴィニズム思想の表れである。しかし、彼には、キリスト教に即した良い教育者でありたいという気持ちは無い。それは、新しい環境で精いっぱい努力しようと意欲に満ちたジェインの希望の芽を摘み取ろうとすることに現れている。ジェインは、彼のことを「黒い柱」 (Ch. 4, p. 32) とか「黒い大理石でできた牧師」 (“the black marble clergyman”) (Ch. 7, p. 66) と表現している。およそ人間を表現するにはふさわしくないこの言葉は注目に値する。

ジェインは、このカルヴィニズムの教義にモートンの地で再び出会う。彼女は、牧師であるセント・ジョンが、カルヴィニズムの教義を説くのを聴き、次のような気持ちになる。

彼が説教を終えた時、その話によって気分がもっと良くなるとか、心が落ち着くとか啓発されるということはなく、言葉にならない悲しさを感じた (Ch. 30, p. 352)

このように自分と心の通い合わないセント・ジョンの説教は、ジェインの心を安らかにして希望をもたらすことはなく、聞く前よりもかえって彼女の心を暗くするのである。さらに、聡明な彼女は、説教している彼自身も、宗教によって未だ心の平穏を手にはしていないと感じとっている。

希望も心のやすらぎも見いだせないセント・ジョンの教義と、恐怖で人々の心を縛り付けようとする利己主義者のブロクルハーストの教義のありようは、どちらも、ジェインの考え方とは相容れない。それは、彼女が友人のヘレンから、宗教というもの

⁴⁰ “...she shall be placed in that nursery of chosen plants—and I trusted she will shew herself grateful for the inestimable privilege of her election.”

は心に安寧をもたらすと教えられ、その宗教観の影響を受けているからである。ここには、作者ブロンテ自身の宗教に対する考えが描き出されている。彼女は、魂の救済を望みながらも、人生を悲観的に見るカルヴィニズムの教義に則り、次のような自己を否定するような告白をしている。

……神聖なものを熱望しながらも、それは私の手に入ることはない。あのぞつとするようなカルヴィニズムの教義は真実だという確信が、時折胸にひどくこたえる。端的に言えば、魂の死の影が私を憂鬱にするのである。もし、キリスト教徒として完璧であることが救済に必要であるならば、私は救われることはないであろう。というのも、私の心はまさに罪深い考えの温床なのだから。⁴¹

セント・ジョンは、インドでの布教活動の手伝いをさせるために、ジェインと愛のない結婚を考える。そのような結婚がジェインにとっては苦痛でしかないことが、彼には理解できない。彼女は、自分の心に生じた葛藤に苦悩し、次のようにそれをはねのけようとする。

彼が私に授ける愛情のすべてが、信念に基づいた犠牲なのだ、という意識に耐えられるだろうか。いや、そのような苦痛は不条理だ (Ch. 34, p. 405)

セント・ジョンは、神からの愛と人からの愛の両方を望むことは愚かしいことであると考えている。ブロクルハースト同様、神の名の下に、ジェインに犠牲を強いようとするエゴイストであるといえる。

彼は伝道の助手を望んではいるが、妹や助手ではなく、あくまで誰の眼から見ても奇異に映らない妻という立場の助手を望むのである。心の底から、布教活動に従事したいと思っているのであれば、ジェインという有能な助手を伴ってインドに行けばよい。妻を伴ってインドで布教活動を行いたいのであれば、愛するオリヴァー嬢と結婚した後で、インド行きを説得すればよい。しかしセント・ジョンの選択は、そのどちらでもない。

彼の選択には、純粹に布教活動に従事したいという熱意とは相容れない不純なもの、つまり他人の評価とか体裁を気にするまがいものが含まれている。神へとつながる道

⁴¹ ..., longing for holiness, which I shall *never, never* obtain, smitten at times to the heart with the conviction that ghastly Calvinistic doctrines are true—darkened, in short, by the very shadows of spiritual death. If Christian perfection be necessary to salvation, I shall never be saved; my heart is a very hot-bed for sinful thoughts, (Elizabeth Gaskell *The Life of Charlotte Brontë*. London: Penguin Books, 1997, p. 121)

を歩いていく過程で、自分が犠牲にしてきたものの大きさを神に示したいという意図が透けて見えるようである。神山妙子は、これを「セント・ジョンの偽善性」⁴²と指摘し、次のように述べている。

ジェインが彼の冷たさを非難するのは、生まれつき人間的感情が欠乏しているからというよりも、宗教的使命という大義名分を振りかざして感情の抑制を美化しようとする彼の姿勢によるところが大きい。⁴³

彼は、人間らしい感情を押し込め、美しいオリヴァー嬢の魅力は、神から自分を遠ざけようとする甘美な毒である、と考えているのである。人間的な愛情や暖かい家庭での安らぎを断固拒否し、それを退けた後に「ほら、私は戦いに勝利したでしょう」とジェインに告げる（Ch. 34, p. 396）セント・ジョンのかたくなさ、彼の言葉の虚しさは印象に残る。彼を形容するジェインの表現は、「冷たく扱いにくい、陰鬱で場違いな柱」（a cold cumbrous column, gloomy and out of place ; Ch. 34, p. 393）である。

作者は、ブロクルハーストとセント・ジョンの2人を人間の温かい心を持たない石の彫刻に例えた。これは、彼女の手紙に吐露された心情と同様、2人が信奉するカルヴィニズムに対する嫌悪感が反映されたものに違いない。それと同時に、カルヴィニズムでは自分は救われないという絶望感が、自分を悩ます、重く圧迫感のある「柱」という比喩表現に含まれているようである。

第2節 ヘレン・バーンズの宗教観

ローウッド学院でのジェインの友人、ヘレン・バーンズの死生観や宗教観は独特である。彼女は、「すべての人は肉体が滅んだ後でも光り輝く魂は残る、人間から悪魔などに退化することはない」（Ch. 7, p. 59）と考えている。ヘレンにとってキリスト教は「教義と言うよりも体で本能的に覚えているものであり、彼女はいわば生まれつきの聖女であり天使である」⁴⁴と指摘する研究者もいる。

彼女の信条は、「明らかに犯罪者とその人が犯した犯罪そのものとを区別することができる」（Ch. 7, p. 59）という考えの中に表現されている。この「万人救済」（Universal Salvation）の考え方は、とりもなおさず作者ブロンテの信条でもある。彼女は、1850年2月14日付のマーガレット・ウーラー（Margaret Wooler）への手紙の中で、自分が「万人救済」の教義を信奉していることについて、次のように述べている。

牧師たちが、「万人救済」の教義を気に入らないのは残念です。そのことは、

⁴² 神山、前掲書、84 ページ。

⁴³ 神山、前掲書、84 ページ。

⁴⁴ 神山、前掲書、83 ページ。

あの人たちにとって哀れむべきことだと思います。でも私自身が真実であると信じていることを、否定したりやめさせたりできると考えるほど、無分別な人たちではないでしょう。⁴⁵

前節で見てきたように、自分は罪深いという意識にさいなまれていたブロンテは、カルヴィニズムでは自分は救われないと感じていた。しかし、万人救済の教義ならば、自分も、さらにはアルコールや薬物で破滅への道をたどって行った弟のブランウェルさえも、生前自分は弟を嫌ってはいたものの、死後は神が分け隔てなくお救い下さるだろうと考え、心の平安を感じる事ができたのかもしれない。

ヘレンは、「神の力に絶対的な信頼を寄せ、神の善良さを全面的に信頼している」(Ch. 9, p. 81) と言い、死の床にあっても迷いが無い。ヘレンの宗教観は、神と人間との関係を心の中で最大限にまで浄化したもの、と言えるかもしれない。この高い宗教性について、内田能嗣はキリストのイメージと重ねて次のように述べている。

テンプル先生がヘレンを抱きしめている場面は、まるで聖母マリアがまもなく神に召されるわが子イエスを抱きしめているかのように思われる。なぜならヘレンの墓碑銘は「我は復活すべし」であるからだ。⁴⁶

第3節 ジェイン自身の信仰

ブロクルハーストとの面談の後、ジェインは、死後地獄で業火に焼かれるかもしれないという恐怖よりも「この子は嘘つき」と性格をねじ曲げて彼に伝えられたことに、激しい怒りを抱く。換言すれば、生きていくうえで理に合わないと感じたことに向けられる感情の爆発である。彼女の視線は、神の世界にではなく、人間世界に向けられている。

ジェインの信仰は、ヘレン・バーンズのように、この世界の出来事を超越し、ひたすら自分と神のみの関係を築き上げていこうとする信仰態度とは一線を画す。彼女は、神の意に添う人間になりたいという願望と、人を愛したいという気持ちや理不尽なことには我慢ができないという人間らしい感情とを併せ持っているのである。ヘレンが感じる事のできない深い怒りに打ち震え(Ch. 9, p. 74)、彼女から人への愛情にそれほど重きを置いてはいけな、とたしなめられても、次のように自分の考えを変え

⁴⁵ I am sorry the Clergy do not like the doctrine of Universal Salvation; I think it a great pity for their sakes, but surely they are not so unreasonable as to expect me to deny or suppress what I believe the truth! Juliet Barker, *The Brontës: A Life in Letters*. New York: The Overlook Press, 2002, p. 264.

⁴⁶ 山本紀美子, 前掲書, 24 ページ。

ることではない。

あなたやテンプル先生や、心から愛する他の人の真の愛情が得られるのならば、私は腕の骨を折られようが、雄牛の角でほうり上げられようが、蹴る癖のある馬の後ろに立たされようが、その馬が、ひづめで私の胸にぶつかってこようが、喜んでそれを受けるわ。(Ch. 8, p. 69)

ここにヘレンの思想とは異なる、彼女の人間の「生」を肯定した人生観がある。人間の愛情を重視するジェインの熱い思いが、子供らしいたとえで語られている。

成長してからのジェインは、常に神を絶対的な存在としてあがめ、全幅の信頼を置いている。彼女は、人間は時として間違いを犯す存在であるということに気付いている。雇い主であるロチェスターに対しても、「人間や過ちを免れない存在は、神聖で完全なる存在のみに安全に委ねられている力を不当に要求すべきではありません」(Ch. 14, p. 138)と、宗教を心のよりどころとするように諭している。ジェインの心の中では、常に神への感謝や祈りが最優先され、この真摯で敬虔な態度をもって、自分と神との良好な関係を築いていたのである。

しかし、ジェインと神との関係を遮る存在が現れる。それは、次の箇所からわかるように、ロチェスターとの婚約期間中のことである。

未来の夫は、私にとって全世界であった。全世界以上の存在であった。ほとんど至福の場所での希望であった。彼の存在が、私と宗教のあらゆる思念との間に立ちただかった。それはあたかも、人間と光が満ち満ちた太陽との間をさえぎる日食のようであった。最近神が作り出した人間、私が彼を偶像にしてしまっていたのであるが、その彼が原因となり、私は神を見ることができなくなっていた。(Ch. 19, p. 274)

ここでジェインは1人の人間をあまりに重視し、神と自分との関係を崩してしまっただことが理解できる。永遠で絶対的存在としての「神」ではなく、一時的な存在であり間違いを犯しやすい「人間」を何よりも優先させ、それ以外のものは目に入らなくなってしまうのである。シャトルワースは、解説の中で「ワット牧師は、我々は人間より神を、肉体より魂を、一時的なものより永遠のものを好まなくてははいけない、と警告」⁴⁷する点を強調している。その後ジェインの身に起こる不幸は、それが原因で神が下した罰ととらえることもできる。

その後、耐えがたい別離と辛さの中でゾーンフィールドを抜け出したジェインは、

⁴⁷ Watts warns that 'We must prefer God above creatures, the soul above the body, eternal things above temporal' (p. 476, note 274).

荒野を放浪し大自然の中で、再び神に祈り感謝を捧げる。自然の壮大さの中に神の普遍性を悟るのである。彼女はロチェスターのために祈り、神は自ら作り出したものをお救い下さる、彼の魂は大丈夫だという思いに行き着く（Ch. 28, p. 324）。この描写から、ジェインは再び、神との関係を修復できたことがわかる。

生死の境をさまよい、かろうじてセント・ジョンに助けられたジェインは、彼の妹たちとは親しく話せるようになるが、彼とはあまり打ち解けることができない。しかし、彼と結婚してインドへ行くことが可能な気がしてきたのは、彼の宗教に対する圧倒的な熱意や彼を純粋に尊敬する気持ち、またジェイン自身の心の中にある愛情より義務を優先させようという気持ちによって共感を抱いたからである。

セント・ジョンとぎこちなく対峙しているジェインには、ロチェスターと一緒にいる時の自由闊達な会話の伸びやかさは見られない。ジェインは、彼を尊敬し怖れるあまり、本来備えていた情熱的で強い自我が、完全に閉じ込められてしまったのである。この場面からは、ジェインを自分の教義に引き入れようとするセント・ジョンの強い精神的な働きかけがあったことがわかる。

しかし、セント・ジョンとの結婚を承諾する直前に、愛していない人と結婚する「判断の間違い」から彼女を救い出したのは、神を信じていない、言うなれば神から見放された人物の声である。ロチェスターの絞り出すような悲痛な叫び声は、ジェインの心の奥に閉じ込められていた自我を呼び覚ます。彼女は、自分自身に対する支配権を取り戻し、セント・ジョンから離れ自分の部屋に戻る。この彼女の態度は、作品内において次のように描写される。

私は自分の部屋に入り、鍵をかけて閉じこもった。ひざまずき、自分なりのやり方で神に祈った。——セント・ジョンとは異な^{った}やり方だが、自己流で効果がある。（Ch. 35. p. 420）（強調は筆者）

この描写はジェイン自身の信仰がセント・ジョンの信仰の影響から離れ、自分が独自に築いてきた信仰、宗教観に立ち戻ることができたということを示唆している。セント・ジョンの近くにいた時には意識に上らなかったが、自我が呼び起こされた後に、以前と同じ罪を犯しそうになっていたこと、つまり自分自身を見失い、神とのかかわり方が見えなくなっていたことに気づくのである。これらの出来事を通して、彼女が成長していくとともに、自身と宗教のかかわりが次第に明確になってきたことがうかがえる。

この章では『ジェイン・エア』の作品の様々な登場人物の宗教観を検証した。そしてそこでは、作者自身の人生と宗教との関わり方が深く関連していることが明白になった。自分は罪深い存在であるという意識を持っていた作者は、主人公をヘレン・バーンズと出会わせる。そして、宗教とは心に安寧をもたらすものであるという考え方

に導く。ブロクルハーストやセント・ジョンとの関係においては、信仰篤き人々の心の中の不純なものを明るみに出した。これらのことは、牧師の家に育った作者の、自分と神とのより良い関係を求め続ける純粋さゆえに、可能になったのである。だからこそ、当時の社会と宗教が、『ジェイン・エア』という虚構の中に現実味を帯びたまままで存在することができたといえる。

第5章 精神疾患と神秘性

第1節 バーサ・メイスンとその一族

『ジェイン・エア』においては、気が狂いソーンフィールドに監禁されたロチェスターの妻、バーサが登場する。作者ブロンテは、このバーサの狂気の描写について、次のように述べている。

彼女（バーサ）の墮落した有様は、人の心に深い憐みの感情のみを生じさせるべきであることは、間違いありません。私がこの作品の中で、十分にその感情に取り組んでないのも、同様に事実です。「恐怖」をあまりにも前面に押し出した描き方をしたというミスを犯してしまいました。⁴⁸

凶暴な狂人を自宅で監禁するということが当時としてはそれほど特異なことではなかった。⁴⁹ その上、精神病患者を収容し治療する病院はその数が絶対的に不足していた。ブロンテにとっても、精神疾患は身近なものであり、『ジェイン・エア』の狂人の描写は、単に想像力の産物ではないことが知られている。⁵⁰ さらに「1845年には

⁴⁸ “It is true that profound pity ought to be the only sentiment elicited by the view of such degradation, and equally true is it that I have not sufficiently dwelt on that feeling; I have erred in making *horror* too predominant.” (T. J. Wise and J.A. Symington, eds. *The Brontës: Their Lives, Friendships and Correspondence* ii Philadelphia: Porcupine Press, 1980, pp. 173-4.)

⁴⁹ ソーンフィールドのモデルとなったのは、ノートン・コンヤーズ(Norton Conyers)とノース・リーズ・ホール(North Lees Hall)であろうと言われている。どちらの家にも気が狂った妻が監禁されているという評判があった。シャーロットはノース・リーズ・ホールの最初の女主人アグネス(Agnes Ashurst)が、気が狂ったようになり、2階の壁一面が緩衝材で覆われた部屋に閉じ込められていて、最後には火事で亡くなったという話を見聞きしていたことは、間違いのないと言われている。(p.478, note 292)

⁵⁰ シャトルワースは次のように述べ、ブロンテ一家の身近に狂気が存在していたことを明らかにしている。

父親のパトリック・ブロンテ牧師 (Revd Patrick Brontë) は、大量に注釈をつけた『家庭の医学』(*Domestic Medicine*)を保存していた。そこには、一人一人の病気や、試してみた治療法が書かれていた。彼は、自分自身が「神経障害」に悩んだこと、そして、「狂気」の見出しの下に、自身の「一時的な精神錯乱の震えや幻覚 (tremens)」という部門を加え、症状の一部始終を載せた。「患者は、自分は悪魔に取り憑かれていると思い、想像の中で光を発する物質 (substans[sic]) を見たり、しばしば手足の震えに襲われたりする。」また、息子のブランウェルは「自制能力」が全く欠けており、シ

精神病患者の扱いを定め、州の精神病院の創立に関する法律（Lunacy Acts）が制定された」⁵¹ことからわかるように、次第にこの時期を境にして、精神疾患に対して社会全体がそれまでとは異なった接し方をするようになった。患者を人間として扱う大切さを重視する傾向が強まってきたのである。

ここではまずクレオールをひくバーサを中心に、当時の精神的疾患に対する考え方と社会の対応を考察する。ジェインとの結婚式が中断され、バーサのことが明るみに出された後、ロチェスターは皆に向かって次のように叫ぶ。

バーサ・メイスンは気が狂っている。あの女は精神病を血筋に持っている家系の出だ。3代にわたる精神薄弱と狂人の一族だ！ 母親はクレオールで、気が狂っていて、大酒飲みだ。(Ch. 26, p. 292)

さらにロチェスターは、バーサの兄についても言及し、「あいつも、たぶんいつの日にか、同様の状態になるであろう」(Ch. 27, p. 305) と述べている。サリー・シャトルワースは、この発言が当時の社会では一般的な考え方であったと考え、次のような事例を根拠として挙げている。

当時の作家トーマス・トロッター (Thomas Trotter) は、1809年に自分の本の読者に対して次のような警告を発している。イギリスの男性はクレ奥ールの女性達との交際を避けるべきである、そうしないとイギリスはクレオールたちの影響を受けて奴隷と愚か者の国になってしまい、侵略を受けやすくなってしまふからだ、というのである。それというのも、当時、クレオールは贅沢な暮らしが原因で徐々に劣った体質になっていくものと考えられていたからである。⁵²

クレオールとは、ヨーロッパ人とアフリカ黒人との混血児や西インド諸島に移住した白人の子孫を指す。当時のイギリス社会では、狂気に蝕まれるのもクレオールであることが原因だと思われていた。

なぜこのような考え方が社会に広く流布するようになってしまったのか。バーサの父親は、ジャマイカで広大なプランテーションを持ち、大金持ちであった。おそらくはトロッターが表現するように「贅沢な暮らし」ができる境遇であったろう。しかし、バーサの母親がその血をひくクレオール自身の、民族としてのアイデンティティーは存在しない。土着の人々に比べて、異国が出自である彼らには、世代を超えて受け継がれた文化や精神的に拠って立つバックグラウンドは無いに等しい。その上、地元ジ

ヤーロットと父親にとって、彼は自宅における、恐るべき狂気の光景を象徴する人間であった。
(See Introduction, xxi)

⁵¹ Chronology I.

⁵² p. 478, note 292.

ジャマイカの人々とイギリス本国の人々の両方から異質な存在として考えられていたことが容易に理解できる。

帰属すべき確固とした社会を持たない「弱者」であるがゆえに、彼らは、ロチェスターやトロッターなど、強い社会を背景に持つ発言者の、誤解を含んだ独断に反論する機会さえ与えられなかったのである。この小説のバーサに至っては、登場した時にはすでに病気にむしばまれ、自分の人生を語る言葉さえ持っていない。女主人公ジェインの美德を際立たせるという使命を帯びた、見る人たちに嫌悪と恐怖を感じさせる存在である。小説内でのバーサは、あたかも凶暴な野獣であるかのように印象付けられ、誰に対しても攻撃的で危険な存在である。

しかしジェインは、バーサのことをあしざまに言うロチェスターに反論する。彼女は、自分の結婚の望みを断ち切り、精神的に立ち直れないほどの打撃を与える原因となった狂女、バーサを次のように弁護するのである。

.....あなたは、あの不幸な女性に対して冷酷です。彼女の話を話す時、憎悪の念や悪意のある嫌悪感をお持ちです。むごいことですわ。彼女が狂ってしまうのも、当然です。(Ch. 27, p. 301)

ジェインは、バーサの狂気はクレオールである母から受け継いだ遺伝というより、結婚後にロチェスターからむごく扱われたことが原因で、狂気に至ったと判断しているのである。冒頭で述べたブロンテの手紙の言葉を借りるならば、ジェインはバーサの姿は「人の心に深い憐みの感情を生じさせる」光景である、と考えていることが読み取れる。

ロチェスターは、ジャマイカに住んでいる時から、バーサは狂っていたと発言しているが、彼の言葉の客観性は疑わしい。なぜならば、この発言には、国ごとの文化の違いが反映されていないからである。伝統や格式を重んじ、家父長制度が確立されていた厳しい封建社会のイギリスに比べると、規則や慣習による締め付けが緩やかなジャマイカでは、熱帯に位置することもあり、肌を露出することも多く、酒を飲み、ダンスをしたり歌ったりすることも多かったはずである。ロチェスターは、カリブの文化や生活様式を尊重することもなく、この地にあっても自国の尺度で物事を判断しようとしたのではないだろうか。

このような意識には、彼をはぐくんだ大英帝国の白人文化至上主義が明白に現れている。バーサの狂気の発現について、デボラ・ティーチマンは著書の中で、次のように2つの可能性を指摘する。

(バーサは) ヴィクトリア朝の立派な女性のふるまいの標準に合わなかったことが、狂っているとされたのかもしれない。もし結婚前にロチェスターより賢い人

間がバーサを見たら狂気の兆候が現れていたかどうか不明である。⁵³

意志に反して文化も気候もカリビアン諸島と異なるイギリスに連れて来られて、もしそれまで精神的な不調和が重くなければ、この移動が彼女を狂わせたという可能性もある。⁵⁴

ジェインは、かつてリード夫人に向かって怒りをあらわにしたことがあった。その時のことを夫人は「ジェインは昔、私に向かって気が狂った人間か悪魔のような口のきき方をしたことがあった」(Ch. 21, p. 231) と語っている。ジェインにとっては、バーサの姿は、狂気に駆られたように怒りを爆発させた少女時代の自分のように映ったのではないだろうか。それが、このような仕打ちを受けたら気が狂うのも当然である、という発言につながったと考えられる。

一見したところ全く異なるこの2人の人物は、見方によっては、ポジとネガのような存在、いうなれば鏡に映る反転した自分の姿のような役割を果たしている。ロチェスターと婚約する前のジェインは、ゲーツヘッドやローウッドで見せたような熱い心や自我を極端なまでに抑えこんでいる。渡辺千枝子は、この抑え込まれた自我をジェインに代わって表現する人物がバーサである、と指摘し次のように述べている。

異常なまでに嫉妬深くかたくなで反道徳的なバーサは、ジェインがこれまで無意識に抑圧してきた方の、心の深層にひそむ衝動的な感性、欲望を体現した自我人格、ドッペルゲンガーなのである。⁵⁵

ロチェスターは狂人と化した自分の妻に、嫌悪の念を抱いている。これに対しジェインは、彼女に憐れみの感情を抱いている。この2人の考え方の違いは重要な意味を持っている。18世紀には狂人(lunatic)は不治の病とされていた。しかし、19世紀に入り、新しい考え方が台頭してきた。それはミシェル・フーコーによると「もはや狂人は……分割された空間における気違いではなく、病気という近代的形態における錯乱者なのである」⁵⁶ という考え方である。不治の病から病気、つまり適切な治療によって治る可能性のあるものとみなされるようになってきたことを物語っている。

このような考え方を受けて、1796年にウィリアム・テューク(William Tuke,

⁵³ Debra Teachman, p.18.

⁵⁴ Teachman, pp. 17-18.

⁵⁵ 渡辺千枝子「『ジェイン・エア』の成功の秘密：ドッペルゲンガー(Doppelgänger)の探求」、『水の流れに：松浦暢教授古稀記念論集』(松浦暢教授古稀記念論集刊行委員会)所収、2000年、62ページ。

⁵⁶ ミシェル・フーコー、田村俣訳『狂気の歴史—古典主義時代における』新潮社、1984年、549ページ。

1732-1822) は、「ヨーク隠退施設」(York Retreat) を創設した。ここは「狂人を肉体的罰則や拘束によって制御するのではなく、もっと人道的に扱う」⁵⁷ 療養所であった。この施設は、フーコーが説明するように「人間的な処遇を与えたので、欧米施設の模範とされた」⁵⁸ ものであったため、当時画期的な施設であったことがみてとれる。

ロチェスターは、バーサの症状を不治の病と考え、拘束という処置をとった。これは18世紀の考え方である。これに対しジェインは、バーサに共感し同情している。これは、狂人を病気にかかった患者と考える19世紀の考え方である。

バーサの狂気に対してロチェスターは2つの理由を挙げている。「彼女の母親はクレオールで、狂っていて大酒のみだった」(Ch. 26, p. 292) や「3世代にわたる馬鹿と狂人の家系だ」(Ch. 26, p. 292) という彼の言葉からわかるように、1つめは遺伝的な要因である。そしてもう1つは、不摂生や不行状に起因する後天的な要因である。作品においては、「彼女の不摂生が精神疾患の要因の発育を速めた。」(Ch. 27, p. 306) と述べられている。

遺伝として受け継いだものは本人に責任を負わせることはできない、しかし自堕落な生活でそうなったものには本人に責任がある。ジェインはバーサの狂気のもつ遺伝的要因には共感し憐れみを感じながらも、「大酒のみで貞淑でない」(Ch.27, p.306) という後天的要因には批判的な感情を抱いている、というアンビバレントな意識を持っていたことがうかがえる。さらには、『ジェイン・エア』のストーリーによく似た出来事が、当時現実に起こったことも記録に残っている。⁵⁹

第2節 作品と骨相学

骨相学は、ヴィクトリア期のイギリスで流行した考え方で、当時は「科学的」な理論であるとされ、多くの人々に影響を与えた。イギリスへは、オーストリアの医者であるフランツ・ジョセフ・ガル(Franz Joseph Gall, 1758-1828) らによってもたらされた。イギリスのジョージ・クーム(George Combe) は、ガルの考え方を発展させ、生まれつき機能や能力が劣っていて、それが表れていても、努力によってそれを補うことができることを唱え、さらに人気を得た。この考え方では、頭蓋骨の形状を「読む」こ

⁵⁷ See Introduction, xx.

⁵⁸ ミシェル・フーコー、神谷美恵子訳『精神疾患と心理学』みすず書房、1988年、165ページ。

⁵⁹ リーズ近郊の家で働いていた家庭教師がある紳士と結婚し子供を1人もうけたが、後になって紳士にはすでに気が狂った妻がいることが判明した、という事件が発生した。これは、シャーロットが、ミス・ウラー(Miss Wooler)の学校、ローヘッド(Roe Head)で助教師として働いていた頃のできごとである。(Elizabeth Gaskell, *The Life of Charlotte Brontë*, London: Penguin Books, 1997 Cf. p.105.)

とでそれぞれの器官の大きさや才能がわかるとされた。⁶⁰

シャーロット・ブロンテが、一時期骨相学に傾倒していたこともあり『ジェイン・エア』の中にも様々な場面で、骨相学が登場する。なかでも額の形、大きさについての言及は多い。骨相学で見ると「広い額」をもつのは知的に優れた人間の象徴である。作品の中では、次のような表現で登場人物の知性や性格を判断する根拠となって現れる。

ロチェスターの額は「知的器官の不足のないがっしりとした集合体」 (“a solid enough mass of intellectual organs;” Ch. 14, p. 131) と表現されており、この表現だけで彼が知的な人間であることが理解されうる。また、「高い額」 (“high forehead” Ch. 29, p. 345) を持つセント・ジョンや「広い額」 (“large front” Ch. 5, p. 47) のテンプル先生も同様に知性に優れた人物であることがわかる。

彼らと対照的に置かれているのは、ジェインがあまり快く思わない登場人物である。リード夫人については「額が狭い」 (“...her brow was low” Ch. 4, p. 35) と表され、あまり知性に優れた人物ではないことが理解される。ほかには、グレイス・プールの「頑迷そうな額」 (“hard forehead” Ch. 16, p. 153) やブランシュ・イングラムとその母親の「似たような狭い額」 (“the same low brow” Ch. 17, p. 172), リチャード・メイスンの「狭くて平べったい額」 (“the low, even forehead” Ch. 18, p. 190) などである。これらのことからわかる様に、彼らの額は、ロチェスターたちの額と明確に対比されている。作者が、骨相学の観点から、内面的に劣っている人々を「科学的」に描写しようとしたことが見て取れる。

他の場面では、ジェインがロチェスターの頭の形からその性格を判断する場面がある。そこでは、彼は知的ではあるが「仁愛の温かい感情を表す場所が唐突に欠落している」⁶¹ と判断する場面もある。読者は、この表現からロチェスターの性格がわかると同時に、次のように予想するのではないだろうか。おそらく彼は、生まれつき他の人に対して温かい心を持たない人間ではないだろう。なにか過去のつらい経験で、そのような感情を失ってしまったに違いない。それゆえ、先を読み進めてその理由を知りたい、という気持ちを抱くであろう。ジェインの、ロチェスターに対するこの判断は、その後起こる様々な出来事の伏線となっていることは言うまでもない。

このように、小説の中で骨相学は、主観的な人物評価に対する客観的で理論的な裏づけとして用いられている。それにより作品に独特な味わいが加わり、読者をひきつける魅力になっているのである。しかし中岡洋は、作品の中で骨相学を用いる欠点について、次のように指摘している。彼によると、骨相学は「シャーロットの人物造形

⁶⁰ 多田知恵「作品における骨相学の功罪」(第2章), 中岡洋(編著)『シャーロット・ブロンテ論』所収, 開文社出版, 2001年, 49 - 51 ページ参照。

⁶¹ an abrupt deficiency where the suave sign of benevolence should have risen (Ch. 14, p. 131.)

を型にはまったものにしていくような印象を与え」⁶² ている、というのである。彼女の複数の作品の登場人物同士が、似た頭の形や鼻の形、顎などを持っているならば、おおむね似た性格の持ち主であろうと想像がつく。このことが逆に、彼女の作品には、ある種パターン化されたものがあるという印象を読者に抱かせてしまう。ここに骨相学を重要視し、作品中の人物構成に用いたことの欠点が指摘されるかもしれない。⁶³

さらにもう1つの注意点は、骨相学が当時もてはやされた理由である。当時は「科学的人種差別主義」の根拠として利用されていたのである。白人の優越性を強調するために、骨相学は人類学、人種学などと共に用いられた。頭蓋骨から判断した白人の優越性は、非白人の劣等性の根拠となり、帝国主義下の大英帝国が自らの植民地政策を正当化し、世界へ乗り出して行った原動力となった。世界を「文明化」するのが自国の使命であると考えられるようになったのである。

文学作品には、その時代を映し出す鏡であるという側面がある。登場人物の外見を詳細に描写することによって、写真を見るように鮮明なイメージを与えることができる。それと同時に、当時、一般的に流布していた骨相学の判断を小説の中に用いることによって、作者と読者の間には、登場人物の性格に対する暗黙の共通理解が生まれる。その「決まり事」の中で、思いもかけない方向へと進んでいく物語に読者は魅了されるのである。時代感覚に沿ったストーリー展開と共に、この時代を象徴する骨相学を巧みに取り入れていることがこの小説が多くの人々をひきつけた理由の1つである。

第3節 『ジェイン・エア』の中の超自然

シャーロット・ブロンテの祖父、ヒュー・ブロンテ (Hugh Brontë) はアイルランドの昔話の語り部的な存在であった。また父のパトリックは雄弁で、アイルランドの伝説などを子らによく語って聞かせていたそうである。青山誠子は、ブロンテの心にはぐくまれたケルト的な精神について次のように述べ、それが彼女を育てた環境の特徴と相まって、『ジェイン・エア』の根底に流れる複雑な色合いとなっていることを指摘した。

アングロ・サクソン人が現実的なのに比べて、ケルト族は一般的に、ロマンチックで豊かな想像力や激しい情熱、よどみない雄弁などを持っていると言われて

⁶² 中岡洋『シャーロット・ブロンテ論』開文社出版、2001年、62ページ参照。

⁶³ たとえば、『教授』の中に見られる女学生たちの描写が例に挙げられる。オーレリア・コスロフ、アデル・ドロンサー、ファナ・トリスタという3人の素行のよくない女学生達は、すべて額が狭いと表現されている。とりわけファナは、額は狭かったが、それでも「謀反」と「憎悪」をくっきりと彫り付けるだけの余地はあった、と描写され、この小説の中で、彼女が授業を乱す行為を行っていたことに対する性格的な裏付けとして骨相学が利用されていることがうかがえる。(シャーロット・ブロンテ『教授』海老根宏他訳 みすず書房、1995年。pp. 127-28 参照。)

いる。その上、シャーロットたちが育ったヨークシャーの環境は、彼女達の中に
実際的で堅実な生活態度や強い責任感、気難しいまでの禁欲的態度を養った。⁶⁴

このケルトの血とヨークシャー気質は、小説全体の色合いだけではなく、『ジェイン・エア』の中の女主人公の性格を貫く精神的支柱ともなっていることは明白である。作中には謎や不思議な出来事も多く、アイルランドの伝説のように幻想的な雰囲気醸し出していることも特徴の一つであるといえる。

一例として月を例に挙げてみよう。この小説の重要な場面では、月と関連のある様々な描写が出てくることに気付く。10歳のジェインを恐怖のどん底に落とし入れ、失神させた赤い部屋で見た光を最初は月光だと思ふ。しかし月光は静かで、彼女の見たせわしく動き回る光とは異なっていた。このことから彼女は、異界から何者かが自分をさらいに来たのだと考え、気を失うのである。

ジェインの人生に大きな影響を与えるロチェスターに初めて会う場面にも月が出てくる(Ch.12, p.111)。また、彼との結婚の希望が断たれたジェインの夢の中に現れ、「娘よ、誘惑から逃れなさい」(Ch.27, p.319)と話しかけ、ジェインを正しい選択へと導いた場面も、月と密接な関連が存在するのである。

最後の最も印象的な場面である、本来ならば聞こえるはずもないロチェスターの悲しみに満ちた、絞り出すような声が、セント・ジョンの手からジェインを救い出した時も、部屋の中は月の光で満ち溢れていた(Ch.35, p.419)。デボラ・ティーチマンは、ジェインの心と月の光を関連付けて、「土着の言い伝えでは、心の奥底の感情の深さと月光は関係があると考えられている」⁶⁵と述べている。最後の場面で部屋を満たした月の光は、ジェインの激しく深いロチェスターへの愛情の現われかもしれない。

「精神異常」を意味する“lunatic”は、「月」を表す“Luna”に由来することからわかるように、かつては月の光を浴びると狂ってしまうと考えられていた。ここに挙げた場面は、いずれも現実離れした神秘的な印象を残す場面である。作品全体に漂う、独特の幻想味を帯びた色彩もこのようなところから生じてくるのであろう。

月の光の中は、人を狂人へと導く、現実とは切り離された非現実的な場とされている。ロチェスターへのあふれんばかりの愛情と現実から切り離された異空間、この2つが交わったことで、現実にはあり得るはずのない遠く離れたロチェスターの叫びをジェインに届けることができたと考えられる。

第1項 非現実性と陰に潜むもの

ゲーツヘッドでのジェインの楽しみの一つは、気に入った本を読むことだった。ビューウィックの『英国の鳥の歴史』の本を開き、北極圏のわびしい海岸に思いをはせ

⁶⁴ 青山誠子『ブロンテ姉妹 人と思想 128』清水書院、1994年、12-17ページ参照。

⁶⁵ Cf. Teachman, p.22.

てみたり、魔人の挿絵に恐怖を感じ、急いでページをめくったりしていた。また『ガリバー旅行記』に描かれた非現実的な世界は実際に存在するのだと信じていて (Ch. 3, p. 21) いつかは自分も実際に行ってみることができるのだと疑わなかった。ジェインは自分の目には見えない世界の存在も信じることのできる子供であった。

ジョン・リードとけんかをして罰として赤い部屋へ閉じ込められた時、アボットは退室間際「エアさん、お祈りをしなさい。悔い改めないなら、一人ぼっちでいる時、何か良くない者が煙突から入り込んできて、あなたをさらって行くかもしれないから。」

(Ch. 2, p. 13) と言いつつ残す。そのためジェインはここに一人でいる不安感をあおられる。さらに「赤」という色が与える緊張や不安定、興奮などの印象と相まって、ジェインの感覚は次第に現実から離れていこうとする。

その時私は、迷信に取りつかれていました。しかし完全に、ではありませんでした。体内の血液はまだ温かく、反乱を起こした奴隷のような苦い勝利の気分が息巻いていました。⁶⁶ (Ch. 2, p. 14)

不当な仕打ちに対する憤りが、恐怖のあまり、感覚が現実から遊離しそうになるのを妨げていたが、突然この場所が亡くなったおじのリード氏が埋葬される前、最後に過ごした部屋であることを思い出す。そして「彼が最後に言い残した言葉、ジェインをわが子と同様に面倒をみて育てること、が守られていないのに腹を立てて、虐げられた人たちの所へ復讐しに出てくるのではないか」 (Ch. 2, p. 17) と想像し、これ以上はないほどの恐怖を感じる。窓の外に見えた光を「あの世から幽霊がやってくる先触れ」 (Ch. 2, p. 17) と考え、取り乱し、部屋から出してくれるようにリード夫人に懇願するが冷たい拒絶に遭い、部屋で気を失ってしまう。

ジェインは後になって冷静に考え、あの光は芝生を横切る人の灯りがそう見えたのであろうと判断する。しかしこの出来事は読者に、『ジェイン・エア』という小説の中では現実と非現実の境界線が、いとも簡単に破られることを暗示している。

この時代は家の中にも陰が多かった。当時部屋には暖炉やろうそくがあったものの、現代では想像もできないほどの暗さであろうと思われる。特にゲーツヘッドやゾーンフィールドのような大邸宅の暗がりには奥深く広がっている。幼かったジェインは、自分の部屋にいる時も、次のように目をこらして異界からの何者かが潜んでいないか確かめるのが常であった。

それから私は人形を膝に置いて、暖炉の火が小さくなるまで座っていました。

⁶⁶ Superstition was with me at that moment; but it was not yet her hour for complete victory: my blood was still warm; the mood of the revolted slave was still bracing me with its bitter vigour;

時折、この陰の多い部屋に、私より悪い何者かがいないことを確かめるために見回しながら。⁶⁷

ここから分かるとおり、幼い頃のジェインは陰に潜む異界の者たちを恐れていた。現実と非現実が、幼いジェインの心の中で交錯しているのが見て取れる。

一方、長じてからのソーンフィールドの場面では、ジェインはブランシュたちと鉢合わせをしないように夕食を持ったまま、暗がりには隠れてやり過ごしている。

私は、廊下の端で音がしないように立っていました。その場所は窓が無く、すでに真っ暗でした。それというのも太陽は沈み、たそがれが迫っていたからです。

(Ch. 17, p. 167)

このようにジェインを隠すだけでなく、暗がりや目の届かない所には様々なものが潜むことができる。ローウッド学院でブロクルハーストに背中を向けた時にのみ現れる女生徒達の、彼に対する反感 (Ch. 7, p. 64) やソーンフィールド邸の3階、「思い出の聖堂」(“a shrine of memory” Ch. 11, p. 106) にひっそりと息づいているロチェスター一族の歴史、そしてタペストリーで遮られた隠し扉の向こうのバーサ・メイスン・ロチェスターなどがそれにあたる。

ジェインの伯母は現実的なものの見方をして、あたかも目に見えないものは存在しないと信じているかのような人間である。それゆえ、リード氏の死に際の約束も、自分はジェインが嫌いだからという理由で平気で破る。そういう夫人の心が如実に表れているのが次の言葉である。

お前の性格はととても悪い。……私には想像もできないほどだ。9年間もどんな仕打ちにも耐えて、我慢強く穏やかだったのに、10年目には非難の言葉と暴力を浴びせるなんて、まったく理解に苦しむよ。(Ch. 22, pp. 239 - 40)

リード夫人は目に見えないものに対して、想像力を働かせることができない。ジェインの陰に潜むもの、つまり10年近く心の中に抑圧され、蓄えられてきた怒りが理解できないのである。

この小説の中では、それまで目に見えなかったものが突然、現実の世界に出現することでストーリーが展開していく。ジェインが少女の頃抑圧していた、リード夫人やジョン・リードに対する怒りが抑えきれなくなって暴力となって出現したことが、ロ

⁶⁷ I then sat with my doll on my knee, till the fire got low, glancing round occasionally to make sure that nothing worse than myself haunted the shadowy room (Ch. 4, p. 28)

ーウッド学院へと彼女を導くきっかけとなる。

長じてからは、ソーンフィールド邸で聞いたグレイス・プールの笑い声やつぶやきであるとされていた存在、あるいは鏡に映った虚構の世界の「吸血鬼」(“the Vampire”; Ch. 25, p.284) という存在でしかなかったバーサが現実のものとして現れた時、ジェインの人生は大きく変わる。それまで現実世界と切り離されて、半ば幻想の世界に存在していたバーサが、ロチェスターの妻という現実味を帯びた立場でジェインの将来に立ちはだかつてきたのである。

マーシュ・エンドの場面でセント・ジョンが抱いていた野望、つまりインドで精神的に布教活動をし、この世での苦役を終え、神の前に進み出た時にいい地位を得たいという野望が自分だけで完結し、結婚という形でジェインの人生を巻き込もうと現実に出てこなかったら、あるいはロチェスターの叫びは永遠にジェインに届かなかったかも知れない。

陰に潜むものは一見、目にすることはできない。そこに存在するものを見極めようと大変な努力や犠牲を払う者、あるいは鋭敏な感覚、想像力を働かせる者のおぼろげな姿を現す。しかしそのように陰に潜む姿を持つ者は、不安定な現実世界を覆すほどの大きなエネルギーを秘めている可能性がある。

第2項 夢

この小説の中には、ジェインの見た夢について、詳しく描写されている部分が頻繁に出てくる。その夢の話はストーリーの中で伏線的な役割を担っていて、読者は読み進めていく段階において、夢の描写が重大な意味を有していることに気づかされる。この項では、小説に登場する夢の場面について論じたい。

ジェインは6歳の頃、小間使いのベッシーが同僚と夢の話をしているのを聞く。その話とは、子供の夢は自分や親族に何かトラブルがおこる予兆である、というものである。その記憶は、彼女が長じてからも消えることが無い。なぜならば、ベッシーがその夢を見た翌日、実際に、彼女の妹が臨終間際であると知らせが届き、会いに行くために実家へ帰ったのを、ジェインは覚えていたのである(Ch. 21, p. 220)。

成人してから、ソーンフィールドでガヴァネスとして働く彼女は、1週間ほど立て続けに子供が登場する夢を見る。そのすぐ後彼女のもとに、リード夫人が脳卒中で倒れたという知らせが届く。ジェインの心の中で、この知らせと子供の夢が結びついた時、何かが起きることを予感させる夢という現象について、彼女は次のように語る。

私は、交感現象は実際に存在すると思っています。……その作用は、人知を超えた働きをします。さらに、前兆とは造物主と人との交感現象にすぎない可能性がある

るということを、理解しておくべきだと思います⁶⁸

作者のブロンテは、ジェインにロチェスターの声が聞こえた場面のことを語る時に、この自然と人間の交感について言及している。「これが自然のなせる業です。自然は目覚め、奇跡などではなく、自分にできる最良のことにするだけなのです。」⁶⁹

また、エリザベス・ギaskellは自著の中で、ブロンテがこのような超自然的出来事は実際に起きたのだと力説していることや、さらにはそれが実体験に関連のあるものであるという含みを残して、次のように述べている。

ブロンテと話をしていた人が、ある時『ジェイン・エア』の中で、何マイルも離れた場所にいるロチェスターの声が、人生の岐路に立たされていたジェインの耳に届いたという場面に関して、不服を唱えました。私もその場に居合わせたのですが、ブロンテは、自分のどんな記憶を呼び起こしたかはわかりませんが、低い声で息を吸い込んでから次のように答えました。「でも、本当のことなんですよ。実際に起こった出来事なんです。」⁷⁰

彼女が感じたように、人智を超えた自然の力が生み出す作用は計り知れない。小説の中では、子供の頃の夢の話を現実の出来事と結び付けることで、読み手はブロンテの作った現実と非現実が入り混じった世界を抵抗なく受け入れる免疫ができてくる。

さらに、ジェインは結婚式の前日にも、子供が出現する奇妙な夢を二つ続きざまに見る。それは、泣きじゃくる子供を抱いた彼女が、ロチェスターが自分のもとから去っていく様子を、目を凝らしながら見送る夢と、廃墟となったソーンフィールド邸の高い屋根の上に子供を抱いて座った彼女が、子供と2人屋根から転がり落ちる夢 (Ch. 25, pp. 281 - 83) の2つである。翌日は、ジェインとロチェスターの結婚式が予定されている。この時点では読者も、子供の夢はトラブルが起こる予兆である、と理解してい

⁶⁸ Sympathies I believe exist ...: whose workings baffle mortal comprehension. And signs, for aught we know, may be but the sympathies of Nature with man. (Ch. 21, p. 220)

⁶⁹ "...it is the work of nature. She was roused, and did —no miracle —but her best."(pp. 485-86, note 419)

⁷⁰ Some one conversing with her once objected, in my presence, to that part of 'Jane Eyre' in which she hears Rochester's voice crying out to her in a great crisis of her life, he being many, many miles distant at the time. I do not know what incident was in Miss Brontë's recollection when she replied, in a low voice, drawing in her breath, 'But it is a true thing; it really happened.' (Elizabeth Gaskell. *The Life of Charlotte Brontë*. Penguin Books, London 1997, p. 319.)

る。またジェイン自身にも、近々自分か親族の身に何かよくないことが起こるだろうという予感があつたはずである。夢を見た直後に、部屋に侵入してきた異形の者によって、婚礼用のベールが引き裂かれるという出来事も起きる。

起床してから、結婚式の準備に追われたジェインは、大きな不安を心の奥底にかかえていたことが容易に見て取れる。予想通り結婚式は妨げられ、バーサの存在が白日の下に曝されるという結末を迎える。ジェインが見たこの夢は描写が鮮明であり、後にソーンフィールド邸が火事で廃墟と化すという運命さえも予感させ、心に不安を残す。

山本紀美子は、ジェインが結婚前夜にみた子供が出現する夢に関し「ここに出てくる子どもは実はジェイン自身と考えられる。この夢は不安や心配から逃れるために純真無垢な子どもに戻る「退行現象」と言える」⁷¹と述べ、様々な不安に対する彼女の自己防衛意識が形になったものと分析する。

子供が出てくる夢ではないが、もう一つジェインの心境を表す夢がある。リード夫人の葬式を終え、ジェインは再びソーンフィールドに帰ろうと思った時の事である。手紙でロチェスターが、花嫁ブランシュのために馬車を買ったことを知り、もはやあの家には、自分の居場所は存在しないと悟った翌日、明け方に鮮明な夢をみる。ソーンフィールドの門の前にブランシュが立ちはだかり、向こうへ行くようにとジェインに指図をしている夢である。ロチェスターは、2人の様子を腕組みしながら皮肉っぽい薄笑いを浮かべて眺めている(Ch. 22, p. 243)。住处を放逐され、愛するロチェスターも、もはや自分の側にいる人間ではないというジェインの心細さ、悲しさがこの夢から伝わってくる。

ソーンフィールドでジェインが最後に見るのは母親の夢である。ロチェスターの妻、バーサの存在に衝撃を受けた日、眠っていた彼女は、かつて罰として閉じ込められたゲーツヘッドの赤い部屋の夢を見る。恐怖を与え失神にまで至らせた、あの揺れ動く光が再び現れる。壁をすべるように上がり、天井で雲となりそこから手がでてくる。それから人間の姿が現れ、ジェインに話しかけるのである。

「娘よ、誘惑から逃れなさい！」

「お母様、そうします。」⁷² (Ch. 27, p. 319)

ジェインの母親は、結婚して2年も経たないうちに夫と同じ発疹チフスにかかり、亡くなってしまふ (Ch. 4, p. 26) (Ch. 33, p. 379)。当時まだ1歳ほどであったジェインは、母親の顔を覚えているはずがない。しかし、ソーンフィールドを去らなければいけないという、あまりにも自分の気持ちにそぐわない結論を支持し、勇気づけてくれたの

⁷¹ 山本紀美子、前掲書、27ページ。

⁷² “My daughter, flee temptation!” “Mother I will.”

は、母親であった。ジェインにとって唯一、母とつながりのある場所はゲーツヘッドである。彼女の母親にとっては、ゲーツヘッドは生まれ育った家である。その愛着のある場所に、娘を正しく導きたいという強い思念を残していたのかもしれない。それはいみじくも、ジェインが目にしたソーンフィールドの3階の「思い出の聖堂」(“a shrine of memory” Ch. 11, p. 106) に息づくロチェスター一族の名残に似ているように思われる。

最終的にソーンフィールドを去ろうと決心したのは、確かにジェイン自身であるかもしれない。しかし、ともすれば、ロチェスターへの強い感情に押し流されそうな理性を支え、ジェインを正しい判断に導いたのは、母親の彼女への愛であったように思えてならない。この小説の中では、夢が現実世界と非現実世界、または生者と死者の世界の橋渡しをする存在であるといえるのである。

第3項 妖精の国の住人

ロチェスターはジェインに対してさまざまな呼び名を使う。ソーンフィールドで初めて正式に挨拶を交わした後で「別の世界から来た人のように見えるのも不思議ではない。」(“No wonder you have rather the look of another world.” Ch. 13, p. 121) という印象を持ったのを始めとして、次のように様々な比喻を用いて、ジェインを表現する。

「緑の服を着た妖精の一人」(Ch. 13, p. 122), 「私の青白い小さな妖精」(“my pale, little elf” Ch. 24, p.258), 「この妖精のちびすけ」(“...you little elfish” Ch. 24, p. 261), 「空気の精の足」(“your sylph’s foot” Ch. 24, p.259), 「本物の天使」(“a very angel” Ch. 24, p. 260), または「その人は妖精だったのだ。妖精の国からきたのだ。」(“It was a fairy, and come from Elf-land” Ch. 24, p.267), 「人の怒りを誘うあやつり人形」(“provoking puppet” Ch. 25, p. 274), 「意地悪な妖精」(“malicious elf” 同上), 「小悪魔」(“sprite” 同上), 「取り替え子」(“changeling” 同上) など考えうる限りの巧言が使われている。『ジェイン・エア』の中に空想の世界が入り込んでいるのは、これらの言葉の持つイメージが深い印象を残していることが関係している。これらの言葉からは、ジェインのみならず、ロチェスターの心の中にも現実と幻想の世界が共存していることが看取される。

ことさらに、現実離れしたこれらの表現の大半は、彼が彼女と婚約した後に頻出しているのが特徴として挙げられる。さらに、これらの表現は彼が、ジェインが自分との結婚を了承した時 “God, pardon me!” (Ch. 23, p. 255) と、神の赦しを乞う叫び声をあげたのと密接に結びついている。おそらくは、重婚の罪の意識と愛する女性と結婚することの喜び、つまり理性と感情が心の中で相克している様を表しているのであろう。この無意識の贖罪はまた、後にバーサという妻の存在が明るみに出た時、皆の前で断言する「自分にはバーサという狂妻ではなく、もっとふさわしい妻をめとる権利があるはずだと思っていた」(Ch. 27, p. 310) というロチェスターの身勝手さともつながってくる。

一連の比喩表現は、ジェインを現実世界の住人ではない、と考えることで無意識のうちに罪悪感から免れようとしたもの、つまりロチェスターの心理的逃避であると考えられる。そう考えるならば、すべてを失った彼が、絶望の淵に追い込まれ、再びファーンディーンの地でジェインと巡り合った時のロチェスターの言葉は、深い意味を持つことに気付かされる。それは、「この、人を小馬鹿にした醜い取り替え子め！妖精の生まれで、人間育ち！」(強調は筆者) (Ch. 37, p. 438) という言葉である。

ロチェスターの用いるこれらのレトリックからは、彼が苦難の末悔悛し、ありのままの人間としてのジェインの姿を直視できるようになったことが読み取れる。これについて神山妙子は、「挙式前の触れ合いが、肉体的存在感のない「夢」でしかなかったのに対し、ここには抑制力に支えられた情熱の自由な表現を通した、実体としての存在認識」⁷³ があると指摘している。即ちそれは、肢体が不自由となったことで贖罪をすませたロチェスターは、盲目になってしまった後でようやく、それまで見ることができなかったジェインのアイデンティティーを正しく認識することができるようになったことを意味しているのである。

第6章 大英帝国と植民地

小説『ジェイン・エア』が書かれた19世紀中葉は、イギリスが世界各地に植民地を持ち、めざましく発展を遂げていた時代である。登場人物の中にも、植民地と深いつながりを持つ者がいて、彼らによって主人公の人生は大きな影響を受けることになる。

ここではまず、バーサの故郷である西インド諸島のジャマイカと、ジェインの伯父の住んでいたマデイラをとりあげる。この2つの地域は、共に奴隷労働を基盤にした宗主国の繁栄を支えた三角貿易の拠点であったことを指摘し、作品の背景を考える。

次にインドに関して、作品中のヒンドゥー教に対する言及から、イギリス本国の人々の目にどのように映っていたのかを指摘する。これら3つの地方の、地理的關係を示すと次のようになる。地図の印は、左からジャマイカ、マデイラ、インドの位置を表す。

⁷³ 神山妙子編 『愛と結婚—イギリス小説の場合—』(国研出版, 1989) 85-6 ページ。



帝国書院編集部編『新詳高等地図』初訂版，帝国書院，2009年，157 - 158 ページから引用。

第1節 ジャマイカ

作品の背景を探るためには、当時の歴史的事象と照らし合わせて検証する必要がある。そこでまず、『ジェイン・エア』が出版された1847年から、作中に設定した年代をさかのぼってみたい。登場人物とジャマイカとの関連が生まれるのは、ロチェスターがバーサと結婚したことを契機にする。この2人がジャマイカで結婚した年を特定し、4年間暮らしたジャマイカのスパニッシュ・タウンでの、彼らの生活環境を考えてみたい。

『ジェイン・エア』が出版されたのは、1847年のことである。当時、ジェインは30歳という設定であった。ジェインがロチェスターと結婚して10年経っている (Ch. 38, p. 452) ことから、結婚したのは1837年頃であると考えられる。それ以前に、ジェインが、ソーンフィールドでロチェスターと恋愛関係になり、結婚の夢が破れ、セント・ジョンや妹達と出会い、再びロチェスターと暮らすようになるまで、おおむね2年近くが経っていると推定される。つまり、ジェインがアデルのガヴァネスとしてソーンフィールドに入ったのは、1835年頃でジェインが18歳の時である。

さらにさかのぼって、ロチェスターは、ジェインと出会う以前に、狂った妻バーサを隠し、10年間様々な国をさまよった (Ch. 27, p. 310) と語っている。このことから、バーサを連れてジャマイカからソーンフィールドに移ったのは、1825年頃と判明する。1825年以前に、ロチェスターは、ジャマイカでバーサと結婚し、そこで4年間暮らした (Ch. 27, p. 306) という記述から、ロチェスターとバーサが結婚したのは1821年頃であることがわかる。

バーサの父メイスンは、西インド諸島のジャマイカのスパニッシュ・タウンに住む大農園主にして商人である。当時の大規模なプランテーション農業は、奴隷制による搾取から生み出され、宗主国や農場主に莫大な富をもたらした。バーサの父は、このような状況の中で蓄えた莫大な財産を背景に、娘と結婚する者には3万ポンドの持参金をつけると公言した (Ch. 27, p. 305) 。

彼の昔からの知り合いであったロチェスターの父は、次男のエドワード・ロチェスターをメイスンの娘と結婚させることにした。当時、地主や貴族階級の相続慣行は長子相続制が一般的であった。相続からの恩恵を受けられない長男以外の息子達は、聖職者や研究職、軍隊の士官などに就く者が多かった。ロチェスターの父もこの慣行に従って、自分の財産はすべて長男に譲るが、次男にも自分の息子として誇れるほどの財産を持って欲しい、と考えた。また、メイスンの側にとっても、ロチェスターの、何代にもわたる古い地主階級という家柄は魅力があった。そこで父親達は、大学を卒業したばかりのエドワードを、西インド諸島に向かわせた。バーサは当時、その美貌からスパニッシュ・タウンの自慢の種ともてはやされていた女性である。親達はその2人を、1821年ごろに結婚させたことがわかる。

西インド諸島のイギリス植民地における奴隷制の廃止は1834年に制定され、完全に奴隷が解放されたのは1838年である。それゆえ、ロチェスターがバーサと結婚し、スパニッシュ・タウンで暮らしていた1821年当時は、2人は奴隷達に囲まれ、大規模農場の中で非常に裕福な暮らしをしていたということがうかがえる。

『ジェイン・エア』の中で、何度かロチェスターは、奴隷と関連付けた発言をする。次の文章は、その中の1つである。

愛人を持つことは、奴隷を金で買うことに次いで悪い行為である。奴隷も愛人も、人間の本質的な部分で劣る者が多く、心的態度においては、1人残らず劣等な者達である。(Ch. 27, p. 311)

この発言からは、愛人も奴隷も人間的に劣等な者達であるという蔑視がうかがえる。バーサと同じ、西インド諸島に住むクレオール⁷⁴ という立場の作家、ジーン・リースは、少女バーサ・メイスンが、ロチェスターと結婚しイギリスで屋敷に火を放つ前までを小説に書いている。この著書『サルガッソーの広い海』には、ロチェスターに虐げられ狂気の犠牲になったバーサと、宗主国イギリスに搾取されるカリブ海の植民地の姿が描かれている。⁷⁵ 中村和恵は、リースの著書をうけ、上記のロチェスターの発言について、「奴隷および愛人所有への人道的嫌悪だけでなく、隷属させられた者への偏見、奴隷/愛人所有者は奴隷あるいは妾という劣等な人間の影響ゆえに墮落するという驚くべき考えが、何のためらいもなく表明されている」⁷⁶ と述べ、当時の白人至上主義を指摘し、バーサと奴隷たちの姿に共感を寄せている。

⁷⁴ ここでのクレオールとは、西インド諸島に移住した白人の子孫や、現地の人との混血児を指す。

⁷⁵ ジーン・リース『サルガッソーの広い海』小沢瑞穂訳、みすず書房、1998年。

⁷⁶ 中村和恵「クレオールの間航路 『サルガッソーの広い海』の余白に」、ジーン・リース『サルガッソーの広い海』あとがき、272-73ページ。

ロチェスターは、バーサはクレオールである母から狂気を受け継いだと考えているが、山根木加名子はこれについて、「妻を狂人と断定するロチェスターの言葉の背後には、クレオールの女性の道徳性や知性を劣等とみなす英国人の差別意識が働いている」⁷⁷と指摘する。

また、他の場面では、ロチェスターとジェインの間で、冗談めいたニュアンスに包まれた奴隷売買の会話が出る。

「ジャネット、それなら、私が莫大な数の奴隷や様々な色合いの黒い瞳を持つ奴隷達を取引している間、あなたは何をするつもりなの？」（Ch. 24, p. 269）

一見、婚約者同士の他愛もない会話のようであるが、彼のスパニッシュ・タウンでの結婚生活は、奴隷と深いかかわりがあったということに意識を向けるならば、この言葉は、現実的で暗い重さを持つ。軽口の裏にひそむのは、忘れ去ることを許さない過去の生活とバーサの狂気の姿である。

この小説のバーサの退場の仕方についてスピヴァクは、「バーサが家に火を放ち自らを抹消したおかげで、ジェイン・エアは英国小説におけるフェミニズム的個人主義者のヒロインとなる。私はこれを、一般的な帝国主義の知（エピステーメ）の暴力のアレゴリーとして読まずにはおれない」⁷⁸と述べている。彼女の主張からは、イギリス経済の繁栄を支えるために犠牲にされるジャマイカの姿と、イギリス人女主人公の美德を際立たせるために登場させられたクレオールの姿は一体であることが読み取れるのではないだろうか。

第2節 マデイラ

実の妹バーサに傷つけられたメイスンは、ジャマイカへ帰る途中マデイラの首都ファンシャルに立ち寄る。そこで偶然にも、古い友人であったジェインの伯父、ジョン・エア（John Eyre）と接触する。ジョンも、貿易を仕事にしている資産家であった。ジェインが伯父にあてた手紙からこの2人は、妻帯者のロチェスターがジェインと結婚しようとしていることを知り、それを阻止しようとする。この2人の行動が、それ以降のジェインの人生に大きな影響を与えることになる。結婚式は中断され、最終的にジェインは、ジョンの莫大な遺産2万ポンドを相続することになるのである。

イギリスは当時大西洋をヨーロッパ（製品）、アフリカ（奴隷）、西インド諸島（原

⁷⁷ 山根木加名子『現代批評でよむ英国女性小説——ウルフ、オースティン、ブロンテ、エリオット、ボウエン、リース』鷹書房弓プレス、2005年、11ページ。

⁷⁸ ガーヤットリー・C・スピヴァク『ポストコロニアル理性批判』上村忠男訳、月曜社、2003年、190ページ参照。

料)の3拠点にわたった三角貿易を行っていた。この三角貿易は、当時の大英帝国の中核をなしていた。⁷⁹ つまり、メイスンがたどったジャマイカ、イギリス本国、ファンシヤル(西アフリカ)という航路は、この三角貿易の道筋を示している。このことから、シャトルワースは、「ジョン・エアの富も、奴隷売買と何らかのかかわりのあるものであることを暗示している」(Shuttleworth, p. 478, n. 294)ことを明らかにした。

第3節 インド

前節では、ジャマイカを中心に、イギリス本国と植民地の関係について述べたが、この節では、インドとイギリスの関係を考えてみたい。その理解のために、作品の中のヒンドゥー教への言及を検証する。

ジェインは、伯母がローウッド学院のブロクルハーストに「この子は嘘つき」と言い、彼もそれを信じてしまったことに大きな不安を感じていた。ジェインは、学院の人達にそれを広められるのを恐れたのである。彼女は、学院でブロクルハーストの眼に留まり、皆の前に引き出され、椅子の上に立たされる。そして彼は、「この子は嘘つきであるから、気を付ける様に」と、女生徒達に命令し、次のように発言する。

「この少女は、キリスト教の地の生まれではあるが、ヒンドゥー教のブラフマーの神に祈りをささげ、ジャガノートの前にひざまずく小さな異教徒よりも、邪悪な存在である。この子はうそつきだ！」(Ch. 7, p. 66)

女生徒達を恐怖で震撼させたブロクルハーストの言葉は、キリスト教と比較して、ヒンドゥー教の儀式を貶めて発言したものである。⁸⁰ ブロクルハーストは、ここでヒンドゥー教という「邪教」の底知れぬ恐ろしさや教徒の愚かさ、その異教徒の世界に布教活動によって光明をもたらすキリスト教の優位性を念頭において発言している。

ジェインがソーンフィールド邸でガヴァネスとして働いている頃、再びインドと関

⁷⁹ イギリスから西アフリカへは、布や日用雑貨、武器などが輸出され、黒人奴隷と取引きされた。そこで、高くても3ポンドで手に入れた奴隷を、西インドやアメリカ大陸の奴隷制プランテーションなどに25ポンドから30ポンドで売り、代わりにそのプランテーションで奴隷を酷使することによって栽培した砂糖やタバコ、綿花などを仕入れて、イギリスにもたらした。

⁸⁰ ジャガノート(Juggernaut)とは、ヒンドゥー教における3大神格の1つ、ヴィシュヌの第8化身である女神クリシュナの称号である。インド東部のプリ市では毎年の例祭に、この偶像を巨大な山車に乗せて市中を引き回す習わしがある。山車には直径7フィートの車輪が16個付いていて、これにひき殺されると極楽往生ができるという迷信があった。そのため進んでその前に身を投げ出し、車輪の下敷きになる狂信者が多かったということである。(松村昌家編『パンチ』素描集 19世紀のロンドン』岩波文庫、1999年、45ページ参照。)

連付けた発言が出てくる。それは、ヒンドゥー教の古い慣習「サティー」(suttee)に言及する場面である。⁸¹ ロチェスターと婚約期間中のある夕方、ジェインは、彼が自分のために歌を歌ってくれるのに耳を傾ける。そして彼女は、歌詞の一節の「わが愛しき人は、契約の印となるキスで誓ってくれた。ともに生き、ともに死ぬことを」⁸² という表現を会話の糸口にとらえる。そして、次のように話すのである。

「私には男性と同様に、自分の死ぬべき時に死ぬ権利があります。その時までこの世にとどまり、サティーで死に急ぐようなことはしません」(Ch. 24, p. 273)

この会話の後ジェインは、たとえ婚約中であっても、男性に従属しない生き方を貫くことの大切さに気づく。そして、個々の人間として認め合うことがお互いの利益にもなると考えるのである。このサティーに関する発言から、ジェインの主体性を持って生きていきたいとする積極的な姿と対比され、宗教に縛られ、自分の人生を生きることができず、従容として死を受け入れるヒンドゥー教徒の女性達の姿が浮き彫りにされる。

この2つのヒンドゥー教に関する発言を受けたように、その後小説の中ではセント・ジョンが、インドにキリスト教を布教し、「邪教」を一掃しようとする。彼は、インドという植民地で布教活動をすることが、自分の天職であると思う。つまり、インドという「未開の種族」(savage tribes; Ch. 34, p. 408)が住む地に、キリスト教という崇高な宗教をもたらすことは、完全なる善であると考えたのである。

「私の望みは、栄光ある大望に、自分の願望を溶け込ませた人々の一員に加わることです。栄光ある大望とは、彼らをより良い種族に変えるということ、無知の王国に知識をもたらすこと、戦争に代わる平和をもたらすこと、隷属ではなく自由を、迷信ではなく宗教を、そして地獄の恐怖ではなく天国の希望をもたらすことです……」(Ch. 32, p. 374)

⁸¹ “Suttee: the Hindu practice where a widow immolated herself on her husband’s funeral pyre. It was rendered illegal by the British in 1829. Brontë would have been familiar with the concept from newspaper and periodical discussions. *Blackwood’s*, for example, carried an article, ‘Burning of Indian Widows’ in February 1828, calling strongly for its abolition.” (Shuttleworth, p. 476, n. 273) この大意を記せば、「サティーとは、ヒンドゥー教の中で、夫が亡くなったら、妻も夫の葬儀の積み薪と一緒に焼き殺されるという慣習を意味する。この慣習は、1829年に英国人によって非合法であるとされた。1828年2月にブラックウッズ紙に「インド人の未亡人を焼き殺すこと」という記事が掲載され、その廃止を強く訴える声が上がったことなどから、シャーロットもサティーの概念について知っていた可能性がある。」

⁸² “My love has sworn, with sealing kiss, With me to live —to die,” (Ch. 24, p. 272)

セント・ジョンは、キリスト教が普及する前のインドを表すのに、「無知の王国」「戦争」「隷属」「迷信」「地獄の恐怖」などの言葉を用いている。彼は、「知識」「平和」「自由」「宗教」「天国の希望」は、キリスト教が広まる前のインドには存在していない、と考えている。ここには「未開の種族」が住んでおり、そこにキリスト教という光明をもたらすことは、彼らを「より良い種族」に変えることであると考ええる。ちなみに、セント・ジョンの強烈的な理想主義者としての性格に関しては、インドへ渡った有名な宣教師、ヘンリー・マーティン（Henry Martyn）をモデルにしたものであろうと考えられている⁸³。

セント・ジョンの言葉には、ロチェスター以上に、植民地を蔑視した意識が現れている。彼の行為は、異教徒をキリスト教徒に変え、「人間化」しようとする、つまり「帝国の目的に役立つように、植民地の人々の人格改造をはかろうとする」⁸⁴ のである。彼のプロポーズを最終的に受け入れなかったジェインは、このような英雄気取りを、無意識のうちに見抜いていたと考えることもできる。⁸⁵

以上の議論から、『ジェイン・エア』の登場人物達は、植民地と密接なかかわりを持っていたことや、そこから強い影響を受けていたことが明確になった。宗主国から見た植民地の文化的劣等性が、帝国主義下におけるイギリスの対外進出の根拠とされ、作中に盛り込まれていることが理解できる。これを受けて、次章では、イギリス女性と他国の女性の描写に焦点をあて比較検証する。作品の中にはフランスやその他の国の女性に関する多くの表現が見られる。それらの表現に含まれる自国イギリスに対するプライドを考察の対象としたい。

⁸³ ヘンリー・マーティン（1781-1812）は、シャーロットの父パトリック・ブロンテ牧師が敬愛する伝道師チャールズ・シメオン（Charles Simeon, 1759 - 1839）の弟子で、ブロンテ牧師とはケンブリッジ大学のセント・ジョーンズ・カレッジでの知り合いであった。彼は、聖書をヒンドゥースタニー語に翻訳したが、若くして熱病で亡くなった。「彼が恋人のリディア・グレンフェルと別れた時の様子がセント・ジョンの行動の描写に反映している可能性がある」（Christine Alexander and Margaret Smith, *The Oxford Companion to the Brontës* Oxford Univ. Press, 2003; Cf. p. 319）と指摘する学者もいる。また、シャトルワースは「シャーロットは、キースレーの機械工科大学の図書館（Keighley Mechanics' Institute Library）で催された『ヘンリー・マーティン回顧展』（*Memoir of Henry Martyn*）の中で彼の業績を知った可能性がある」（Shuttleworth, p. 481, n. 344）と記している。

⁸⁴ 山根木加名子、前掲書、17 ページ。

⁸⁵ セント・ジョンのモデルには、複数の人物がいたのではないかと考えられていて、ヘンリー・ナッシーもその 1 人であろうと言われている。彼は牧師としての仕事を手伝って欲しいから、という理由でシャーロットに結婚を申し込んだ。シャーロットはすぐさま断ったようであるが、この結婚に対する態度が小説内のセント・ジョンの性格の一端と結びついたのかもしれない。「彼も一時期、宣教師としての仕事に興味を示したようだが、結局失敗に終わり、シャーロットを大いに面白がらせた」（Shuttleworth, p. 484, n. 402）という記録が残されている。

第7章 誇り高き大英帝国

第1節 イギリス女性としてのジェイン・エア

第1項 フランスとイギリス

初めてソーンフィールド邸でガヴァネス、ジェインと会った教え子のアデルは、歌を歌ってジェインの気を引こうとする。彼女は、パリに住んでいる頃、母のセリーヌ・バランス (Céline Varens) によって歌や踊りを教えられたことや、多くの男女の前で歌ったり踊ったりしたことを話す。ジェインは、母親から教えられたその歌は、子供が歌うには適さず、悪趣味であると感じる (Ch. 11, p. 102)。

アデルの歌や踊りは、イギリスへ来る前に住んでいた環境と深いかかわりをもつ。彼女が誕生する以前、母セリーヌは、ロチェスターの愛人であった。しかし、別の恋人を作り、それが発覚しロチェスターから愛人関係を解消されてしまう。その後、アデルが生まれるが、数年後にはアデルを見捨てて、また別の恋人とイタリアへ逃げる。1人取り残されたアデルは、実の父親かどうかも定かではないロチェスターに引き取られ、イギリスへ帰って来る。彼は、アデルが暮らしていたパリについて、次のように語る。

「私はこの哀れな娘を、パリのねばねばした土や泥の中から助けてやって、ここへ連れてきたんだ。イギリスの、田舎にある庭の健全な土壌で、健やかに育ててやろうと思ってね。」 (Ch. 15, p. 144)

アデルがパリで住んでいた環境は、子供が育つには不適だったのかもしれない。しかし、これはパリという場所が悪影響を与える、と一概に断定はできない。むしろ、オペラダンサーである母親の教育によるところが大きいと思われる。にもかかわらず、作者ブロンテは、アデルの悪趣味とも思われる歌や、母セリーヌの軽薄で人格的に劣る行いを描くことで、イギリスとフランスの相違を印象づけようとする。そして、ジェインやロチェスターの伶俐な目を通すことで、漠然とした印象であったその相違に、客観的な裏付けを与えている。

ロチェスターに甘えてせがんでいたプレゼントを受け取り、アデルは大喜びする。その様子を見て彼は、「この生粋のパリ娘」 (Ch. 14, p. 129) と、嫌味が混じった声で言う。同様に、ジェインはアデルの姿に、「あだっぼさが血液に流れ、脳に混じり、骨の髄にも風味づけをしている」 (Ch. 14, p. 139) という印象を受ける。また、「セリーヌ・バランスの小型版」 (Ch. 14, p. 139) とも表現している。別の場面でジェインは、アデルは人の注目を浴びると自分が教えたことを忘れてしまう、と言い、その性格は母から受け継いだものであり、イギリス人の性分には合わないと言っている。

る (Ch. 15, p. 145)。

さらには、最後の場面で、成長したアデルに会った時の印象からもジェインは、彼女の欠点は、依然としてフランス人に特有なものである、と判断していることが次の言葉からうかがえる。

成長するとともに、健全なイギリスの教育が、彼女のフランス的な欠点をかなりの程度まで矯正した。(Ch. 38, p. 450) (強調は筆者)

それに続く記述でアデルは、ジェインにとって「素直で気立てが良く、正しく道義をわきまえた楽しくて親切な友人」(Ch. 38, p. 450)と表現されている。つまり彼女は、ジェインの目を通して、イギリス女性の美德を備えた女性として描かれているのである。このことから、アデルの成長を描くことで、フランス的悪徳とイギリス的美徳という対比が小説全体を貫いている、ということが看取される。

同様の対比は、ロチェスターの言葉からも見受けられる。それは、彼に対するセリーヌの態度を表現した言葉である。「彼女は、甘い言葉で私に取り入り、イギリス製のズボンのポケット (British breeches' pocket) からイギリスの金貨 (English gold) を引き出させたのだ」(Ch. 14, p. 139)。このイギリスを強調した表現は、読者に、セリーヌがフランス人であることを強く意識させる。そして、彼女の計算高く浅はかな行動は、フランス人であるからだ、という印象を与える。

ロチェスターの愛人であった頃のセリーヌは、熱心に彼の男性美を賞賛した (Ch. 15, p. 144)。それに対しジェインは、「私はハンサムですか」という問いに対して、即座に「ハンサムではない」と言っている (Ch. 14, p. 131)。ジェインの応答には、自分の印象を率直に言葉にするのは大人として、また、使用人としての言動にはふさわしくないという判断は見られない。ここには、彼女の歯に衣着せぬ、ストレートで正直な主観のみが存在する。

しかし、2人の女性の生き方の違いが象徴するように、この言葉にはセリーヌの不誠実さとジェインの誠実さが示されている。小説全体を通して、フランス女性の持つ、どん欲なほど自分を美しく見せたいという気持ちや計算高さ、あるいは「性格の浅薄さ」(Ch.15, p.145)などが表現されている。それと対をなすように、ジェインによって表現されるイギリス人の、お世辞や婉曲な表現を好まない実直さや誠実さ、あるいは一種の無骨さが描き出されているのである。

第2項 ジェインと各国の女性達

ロチェスターは、大学を卒業するとすぐ、ジャマイカへ行きバーサと結婚した。彼女は、精神病院に閉じ込められている母親や、口のきけない白痴 (a complete dumb idiot;

Ch. 27, p. 305) の弟を持つことから理解できるとおり、彼女も精神病の遺伝を受け継いでいた。しかも、彼女の病状も驚くべき速さで進行していった、とロチェスターは語る。その結果、「大酒飲みで貞淑でない」(intemperate and unchaste; Ch. 27, p. 306) 行動をとるようになり、夫ロチェスターの面目をつぶすほどの苦しみを与えたのである。

その様子から、ついに医者が彼女を狂人であると判断したので、彼女を幽閉する必要があった、とロチェスターはジェインに打ち明ける。そしてその後、ロチェスターは、「バーサが活着している限り、自分はもっと良い女性と結婚することはできないのだと悟った。26歳にして私は希望を失ってしまった」(Ch. 27, p. 307) と述べている。

彼は嵐が襲来しそうな夜に、バーサの、彼を呪う金切り声で目を覚ます。部屋から見えるのは、地震のように唸り声をあげる海や、真っ黒く盛り上がる雲である。赤く熱した大砲の弾のような月は、血まみれの顔で海に沈む前に全世界を一瞥している。一かけらの清涼剤も見いだせない、硫黄の蒸気の中のような熱帯の夜のことである。バーサが言い放つ、どんな売春婦さえも使ったことのないような汚い言葉と、悪魔の口調に時折混ぜられる自分の名前が、耳をつんざく。このジャマイカの夜は、ロチェスターの五感すべてに恐怖や打撃を与える。彼は追い詰められ、ピストルを持ち出して自殺を考える。

意外なことに、その時強い風が大海を吹きわたり、嵐をもたらし、雷鳴がとどろく。ロチェスターはその風を「ヨーロッパからの新鮮な風」(Ch. 27, p. 308) と表現する。その風が嵐をもたらし、空気を清めてくれたのである。このような自然がロチェスターの乾ききった心を潤し、それと共に心の中に1つの希望を授ける。彼はこの地を脱出し、自由が満喫できるヨーロッパに移り住むことを決心する。バーサには適切な看護師をあてがい、自分は気の向くように生きていけばいい、と考えるのである。ここでは、バーサに象徴されるように、彼を苦しめ絶望させ、自殺をも考えさせる熱帯と、彼が自分の理想の女性が存在すると希望を抱き、生きる望みをもたらす潤いのあるヨーロッパが対比されている。

ジャマイカから帰国したロチェスターは、バーサをソーンフィールドに閉じ込め、10年近くヨーロッパ大陸を放浪し、自分に適する善良で知的な女性を探し回った。自分はバーサと正反対の性格の妻を持つことができると思い、またそうすべきだと思ったからである(Ch. 27, p. 310)。しかし、見つけたような気がしても結局、幻想にすぎず、彼の努力は徒労に終わってしまった。

彼は、理想の女性を妻とする夢に破れ、寂しさのあまり愛人を持つことにした。その最初がフランス人のセリーヌで、それからイタリア人のジアチンタ、ドイツ人のクララと続く(Ch. 27, p. 311)。これらイギリス人ではない3人とも大変美しい女性ではあったが、自分を裏切ったセリーヌをはじめ、無節操であったり、正直ではあるが心無い人間であったりして、ロチェスターは、苦々しい気持ちで彼女らと縁を切

ったと語っている。

数多くの女性にも心を動かされなかった彼を、運命はジェインと出会う道に導いた。ジェインと初めて会った時ロチェスターは、その印象を、「小さくてやせていて青白い人」とアデールに語っている (Ch. 13, p. 118)。また、別の場面では、「……私がハンサムでないのと同様、あなたもきれいな人ではない」 (Ch. 14, p. 132) と、彼はジェインに告げている。これらの言葉から、ジェインは、ロチェスターがこれまでに知り合った女性とは違っていることがわかる。

バーサを例にとると、彼女はブランシュ・イングラムの様な女性に属する。2 人も大柄で、肌の色が濃い。その上、狂ってしまったバーサは、ジェインの青白い顔とまったく逆の「赤黒い容貌」 (Ch. 27, p. 310) をしている。さらに、バーサやブランシュのみならず、ロチェスターの 3 人の愛人達も、皆美貌を誇っている。

これに対し、ロチェスター自身初めてジェインに会った時、ほとんど何の興味も持たなかった。彼はその時の様子を次のように表現している。「物静かで小柄な人物が、1 人で座っているのが見えた。私は、反対側の柳の木と同様、何の関心も持たずに通り過ぎた」 (Ch. 27, p. 312)。ここから、ジェインの存在は人目を引くものではなかったことがわかる。

その後、落馬し不機嫌になっているロチェスターを恐れることなく、ジェインは手助けをする。ロチェスターは、彼女のひ弱な肩に寄りかかった時、何か新しいもの、新鮮な活力や感覚が、自分の体内に忍び込んで来たと言語。

「20 年間探し続け、決して見つけ出せなかった多くの善良さや美点を、その人は備えている。生き生きとして健康的で、汚れや害悪とは無縁なものを。そんな人との付き合いが、私に元気を取り戻させ、改心させてくれる。より高みをめざし、もっと純粋な感情を持っていた、かつての自分がよみがえってくる。」 (Ch. 20, p. 218)

世界中を駆けめぐり各国の美女達を見てきたロチェスターのことばには、ジェインに対する最上級の賛美が込められている。前出の美しい女性達への、彼の辛辣な言葉に比べると、不器量であるといった言葉は、ほめ言葉であるという印象が変わる。それは、ジェインがロチェスターに対して、ハンサムではないと言った言葉を、驚きながらも、喜ばしいものとして受け取ったのと同様である。ここに描かれているのは、表面的な美ではなく、内面の美を賞賛するロチェスターの心中の価値の大転換である。強い意志を持つ人間の魅力とそれを理解できる人間の聡明さに対する作者の崇拝を、ここに認めることができるのではないだろうか。

作者ブロンテは、妹達が常に美しいヒロインを設定した物語を描いたことに不満を感じていた。そして、妹達に「私と同じように無器量で小柄なヒロインがあなたたち

の美しい女主人公と同じように興味深い人物になることを見せてあげます」⁸⁶ と言い、容姿の美や財産という外面的なメリットは一切持たず、ただ内面の美しさだけが優れているヒロイン、ジェインを作り出した。

この節でみてきたように、ジェインと各国の女性達という比較の構図からは、この時代のキーワードである「美德」という言葉が浮かび上がってくる。ここには、内面の価値こそが、真にその人間を決定づけるものであってほしいという作者の気持ちが看取される。

第2節 様々な国の労働者階級の娘たち

ジェインは、セント・ジョンの見つけてくれたモートンの学校の先生として働き始める。その学校の生徒達は、小作農家や農夫の娘達、いわゆる労働者階級に属する娘達である。ジェインは、彼女達のあまりの無知さや貧しさ、粗野さを見るにつけ、彼女達の教育に当たらねばならない「自分の地位が下がった」という印象を抱いた(Ch.31, p.359)。上昇志向の強い彼女にとって、社会的存在の階級が下がったという意識は、大きな打撃となったのである。

ジェインは、このように感じる自分のことを「愚かな (idiot)」と表現していることから、「社会的地位が下がった」と感じる自分と、そういう感情に対して「愚かだ」と判断する自分が存在し、矛盾する2つの自我が存在していたことが読み取れる。

小説の中では、次第に教え子達の中にも機知に富んだ少女や目を見張るほどの伸びを見せる少女もいることを彼女は理解する。また、多くの生徒達が、親切で気だてがよく、良い性質をもっていることも発見する。その後、ジェインは伯父のジョンから多額の遺産を受け継ぎ、モートンの教師を辞めることになる。クリスマスが近づき教え子達との別れを惜しむ描写の中に、次のような文章がある。

イギリスの小作農民は、どのヨーロッパ大陸の人達よりも、最も教育に適していて、行儀がよく、自尊心を持っている。最近私は、フランスやドイツの小作農の娘達と会ったが、この少女達の中で最も優秀な者でさえ、私が教育したモートンの少女達と比べると、無知で下等な、のぼせあがった娘、という印象を受ける。
(Ch. 34, p. 389)

ジェインが当時、どこでフランスやドイツの小作農の娘達と接触したのかは、この小説の中には書かれていない。しかし、彼女らに対するこの口調は、手厳しい。「私が教育したモートンの少女達」という表現には、自分が教育し立派になった娘達、という教育者としての矜持が込められているのかもしれない。しかし、なぜそのように判断したのかという合理的な理由は示されていない。第1節では、イギリス女性とし

⁸⁶ “I will show you a heroine as plain and as small as myself, who shall be as interesting as any of yours.” Elizabeth Gaskell, *The Life of Charlotte Brontë*. Penguin Books, London, 1997, p. 235.

でのジェイン・エアと、フランスをはじめ様々な国の女性たちの比較によって、作者ブロンテのイギリスに対する身びいきとも思えるほどの表現が明らかになった。ここでも、おそらく同様の判断が働いていることが容易に推察される。

かつてジェインは、モートンの学校が開校した頃に、労働者階級の少女達の粗野さや無知、無学さに戸惑った。しかし、日がたつにつれて、少女達の善良さや性質の良さを理解するようになっていった。彼女は、少女達が内に秘めている美德を見逃していた、という自分の判断の過ちにも当然気づいたであろう。しかし、そこにはあくまで「モートンの少女達（強調は筆者）」という枠が存在し、フランスやドイツの少女達に対しても自分の理解不足の可能性を広げて考えてみるという態度は見られない。

第3節 身びいきの奥に透けて見える矛盾

この小説に見られるようなイギリス人の身びいきは、ヴィクトリア時代積極的に海外へ植民地を広げたり、貿易で富を築いたりする彼らの原動力となったに違いない。布教活動にしてもキリスト教の優位性を信じていなければ、ヒンドゥー教の土地を蹂躪し、改宗させることに疑問を抱くはずである。

『ジェイン・エア』の中に登場する外国の女性達が、地位的、人格的に劣る者ばかりなのは示唆に富む。バーサはもとより、ロチェスターが知り合った女性達にせよ、アデルとその乳母にせよ、ロチェスターを頂点とする家父長制度の中で、自分にふさわしい地位を見つけるか、あるいは人間としてのプライドを捨てて、愛人という立場で安楽に暮らすかの選択肢しかない。どちらも拒否するならば、存在できないという弱い立場にある。頂点に君臨するロチェスターの姿は、あたかも世界に君臨していた当時の大英帝国を想起させる。

彼女ら外国人とは対照的に、ジェインは雇われている身ではあるが、上昇志向と自尊心を持ち、神に造られた同じ人間としての立場を貫きたいと思っている。当時の女性の1人として、家父長制度に組み込まれるのはやむを得ないとしても、イギリス女性として誇り高く生きていきたいと思っているのである。ソーンフィールド邸を抜け出した行動からもわかるように、愛人として生きていくよりも、プライドを保ったままで、飢餓で死ぬ間際まで追い詰められる可能性のある生き方を選ぶ。ここに見られるのは「個」を重視しようとする彼女の独立した精神である。

クレオールであるバーサに憐れみを見せたジェインは、後に自ら望んで労働者階級の娘たちに学校で教育を施す。しかしその仕事に従事する自分に対して「地位が下がった」と感じるのである。その後、ドイツやフランスの小作農の娘たちよりも、モートンで自分が教えた娘たちの方がはるかに人間として上位である、と考える。階級や人種に対するこのようなジェインの判断の不安定さは、とりもなおさず、作者が心に抱えていた矛盾を反映している。

そこで、ブロンテの抱えていた矛盾とは、どのようなものであったのかを明らかにしてみたい。ブロンテは、この作品の中で自立して生きようと模索する主人公ジェインを作り出した。次のような主人公の独り言は作者が、女性も活躍する場が社会に必要であると考えていることを示している。

女性は一般的にとっても穏やかなものだと思われている。しかし、男性と同じように感情を持っているし、兄弟と同等に能力を伸ばす訓練や、それを発揮する場が必要である。女性たちは、あまりにも厳しい制限と、徹底的な沈滞により、男性が辛さを感じるのと同じように辛さを感じている。様々な面でより多くの特権の中にあって、男性が女性に対して、プディングを作ったり、靴下を編んだり、ピアノを弾いたり、バッグに刺繍したりする世界に閉じこもるべきだ、と言うのはあまりにも心が狭すぎる。(p. 109)

ここからは、ヴィクトリア中期の社会構造という強固な枠組みから生じた男女の生活の違いが、女性たちを圧迫していたことが読み取れる。さらには、自分の能力を十分に発揮できる新しい世界を待ち望むブロンテの思いが書かれていて、そのことに多くの女性たちが共感したことが理解される。このことから彼女は、男女が等しく自分に見合った教育を受け、職場で才能を生かすことが出来る新しい時代の到来を望む女性であると考えられる。

しかし同時に彼女は、これと相反するような意識を持ち続けていたことがよく知られている。たとえば、『ジェイン・エア』の主人公は、上記のような発言をし、自活を望んでいたのだが、最終的には伴侶を見つけ、専業主婦になってしまったことがそれにあたる。

また、作中でジェインが「(ロチェスターの心を射止めるには)ただ静かに横に座っていればよい。会話をしたり相手の顔を見たりする行動は、極力避けた方が好印象を持たれるだろう。」(p. 187)や、「尋ねられた時には気取らずに答え、必要な時には表情を曇らすことなく話しかければ、温かい愛情を育むことが出来る。」(p. 187)と判断する場面がある。このジェインの考え方やふるまいは、この時代の典型的な女性の行動を表している。

堀内真由美は、この時代の女性の行動を1792年に『女性の権利の擁護』という書物を著したメアリ・ウルストンクラフト(1759-97)を引き合いに出して、次のように述べている。

ウルストンクラフトは、(中略)男性がする話にタイミングよく相槌を打ち、可憐な容姿とつつましやかな立居振る舞いで男性の前でただ微笑んでいればよいという従来 of 女性観に沿ってはいは、到底美德を備えた存在になれないことをく

りかえし述べる。⁸⁷

このように、ウルストンクラフトの非難する行動をとれば、女性は意中の男性の敏心を買うことが出来ると判断したジェインの意識は、作者ブロンテの意識を反映している。そしてそれは、ヴィクトリア中期に存在した「女性らしさ」という枠内にとどまっているのである。またブロンテ自身、「女性らしさ」を重視していたことは、記録や手紙などを手掛かりにして様々な場面からうかがえる。

例をあげるならば、「カラー・ベル」というペンネームで世に出した『ジェイン・エア』が評判となり、著者が男性か女性か判明しない時点で1848年12月に「クォーターリー・レビュー」にエリザベス・リグビーの書評が掲載された。その中でリグビーは、『ジェイン・エア』は「際立った反キリスト教徒の作品」とであると定義し、さらに、「もし女がこれを書いたとしたら、それはとんでもない女である。……」⁸⁸と評した。この書評に対して、ブロンテは再版の序文の中で手厳しく批判を行っている。

これとは逆に、ブロンテの『シャーリー』を読んだ友人メアリ・タイラーが、この小説には、仕事を持つ女性に対するあなたの見識の低さが表れているとし、「弱虫で、裏切り者」と責める手紙を送った。⁸⁹ブロンテは、メアリの長年の友人ではあったが、この手紙に怒り、2人の友情には亀裂が入った。

『ジェイン・エア』の中で、自立を後押しし、フェミニズムの旗手であるかのような筆致を見せたブロンテではあったが、彼女の精神はヴィクトリア中期の女性の「美德」の中に頑固にとどまり続けた。そのことが、次のような行動に彼女を駆り立てた。

それは、ウエストミンスター・レビュー (*Westminster Review*, 1851年)の中の「女性の解放」(‘*The Emancipation of Women*’)の記事に対する彼女の返答である。彼女は、この記事を書いた人は「とてもよい」頭脳をしている、「しかし私はこの人の心を軽蔑したい気がする」と述べたのである。彼女のこの言葉は、社会に対する女性の不満を『ジェイン・エア』の中に描き出した作者に対して、人々が予想する意見とは正反対であるように思われる。すなわち、ブロンテならば、記事の精神に感情の上からは賛成するだろう、しかし実際に生活しているこの社会構造などを考慮に入れると、このような急進的な提案には、理性的に考えて同意することはできないだろう、と人々は考えるであろう。

ここからも、牧師の娘として生まれたブロンテの精神は、この時代の「女性の美德」の中にとどまっていることがうかがえる。彼女は、この返答の直前に次のような意見

⁸⁷ 堀内真由美『大英帝国の女教師 イギリス女子教育と植民地』白澤社、2008年、20ページ。

⁸⁸ 富士川和男「『ジェイン・エア』はどのように解釈すればよいのか」、中岡洋/内田能嗣[編]『ブロンテ姉妹を学ぶ人のために』世界思想社、2005年所収、125-26ページ。

⁸⁹ Barker, Juliet. *The Brontës : A Life in Letters*. New York: The Overlook Press, 2002, p. 278.

も述べている。その言葉は、『ジェイン・エア』の中で体が不自由になったロチェスターに献身的に仕えるジェインの姿をほうふつとさせる。

筆者は自己犠牲的な愛や欲得抜きにの献身も存在するということを忘れている。

自立を望みながらも、最終的にヴィクトリア中期の女性の美德にとどまることを選んだ主人公ジェインは、作者の「理性」と「感情」の両方によって作り出された。特権階級の批評家からの「女性らしくない」という言葉と、ブロンテにフェミニズムを期待した人たちからの「弱虫で、裏切り者」という言葉の両方に激しい怒りを感じたのは、その半世紀前、ウルストンクラフトが望んだ社会へと少しずつ変わりつつある時代の変化を表している。そしてそれが、ブロンテの心の中の矛盾となり作品の中に反映されている。

まとめ

これまで見てきたとおり、『ジェイン・エア』は、当時の中流階級の女性の抱えていた不満や不安を作品の中に取り込み、主人公が理想の人生を模索しながら生きていく力強さに対して多くの読者の共感を得たことがその特徴として挙げられる。

性差、階級差に対する不満が、主人公をダイナミックな行動へと駆り立てたことや、階級社会の崩壊を促すような不穏な空気を感じさせる強い自我を肯定する描写などが、それまでの作品には見られなかった先進性となっている。

「孤独で友人もなく、支えてくれる人がいなければいけないだけ、私は自分自身を尊重する」⁹⁰ という彼女の言葉の中には、このヴィクトリア時代を表す言葉、リスペクタビリティ (respectability) と同じ“respect” が用いられている。当時のイギリスでは「名門の家系でない新興階級の者達は、生活規範をモラルティにおくことによって貴族階級の家柄に対抗して行かざるを得ない状況」⁹¹ であり、「ヴィクトリア朝庶民の文学ジャンルである小説にもモラルティが大きな影響を及ぼし」⁹² ていた。「道徳的、社会的に尊敬されること、ちゃんとしていること」を表すリスペクタビリティを信念として持ち、自分を厳しく律し、神の御心に叶う道を探すジェインに共感が集まったのは言うまでもない。

努力すれば必ず報われるという考え方や、そのために勤勉、節約に励まなくてはいけないという中流階級の思潮が、ガヴァネスという職業がもたらす屈辱に耐え、ロチ

⁹⁰ The more solitary, the more friendless, the more unsustained I am, the more I will respect myself.
(Ch. 27, p. 317)

⁹¹ 内田能嗣『ヴィクトリア朝の小説——女性と結婚』英宝社、1999年、4ページ。

⁹² 同上、4ページ。

エステルからの道徳に反した誘惑にも屈することのないジェインを生み出したともいえる。彼女は、まさしく新興階級（中流階級）のモラルティを体現した姿であった。主人公ジェインの誇り高く生きる覚悟を秘めたこの力強さが、その後「女余り現象」に直面し、新たな人生を模索していかなくてはいけない女性たちの生き方の指針となっていくのである。

しかし、この作品のもう一つの特徴として、現実とは乖離したハッピー・エンドに終わってしまったということが挙げられる。孤独なガヴァネスが、最終的に女性たちがあこがれた「家庭の天使」という従来通りの幸福を手に入れ、子供が生まれた場面で作品は終了する。主人公とロチェスターを結びつけた非現実的で強引なプロットは、自分の恋愛を成就できなかった作者の夢を小説の中で実現させたものと考えられているが、この終わり方には、新しい女性を目指し行動することと、従来通り理想の男性と結婚して「家庭の天使」に収まるということに関して矛盾が見られる。

この時代は女性達が、次第に社会へと進出していく過渡期であり、価値観が少しずつ変化していく時期である。ブロンテの心の中に抱えていた矛盾は、この作品の中で異人種や階級差、女性の自立に対する主人公の判断の不安定さとして現れている。また、「家庭の天使」として家庭に入ったことで、ジェインの「個」としての志の高さが際立った作品として完結してしまい、個人から集団へといった発展性は、まだここには見られない。

第二部『ジェイン・エア』の娘たち

第1部で筆者は、小説『ジェイン・エア』の主人公ジェインがどのような生き方を模索し続けたかを探った。ヴィクトリア女王をはじめ、多くの人々を熱狂させたジェインの生き方は、当時の女性達があこがれた、自分の人生に対するひたむきさや誇り高く生きていく強さを持ち合わせていた。この主人公の人生は、とりもなおさず作者シャーロット・ブロンテが追い求めた美德の具現でもある。経済力や美貌に頼ることもできない主人公は、その崇高な精神のみで前向きに人生を切り開いていく。これらのが、厳しい時代を生き抜いていかねばならない現実に直面した女性の心をつかんだのである。

そこで、この第2部では、主人公ジェインの高い精神性が、若い女性の生き方にもどのように映し出されているかを探る。『ジェイン・エア』の生き方を踏襲したかのような、気高さや前向きさ、優しさと強さを備えた女性、またそうありたいと努力する女性を「ジェイン・エアの娘たち」と定義づける。

ジェインと、「娘たち」との間に介在し、両者を結びつけた中の1人に、ブロンテと同じ、牧師の娘として育ってきた作家、L. T. ミードが挙げられる。彼女の代表作『少女たちの世界』と『ジェイン・エア』との関係からは、新しい女性の理想像という共通項が浮かび上がる。この事実を踏まえて、その後ミードが編集者として従事した雑誌『アタランタ』を用いて、若い女性読者を彼女がどのように導いて行こうとしたのか、そして読者は雑誌から何を受け取ったのかを第2部で検証する。

そしてそこから見えてくるのは、「女余り現象」を経て「新しい存在」となり得た女性達の姿である。『ジェイン・エア』では、小さいころから孤独であったジェインが、唯一頼りにしていたのは自分自身であるがゆえに、ガヴァネスの職を得て誇り高く人生を送っていくことができた。その後、様々な紆余曲折を経て彼女は、家族と財産を得て孤独とは無縁の状況になり、専業主婦として完結した。

これに対して、「女余り現象」に直面し、図らずもジェインの感じていた孤独を追体験することになった中流階級の女性達は、「個」として生きる選択を強いられはしたが、そこにとどまりはしなかった。しかし、裕福なロチェスターのような伴侶を見つけるのは、すべての「余った女」にとっては現実的であるとは言えない。そこで彼女達は、自活して生きていく力を身につけ、さらに、「個」が団結して社会に対して強い影響力を持つ存在になるまでに至った。そこで、第2部では『ジェイン・エア』という母の立場を超えて、新しい存在となり得た「娘たち」について論じる。

第1章 ジェイン・エアの娘たち

第1節 「女余り現象」とガヴァネス

『ジェイン・エア』が書かれた時代、1851年の報告書に記された男女の人口差が、「女余り」の現実を人々の前に突きつけることとなった。それを踏まえて、第一部第3章では、この作品の登場人物の言動と結婚観について述べた。そこで、第二部では、1887年に創刊された若い女性向けの雑誌『アタランタ』が読まれた時代、ヴィクトリア後期の女余りの実態と、それが女性たちに与えた影響について述べてみたい。

この時期の未婚の男女数の差は、ヴィクトリア中期の1851年の報告書の数字から大幅に広がったことを、川本静子は自著の中で次のように指摘している。

1851年に15歳以上の独身女性は276万5000人、1861年には295万6000人、1871年には322万8700人に上り、20年間で16.8%増加している。うち、15歳以上の独身女性数と独身男性数の差—すなわち、配偶者を持たない、あるいは持つ見込みのない女性数—は7万2500人から12万5200人へと20年間で72.7%増えているのだ。⁹³

このことから、ヴィクトリア中期の女性たちが抱えていた「女余り」に対する不安が、ヴィクトリア後期を生きる女性達にとっては、さらに増大したことが見て取れる。また、この男女差はその後も狭まることはなく、河村貞枝は「1911年では男女の人口統計上の格差は132万人以上に膨れあがっていた」⁹⁴と述べ、結婚できない女性の数が深刻化していたことをうかがわせる。

これに対して堀内真由美は「女余り現象」は、当時の現実社会を正しく表していないと、次のような数字を挙げて指摘する。

今日の女性史研究者らの冷静な分析によれば、次のようなことが明らかになっている。そもそも1862年に評論家ウィリアム・グレッグが著した、「100万人以上の女性が結婚できなくなる」という「1851年センサスの分析」が、20世紀に入っても女性たちを「結婚できないかもしれない」不安に駆り立てた、「余った女の神話」の始まりだった。女性人口がより多くなった背景には、平均余命の男女差、海外植民地への男性の流出などが考えられる。一方、14歳から45歳までの、いわゆる「結婚可能」な年齢層ではむしろ男性の方が多かった。

⁹³ 川本静子『ガヴァネス（女家庭教師）ヴィクトリア時代の〈余った女〉たち』中公新書、1994年。p. 14-15

⁹⁴ 河村貞枝「移住するガヴァネス 中流階級女性と移民」川北稔・指昭博編『周辺からのまなざし——もうひとつのイギリス近代』所収、山川出版社、2000年。p. 239

にもかかわらず、なぜか「このままでは生涯結婚できない女性が大勢出てしまおう」との恐怖に人々はとりつかれた。⁹⁵

女性が出産の能力を持つのは若い時期に限られている。ヴィクトリア女王の家庭を理想とする未婚の女性達には、婚期が遅れると自分がこの理想から離れ「家庭の天使になれないかもしれない」という焦りが、危機感に拍車をかけた。

中流階級の「家庭は城」という考え方の中には、男性にとっての安らぎの「城」を作ることが女性の仕事である、という認識があった。女性を経済的に依存する存在として家庭に置くことが、男性の経済力を示すことになるのである。そのため、経済力をつけてからの結婚を希望する男性が増え晩婚化が進んだ。

また、健康に自信があり適齢期でありながら、未婚のまま若い男性が活躍の場を求めて植民地へ流出したことなどから、堀内真由美が指摘するように、男性の数が女性を上回るという事実があったとしても、女性たちの多くは、自分は「余った女」になってしまうのではないかという恐怖と、これからどう生きていけばよいかという不安を取り除くことはできなかつたことがうかがえる。その日の糧を稼ぐのが精一杯の労働者階級の女性と異なり、自立することについて何一つ学ばずに育ってきた中流階級の若い女性達は、厳しい現実と直面することになる。自活して、自分の人生を自分で切り拓いていく必要が出てきたのである。

このような中で、女性達が中流階級に属するものとしての体面を保ったまま就ける数少ない職業の一つが、『ジェイン・エア』の主人公も従事し、「這い回っている生き物」(Ch.21, p.222)と表現されていたガヴァネスである。また、女医や作家として名をはせる成功者もいるにはいたが、ほんの一握りにすぎず、大多数の働かざるを得ない女性達は、ガヴァネスの少ない就職口に殺到した。

当時の中流階級の女性達の教養は、ガヴァネスによって施されるものや小さな私立学校、寄宿舎学校で身につけたもののいずれかに限られていたことから、ガヴァネスを必要とする家庭も多かったのである。そのような家庭では、中流階級としての礼儀作法や教養は、同じ階級に属する人間でなければ教えられないと考えていた。それゆえガヴァネスは、賃金を稼ぐ労働者でありながら、階級的には子どもの世話やしつけを担う「子守女」(nanny)の属していた労働者階級ではなく、もっと上の中流階級に属していることが要求された。

ガヴァネスという職業は、雇われた家庭からは、同じ中流階級に属しているとは言っても、雇用、被雇用の関係で結ばれていることから見下され、労働者階級に属していないことから、料理人や家政婦などからは疎んじられるという弱くあいまいな立場であった。その上ガヴァネスは、主家の豊かさを他に誇る所有物、家具の一部でも

⁹⁵ 堀内真由美『大英帝国の女教師——イギリス女子教育と植民地』白澤社、2008年。p. 34

あるかのように扱われていた。

また、結婚相手に恵まれずやむなくガヴァネスの仕事に就いた女性が多かったことから、そのような女性が一人にいるときなど、「性的からかい」の対象とされることもあったことが見て取れる。「パンチ」という名称の、「社会風刺」を売り物にしていた当時の週刊誌には次のような絵が掲載されている。



この雑誌は、当時の社会情勢を如実に映し出すことが特徴となっていた。そしてこの絵の下には次のように書かれている。

「候補者たち到着」

求む、容姿端麗ならざるガヴァネス。経験豊富にして有能なる人。当方16歳をかしらに娘3人。音楽、フランス語、ドイツ語ができること。父親在宅が多く、成人した息子あり。よって、才気煥発な会話、魅惑的な身のこなし、均整のとれた体型、固くお断り。⁹⁶

このように笑い話の種にされるほど、ガヴァネスとして働く女性の立場のつらさは一般的によく知られていたことが、看取される。

さらには女性たちが「女余り」の危機感を感じたことから、ガヴァネスの職に殺到

⁹⁶ 川本静子『ガヴァネス（女家庭教師）ヴィクトリア時代の〈余った女〉たち』中公新書、1994年。33-34ページ。

するようになったことで、この職業の労働条件の悪化をもたらした。実際、『ジェイン・エア』の著者シャーロット・ブロンテは、ガヴァネスとして年に20ポンドの給料で雇われていたが、これは当時ではハウス・キーパーなみの低い給料であった。そこから、洗濯代として4ポンドが差し引かれ、手元に残るのは16ポンドであった。食事や住居は保証されているとはいえ、この賃金は労働者階級の下位、貧困層の年収（50ポンド以下）に相当するものであることは間違いない。さらに、このような待遇について川本静子は次のように述べ、ガヴァネスの職業をしての行き詰まりを指摘している。

他の道は険しく、社会的に見ればガヴァネスより劣るだろうが、独立心があって勇気のある人なら、労働者の子ども達の公立学校の教師や店員や婦人帽子製造人やハウス・キーパーの方がガヴァネスよりもたぶんもっと幸せになれることがわかるだろう。⁹⁷

当時、パブリックスクールを経て大学で学んだ青年がチューターになった場合、給料は年間300ポンドを下らなかった。それと比較するとガヴァネスの給料が最高でも100ポンドということから、冷遇されていたという事実は明らかである。さらには、ガヴァネス本来の仕事である子供の教育だけでなく、子供の身だしなみを清潔に保たせるという名目で、子供服の繕いや洗濯など本来の仕事以外のものまで強制されるなど、彼女たちはほとんど自分の時間も取れないほど過酷な労働を強いられていた。

アリス・レントンの書物には、1857年1月に、一人のガヴァネスからタイムズ紙の編集長にあてた手紙の写真が掲載されている。⁹⁸ そこには、「白人奴隷」(White Slavery)というタイトルで、この職業の悲惨な状況がつつられているのである。この「白人奴隷」という言葉は通常、強制売春や白人奴隷の売買を意味する言葉であるが、ここでガヴァネス自身が自分の労働に関して、売春婦や奴隷を想起させる言葉を用いて表現していることは、この仕事内容や条件が、いかに屈辱に満ちたものであるかを端的に表している。

次に、1842年7月5日付のタイムズ紙に載ったガヴァネスを求める広告を見てみよう。

フランス語および国語⁹⁹を教えられる若い女性を求む。居心地の良い家を給料

⁹⁷ 川本、前掲書、55ページ。

⁹⁸ アリス・レントン『歴史のなかのガヴァネス 女性家庭教師とイギリスの個人教育』河村貞枝訳、高科書店、1998年、7ページ参照。

⁹⁹ ここでは、英語を指す。

に相当するものと思われたし。二十歳から三十歳までの方を望む。¹⁰⁰

この広告や同様の求人広告には、女性が労働の報酬を受け取ることが恥であるという中流階級の意識を悪用し、ほとんどただ働きでガヴァネスを雇おうとした身勝手さが浮き彫りにされている。一方、ガヴァネスとしての働き口を希望する女性からの求職広告にも、「給料不問」や「給料は多くを望まず」という文が盛り込まれているものが多い。これらの文面からは、職に就きたいという熱意と共に、ガヴァネスという職に固執することで、自分は中流階級に属する女性であるというプライドもかいま見えるようである。

『ジェイン・エア』が執筆された1847年から四半世紀たった1870年代には、ガヴァネスが海外移民として多く海外に渡った。このことについて、堀内真由美は自著の中で「帝国主義」とからめて次のように述べている。

イギリスにおいて、1870年代から第1次世界大戦は、フェミニズムの時代であったと同時に「帝国主義の時代」でもあった。(中略) 「帝国」の形成は、たんに領土の拡大だけではなく、自国の人々に、「帝国」を支配している国に属しているという優越感と、支配地域やその住民、その地域の習慣や文化を劣等視する、「帝国意識」を抱かせた。¹⁰¹

国内では、ガヴァネスは過剰な状態であったがゆえに、海外の本国の領土である植民地を目指して渡航した女性達も存在した。堀内の「ミドルクラス女性移民協会が、その活動期間中に送り出した女性のおよそ七割近くを占めたのは、教育職、つまりガヴァネスだった」¹⁰² という指摘からは、中流階級の女性たちが抱いていた「帝国意識」と共に、ガヴァネスとして自信を持って海外で自立しようとする意欲に満ちた姿がうかがえる。

このように、女性をめぐる状況が次第に変化をみせる時代にあって『アタランタ』は、編集者ミードの方針によって、読者の教養を高める様々な企画を取り上げている。中でも、「女性の雇用」(Employment for Girls.)という1887年10月創刊号から1888年9月号までの1年間掲載された記事は、画期的である。

「女余りの時代」となり、女性達は結婚により夫に庇護してもらっただけの母親世代の理想像とは異なる生き方、つまり手に職をつけ、自力で人生を切り開く生き方を学ぶ必要が出てきたことはすでに述べた。当然ながら娘たちは、母親からはこれからの

¹⁰⁰ 川本、前掲書 26 ページ。

¹⁰¹ 堀内真由美『大英帝国の女教師——イギリス女子教育と植民地』白澤社、2008年、150 ページ。

¹⁰² 堀内、前掲書 156 ページ。

時代を生きていくための適切な助言は期待できない。そこで、新しい時代に生きるための情報を集める必要が出てきた。この雑誌は、こうした社会状況の中で、自活へのガイダンスとして、「女性の雇用」の企画を打ち出した。

この企画は、競争率が高いうえに低賃金、重労働のガヴァネスという職業に固執することなく、女性達が本当に自分に合った職業を見つけ自立して生きていくことを意図していた。編集者の持つ意気込みは、創刊号の「女性の雇用」の中で次のように述べられ、ガヴァネス以外の就職口を探す女性達や、教えることに向いていない女性達が、自信を持って職業を選び、自分に向けた職業で自活することを奨励している。

ほんの少し前までは、自活したいと思っていた女性の行く手には、教職という低賃金で競争率の高い職業しかありませんでした。しかし今日では、徐々に新しい職業が女性達の前に開かれようとしています。教養ある女性ならば、自分はスムーズに自立の道を進めないのではないか、と絶望する必要はありません。¹⁰³

ここからわかるとおり、編集者はガヴァネスなどの限られた職業に固執する時代は終わったことや、社会には女性にふさわしい職業が多く存在していることを読者に訴えかける。そして就職に向けた戦略を練る必要があると説き、次のように自覚を促す。

心の底から就職したいと思っているのなら、2, 3の就職活動が失敗したからといって、泣きごとを言っているはいけない。何をすればよいのか学ぶべきです。未熟な働き手ではなく、技能を持った熟練者には就職口はあるのです。(p. 63)

ここで注意すべきことは、編集者は「女性の雇用」で単に、女性にふさわしい職業を列記し、紹介しようとしているのではないということである。引用部の前半部に述べられているような消極的な態度では、就職したいという気持ちはあっても、時代を生き抜いていくことはできないと読者自身の意識を変えることを要求しているのである。ここに、編集者が意図した、この雑誌による女子教育の戦略の一つが表れている。

すなわちそれは、ただ雑誌によって知識や就職情報を与えるのではなく、この時代を生き抜かねばならぬという読者自身の自覚を促すことである。換言すれば、頭の中に知識を蓄えるだけでは不十分で、それを生かす行動力を持つことの大切さを強調しているのである。その上で、就職難にあえぐ女性達を良い方向に導くために、雑誌の

¹⁰³ A short time ago a girl who wanted to earn her living had nothing before her but the badly-paid and over-crowded profession of teaching—now, day by day, fresh openings are arising for our girls. In our day no intelligent girl need despair of being able comfortably to earn her living. (p. 63)

中でできることは何かを検討し、この「女性の雇用」の記事を作り上げている。この企画の第1回目で編集者は、次のように読者たちに語りかける。

『アタランタ』の編集者たちが新企画で目指すことは、自立したいと切に願う女性の読者が手に入れておくべき、まさにその情報をお届けすることです。¹⁰⁴

ここにある「手に入れておくべき、まさにその情報」という表現は、読者の心を正しく理解しているという編集者としての自信を表して、自分たちこそ読者に必要な情報を提供できるのだというプライドを秘めた宣言であるように思われる。

また、この時代になって少しずつ、「中流階級の女性が仕事をする」ということに対する社会の目にも変化が現れてきたことについて、井野瀬久美恵は次のように指摘する。

一九世紀の最後の二五年間ともなると、働く中産階級の娘たちを見る世間の冷たい視線も多少は和らぎ、職種によっては好意的なまなざしさえ感じられるようになっていった。それでも、両親もしくは父親の死、あるいは両親の離婚、ないしは実家の事業の失敗によって、自活を余儀なくされた娘たちが働ける場は極端に限られていた。¹⁰⁵

この指摘から理解できるように、編集者が雑誌の中でこのような企画を打ち出すことに対して当時の女性を取り巻く社会状況が追い風になったことがうかがえる。さらに、もう一つの視点から編集者は女性が労働することに関して次のように述べ、社会貢献になることを指摘し、ためらう女性たちを応援するのである。

働くということは、多くの場合そうであるように、単に生計を立てる必要があるから働く、ということにとどまらず、労働そのものは神の祝福でもある。私たちが仕事に従事する時には、自分の中に存在する最良のものを表に出せる。また仕事に従事することによって私たちは、人々の手助けとなるのである。(p. 63)

自活することが必要であるから世の中に出て働く、という理由だけではなく、労働のもう1つの側面、つまり自分の能力を活かすことが、他の人のためになり、素晴らしいことであると、編集者は訴えかけるのである。

¹⁰⁴ The Papers which the Editors of *Atalanta* propose to issue will aim at giving just the information which the girls who are desirous to help themselves ought to possess. (p. 63)

¹⁰⁵ 井野瀬久美恵 『女たちの大英帝国』講談社現代新書 1407, 1998年, 27ページ。

第2節 「個」へのパラダイム・シフト

1888年5月号の「女性の雇用」の記事でリトグラファーの職業を紹介しているグレーブスは、次のように述べている。「もしあなたが自分に最適な職業を得て、それにとどまるならば、幸せで満足できるおひとり様生活が待っています！」(強調は筆者)

これを先ほどの1842年のタイムズ紙のガヴァネス募集の広告と比較してみよう。

「フランス語および国語を教えられる若い女性を求む。居心地の良い家を給料に相当するものと思われたし。二十歳から三十歳までの方を望む。」(強調は筆者) この広告からは、女性にとっては、集団の中で暮らすことが何にもまして重要であるという考え方がみてとれる。このヴィクトリア中期の募集広告の中には女性は、一個の人間として完全ではないという考え方があり、ガヴァネスにしても、専業主婦の「家庭の天使」にしても、常に集団の中の一構成員という扱いであった。ガヴァネスの広告の中にある「居心地のいい家」が女性にとって財産であり、働く女性にとっては給料に匹敵するほど価値のある物と考えられていたのである。

これに対して前に掲げたヴィクトリア後期のグレーブスの言葉は、「個」の考え方が前面に押し出されているという点で画期的である。自分に適した仕事に就き、「おひとり様生活」という言葉に象徴されるような、気楽な孤独を楽しむべきであると語りかける。

ガヴァネスならば、社会的にプライドは保てるかもしれない。しかし、低賃金、重労働で、就職口が乏しいこの職業で苦勞するよりも、自分に合った職業で自活する道を選び、快適な「個」として生きていくことがより賢明で、人生を謳歌できるというアドバイスである。この雑誌は単に、集団(家庭や店舗や工場、学校、教会など)での就職を斡旋するのではなく、まず始めに技能や教養を身につけ、独立して生きていける女性を作り出すことを目標としたのである。

ここで、「女性の雇用」で紹介された職業、言い換えるならば、編集者が若い女性に適していると判断した職業リストを見てみると、リトグラファーや、タイピスト、速記者、裁縫の教師などその多くが、技能や美的センスを必要とし、個人としてやっつけていける仕事であることが理解される。このことは、先だって川本静子が、ガヴァネスよりも労働条件が良いことを指摘した「労働者の子ども達の公立学校の教師や店員や婦人帽子製造人やハウス・キーパー」などのような集団の中の一構成員としての役割を担う職業とは鮮やかな対比をみせている。

しかも、グレーブスの表現の中には悲壮な印象はみじんもなく、軽やかに大胆に人生を駆け抜けようとする女狩人、アタランタの優美な姿が映し出されている。

この雑誌が理想とする女性の姿は、守られるべき、傷つきやすい女性ではなく、「個」を前面に打ち出し、意志を持ち、誇り高く能動的な人生を送って行きたいと考える姿、

まさに『ジェイン・エア』の主人公の姿である。

第3節 「女余り」がもたらしたもの

これまで見てきたように、結婚という選択肢しか持てなかった女性達の人生は、ヴィクトリア期の「女余りの時代」を経て大きく変わった。自立を余儀なくされたことで、「個」として生きる選択肢を見出し、新しい存在となり得たのである。その彼女達のエネルギーが、社会全体の転換に寄与し、フェミニズム運動の黎明期とも呼ばれる時代を作り出した。

たとえば、ガヴァネス問題への対策として、低賃金、重労働の窮状の救済と保護を目的としてガヴァネス互惠協会が発足したことが挙げられる。この協会によって、援助資金を支給したり、老後の準備資金を預け、年金の形で支給したりする制度が整えられた。それぞれ個人として生きる選択をした彼女らが、団結することによって、自らの待遇改善や将来の不安を取り除く手だてを得たのである。

さらに、この協会はガヴァネスの恵まれない待遇は、教師としての十分な素養を持たない多数のガヴァネスが存在することが、その原因であると考えた。そこで資格のあるガヴァネスを養成する教育機関を設立したことは注目すべきである。1847年に設立されたこの機関は、1848年にはクイーンズ・コレッジとして正式に発足し、その延長線上に、ケンブリッジ大学がイギリス最初の女性のためのガートン・コレッジを1869年に設立した。ここから理解できるとおり、この養成機関が女性の教育の機会拡大に道筋を開いたことは明らかである。その後、1881年にはオックスフォード大学が、女性にその門戸を開いた。¹⁰⁶

1865年の議会選挙の際、J. S. ミルが「婦人参政権」を公約に掲げて以来、長い運動の末、ようやく1918年に女性に選挙権が与えられた。それゆえ、『アタランタ』が発行された1880年代後期以降はちょうど、女性参政権運動に盛り上がりを見せていた時期に当たる。女性達は、新しい時代の到来を予感し、また他方「女余りの時代」という閉塞感を伴う状況に身を置いているがゆえに、彼女達の間では、自立、自活の気運が高まっていた。そのためには、何よりもまず学問を身につけなくてはいけないと決意した女性達がますます増加していったのである。

1861年には、女性の事務職員は全体の1%しか存在しなかったのが、20年後の1881年には、3%にまで増加するなど、少しずつ女性達の社会進出も進んでいった。

もし、ガヴァネスの待遇が満足いくものであったならば、シャーロット・ブロンテはそこにとどまり、『ジェイン・エア』が世に出ることはなかったであろう。この小説の根底には、ガヴァネスとして社会に出て、階級や性差による不公平を実際に体験したブロンテの怒りが潜んでいる。

¹⁰⁶ 川本静子『ガヴァネス（女家庭教師）ヴィクトリア時代の〈余った女〉たち』中公新書、1994年、p. 58-70 参照。

また、ガヴァネスになって生計を立てている者の多くは、「専門職」に就いている中流階級の家庭で育った女性達であった。そのため彼女達は、父や兄と同様「専門職」に就くことを望んだ。しかし、ガヴァネス以外の「専門職」の門戸を女性に開放するにはまず、女性に高等教育を受けさせる必要がある。このようなことから、職業選択の自由と教育の機会拡大につながる運動が発展していったのである。

一人で生きていくことが比較的容易な現代では想像もつかないほど、当時の「余った女」の将来への不安は計り知れないものであったに違いない。しかしこの女性達が、これまで見てきたような様々な困難と闘いながら、新しい時代を築いてきたことも事実である。

ジョージ・ギッシングは、『アタランタ』が発行されていた時代の1893年に著した『余計者の女たち』という小説の中で、「女余り」の危機感を感じている女性たちが連帯してこの時代を乗り切る大切さを、次のように強調する。

ペシミストたちはそういう女たち(余計者の女たち)を役立たず、とか迷い子とか、ごくつぶしとか呼んでいるわ。私は当然のことながら——その一人ですから——違う見方をするのだけど。私は彼女達を大いなる予備軍とみなしているの。一人の女が結婚して消えると、その予備軍が世の中に代理人を一人出すのよ。実際はまだ全員が訓練されたわけではないし、まだまだそこまでいかないけれど。私はそこに手を貸したいの、予備軍を鍛えることによ。¹⁰⁷

この女性の姿は、まさしく「余った女」の持つ、未知なる将来を切り開くエネルギーを象徴的に指し示している。閉塞感が漂い、答えが見いだせない状況は、何らかの答えを内に含んだ産みの苦しみの時期であるといえる。これまでの価値観が通用しない時代に直面したヴィクトリア時代の女性達は、既成の観念を疑い、もう一度「個」に立ち返って、自分を見つめなおす態度を身につけた。しかも彼女らの前向きに生きる独立した「個」とは、他人を理解し、協調して生きていこうとする度量と寛大さを示すものでもある。

「新しい存在」となりえた彼女らは、『ジェイン・エア』の主人公のように誇り高く生きていこうとする理念と共に、それぞれの「個」を尊重しながらも、団結し力強く生きる存在であるといえよう

第2章 『少女たちの世界』にみられる『ジェイン・エア』の影響

¹⁰⁷ ジョージ・ギッシング『余計者の女たち』太田良子訳、『ギッシング選集』（第三巻）、秀文インターナショナル、1988年、39ページ。

第1節 ミードとブロンテ

アイルランド人の L. T. ミード (Elizabeth Thomasina Meade Smith, 1844-1914) と、イギリスの北部ヨークシャー出身のシャーロット・ブロンテの共通点としては、2人とも、聖職者を父親に持つということ、当時人気の高かった小説家であったということ、さらには2人とも、次の世代を担う若い女性の教育に意欲を持っていたことなどがあげられる。

ミードは、ヴィクトリア後期において人気のあった女性作家で、17歳の時から創作を始め、生涯で300作以上の少女小説を残した。サリー・ミッチェルは、ミードを「極端に多産型で金儲けのための粗製乱造文学作品の作家」¹⁰⁸ という評価を下し、1929年には、ウィルソン図書館で、図書館の本としての価値がないので「貸出禁止」になったことを指摘している¹⁰⁹。

しかし、ヴィクトリア期後期には大変人気のあった作家であり、少女向け雑誌の中の本の物々交換の欄では、ミードの本を手に入れるために、スコットやディケンズの本を差し出す女性もいたほどであった。¹¹⁰

1886年に出版された『少女たちの世界』の登場人物の中心は、ラベンダー・ハウスという寄宿学校で学ぶ10代の少女たちである。それは、彼女らが共同生活を営む寄宿学校で起こる少女同士のぶつかり合いや葛藤、嫉妬を乗り越えて真の勇気や友情が育まれるストーリーである。この作品は、ミードの代表作の1つとなり、1920年代まで人気を博した。この作品は、ミードが作家として成功した初の少女向け学校物語として位置づけられる。

彼女は、1844年に牧師 R. T. ミードの娘として、アイルランドのコーク州で生まれた。その後、ロンドンに移り住み、1879年にアルフレッド・トゥールミン・スミス (Alfred Toulmin Smith) と結婚した。1886年に代表作である『少女たちの世界』を世に出した後、1887年に若い女性向けの文芸雑誌『アタランタ』の編集者として6年間携わった。

彼女は、『アタランタ』の編集者として、ガヴァネス以外の職業で自立を考えている読者のために、職業案内のコーナーを作り、実際に資格を取って社会で活躍している女性からのアドバイスを載せている。また彼女は、著名な作家を取り上げて、良書に親しみ、その作家に関するエッセイを書かせるなど、多くの企画をこの雑誌の中に盛り込み、女子教育に貢献している。これらのことからミードが編集者として、読者である若い世代の少女たちに教養を身につけさせ、「女余り時代」を力強く生きていく存在になることを望んだことが理解される。

その後、『アタランタ』の編集者を辞したのちもミードは、精力的に作家活動を続

¹⁰⁸ Sally Mitchell, *The New Girl; Girl's Culture in England, 1880-1915*. New York: Columbia University Press, 1995, p.11.

¹⁰⁹ Mitchell, p. 14.

¹¹⁰ Mitchell, p. 14.

けた。川端有子は、彼女の作品について、「ミードのヒロインたちは優れた知性と伝統的な女性的な資質が、難なく両立することを示して見せた」¹¹¹と述べ、自立して自分の人生を生きる女性を描く20世紀の小説の先駆けとなったことを明らかにした。

他方、シャーロット・ブロンテは、1816年にヨークシャーで生まれた。父パトリックは、ヨークシャー州ハワースで、41年間イングランド国教会の副司祭を務めた。成長したシャーロットは、若い女性に音楽やフランス語などの教育を施す学校を設立しようと考えた。そこで彼女は、ベルギーに留学してフランス語を学ぶなど努力したが、計画は断念せざるを得なくなった。その後彼女は、妹たちと話し合っ、家計を助けるために小説の執筆を始めた。その第2作目、1847年に出版された『ジェイン・エア』が、センセーションを巻き起こし、シャーロットは一躍人気作家の座を獲得した。

第2節 作品内に描かれる牧師

この2つの作品には、キリスト教が色濃く反映されていることがその特徴の1つとして挙げられる。『少女たちの世界』のラベンダー・ハウス、『ジェイン・エア』のローウッド学院という寄宿学校には、それぞれエバラード (Mr. Everard) とブロクルハーストという牧師が登場する。

ラベンダー・ハウスは、ウィリス夫人によって経営される、裕福な階級の子を対象とした寄宿学校で、作中では「一流の学校」(a first-class school; Ch. 2, p.7.)¹¹²と紹介されている。彼女の教育に対する考え方を反映して、生活環境、教育共に理想的な学校である。牧師のエバラードは高潔な牧師であり、問題を起こした生徒に対して、ウィリス夫人の母親のような、愛情のこもったいさめの言葉が効をなさないときに登場する。人生の先輩として、父親のようなおおらかさ、神に仕える者の厳しさをもって少女たちを導く。師は、次のように少女たちに語りかけ、「神の赦し」を説く。

その老牧師は、神は本心から後悔している者たちを許すために待っていることや、懺悔する方法とは、自分を人間的に高めることと再び罪を犯さないことである、と少女たちに断言した。(Ch. 38, p. 263)

¹¹¹ 川端有子「アタランタ 別冊解説」, アティーナ・プレス, 2009年, 3ページ。

¹¹² 引用はすべて以下のテキストに従い、本文引用末尾に章とページ数を記載する。L. T. Meade, *A World of Girls* The Project Gutenberg E-Book www.gutenberg.org Release Date: June 22, 2008, Ch. 2, p. 7

この言葉の中には、人間は過ちを犯す存在であることを認め、それを正す勇氣、素直さがあれば、必ず神はその人間を見捨てはしない、という牧師自身の優しさが認められる。

他方、ローウッド学院で学ぶ貧しい家庭の少女たちは、みな慈善活動からの恩恵により教育を受けている。第1部で見てきたとおり、学院長のプロクルハーストには、カルヴィニズムの教義によって、生徒たちを良い方向に導くすばらしい教育者でありたいという気持ちは無い。

しかしジェインは、この学院に入学したことで、本格的にキリスト教と出会い、素晴らしい恩師や友人から影響を受け、学院を去るまでの間に自分と神との関係を確立する。プロクルハーストはエゴイストで、エバラードと全く対照的な牧師ではあるが、学院での教育を通して、主人公に敬虔な心を涵養したという点において、大きな影響を与えた。

第3節 キリスト教の影響

作品の中で、主人公が自然の中で神に祈り、心の平安を得る場面は、後の行動と生き方を決定させる神の啓示がもたらされる重要なシーンである。それぞれの作品の中から当該場面を取り出してみよう。

『少女たちの世界』の中では、ジプシーの老婆が、主人公のアニー（Annie Forest）と友人たちが校則を破ったことを知り、口止め料としてお金をゆすり取ろうとする。しかしアニーは、毅然とした態度をとり、自分は何も恐れてはいない、お金を渡さなどしない、と老婆に言い放つ（pp. 245 - 46）。この強い態度に敵意を抱いた老婆は、アニーがかわいがっていた幼い少女をラベンダー・ハウスから誘拐しようと決心し、実行に移す。

自分のせいで少女が連れ去られたことを知ったアニーは、一人で少女を連れ戻す決心をする。校則を破り、無断で寄宿学校を抜け出し、ひそかにジプシーのキャラバンの後を追う。その途中で、牧草地で寒さに震えて一夜を過ごしながらい、それまでの自分の罪を悔い、ひたすら神に祈る。1晩中祈りをささげた彼女の心のなかには、次のように、神は自分の味方になってくださるという自信がわいてくる。

2日前の朝に、心に浮かんだ詩の一篇が、今でも耳の中で鳴り響いていた。

「罪を犯した魂は、再び神に赦される。」（“A soul which has sinned and is pardoned again.”）衝動的で、熱意にあふれたこの子供は、今や、人々が真の勇氣と呼ぶものを具えていた。それは、神が私を助けてくださるという確信に基づいていて、それゆえ彼女は穏やかで、ゆるぎない力を持っていた（Ch. 44, pp. 295 - 96）。

この祈りの後、「神よ、どうかあの子を見つけさせ給え」と熱心に唱え、ジプシー

のキャンプ地へと急ぐのである。この場面には、自分の恐れを知らない向う見ずな性格に対する悔悟と、邪悪なジプシーの住む居留地に乗り込んでいく不安と、それに打ち勝つための神への全幅の信頼が表現されている。

『ジェイン・エア』の主人公ジェインは、ロチェスターと知り合う以前は、真摯に神と向き合い、純真な気持ちで祈ることで、神と良好な関係を築いていた。しかし、ロチェスターと出会い、強い愛情を感じるようになる。彼の存在を、「あたかも、人間と光が満ち満ちた太陽との間をさえぎる日食のよう」(Ch. 19, p. 274)と表現し、かつての神と自分との関係を崩してしまっていることが述べられている。その後、絶望的な思いのまま荒野をさまよい歩き雨に打たれ、ひたすら神に祈る。それは自らのために捧げた祈りでもあり、重婚を企て、結果的に姦淫の罪を犯しそうになったロチェスターのための祈りでもあった。

自分と神との関係の間に、日食のように立ちほだかっていたロチェスターの存在が、長い祈りを経た後で変化する。ジェインの中に、「神は彼をお救い下さる、彼は大丈夫だ」という確信が生まれるのである。彼女の心の中で、絶対的な神を上位に置くことで、ロチェスターは下位の、神にひれ伏す人間としての立場に戻ったことが読み取れる。この場面からは、アニーの心の中で鳴り響いていた「罪を犯した魂は、再び神に赦される」という言葉が、ジェインにとっても大きな意味を持っていることがうかがえるのである。

この2つの作品の主人公には、共通点がある。それは、快適な居場所を抜け出し、自分の信念に従って行動する勇気と、良識を持っている点である。また、自然の厳しさに触れ、人智の及ばない大自然の力に神の存在を見出す聡明さを備えている点でもある。

聖職者の娘として育った2人の作家は、常に神を身近に感じていたはずである。敬虔な人々の捧げる祈りを目にする機会も多かったであろう。どちらの作品も、そのようなひたむきな気持ちで祈りをささげる信者の姿を描き出している。

『少女たちの世界』の登場人物の環境や思考パターン、そして行動を分析してみると、『ジェイン・エア』の登場人物から影響を受けたのではないかと思われる部分が多くみられる。そこで次章では、まず『少女たちの世界』の中から主だった2人の登場人物を取り上げ、その行動の描写や思考から人物像を検証してみたい。その後、ラベンダー・ハウスの校風や校長の教育方針を踏まえ、『ジェイン・エア』が禁書として取り上げられた理由を探る。

第3章 両作品の関連

第1節 主人公、並びにその美德を際立たせる存在

第1項 主人公、アニー・フォレストとジェイン・エア

2人の主人公、『少女たちの世界』のアニーと『ジェイン・エア』のジェインは、どちらも幼いころから、つらい境遇で育ってきたということが共通している。

アニーは幼いころ、家事使用人以外に自分だけの子守りとして2人が雇われており、馬車を所有しているきわめて裕福な家庭で育ってきた。父のフォレスト船長 (Captain Forest) は、彼女が幼いころ、船が難破し行方不明となってしまう。残された母と子は、次第に生活状況が悪化し、ついには極貧生活を余儀なくされるのである。母親は生活を支えるために懸命に働くが、健康を害して亡くなってしまう。孤児となったアニーを、母の古くからの友人であったウィリス夫人が引き取ることになる。母親が瀕死の状況でアニーに話しかけ、ウィリス夫人の恩に報いるようにと言いつけさせる。¹¹³ そのためアニーは、孤児となった自分を引き取り、育て、教育まで受けさせてくれる校長のウィリス夫人を誰よりも敬愛している。

サリー・ミッチェルは自書の中で、ミードはアニーのような少女を描くことに長けていたことを次のように述べている。

ミードは、青春期の人々について書くのが非常に巧みである。——この青春期という言葉は当時使われるようになったばかりの言葉である。(中略)ミードは、頑固な、利己的な、忘れっぽい、俗物根性の、生意気な、強情な、失礼な、移り気な登場人物を作り出してきた¹¹⁴。

アニーも、まさしくこの指摘の中にある表現に当てはまる少女であった。ミードは、『少女たちの世界』の中でアニーに自分の行動に関して反省する機会を幾度も与えているが、その反省が長続きしないことを、「彼女の改心の約束は、まさに、ことわざで述べられたパイの皮のようなものであった」(Ch. 10, p. 62) と述べ、彼女のやや軽はずみな行動に走る性格の一端を描きだしている。彼女の行動が原因となり、いろいろな出来事が学園内で起こる。

ラベンダー・ハウスでは、食べかけのお菓子が、ある少女の机の中に入れられていたり、別の少女のお気に入りの詩集に、風刺画を貼り付けてあったりという事件が起こる。詩集にいたずらをされた少女セルは、生徒たちの中で、アニーの生い立ちを唯一知り、優しく気遣ってくれる心の温かい少女であった。このほかにも様々な事件が起こるが、そのすべてが、アニーが犯人ではないにも関わらず、作者ミードの巧み

¹¹³ Ch. 35, p. 242.

¹¹⁴ Meade is really very good at adolescents—a word just then coming into use....She created characters who are wilful, selfish, forgetful, snobbish, priggish, stubborn, rude, changeable (Sally Mitchell. *The New Girl; Girl's Culture in England, 1880-1915* (Columbia University Press, New York, 1995), p. 22.

なプロットにより、どうしてもアニーが真犯人であるとは考えられない状況に追い込まれる。そのため、敬愛していたウィリス夫人までもが、アニーが真犯人であるという判断を下してしまう。学校で孤立し、ウィリス夫人という心のよりどころまで失ってしまったアニーは、完全に一人ぼっちになる。

そのような状況で、ジプシーによる少女の誘拐事件が起こる。幸いにもアニーの懸命の努力により、少女は無事に救い出される。それと時を同じくして、学校では、真犯人を知っているヘスターが、罪の意識に耐えられず、苦悩していた。彼女は、真犯人を知っていながら、自分はアニーに反感を抱いていたため、彼女に疑いがかけられても、見て見ぬふりをしていたのである。しかし意を決して、校長に罪を告白しようと真犯人を説得し、共に校長のもとへ出向くのである。あいにく、校長はアニーのことで、学校に不在で対応することができない。偶然エバラード師が来合わせ、彼の登場によってすべての真相が明らかになる。

それを知らないアニーは、少女を救い出した後、高熱が続き、次のようにうわごとを言う。

「……私は、あんな風刺画をセシルの本に張り付けたりしていない。セシル、あなたに信じてもらえないことは分かっているわ。でも自分が愛している人にそんな卑劣なことをする人間だと、私のことを思っているの？ いいえ、いいえ、私は無実なのよ！ 神様は、わかっていてくださるわ。そう、それが私の喜びよー神様はご存じなんだから。」(Ch. 30, p. 327)

熱に浮かされたアニーは、枕元にいるウィリス夫人の前で何度もこの言葉を繰り返す。「神様は知っている」というところでは、落ち着いた声で、笑みさえ浮かべている様子を見た校長は、「神よ、彼女を見誤った私をお助けください」とつぶやく。

『ジェイン・エア』の主人公ジェインも、同様の環境に置かれている。牧師をしていた父は、精力的に慈善活動を続けていたが、そこで病気にかかり、父も母も時を置かずして亡くなってしまふ。孤児となったジェインは、母の兄が家長であるリード家に預けられるが、リード氏が亡くなった後に、そこで伯母らからひどい待遇を受ける。その後、慈善学校であるローウッド学院に入り、テンプル先生や、ヘレン・バーンズという心を許せる友人と出会う。ヘレンは、結核にかかっている、間もなく亡くなってしまふ。成長したジェインがローウッド学院で一緒に教職に携わっていたテンプル先生は、結婚を機に学院を去る。

学園での生活環境には、大きな差異があるものの、2人の主人公に共通するのは、愛情への渴望である。父母との別れや、つらい境遇で育ってきたこと、信頼できる人々との出会いと、誤解や別れなど、自分が拠って立つ地盤が消え去るほどの孤独感に苛まれる。その中でも、常に自分を認めてほしい、愛してほしいという感情に揺り動か

されて行動する。

神の御心に沿う人間になりたいということと、神様だけでなく、自分が愛する人から信頼され愛されたいというこれら2つの望みは、ジェインが、友人のヘレン・バーンズに語った望みである。「神の愛」と「この世での愛」というテーマを念頭に置くと、この2つの作品はどちらも、主人公がその両方を求める旅を描いているという読み方ができる。

第2項 主人公の美德を際立たせる存在

(スーザン・ドラモンドとバーサ・メイスン)

『少女たちの世界』における登場人物スーザン・ドラモンド (Susan Drummond) は、ラベンダー・ハウスの中では、あまり人目を引く生徒ではない。勉強はあまり好きではなく、常に眠気を感じていて、だらしなく、食欲が旺盛な少女である。鈍重な少女であるが、この学校で起こる様々な事件の真犯人が、実はこのスーザンなのである。悪だくみを仕掛け、何の証拠も残さず、同級生にいやな思いをさせる。自分が悪意を抱く級友を不快な気持ちにし、憂さ晴らしをするという鬱屈した性格の持ち主である。彼女が、ひそかに計略を実行に移すのは、必ず皆が寝静まった真夜中である。

サリー・ミッチェルが自書の中で、ミードは青年期の人間の姿を描き出すことに長けている、と指摘したことは、前述のとおりである。さらにミッチェルは、ラベンダー・ハウスのような良家の子女の通う学校にも、スーザンのような人物、つまり、「怒りや悩みから行動にかられ、基本的に、本当に恐ろしいことをしでかす、立派な身分の少女」¹¹⁵ がいることを指摘している。このことからわかるとおり、ミードは『少女たちの世界』のスーザンの行動を通じて、不自由のない暮らしができる階級に所属している少女の心の奥にある闇を明るみに出したのである。

ある晩ヘスターは、フランスの詩集の1冊を教室に忘れてきたことに気が付いた。自分が今手掛けている「マリー・アントワネット」の小論文を書く際の資料として、どうしても詩集を手元に置きたいと思った彼女は、校則を破って寝室を抜け出し、教室に取りに行く。静まり返った教室で詩集を手にした彼女は、上級生の座る机のあたりに人影を発見し、それがスーザンであることを確認する。ヘスターは、彼女に見つからないように身を隠し、教室からいなくなるまで息を殺して潜む。翌日、上級生の書いた「川」の小論文が「泥の流れ」というくだらないパロディにすり替わっているのが発見される。このことからヘスターは、一連の嫌がらせはスーザンの仕業であることを知る。

自分の恨みを晴らそうと、真夜中に悪だくみを画策しているスーザンの姿は、ヘスターの目を通して、次のように表現されている。「次の瞬間、誰かがのろのろと、や

¹¹⁵ ...who (her characters) act out their anger and distress—basically decent girls who do some really dreadful things. (Mitchell, p. 22)

やぎこちない動作で、教室の後ろの方へとやってきた。」（*The next moment somebody came heavily and rather clumsily down the room...*; Ch. 29, p. 211）ここで用いられている「のろのろと」や「ややぎこちない動作」という表現は、人間ではなく鈍重な動物が薄暗がりで見ている印象を与える。ヘスターは、校則を破ったのだという負い目に加え、一瞬人間ではないものに出会ったような恐怖感を感じたに違いない。何の証拠も残さない鮮やかな手口に比べて、スーザンの、人間であるのに動物を連想させる動きのぎこちなさは印象的である。

同様の描写が、『ジェイン・エア』の中にもある。ロチェスターの妻バーサは、真夜中に看護師が眠った隙に、こっそりと隠し部屋をぬけだす。夫ロチェスターの寝台に火をつけて焼き殺そうとしたり、ジェインの婚礼用のベールを引き裂いたりして、ジェインを恐怖に陥れる。その後、ロチェスターとの結婚の夢を断たれたジェインが初めて目にするバーサの姿は、4つ足で歩き回る獰猛な猛獣のようであった。¹¹⁶

真夜中に害意を持って行動するこの2人の女性は、周りの人の心を理解できないという点でも共通している。真犯人であることが露見し、エバラード師に白状した時のスーザンの言葉がそのことを表している。

「私は、そのいたずらの咎めがアニーに降りかかるなんて思ってもいませんでした。それがわかったとき、1度か2度は打ち明ける気にもなったんだけど、面倒くさかったし、ウィリス先生から処罰されそうでいやだなんて思ったんです。」
（中略）スーザンは打ち明け話を、普段通りの変化のない、一本調子の声で話した。彼女の表情には、ほんのわずかな感情の動きも見られず、口調にも後悔の念は含まれていなかった。（中略）「ずいぶんと苦心したんですよ。」と、しばらく間をおいてから、スーザンは少し不満げに続けた。「ただの冗談だったのに、何でこんな大騒ぎになったのか分からないわ。私の周りで起こるごたごたをうまく処理するために、睡眠時間まで削ったっていうのに。これ以上苦労して、友達にいたずらを仕掛ける気にもならないわ。あの子たちには、そんな価値がないもの。」（Ch. 49, pp. 323 - 24）

この言葉からわかるとおりスーザンは、他の生徒たちに与えた心痛を押し量る想像力を持たず、責任ある行動とはどういうものかも判断できない。彼女には、人間として大切な愛情や優しさが欠けているのである。罪の意識と悔悟の念といったものは、スーザンには無縁である。牧師はこの告白を聞いたのち、聖書の1節を引用し、次のように強くいさめる。

¹¹⁶ *Jane Eyre*, Ch. 26 p. 293.

ドラモンドさん、あなたが、少なくとも、後悔する気持ちや友達にいやな思いをさせて申し訳ないという気持ちを持てるように、と私は神に祈ります。聖書の中では、「鈍感」と表現されている人々についての言及があります。哀れな少女よ、まだ時間があるうちに、そのような人々の仲間にならないように祈りなさい。¹¹⁷ (Ch.49, p. 325)

ここで牧師が用いた「鈍感」(past feeling)という言葉は、新約聖書の「エフェソ人への手紙」の第4章19節に用いられている。当該部分には「(彼らは)鈍感になって放蕩に身を委ね、食欲を持って不浄の極みを尽くした行動へと走った人々(である)」¹¹⁸と記されていて、欲深さから、汚い仕事に手を染めることに慣れて、無感覚になった人々を指すのに用いられている。自分が嫌がらせをした相手の困惑だけではなく、真犯人ではないかと嫌疑をかけられた生徒の苦しみを少しも感じることができないこの少女は、このまま誰とも会わず放校処分となる。

この「放蕩」「食欲」「不浄の極みを尽くした行動」という表現は、まさに、妻バーサについて述べる時にロチェスターが用いた言葉、「(バーサは)大酒のみで貞淑でない」(Ch. 27, p. 306)や、「彼女の不摂生が精神疾患の要因の発育を速めた」(Ch. 27, p. 306)という表現と呼応する。人間の感情のない狂気にむしばまれたバーサの姿は、まさにここで言う「鈍感」と表現されている人の姿である。心の苦しみを理解できず、淡々と語るスーザンの心は、人間を認識することができない、攻撃的なバーサの心と類似している。

第2節 ラベンダー・ハウスと、校長ウィリス夫人

ウィリス夫人が校長を務める寄宿学校ラベンダー・ハウスとは、どのような校風の学校であったのか。彼女は、確固とした信念と教育方針を持つ校長であり、その教育方針は次の様に述べられている。「……ここは、勇敢で善良でありたいと願う少女たちのための学校です。」(...it is for those little girls who make up their minds to be brave and good; Ch. 29, p. 211.) 女子校の理想に「勇敢」(brave)という言葉を用いているのは、今日ではやや奇異に映る。しかし、この「勇敢」という言葉は、ヴィクトリア時代の若い女性にとっては、特別な響きを持って受け止められていたに違いない。なぜならば、当時のイギリスでは、「女余り」に対する危機感が深刻であり、未婚女性は母親世代

¹¹⁷ Miss Drummond, I pray God you may at least repent and be sorry. There are some people mentioned in the Bible who are spoken of as past feeling. Wretched girl, while there is yet time, pray that you may not belong to them.

¹¹⁸ 『パウロの名による書簡 共同書簡 ヨハネの黙示録』(新約聖書V), 保坂高殿・小林稔・小河陽(訳), 岩波書店, 1997年, 28ページ。

までの理想像の、結婚して「家庭の天使」たる妻や母親になることが困難だと受け取られるようになってしまった。そのため未婚女性は、手に職をつけたり、資格を取ったりして、経済的に自立し、自分一人で生きていけるすべを身につけなくてはいけなくなってしまうのである。社会進出を視野に入れ、自立を余儀なくされる若い女性達に贈る「勇敢な」という言葉の中には、彼女らを応援する力が込められている。

ミードが編集者として携わった『アタランタ』の中でも、同じ「勇敢」という言葉が印象的な使われ方をしている。それは、1888年5月号で、自立を目指す女性達に「着色石版刷りの絵師」(Chromo - Lithographer)の職業を紹介するグレーブスの言葉である。それは、すなわち「男性のようにではなく、勇敢な女性のように」(“not like a man, but a brave woman”, p. 474)という言葉である。この時代の女性に必要なのは、見事な刺繍やピアノや歌い方で男性を魅了する方法ではなく、石版刷りの絵師やその他の専門職に必要な技能であると考え、それを取得するために力強く前進する女性達を力づける言葉がこの「勇敢な」という言葉なのである。

『少女たちの世界』のウィリス夫人が考える理想の少女像と、『アタランタ』の記者が理想とする女性像は、困難な時代を生き抜く「勇敢な」という性質を備えた新しい未来のレディを作り出すのだという、作家としての、また編集者としてのミードの理念に一致している。それは、保守的なレディを作り出す旧来の教育とは一線を画している。

このウィリス夫人の考え方を反映しているのが、校則である。それは、生徒の自主性を重んじたものであり、夫人の女学校時代の校則とは比べ物にならないほど締め付けが緩い。

校長は、自分が寄宿学校に通っていた頃に与えられた自由とは比較にならないほど多くの自由を、生徒たちに与えようと決意した。彼女は、生徒たちが守ることのできない規則、いわゆる不可能な規則、は絶対に作らなかった。(Ch. 9, p. 55)

生徒たちの良識を尊重し、自由な校風の中で教育するのが最善である、という校長の考えが読み取れる。自分の良識に従い、強い意志を持ち、自活して生きていく、これは『ジェイン・エア』の主人公が追い求めた生き方に他ならない。学校の理想とする女性像と、ジェインの生き方にはいくつもの共通点が認められることが看取される。

このように自由な校風であるにもかかわらず、『ジェイン・エア』だけは、絶対に読むことを許可されていない。しかも、禁書として取り上げられているのは、この1冊のみである。もし、ラベンダー・ハウスが、生徒たちを厳しい戒律や規則で縛りつける学校であるならば、『ジェイン・エア』のみならず、多くの小説や書物が読むのを禁じられていても不思議ではない。また、『ジェイン・エア』のヒロイン、ジェインの考え方や行動が、校長のウィリス夫人の教育方針や、この学校が世に送り出そう

としている女性の理想像に合わないのであれば、禁書という扱いも明確に理由づけられるであろう。

それにしても、なぜこの小説が禁書として取り上げられることになったのであろうか。次の第3節では、これまでの議論をもとに、『ジェイン・エア』が禁書として取り上げられている理由を考えてみたい。

第3節 禁書としての『ジェイン・エア』

学校で禁じられている書物『ジェイン・エア』が教室で見つかり、先生の1人であるミセス・グッドがその本を掲げた時の、教室内の全生徒の緊張が伝わってくるのが次の箇所である。

彼女（グッド先生）がその小さな本を掲げたとき、驚きで教室中が静まり返った。というのも、皆がこの本は、学校では読むことを許されていない本であるということを熟知していたからである。(Ch. 11, p. 74)

静まり返った教室の雰囲気から、この寄宿学校で『ジェイン・エア』を読むことは重大な校則違反にあたること、全校生徒がそれを承知していることが看取される。さらに、別のページでは、「……この特別な本は、ラベンダー・ハウスでは、いつ、いかなる時でも読むのが禁じられています。」(…this special book is not allowed to be read at any time in Lavender House.; Ch. 11, p. 76.)とも述べられている。「いつ、いかなる時」という言葉からは、厳しい禁止事項であることが理解されるが、その理由については、本文中に全く述べられていない。

さらに、この本の所有者は、ドーラ・ラッセル (Dora Russell) という高慢な態度の少女で、多くの女生徒の反感をかっていた。女生徒たちは、ドーラにどんな処罰が下るのかと、好奇に満ちた目で注目していたが、彼女の日常は全く普段どおりであった。実際に処罰が下ったのかどうかも、本文では明らかにされていない。一例として、ミードが地の文で表現している本文中の描写を引いてみよう。

彼女（ドーラ）は、この出来事について級友と話をすることを拒んだ。そして級友の中で誰一人として、校長が彼女に何を言ったのか知る者はいなかった。おまけに、どのような処罰が、このプライドの高い少女に下されたのかも、わからなかった。友達の中にはドーラの「特別個室」¹¹⁹ は没収されるだろうと考えた者

¹¹⁹ ラベンダー・ハウスでは、良い行い（親切な行為や自己犠牲）をした生徒、わずか20人のみが、大きな部屋の中に、パーティションで区切られた小さな自分だけの「特別個室」を持つことができる。その中は、完全に自由で、私物を持ち込み、好きなように飾ったり、友人を招いて、小さなお茶会を開いたりすることもできる。校長の判断だけで、個室を与えたり、没収したりすることができるのである。没収されることも少なくなく、その少女

もいたが、没収されることはなく、2, 3 日して、この本に関する出来事は、ほとんど忘れ去られた。(Ch. 11, pp. 76 - 77)

この学校では、校則に違反した者には、それ相応の罰が下される。たとえば、許可なく部屋に入った生徒には、フランス語の詩を 30 行書かせる (Ch. 3, p. 15) という罰が下る。その他にも、休み時間に自室で謹慎しなければいけないとか、校長のウィリス夫人と面会することができない、という罰の記述がある。中でも、最も厳しい処罰は、重大事が明るみに出され、その後、その生徒は誰にも会わず、退学処分になっているというものである。

生徒の自主性を尊重する規則の緩やかな学校にあつて、禁書という厳しい扱いを受けている本を読んだ者に対する処罰が、何も書かれていないのはなぜであろうか。さまざまなことを考え合わせると、作者ミードは、禁書を読んだ少女の処分を、意図的に描写しなかったのではないかと推測される。

ここで、『ジェイン・エア』は当時、どのような評価を受けていたのか、本当にこの作品が禁書に値する書物としてみなされていたのかを確認してみよう。1847 年に出版された『ジェイン・エア』は、主人公が次第に人間として成長していく様を描いている。発売当初から、センセーションを巻き起こし、批評家たちは次々に、その新鮮さや力強さ、現実感をほめたたえた。「シャーロット自身はプロテスタントの強い信者であったが、ローマ・カトリックの機関紙である「タブレット」までもが、道徳心を涵養するために、この小説を推奨した」¹²⁰ のである。さらに、この小説は大衆のみならず、当時の大作家サッカレーやヴィクトリア女王をも感激させたという事実¹²¹ は看過できない。

さらに、1889 年 3 月号の『アタランタ』における「アタランタ奨学金と読書クラブ」(Atalanta Scholarship & Reading Union.)¹²² では、シャーロット・ブロンテを取り上げているが、その中で執筆担当者のメアリー・ロビンソンは、『ジェイン・エア』のことを明らかに後世まで残る名作である、と断言している。このように、『ジェイン・エア』は、1847 年出版当時だけでなく、1886 年に出版された『少女たちの世界』や 1887 年創刊の『アタランタ』の時代以降にも高く評価されていたことがわかる。

ミードは、『ジェイン・エア』を『少女たちの世界』の中で、禁書扱いとされるテクストとして描く反面、その理由や処罰の詳細について述べていない。これには、重大な意味があるように思われる。『ジェイン・エア』の内容が、寄宿学校の若い生徒

のみがその理由を理解している。

¹²⁰ Jane Eyre Oxford University Press, New York, 2000, 'Introduction', vii.

¹²¹ 本論文、第一部、第 1 章、第 3 節参照。

¹²² これは、『アタランタ』の中で毎月 1 人の有名な作家を取り上げて、その執筆担当者が、作家の生涯や作品解説などを寄稿する。その作家についてのショート・エッセイを読者に書かせ、文学的教養を高めさせようという企画である。

たちにふさわしくないという単純な理由ならば、おそらくミードは、この『少女たちの世界』の中で『ジェイン・エア』の扱い方を変えていたのではないだろうか。すなわち、この本が禁書とされる理由を明記し、それを読んでいた生徒をどのように処罰したのかという描写にページを割いたはずである。あるいは、まったくこの本について触れないという選択もできたはずである。

それゆえ、ミードが自分の小説の中で『ジェイン・エア』を、あえて禁書として描いたことには、別の意図があったとは考えられないだろうか。つまり、禁書というネガティブな書き方をしているが、実際は、少女たちにこの本を勧めるというポジティブな意図があったという可能性である。読者は、禁書という扱いによって『ジェイン・エア』に興味をかき立てられる。しかも、その理由が意図的に隠されているのならば、読後に残るその疑問を解決しようとするその書物を手にするはずである。ミードは、このようにして、国民に愛された当時の女王をも感動させた『ジェイン・エア』を読むように、読者たちを促したかったのではないだろうか。そうだとすれば、ドーラの一件も納得できるのである。

『ジェイン・エア』の作者ブロンテは、男女間の不公平や階級社会により抑圧された者の不満を通して、当時の社会に対する自らの怒りを表明していた。彼女が感じていたこの怒りは、自活する道を探す必要に迫られた『アタランタ』の時代の女性の、現状打破の突破口となる可能性を秘めている。小説『ジェイン・エア』は、次第に人間として成長していく女主人公の人生を描いたヴィクトリア時代の教養小説である。ジェインの誇り高く、自立して歩んでいこうとする態度は、時代を超えて、若い女性達の理想であり、ミードは時代を切り開いて生きていく女性の模範としてこの本を推薦する気持ちを持っていたのだと言えよう。

第4章 作品におけるジプシー像

第1節 作品内のジプシー

両作品の中には、どちらもジプシーが登場する。『少女たちの世界』に登場する数人のジプシーの中で、最も印象的な人物は、レイチェルという名の老婆である。アニーと友人たちは、真夜中に寄宿学校を抜け出し、近くの野原に出かける。内緒で調達しておいたバスケットいっぱいのタルトやメレンゲ菓子、サクランボやハム、チキン、飲み物などを持参し、ピクニックを楽しむ。明け方近く、人に知られないように学校に戻る途中、少女らはレイチェルに出くわす。老婆は、始めは哀れっぽい声をだし、一人ずつ未来を占ってあげようと言う。少女らは、お金を出すのをためらう。すると、老婆は、慇懃な言葉ではあるが、少女たちをおびえさせるほどの皮肉を込めた物腰で、「そうしないと学校に今日のことを報告するよ。良くて退学だろうさ」(Ch. 23, p. 203) と言い、少女たちがそれぞれ出した6ペンス銀貨をポケットに入れる。

アニーの手のひらを見た老婆は、「困難が待ち受けている。お前に何らかの容疑がかかり、命を危険にさらすことになるだろうよ。でもそれを打ち負かすことができるね。お前は勝てるさ。勇気のある子だね、その勇気を行動で表すことができるだろう」(Ch. 23, p. 203) という予言を下す。この場面でミードは、アニーの身にこれから起きることをジプシー占いによって読者に提示する。アニーには、まさにその予言通りのことが起きるのである。級友へのいたずらは、すべてアニーに容疑がかけられる。その後、ジプシーに誘拐された少女を救出したアニーは、命を危険にさらすほどの高熱による意識不明に陥る。

この場面のジプシー老婆のキャラクターには、当時の人々がジプシーに対して抱いていたイメージを巧みに用いていることが看取される。それは、ジプシーは普通の人には無い能力を持っていそうだとか、ジプシー占いは当たりそうだというイメージである。老婆の予言が示されることによって読者は、アニーの身に何か良くないことが起こるのではないかと不安を抱く。

またレイチェルは、占ってあげようと言ってはいるが、実際は口止め料をゆすり取っているのである。それを明らかにするためにミードは、「レイチェルは、ゆすりで手に入れたお金 (blackmail) をポケットに入れた」(Ch. 23, p. 203) という表現を用いている。表向きはまっとうな商売によって経済活動をしているように見えるが、その実は恐喝である。このいかがわしさが、この後も作品内に影を落とす。老婆は、ラベンダー・ハウスの近くにたびたび現れ、弱みを握られた少女たちは、レイチェルの姿におびえて暮らすことになる。アニーは、再び老婆に出会った時に、強い口調で「老婆を恐れていない」ことを伝え、「お金は払わない、先生に話したければそうすればいい」と断言する。アニーの強い態度に反感を覚えた老婆は、少女を誘拐する。つまり、「困難」「命の危険」という予言は、このアニーの発言が引き金となり、占ったジプシー本人の行動によって現実の世界に入ってくるのである。

『ジェイン・エア』においてもジプシーは、主人公ジェインの未来を占い、「強風が吹き、地震や火事が起こるかもしれない。しかし私 (ジェイン) は、良心の指示に従うだろう」¹²³ と判断する。その後まもなく、彼女とロチェスターの結婚式は、彼の妻の存在によって中断され、ジェインは強風と地震から受けるような衝撃を覚え、足元の地盤が揺らぐ思いに駆られる。屋敷を逃げ出した1年後には、ソーンフィールド邸は、バーサの放った火によって焼失してしまう。このように、ジプシーの予想どおり様々な困難が、ジェイン自身や彼女の周りで起きる。しかし彼女は、最後には良心に従い困難を乗り越え、最愛のロチェスターと結ばれることになる。

この場合のジプシーは、実は、ロチェスターが変装したものであった。自分の屋敷に招いた客人たちのことを熟知し、行動をつぶさに観察してきたロチェスターにとって、占いと称して様々なことを言い当てるのは容易である。しかし、ジェインの人生

¹²³ *Jane Eyre*, Ch. 19, p. 201.

にこれから強風や地震，火事に象徴される困難が待ち受けていることは，ロチェスターであってもこの時点では知る由もない。それでも，予言通りのことが起き，ジェインは運命の波に翻弄されていく。ロチェスター扮するジプシーは，見事なまでに恐ろしさを感じさせる。この場面のジプシーは，彼らが不思議な力を持っていることを印象づけるのに十分な文学的役割を担っている。

両作品に描き出されているジプシーの集団は，通常のイギリス社会とは必要最低限の接触しか持たない隔絶された閉鎖社会で生活している。彼らは，独自の文化を持ち，必ずしもイギリスの法律に従っているとは言えない。¹²⁴

『少女たちの世界』に描かれているジプシーたちの世界は，外部の者にとっては，いったん迷い込むと出られない深い森のような印象を与える。レイチェルは，少女たちの弱みをにぎってお金をゆすり取ろうとし，それが失敗すると，幼女を強引にさらうなどの悪事をなす。しかも，一族の結束の強さと，特有の狡猾さで物事を有利に運ぼうとする。幼女をローマ時代に掘られた地下の貯蔵倉庫に隠し，その入口が判らないようにカモフラージュし，警察官でも幼女を助けられない状況に追い込むのである。アニーの努力によってようやく幼女は救出され，事件は解決する。この事件でのアニーの行動から，彼女の自己犠牲と真の勇氣という美徳が際立ってくる。

他方，ジプシーたちに対する当時のイギリス社会の人々の反応はどのようなものであったらうか。本作品には，次のような場面がある。つまり，幼女を助けるために，アニーがジプシーの少女に扮装して町中に入り，パン屋でパンを買おうとした時のことである。アニーの行きつけの店であるそのパン屋の店員は，好感が持て，優しい接客をする人物であった。しかしアニーが，巧みに変装したジプシーの姿で入店すると，軽蔑を込めた形相でにらみ，お金を持っていても，パン1つさえ売ろうとはしない。店員は，決して友好的ではなく，彼女はジプシーの存在そのものが，店の品格を貶めると考えているかのようである。この店員の態度は，イギリス社会の人々のジプシーに対する態度を象徴しているように思われる。それは，こちらから接触する気はないし，向こうからも接触してほしくないと考えているような態度である。要するに，ジプシーの存在は，イギリスの階級社会から外れたいやしいもの，いわば，社会にとっての厄介者であることがこの箇所から読み取れる。

しかし，ジプシーに対するイメージは，ただ単に社会の厄介者という否定的なとらえられ方ではなく，肯定的なとらえられ方をしていることも理解しておく必要がある。ミードは，この作品の中で主人公アニーを，ジプシーに似た外見として描き出している。彼女は，「ジプシー少女の陽気な黒い目」(the merry black eyes of this gypsy maiden;

¹²⁴ ジプシーたちの社会が，イギリス社会の常識が通用しない「異国」，つまり「内なる外」であることは，1887年の10月号の雑誌『アタランタ』に掲載されたミード書き下ろしの短編小説 *The Tambourine Girl* にも見て取れる。

Ch. 4, p. 21) を持っている、と表現されている。このことは、アニーの外見が、典型的なイギリス人少女の特徴と異なっていることを表し、彼女が典型的な少女とは異なる考え方や行動をとることを示唆している。ミードは、このような外見を持つアニーを通して、新しい女性を主人公に据えた小説を作り上げた。従来のイギリス女性の美しさの概念を打ち破り、新しい時代の女性の理想となる可能性を、「ジプシー」と言う言葉やイメージで表現しようとしているのである。そして、この小説が多く若い読者の心をつかんだという事実は、とりわけ重要である。

アニーは幼いころから、次のようにジプシーに対して憧れを持っていた。

個人的にアニーは、彼ら（ジプシー）の野性的なところや自由気ままなところにひかれていた。気分が高揚している時には、ジプシー一族に攫われて、ジプシーの子供になりたい、などと言うこともあった。(Ch. 40, p. 274)

ここに表れているのは、ジプシーの持つ自由にあこがれる少女の姿である。同様の姿が、イギリスの古い童謡の中にも歌われている¹²⁵。ここからは、主人公の少女が、父親や母親に禁止されても、異人種のジプシーに心惹かれていることが読み取れる。

¹²⁵ My mother said, I never should / Play with the gypsies in the wood.

If I did, then she would say: / Naughty girl to disobey.

Your hair shan't curl and your shoes shan't shine, / You gypsy girl you shan't be mine.

And my father said that if I did, / He'd rap my head with the teapot lid.

My mother said, I never should / Play with the gypsies in the wood.

The wood was dark, and the grass was green; / By came Sally with a tambourine.

I went to sea—no ship to get across; / I paid ten shillings for a blind white horse.

I upped on his back and was off in a crack, / Sally tell my mother I shall never come back.

(Raymond Briggs, *The Mother Goose Treasury* (Yohan Publications, Tokyo, 1980, p. 159.)

斜線は改行を示す。なお、下線部は本文のままである。

(概訳) お母さんは、森の中のジプシーたちと絶対遊んではならない、と言った。

もし遊んだら、言いつけに従わない悪い子だ、と言うことでしょう。

髪をカールしてあげないし、靴も磨いてあげないよ、そんなジプシー娘はうちの子じゃないよ。

お父さんは、ジプシーと遊んだら、ティー・ポットのふたで頭をぶんなぐるぞと言った。

お母さんは、森の中のジプシーたちと絶対遊んではならない、と言った。

森は薄暗く、草の色は濃い。そこにタンバリンを持ったサリーが通りかかった。

海に出たけど、海を渡る船は無かった。私は、盲目の白馬を手に入れるために 10 シリング払った。

私は白馬に乗り、すぐさま出発した。サリーはお母さんに、私が二度と家に帰らないだろうと伝えてくれる。

ジプシーを、自分を現実の束縛から解放してくれる存在ととらえ、「目の見えない白馬」と共に、親の庇護下から旅立つ自分の姿を想像しているのである。

アニーのジプシーに対するイメージは、まさにこの歌の中の少女のジプシーに対するイメージと一致している。このことから、彼女のジプシーに対するイメージは、当時のイギリス人が抱くジプシーの基本的なイメージの枠内に納まっていて、そこから逸脱するものではないことが理解される。

幼い頃、アニーの子守り役はジプシーの女性であり、ジプシーの特徴的な事柄をアニーにいろいろと語ってくれた。また彼女も、子守りの女性にジプシーの話をしてくれるように何度もせがんだ。その時の知識が役立ち、アニーは巧妙に隠された地下の貯蔵倉庫から少女を救出することに成功するのである。

さらには、アニー以外にもジプシーを好意的にとらえている家族がこの作品に登場する。¹²⁶ この場面からは、ジプシーに夢中になっている少女や、我が子の将来を心配し、ジプシー占いで、ばら色の予言を受けることで心底喜ぶ母親の姿がうかがえる。普通に暮らしているイギリス人家庭の中にも、その能力に頼ったり、アドバイスを受けて参考にしたりする人たちが存在したということが看取される。

ここから、ジプシーは排他的で、社会にとっては、単に悪事を働くだけの厄介者という否定的な面だけではなく、肯定的な面も持ち合わせているということがわかる。

第2節 作中でのジプシーの役割

ミードが、ジプシーの持つイメージの、否定的な側面と肯定的な側面をこの小説の中で巧みに利用していることについて既に述べたが、本節では、否定的な側面に焦点を当てて、考察してみたい。

この小説の中で描かれているジプシーの集団は、根無し草のような存在で、必要に迫られれば、瞬時に移動できる統率のとれた集団である。結束が固く、集団の利益のためならば、悪事を行うことも厭わない。また、彼らの肌の色の濃さは階級差と結びついていて、イングランドの最下層よりさらに低い身分である。イギリス国内にあって、ジプシーは、人種的他者である。このジプシー、つまり **anti - Englishness** を描くことによって、イギリス人らしさとイギリスらしさ、**Englishness** の良さが浮かび上がってくる。言い換えれば、ジプシーは、中心的な人物が立ち上がってくるための悪役としての役割を担っているということができる。

当時のイギリスは堀内真由美が指摘するとおり、「「帝国」の形成は、たんに領土の拡大だけでなく、自国の人々に、「帝国」を支配している国に属しているという優越感と、支配地域やその住民、その地域の習慣や劣等視する、「帝国意識」を抱かせた」¹²⁷という歴史的状況からうかがえるように、植民地の文化的劣等性が、帝国主義

¹²⁶ Ch. 41, p. 282 - 84.

¹²⁷ 堀内真由美『大英帝国の女教師 ——イギリス女子教育と植民地』白澤社、2008年、150

下におけるイギリスの対外進出の根拠とされた。これと同様に、人種的他者であるジプシーは、主人公の勇気ある行動や慈愛、自己犠牲などの美德を引き立てる役割を請け負っている。

anti - Englishness としての、ジプシーのモラルに欠ける行動やみすぼらしさ、あるいは、教育を受けることのない汚い子供たちを描くことによって、それと対置される Englishness の勇気、慈愛などの美德、ひいてはイギリスの国や社会の優れた面が人々の目を引くようになる。

主人公たちの住む環境に目を向けてみると、そこはジプシー社会とは対照的な光景である。裕福な家庭の少女たちが、きちんとした生活態度で、洗練された教育を施されている。このラベンダー・ハウスが象徴するのは、強力な国家を背景に持ち、確かな地位を築いた人々の姿である。

当時のイギリスは、封建制度に基盤を置く家父長制度が厳格に存在していた。一家の長として男性が君臨し、女性や子供たちはその命に従う必要があった。このことは、レイチェルと名乗る女性が物事の主導権を握るジプシーの社会とは明らかに異なっている。この邪悪な老婆は、アニーに恨みを抱き、その復讐のための機会をうかがっていた。レイチェルの支配力がこのジプシー集団全体に及んでいたことが、次の場面からうかがえる。それは、ほとんどのテントが次のキャンプ地へと移動した後、出発が遅れて1つだけ残ったテントで、父親の出発準備の手伝いをしていたジプシーの少女が、アニーと話をする場面である。

ジプシーの少女は、この地を離れられるのを喜んでいることや、この場所は退屈であること、レイチェル1人の何らかの理由で、移動を拒まなかったら、もっと早くここを引き払っていただろう、などとアニーに話した。(Ch. 41, p. 278)

例年ならば、もうすでに次の居留地に移動していてもいい時期であるのに、レイチェルの判断で、すべてのテントの移動が引き伸ばされている。ここからは、集団の最上位に君臨するレイチェルの姿が見て取れる。この集団のメンバーは、彼女の意向に従う以外にない。男性たちの存在は、この邪悪な老婆の陰に完全に隠れてしまっている。

ミードは、このような anti - Englishness としてのジプシー社会を提示することによって、イギリスの良家の教育やマナーを優位なものとして位置づけようとしたのではないだろうか。ジプシーのイメージの持つ否定的な側面を巧みに用い、それらをオブジェクトとして提示することによって、イギリスの社会や家庭を、ジプシーの社会や

家庭よりも上位に置くという、イデオロギー操作がなされていると考えられるのである。

第3節 ミードが理想とした若い女性像

ミードが理想とする女性像を考えるために、まず『少女たちの世界』の主人公アニー・フォレストのキャラクターに注目したい。彼女は、「生き生きとしたジプシーのような女の子」(Ch.3, p. 15)と表現されているように、ジプシーに似た容貌をしている。ここには、ジプシーの持つイメージの肯定的な側面が利用されている。つまり、既成の概念にとらわれないとか、自由であるとか、未知の能力を秘めている、または、人を引き付ける不思議な魅力があるなどのイメージである。また、「突飛で腕白な、衝動的な」(Ch. 10, p. 62)という描写からはアニーが、一般的に考える少女の性格とは、かなり異なっていることが見て取れる。読者は、彼女の周りでは様々な騒動が巻き起こされることを予感する。そして実際予想された通り、様々な出来事が原動力となってストーリーが展開していく。

この小説の中には、アニーとはすべてが正反対の少女ドーラが登場する。『ジェイン・エア』を隠し持っていたのが、このドーラである。彼女は、プライドの高い10代後半の少女で、多くの女生徒たちの憧れであると同時に、反感もかっていた。彼女が作中でどのように表現されているかを見てみよう。彼女の「手は学校の誰の手よりも白く、髪は完璧に手入れされ、美しくつやのある髪を持っている」(Ch. 10, p. 71)という外見からしてこの少女は、若いイギリス女性の理想像であるとみなすことができる。ミードは、本文中で彼女について次のように述べ、最上級の賛辞を送っている。

彼女は、完全に完成された少女であった。外見と物腰は優雅で、端的に言えば、学校の誉れとなるタイプの少女であった。(Ch. 29, pp. 206 - 07)

しかし、この作品の中で彼女は、弱者に対する思いやりを持つことはなく、情が薄く、常に自分本位の行動をする。また、自分の頭で考え行動する独創的な面は何一つ持たない「模倣者」(Ch. 29, p. 207)と、本文中に表現されている。ミードは、旧来の女性の理想像のようなドーラを主人公とせず、ジプシーに似た外見を持ち、女らしいとはいえない性格を持つアニーを主人公に設定している。それは、作者の考える若い女性の理想像が、ドーラのような洗練された美しさを備えた女性とは異なっていることを物語っている。

ミードの「良い教育を受けた少女たちは、私たちが待ち望んでいた新しい女性達であることは確かである」¹²⁸という言葉からわかるとおり、学問により教養を高め、自分で判断し行動する女性は、このラベンダー・ハウスの教育の理想とするところでも

¹²⁸ Mitchell, p. 22.

ある。アニーの独創性は、誰にも負けない勇気や、人々に対する深い愛情、聡明さなどの美徳と相まって複雑な色を作り出している。そして、川端有子が指摘するとおり、「優れた知性と伝統的な女性的な資質が、難なく両立する」¹²⁹ 主人公として、この『少女たちの世界』に登場したのである。

アニーは、「キリスト教の世界で、最も人を楽しませてくれる、気立ての良い、みんなのお気に入り」(Ch. 4, p. 24) と表現されているように、学園の中では人気者である。1887年10月号の「アタランタ奨学金と読書クラブ」で、ウォルター・スコットの執筆担当となった童話作家のアンドリュー・ラングは、スコットがいかに周りの人たちから愛されていたかを、次のような表現で伝えている。

スコットが生きていた頃、彼は顔見知りの誰からも好かれていた。人間ばかりではなく、動物、それも普通は友達を作らない鶏や豚でさえ、彼の魅力にあらがえず、犬のように彼の後ろをくっついていった。(Atalanta, October, 1887, p. 51)

ここから見て取れるように、人間だけでなく、物言わぬ動物にも好かれるということは、その人が愛情あふれる魅力を持っているということを十分に示唆する表現であると言えよう。実際これと同じような表現で、ミードはアニーの魅力を描き出している。

幼いころアニーは、母親と見知らぬ人の家を訪問した時、番犬は決して彼女に向って吠えることはなかった。それどころか、その大きな頭を彼女に撫でられた時、指先から伝わる魔力に屈服した。撫でられるとゆっくりと尻尾を振り始め、どんなに獐猛な犬も、愛情のこもった目つきで、彼女を見るようになるのであった。

(Ch. 45, pp. 297 - 98)

どのような犬でさえ手なずけてしまう魅力のおかげでアニーは、タイガーという名の獐猛なジプシーの番犬を味方にすることができ、少女の救出に成功する。しかし、最初に恐ろしいジプシーの番犬に近づいていくには、かなりの勇気が必要である。そこからは、アニーの少女を助けたいという気持ちの中に、自己犠牲の精神が含まれていることが読み取れる。このアニーの性格を、ミードは別のページで次のように表現している。

彼女は、学友全員について好印象を持っていた。時折、かなりの程度まで自己犠牲と気立てのよさを見せることがあった。(Ch. 11, p. 77)

¹²⁹ 川端有子「アタランタ 別冊解説」, アティーナ・プレス, 2009年, 3ページ。

この内容は、ミードと共に雑誌『アタランタ』編集者の1人であったアリシア・リースが、読者の進むべき道を示した次の文章と軌を一にしている、この時代に女性が備えるべき美德の一つとして「自己犠牲」があげられていたことが看取される。

「自分が手掛けた仕事を完成させるように、自己犠牲の精神と活力を用いて、最大限の努力をなさい。」(Atalanta, Sep., 1888, p. 717)

“Strive your utmost by self-denial and energy to complete the work begun.”

この「自己犠牲」は、キリスト教を基盤とする当時の人々が理想とした美德の1つの形である。アニーの、さまざまな困難に直面しても、屈服しない強い精神力や、真の優しさと勇氣、そして神の心と自分の信念に従って行動する姿は、これから世の中へ出ていく若い少女たちのあるべき姿として、この小説の中に提示されているのである。

『少女たちの世界』は、ジプシーに似た少女が主人公である。このことは、外見はそれまでのイギリス女性の美人の規格からは外れているが、新しい女性、外見より内面の美しさを備えた女性の魅力を生き生きと描き出そうとするミードの創作方針を示すものではないだろうか。当時の女性として理想的な外見を持つドーラの言動と対比されることで、アニーの持つ内面の美しさが際立ってくる。これは、『ジェイン・エア』の作者が描こうとした理想の女性にも共通するものである。容姿の美や財産という外面的なメリットは一切持たず、ただ内面の美しさだけが優れている主人公ジェイン・エアの精神をアニーは、受け継いでいる。

ミードは、作家として、また編集者として、これからの新しい時代を生きていく若い女性の理想像を、ドーラに代表されるような古いタイプではなく、アニーのような内面の美德で将来を切り開いていく新しいタイプの中に見出している。これは、変化しつつある社会状況をたくましく勇敢に乗り切っていく「ジェイン・エアの娘たち」ともいうべき、この時代の女性達のあらまほしき姿であろう。

第5章 ヴィクトリア時代と『アタランタ』

当時、流行作家として名をはせていたL.T. ミードは、自分の代表的な作品『少女たちの世界』の中で、メタ・テキストとして『ジェイン・エア』を用い、読者に紹介している。これまでの考察を通じて本研究者は、ミードは自分の小説内の禁止事項とは裏腹に、実際には、時代を切り開いて生きていく女性の模範として読者に積極的に『ジェイン・エア』を奨励したい気持ちがあった、というテーゼを提出した。

『ジェイン・エア』を書いたシャーロット・ブロンテが感じていた社会に対する怒

りや、厳しく自分を律しプライドを持って生きていきたいという意志は、自活する道を探す必要に迫られていたミードの時代の女性の、現状打破の突破口となる可能性を秘めていると考えられる。そこで、この章では、L. T. ミードが『少女たちの世界』の中で描いた理想の女性像を踏まえながら、編集者として若い女性読者を導いていこうとした方向性を探る。彼女が編集者として6年間携わった当時の文芸雑誌『アタランタ』を取り上げ、その読者像を探り、記事の中に「ジェイン・エアの娘たち」ともいうべき、自立して誇り高く生きていこうとする姿がどのように映し出されているかを考察する。

第1節 時代背景と女子教育

1887年に創刊された定期刊行物『アタランタ』¹³⁰ やその前身である雑誌「エブリー・ガールズ・マガジン」(*Every Girl's Magazine*; 1877-1887)の普及の陰には、イギリスにおける鉄道網の発展と、産業革命、初等教育法成立と、それに伴う識字率の伸び、さらには選挙法改正などが大きく影響している。そこで、まず『アタランタ』創刊の背景にあるこれらの歴史的事実を把握しておく必要がある。

1830年にマンチェスターとリヴァプールの区間で開始された鉄道輸送は、その後の20年間でイギリス全土を覆うまでに至った。鉄道での移動は、馬車での移動に比べると、はるかに高速で走る。当然のことながら、車窓から旅の途中を楽しむことがむずかしくなった。それゆえ人々は移動途中ではなく、降車してから目的地で楽しむようになった。それに伴って、車内では読書をするようになり、駅構内の書店では、独特の貸本制度が発達した。各駅に店舗を拡大した貸本業者の中には、ミューディーズ(Mudie's)という業者がいる。このミューディーズというのは、1816年から1890年まで営業していたイギリスの書籍商の名前で、とくに貸本屋(1842年～)の経営で評判をとった店である。

¹³⁰ 雑誌『アタランタ』は、ギリシャ神話の美しく足の速い女狩人アタランテの名前に由来したものである。アタランテのもとを訪れる求婚者は皆、彼女と足の速さを競うことが求められ、彼女との競走に敗れた者は殺されたという。求婚者のひとり、ヒッポメネス(Hippomenes)は競走の途中で3個の金のリンゴを落とし、彼女がそれを拾う間に追い越して競走に勝った。アタランテは彼と結婚したのち、アフロディテの怒りに触れ、雌ライオンに変えられてしまった、というのがギリシャ神話のあらましである。ヴィクトリア朝の後期は、フェミニズムが特に盛り上がりを見せたことから、「女性の時代」の黎明期と言われている。この時代思潮を背景に創刊された本誌は、ギリシャ神話のアタランテから名前をとっていることからわかる通り、女性にとっての目的を見据え、その純粋で高貴な目的へと韋駄天のごとく駆けていく若き「アタランタ」達に大きな期待を寄せるつくりとなっている。

『アタランタ』の、英文学を紹介するページの「アタランタ奨学金と読書クラブ」の中に、シャーロット・ブロンテの『ヴィレット』を少女たちに勧める担当執筆者が、誰も『ヴィレット』をミューディーズで求めないことを嘆く記述（1889年3月号）がみられる。このことは、ミューディーズが当時、広く人々に知られていたことと、その貸本業が盛況であったことを裏付けている。

また、貸本屋として有名な店の名前をあえて挙げているということからは、『ヴィレット』を購入して読む金銭的余裕のある読者層ばかりではなく、そうした余裕のない低所得の読者層にも、貸本でもいいから、とにかく読んで欲しいという執筆者の気持ち表れていると考えられる。実際『アタランタ』は、定期的に購入して読む読者ばかりではなく、公立図書館にも置かれていた¹³¹ことで、購読料を払わなくても自由に読み、知識を得ることができるようになっていたのである。

鉄道の発達は、人々の移動や物流の発展に貢献したばかりでなく、電信、電報、郵便制度の整備につながり、情報の大衆化に大きく寄与した。1840年にできた郵便制度は、ローランド・ヒルによって、1ペニーの切手で遠く離れた人との通信を可能にした。このことにより、個人間のコミュニケーション手段の発達ばかりではなく、書籍郵便、小包郵便などが、全国的な商品流通の手段として促進された。こうしたことが、『アタランタ』をはじめとする様々な新聞や雑誌などの書籍類を、イギリスのどこにいても入手できるようにした。

『アタランタ』の創刊号に掲載されている「懸賞作品コンクール」(“Our Prize Competition”)の優勝エッセイには、今まで読んできた「エブリー・ガールズ・マガジン」の雑誌をバインダー仕様にしてもらうために、くくって送る際、発送手配をする前に、もう一度雑誌をめくって感慨にふける少女の姿が描き出されている。郵便の発達により、書籍の入手が容易になり、読み終わった雑誌類の体裁を変えて送り返してくれるサービスも整っていたことが看取される。

さらには、『アタランタ』として新しく生まれ変わったことで、通信添削という教育の手段が加わった。後に詳述するが、「アタランタ奨学金と読書クラブ」という企画は、各号で取り上げた有名な作家に関するテーマ・エッセイを書かせて、英文学についての教養を高めさせることを意図していた。それはすなわち、当該作家の担当執筆者が選んだ推薦図書を読み、テーマに沿って自分の言葉でエッセイを書くという段階的作業により、読者に読解力や表現力をつけさせる、という狙いを持っていたのである。

ここで注目すべきは、『アタランタ』創刊当初、年間2シリング6ペンス支払う読者「一般購読者」(Simple Subscriber)と、その上さらに2シリング6ペンス、つまり

¹³¹ 木原貴子・依岡道子「ヴィクトリア朝後期における女性の知的職業 ——雑誌 *Atalanta* の役割」、『名古屋女子大学紀要 人文・社会編』2002年、298ページ。

合計で5シリング支払う読者「特別購読者」(Privileged Subscriber)の2種類が存在していたことである。年間に5シリング支払う会員には、自分が書いたエッセイを添削して返却してくれるというサービスが特別に付いていたのである。現代でこそ、通信添削指導は一般的で、広く知られているものの、郵便制度が1840年に成立したことを考え合わせると、雑誌を媒体とし、添削指導も取り入れて、女性を間接的に教育しようとするこの方法は、当時としてはかなり目新しく、画期的な試みであったと言わざるを得ない。

書籍全般に対する需要が高まってきたということは、民衆教育が普及し、識字率が上がったことや、ジャーナリズムをマスコミ(大量伝達手段)と呼ぶことができるような、大衆社会の基盤整備にもつながってくる。蒸気機関を取り入れた産業革命の成果が印刷能力の改善を促し、1814年には、まず新聞が手押し印刷機から蒸気力を利用した機械刷りに転換された。

さらには、雑誌、新聞の発行に課されていた税金であるスタンプ税が1855年に廃止されたことにより、読者にとっては、安い負担で、新聞や雑誌の定期購読が可能になった。こうした時代状況が、『アタランタ』やその他の雑誌類にとって、購読者数を増加させることに有利に働いたのである。

時期を同じくして、民衆教育に対する考え方にも変化が出てきた。産業革命期には生活の糧をかせぐために、ほとんど停滞していた民衆教育が重要視されるようになった。子供たちは、産業革命期には、読み書きを習うよりも、日々の糧を稼ぐために労働を強いられることの方が多かった。

さらに、民衆教育の普及が遅々として進まなかったのには、大きな理由があった。その1つは、教育は個人の責任であって社会的な問題ではない、というレッセ・フェールに基づく思想から、民衆教育が放置されたということである。もう1つは、支配階級の人々には、下の階級の人たちが知識を身につけることは、急進的な思想を持つことにつながるという懸念があったという点である。教育は、彼ら労働者の社会的不満をあおり、現存秩序を維持したい支配階級にとって危険であると考えたのである。

しかしながら、レッセ・フェールの思想は、大気汚染や都市環境の悪化など多くのひずみを生み出したことから、方向転換を図らざるを得なくなってきた。貧民に教育は無用だという時代精神にも変化が生じ、1833年以降、政府は国庫補助金による教育投資として、学校建設資金や維持費を随時支給するようになったのである。その成果として、下の表からわかるように、50年代以降、識字率は着実な伸びをみせる。

1850年・・・69%
1860年・・・74%
1870年・・・80%—初等教育法成立
1880年・・・86%

(1887年『アタランタ』創刊)

1890年・・・93%

1900年・・・97%

132

『アタランタ』を定期購読するには、最低でも年間2シリング6ペンスは必要であったが、公立図書館にも置かれたことで、初等教育の恩恵を受け、ある程度は読む力を持ち、自分の氏名を署名できるようになった労働者階級や、中流階級の中でも低い身分の読者が手にすることもできるようになり、知識を得る機会も増えていったのである。

当時の中流階級の女性達の教養は、ガヴァネスによって施されるものや小さな私立学校、寄宿舎学校で身につけたもののいずれかであった。学校では、ドイツ語やフランス語、音楽や絵画などの授業が、カリキュラムに沿って行われていた。

19世紀半ばの教育改革では、女性の大学入学も認められるようになった。ケンブリッジ大学が女性のためのガートン・カレッジ(Girton College)を開いたのは1869年であり、同様に、オックスフォード大学が女性のためのレディ・マーガレット・ホール(Lady Margaret Hall)を開校したのは1881年である。しかしながら、両大学とも女性が学士号を取れるようになったのは、20世紀になってからのことであった。¹³³ これらのことから理解できる通り、少しずつ女子教育が広がりを見せ、女性の社会進出が認識されてきたとはいえ、まだ多くの障害が存在していたことも事実である。

雑誌『アタランタ』は、このように女性をめぐる環境に変化が起きつつあった時代に登場し、教養を高め、自立を目指す女性の手助けとなるべく、通信教育を取り入れた独自の方法で貢献した。雑誌や新聞などの活字文化が開花した時代にあって、この雑誌は女子教育に力を入れ、すぐれた文芸雑誌としての特徴を持っていたのである。

この雑誌は、毎号60ページほどで構成された月刊誌で、繊細なタッチの挿絵を添えた連載小説や詩、自然科学の分野の解説、美術に対する知識を増やすことを目的とした様々な読み物、ショート・ストーリーなどがその内容であった。

さらには、「アタランタ奨学金と読書クラブ」と名付けられた文学案内と、そこに登場する19世紀の著名な作家に関して、年間を通して優秀なエッセイを書いた会員には奨学金を授けるという企画のページも掲載されていた。その他には、この時代を象徴するチャリティー活動に関する記事、「女性の雇用」というタイトルの就職(社会

¹³² 長島伸一『大英帝国 最盛期イギリスの社会史』講談社、1989年、118ページ参照。

¹³³ 大学への入学が認められたとはいえ、指 昭博は、そのような女性への世間の目が依然として厳しかったことや、授業料が高く、入学が可能なのは相変わらず裕福な一部の家庭の子女に限られていたことを指摘している。このことからわかるとおり、女性達にとって大学進学は決して容易ではなかった。(指 昭博『イギリスの歴史』河出書房新社、2004年、122ページ。)

進出)へのガイダンス(1年目)や、様々なテーマに沿ったエッセイや絵画、手芸作品などを募集し、その中の優秀作品には、本や賞金を与えるという「懸賞作品コンクール」(“Our Prize Competition”)など、多岐にわたる内容から成っていた。¹³⁴

次節以降では、その中から特徴的な2つの企画、「女性の雇用」と「アタランタ奨学金と読書クラブ」を取り上げ、この雑誌の特色について見てみたい。

第2節 「女性の雇用」(Employment for Girls.)

この「女性の雇用」は、女余りという社会状況の中で、自活へのガイダンスとして打ち出され、1887年10月創刊号から1888年9月号までの1年間掲載された記事である。

「アタランタ奨学金と読書クラブ」では、第1回奨学金受賞者であるメアリー・ウィルソンは、奨学金を糧とし研鑽をつみ、再度作家として『アタランタ』に現れたが、このような読者は、特別に才能に恵まれた例外である。それとは対照的に、この「女性の雇用」という企画は、ごく一般の読者を対象としていて、自立したいと真剣に考える読者が、就職するために必要な情報を提供するものである。

ここでは、毎号読者にふさわしい職業を取り上げ、その職業の専門家による詳しい内容の紹介を毎号掲載している。また、その職業に就くための教育や訓練が必要ならば、それにかかる費用、ライセンスを取るために合格しなければいけない試験、さらにはもし、徒弟として親方の元に入らなければいけないのであれば、その期間の長さ、などを説明する、と記されている。さらなる詳細な情報を入手したければ、編集室が対応する、という丁寧なもので、この企画に打ち込んだ意気込みが感じられる。下に各号で紹介された職業のリストを挙げてみる。

「女性の雇用」

	年, 月号	職種	執筆担当者
1	1887, 10	ガイダンス	編集者
2	1887, 11	看護師 (Sick Nursing.)	Jane Wilson
3	1887, 12	公務員, 郵便局員 (The Civil Service, The post office.)	Millicent Garrett Fawcett
4	1888, 1	タイピスト (Type-writing.)	Ethel Comyns
5	1888, 2	薬剤師 (Pharmacy.)	Isabella S. Clarke-Keer (Pharmaceutical Chemist)
6	1888, 3	記載なし	記載なし

¹³⁴ ミードが編集者として携わった6年間の『アタランタ』の掲載記事の概要と年ごとの特徴については、参考資料(1)として論文の最後に添付。

7	1888, 4	インテリアデザイナー (House Decoration.)	Agnes Garrett
8	1888, 5	リトグラファー (Chromo-Lithography.)	Clo. Graves
9	1888, 6	速記者 (Shorthand.)	Miss Reynold, A. Sh. S.
10	1888, 7	医者 (Medicine.)	Miss Edith Huntley, M. D.
11	1888, 8	医者 2 (Medicine II.)	Miss Edith Huntley, M. D.
12	1888, 9	裁縫の教師 (Needlework.)	Sophy Loch

この表からは、一つの特徴が見えてくる。それは1888年2月以降、薬剤師や女医や裁縫の教師など実際に自活できるようになるまで比較的長い年月と費用を要する職業についての紹介が続くことである。特に、「医者」(Medical Doctor)になるには、極めて優秀な能力がなければ試験に合格することはできず、広く一般的な女性読者に紹介する職業としてふさわしいかどうかは疑問である。その上、他の職業についての説明は1か月ずつで終わっているのに、医者だけが7月、8月と2か月にわたって特集を組んでいるのも印象に残る。

医者に関するデータをひも解くと、1881年には、イギリス国内にわずか25人の女医しか存在せず、1901年には212人、1911年でも477人であったという統計が残されている。¹³⁵ 確かに女医の数がきわめて少ないことから、将来性も見込め、女性の患者から女医を望む声も多く、需要も高かったことが見て取れる。

担当したエディス・ハントレー医学博士によると、医者という職業は、人のために役立ち相応の報酬を受け取れるものであること、また、プライドの高い親せき筋から社会的階級を失うものだと非難されることがない職業であると記している。また、女性の患者にとって、数少ない女医が担当であることで、話しやすいと感謝されていることや、将来的には、インドでの女性医療従事者の供給を促進する動きが広まる、などの具体例を挙げ、十分な報酬を受け取り、女医の活動範囲が大きく広がっていく可能性を指摘している。そうした上で、医者を志す女性達に必要なものとして次の4点を挙げている。

1. 潤沢な資金があること。

医者になるための学費以外に、食費、家賃などで、週に少なくとも1ポンドほど必要で、さらには高価な書物や器具も購入する必要がある。

2. 健康であること。

3. それまで良い一般的な教育を受けてきたこと。

それまで何を学んできたかではなく、新しいものを学ぶ際のメンタル・トレ

¹³⁵ Cf. *British History 1815-1906*. Oxford University Press, Oxford, 1991, p. 453.

ーニングや、学ぶ態度ができてきているかとか、自分で考え、判断し、理解する力を養ってきたかなどが重要である。

4. この仕事に心から献身できること。

これらの条件は、現代の医者を目指す若者たちに課された条件と変わりはないものであることが見て取れる。ただし、引用文で、真っ先に金銭的な問題が挙げられていることに注意が必要であろう。

ここで具体的に提示されている出費額はどのような意味を持つ金額であるのだろうか。それは、端的に言えば、医学生に必要な金額一年分は、中流家庭の最低ラインの年収にほぼ等しい額か、それ以上の金額である、ということである。

『アタランタ』のターゲットとする読者層は、これまでも指摘してきたように、中流階級の若い女性達であるが、中流階級の家庭の年収は、当時最低でも 100 ポンド、平均的であれば 300 ポンド程度であるという記録が残されている。¹³⁶ 医学生の生活費だけでも、年間に 52 ポンド以上は必要で、当然これ以外に、学費や教材費なども捻出しなければならない。しかも、それを 4 年ないしは 5 年間続けなければいけないので、実際に必要となる金額は、かなりの額に達することが想像できる。さらに、ハントレーによると、医者の学位を取った後、可能ならばウーンやベルン、チューリヒやブリュッセルなどの外国で、さらなる医学博士の学位を取得する女性達も少なくないと記している。

学費を奨学金に頼る学生も増加してきてはいるが、卒業後、奨学金を出した機関、たとえば布教活動の協会などで一定期間医者として働かなければならない、などの条件がつくこともある、と述べられている。資料からは、医者として働くことができるようになれば、満足のいく収入は見込めるが、それまでの出費は莫大な金額に上ることが、読み取れるのである。こうしたことから、医学生に仕送りできる家庭は、中流階級でもかなり上位の家庭でなければならないことがわかる。このことから、医者を目指す女性には知力、熱意以外に家族からの大きな支援が必要であることが理解できよう。タイピストや速記者と並んで女性読者への職業案内に選んだのには、特別な理由が存在するのであろうか。

この記事の中でハントレーは、医者という職業に就くための方法のみならず、その心構えに関して次のように記し、この職業には、使命感や人間愛が不可欠であると読者に訴える。

女医が同性の患者を診断し、その患者の安心した態度や感謝のまなざし、言葉を受け取る時、この美しくも慈悲深い医者という職業に没頭しなくてはならない。そして他の人たちの心の中にも、その熱意をかきたてることに専心しなくてははい

¹³⁶ 長島伸一『大英帝国 最盛期イギリスの社会史』48 ページ参照。

けない。(p. 596)

実際に女性の患者に向き合った彼女のことばには、説得力がある。「患者の安心した態度や感謝のまなざし」とは、裏を返せば、これまでいかに女性患者が、男性医師の前で緊張し、身構えていたかを示している。当時はイギリス国内で、女医が少数しか存在しなかったという事実はあるものの、女性患者の安堵した表情を見ることは、女医にしかできないことであり、同性なるがゆえに、きめ細やかなアドバイスも可能である。ハントレーの言葉には、心の優しさがにじみ出ている。それは、就職を望む女性のためだけではなく、女性患者の側からも女医はもっと増えた方がよいという心遣いである。

このような考え方は、「女性の雇用」の企画が始まる創刊号で、編集者が就職を希望する読者に対して望んだものと完全に一致する。それは、次のようなものである。

働くということは、多くの場合そうであるように、単に生計を立てる必要があるから働く、ということにとどまらず、労働そのものは神の祝福でもある。私たちが仕事に従事する時には、自分の中に存在する最良のものを表に出せる。また仕事に従事することによって私たちは、人々の手助けとなるのである。(p. 63)

自活することが必要であるから世の中に出て働く、という理由だけではなく、労働のもう1つの側面、つまり自分の能力を活かすことが、他の人のためになり、すばらしいことであると、編集者は訴えているのである。

ハントレー医師は、ただ単に収入が高く、将来性が見込め、患者から感謝される職業である、ということから医者という職業を読者たちに紹介しているのではない。この職業が、当時深刻になりつつある女性の社会進出という問題の解決に大きな貢献をする、と彼女は考えたのである。彼女の文章は、医者を目指す女性だけではなく、すべての女性にとって重要な、次のような内容で締めくくられている。

進歩的な職業に女性が自由に就くことができれば、女性の職業市場の地位を高め、女性の仕事の尊厳を高めることにつながるでしょう。(p. 655)

ここで、彼女は、医者という1つの分野だけにとどまらず、本来自由であるべき、すべての女性の職業選択にまで言及している。誇りの持てる職業を自由に選ぶことは、女性の地位向上のみならず、その職業全般の格上げにもつながるということを読者たちに理解させたかったのであろう。とりわけ、「女性の雇用」が職業紹介に医者という職業を選んだという事実は、自活のためだけでなく人々のために役に立ちたいと考える女性達の数の多さを表しているのかもしれない。

第3節「アタランタ奨学金と読書クラブ」

(ATALANTA SCHOLARSHIP & READING UNION)

「アタランタ奨学金と読書クラブ」という制度は、『アタランタ』の特徴的な試みの1つである。これは、各号のこのページで出されるテーマに関して読者からエッセイを募集するものであった。そして年間を通じて優秀なエッセイを書いた者は、最終の奨学金を得るためのエッセイ・コンクールに進むことができた。その最終コンクールで、最も優れたエッセイを書いた者に奨学金を与えるという企画であった。

その応募要領は、各号のページで取り上げられる作家の生き方や考え方、作品に関するテーマについて、指定された語数でエッセイを書き上げて編集部に提出するというものであった。多くの場合、500語という語数が設定されていた。この語数で、与えられたテーマに沿ってまとめるのはなかなか容易ではない。文章力が試されると言ってもよい。「大切なのは、中身であって量ではありません」(1887年、10月号)という但し書きから、内容がかなり重視されていたことがうかがえる。会員たちには、課題図書に対する読解力や与えられたテーマに対する端的な表現力が要求される。年間5シリング払う「特別購読者」には、提出されたエッセイを編集部で添削したものが送り返される。そして毎号、2ヶ月遅れで、エッセイの優秀者は、雑誌の「優秀者リスト」(“The Honour List”)の欄に名前が載せられるという仕組みであった。

ではここで、6年分の「アタランタ奨学金と読書クラブ」で取り上げられた内容を簡単にまとめてみよう。創刊号(Oct. 1887)から、3年目の最終号(Sep. 1890)までは、「19世紀の英米文学者」(“English Men and Women of Letters of the 19th Century.”)として、ウォルター・スコットから、ブルワーリットンまで、19世紀に活躍した英米文学者¹³⁷が1回に1人ずつ取り上げられ、紹介されている。4年目には、5人の担当者がシェイクスピアに的を絞り、10月号で「入門」(Introductory)を、11月号で「初期の喜劇」(Early Comedy)を取り上げ、最後のSep. 1891の「ロマンティック・コメディ」(Romantic Comedy)まで12回に分けて執筆している。5年目には、ジョン・カークパトリック(John Kirkpatrick)のみが執筆を担当し、文学を離れて、「ヴィクトリア時代(前半)」(The Victorian Era (First Half; 1837-65))というテーマで、12回にわたってこの時期のイギリス内外の政策や社会情勢について解説を加えている。

6年目には、「アタランタ奨学金と読書クラブ」(“Atalanta Scholarship & Reading Union”)は「アタランタ奨学金、読書クラブとフィクションの学校」(“Atalanta Scholarship, Reading Union and School of Fiction.”)と名称を変え、12回にわたってフィクションの様式から、編集者の立場からのアドバイスまでを載せている。この年度のテーマ・エッセイには、500語以内で、「歴史的出来事を記述しなさい(マコーレー

¹³⁷ 英国の作家だけではなく、アメリカの作家、ホーソーン(Nathaniel Hawthorne)も取り上げられている(June 1889)。

の文体を踏襲して)」(Oct. 1892)や、「幽霊話の概略を書きなさい。4部仕立てで、それぞれ4章を組み立てなさい。章から章への話の流れを追いなさい」(June 1893)といった趣向を凝らしたテーマが設定してあった。

1年目から5年目までの各作家についてのエッセイを書く際のテーマの特徴は、テーマに関する内容が本文に丁寧に説明してあり、課題図書を参考にして書きやすいもの¹³⁸もあれば、テーマに関する説明が少なく、読者が課題図書を読み、書かなくてはいけないもの¹³⁹、などさまざまである。つまり、テーマに関しては、必ずしも統一された形があるとは言えず、担当執筆者に一任されていることがうかがえる。しかし、どのテーマも、かなり高度な読解力と表現力を要求し、容易にまとめて、記述できる類のものではない。

執筆担当者には、アンドリュー・ラング(Andrew Lang)¹⁴⁰や、『虚栄の市』を書いたサッカーを叔父に持つミス・サッカーなど、著名人の名前が散見される。このように、ある1人の作家についての案内と、エッセイのテーマが毎号掲載された。そして1年後には、奨学金の最終競争に応募する資格のある女性達を選ばれたのである。

最終競争である奨学金コンクールは、年に1回行われる。その年度1年間を通じて5回以上「優秀者リスト」に載った者のみが、この最終競争に参加することが許可される。雑誌『アタランタ』の創刊の1887年から1893年まで6年分の最終試験の特徴を見てみよう。

i) 参加資格

6年間を通じて、年間5回以上「優秀者リスト」に載った者という条件に変更はない。25歳以下という条件は、年によって明記されていたりいなかったりと、決まっていはいないと思われる。

ii) 賞金

最初の2年間は、次の通りである。¹⁴¹

1席 年間30ポンド相当の奨学金を3年間。

¹³⁸ たとえば、1888年3月号ディケンズ、1888年9月号のブラウニング夫人に関する「テーマ」。

¹³⁹ たとえば1887年10月号ウォルター・スコットの「テーマ2」。

¹⁴⁰ ラング(1844-1912)は、イギリスの古典学者であり詩人、民族学者でもあった。スコットランドで生まれ、ホメロスの「イーリアス」や「オデュッセイア」の英訳や、古代フランスの詩の研究や神話・伝説・民話の研究をした人物としても知られている。オリジナルの童話なども書き、大小合わせると160以上の作品を残した人物でもある。

¹⁴¹ 第1回については1888年1月号に掲載。

2 席 15 ポンドの賞金。

3 席 5 ポンド相当の書籍。

しかし、3 年目から下記のように金額が変化する。¹⁴²

1 席 年間 20 ポンド相当の奨学金を 2 年間。

2 席 10 ポンド相当の奨学金を 2 年間。

これに加えて 3 年目からは、毎月「優秀者リスト」の中でも特に優秀なエッセイを書いた者 1 名に 1 ギニーの賞金、次席に半ギニーの賞金と、2 名に賞金が出るようになったことと、その作文は、『アタランタ』に掲載されるようになったという変更があった。これによって、優秀なエッセイを書くことで、毎月誰でも賞金を手に入れ、雑誌にエッセイが掲載されるという栄誉を手に入れる可能性が出てきたのである。

iii) 審査員

各年度の審査員については次のようになっている。

1 年目

T. H. ストコウ (T. H. Stokoe) 牧師，神学博士，キングスカレッジ校長，グレイズイン・ソサエティ名誉牧師。

2 年目~4 年目

A. J. チャーチ (A. J. Church) 文学修士，ロンドン，ユニバーシティカレッジ，ラテン語教授退官。

5 年目

ジョン・カークパトリック (John Kirkpatrick) 法学博士，エジンバラ大学，歴史学教授。

前章でみてきたとおり，大学が女性に門戸を開いたとはいえ，まだまだ女子学生は少数にとどまっていた。そのため，著名な大学教授に専門家の視点から自分の書いたエッセイのアドバイスをもらうことは，大学で学ぶこと同様に非常に有意義なことであったことは容易に想像できる。

では，1 例として，第 1 回目の奨学金の最終コンクールについて見てみよう。エントリーする資格のある少女たちの名前は，1888 年 11 月号と 12 月号に掲載され，合計で 133 名であった。出題テーマは，「ベーコンのエッセイからの言葉である『学問は喜び，名誉，才能となる』を基に，1 年間に取り上げられた作家の推薦図書に関して述べなさい」¹⁴³ というものであった。

この奨学金コンクールに参加する資格のある 133 人のうち，実際エッセイを書き，

¹⁴² 第 3 回については 1889 年 11 月号に掲載。

¹⁴³ “Studies serve for delight, for ornament, and for ability.” (Bacon’s Essays, L. Of Studies.)

Apply this to the books recommended for reading during the past year.

コンクールに参加した人数は『アタランタ』に記されていないが、おそらく、かなりの数に上ったであろうことは想像に難くない。

この奨学金の獲得者は、1889年2月号に発表されている。それは、フローレンス・ウイルソン(FFlorence M. Wilson) という23歳の女性であった。彼女のエッセイは、1889年3月号に掲載されるという栄誉を与えられ、第2席、第3席の少女と共にその写真も載せられている。彼女は、第1回のスコットが取り上げられた「アタランタ奨学金と読書クラブ」で出されたテーマ・エッセイの「優秀者リスト」にこそ名前が見当たらないが、残りの11回すべてのリストにその名前が載せられている。毎回執筆担当者が書いた記事を参考に、当該作家の推薦図書を読み、テーマ・エッセイを書き上げることは大変な作業である。

しかし彼女のように、毎月のテーマ・エッセイに対して勤勉に取り組んだ読者は決して稀な存在ではない。なぜならば、年間で5回以上「優秀者リスト」に名前が掲載された者のみが、最終の奨学金コンクールにエントリーする資格があるという厳しい決まりの中、133人もの読者がそれに該当したということは、多くの女性達が教養を高めようと努力していたことを物語るからである。

応募者すべてのエッセイを読んだストコウ教授の論評には、応募者たちへの的確なアドバイスがあり、この雑誌が、「アタランタ奨学金と読書クラブ」を通して、会員のエッセイを書く力を伸ばそうとしていたことが看取される。その全体的な論評は、奨学金獲得者の発表と同じ1889年2月号に掲載されている。そこで教授は、次のような指摘を行っている。

1. エッセイの多くは説得力があり、1年間に読むように推薦された書物に対する十分な知識があり、正しく理解されている。
2. エッセイの中には、正確でないものや、気取った文体が欠点となったものもあったが、主だったミスはエッセイを組み立てる体系の欠如である。
3. 与えられたテーマ(ベーコンのエッセイからの一節)を軽視する傾向があり、単にそれぞれの作家についての簡潔な論評にとどまり、テーマについての言及は、まったく無いか、あってもほんの少しという状態であった。
4. 最優秀エッセイは、すべての点で申し分ないものである。思慮深く、鋭敏な文章で、表現スタイルも明確で、すばらしい出来栄であった。
5. 2席に選ばれたエッセイも、同様に、いくつかの点では賞賛に値するが、記述が広範囲にわたり散漫である、という欠点が見られる。
6. あとの3作は、書物を聡明に研究したことが伝わってきた。

これらの指摘から、会員たちは、エッセイを書く際のコツや犯しやすいミスを学ぶことができる。その上、最優秀エッセイを読むことによって、会員たちは、教授が指

摘した「思慮深く、鋭敏な文章」とは何か、「表現スタイルが明確である」とはどういうことかを学ぶことができる仕組みになっている。

さらに、第1回の最終試験の結果発表（1889年2月号）より前の1888年12月号には、次に開催される第2回「アタランタ奨学金と読書クラブ」（1888.10～1889.9）の最終試験の案内が記載されている。これから約1年後、第2回目の奨学金を受けたいと思う会員にとっては、第1回の最終試験の論評にある、ストコウ教授からの全体的なアドバイスは、有益なものであったろう。その上、奨学金獲得者ウイルソンが、コンペのテーマ（ベーコンのエッセイからの一節）を、自分のエッセイの中でどのように処理しているかとか、1年間に取り上げられた作家についてどう的確にまとめているか、独自の意見はどのように反映させればいいのかなどを検討することは、自分でエッセイを書くこと同様に、表現力をみがく効果的な教育手段になったに違いない。この制度は、読者に独学の態度を身につけさせ、教養を高め、奨学金を手にする可能性を開いた画期的な企画であるといえる。

このウイルソンが作家として再び『アタランタ』にその名を登場させたという事実は、この雑誌が当時の女子教育に貢献したことを如実に物語る。1892年2月号の「モリフクロウ」に、ウイルソンがマクミラン社から出版した『ブラウニング入門』（*A Primer on Browning*）というタイトルの本についての書評が掲載されているのである。

ウイルソンは『アタランタ』が創刊された年、1年間に渡って奨学金を受けるためのエッセイを書き続けた。そして1888年から1890年まで3年間、年間£30の奨学金を受け、教養を高めた。その後、作家となり1892年にはこの本が評価されるに至った。

おそらく編集者ミードは、L. T. S. というイニシャルの人物が2月号の書評に選んだこの本の著者が第1回奨学金受賞者であることを、この記事が雑誌に掲載されるまで気が付かなかったのではなかろうか。というのも、翌3月号の「モリフクロウ」で初めて、この作家、メアリー・ウイルソンは第1回の奨学金獲得者と同一人物であることを明らかにしているからである（p. 372）。

編集者として、雑誌の購買数を伸ばそうと考えるのならば、自らの雑誌の奨学金獲得者が作家としてデビューし、出版した本を優先的に（大々的に）取り上げ、読者たちにアピールすることもできたはずである。本を紹介した後の3月号にささやかに掲載されたウイルソンに関する記事からは、発行部数を伸ばすことよりも、編集者として若い女性達のために、本当に役立つ雑誌を作り上げたいというミードの高い理念が看取されるのである。

第6章 「モリフクロウ」と「アタランタ手紙^{カク}靴」

第1節 2つの企画の特徴

『アタランタ』の3年目、1889年10月号に新しい企画「モリフクロウ」(The Brown Owl)が登場した。この企画は、読者の日常生活に関係のあるテーマを1つ取り上げ、担当者が意見を述べるコーナーや編集者ミードが本について書いたコーナー(Notes on Books)、そして編集室に宛てられた手紙から彼女が読者に紹介したいと判断した手紙¹⁴⁴を取り上げるコーナーを設けている。

「アタランタ手紙^{かばん}鞆」(The Atalanta Letter-Bag)は、「モリフクロウ」より2か月遅れの1889年12月号から掲載されるようになった。このコーナーは、その名前から理解できる通り、『アタランタ』の記事や「モリフクロウ」で載せられた意見への反響、また「教会からの慈善活動の要請」(Jan. 1892)や「ロシアにおける女子教育」(‘Education of Girls in Russia’; Sep. 1892)など、多彩な手紙を紹介するコーナーである。

これまで『アタランタ』では、読者は雑誌を読むだけの受け身の立場に置かれていて、編集室発信の一方通行が慣例であった。しかし、このお便りコーナーでは読者の生の声が拾い上げられている。それによって、19世紀に生活していた女性読者の心の内をうかがうことができるのである。さらに「アタランタ手紙鞆」は、「モリフクロウ」に呼応するかのように始められたことから、やはりこの「モリフクロウ」の意見を読んだ読者の反響が多く載せられている。以下に、モリフクロウのテーマと担当者の一覧を挙げた。テーマの選び方とその内容によって、2か月後の手紙鞆に寄せられる読者からの反響にも大きな差ができることが、特徴として挙げられる。

3年目 (Oct. 1889~Sep.1890)

掲載年月	テーマ	著者名
Oct. 1889	社交界 (Society)	L. B. Walford
Nov. 1889	職業 (Occupations)	Sarah Tytler
Dec. 1889	教育 (Education)	Prof. A. J. Church
Jan. 1890	言葉と行動 (Recitation versus Action)	Charlotte M. Mason
Feb. 1890	身だしなみとしてのファッション (On Fashion in Manner)	Miss Thacheray
Mar. 1890	自然研究 (On the study of Nature)	C.Lloyd Morgan
Apr. 1890	忘れ去られた気品 (The Forgotten Graces)	R. K. Douglas
May 1890	社交界デビュー (“Coming Out”)	Mrs. Molesworth
June 1890	日曜学校で教えること (Sunday-School Teaching)	Eleanor Bairdsmith

¹⁴⁴ 第2部、第7章、第3節で取り上げる東京の福澤滝からの手紙は、June 1892の「モリフクロウ」に掲載されている。

July 1890	忘れ去られた気品 2 (The Forgotten Graces— II)	Prof. Douglas
Aug. 1890	水泳の教え方 (On Teaching to Swim)	Eleanor Bairdsmith
Sep. 1890	服の許容度 (On Dress Allowances)	Graham R. Tomson

4 年目 (Oct. 1890~Sep.1891)

掲載年月	テーマ	著者名
Oct. 1890	人を楽しませるコツ (The Art of Pleasing)	Mrs. Parr
Nov. 1890	不平 (Grumbles)	L. B. Walford
Dec. 1890	クリスマスのお楽しみ (Our Christmas Entertainment)	Florence Pike
Jan. 1891	現代美術の女性達 (Women in Contemporary Art)	J. C. Staples
Feb. 1891	家事 (On Housekeeping)	Eleanor Bairdsmith
Mar. 1891	楽しい時間 (A Good time)	L. B. Walford
Apr. 1891	若い女性の本棚 (A Girl's Library)	Prof. A. J. Church
May 1891	いちゃつき (Flirtation)	Luisa Parr
June 1891	婚約 (Engagements)	Luisa Parr
July 1891	結婚 (Marriage)	Luisa Parr
Aug. 1891	アマチュアの伴奏者 (The Amateur Accompanist)	M. C. Gillington, A. R. A. M
Sep. 1891	女性の余暇活動としてのゴルフ (Golf as a Pastime for Girls)	Carita Mary Yendys

5 年目 (Oct. 1890~Sep.1891)

掲載年月	テーマ	著者名
Oct. 1891	料理 (On Cooking)	Mrs. De Sallis
Nov. 1891	料理 2 (On Cooking Part II)	Mrs. De Sallis
Dec. 1891	クリスマス・ブック (Christmas Books)	L. T. Meade
Jan. 1892	女性のサイクリング (On Cycling for Girls)	Robert Cochrane
Feb. 1892	絵画 (Fancy Painting)	Elie Smith
Mar. 1892	絵画 2 (Fancy Painting Part II.)	Elie Smith
Apr. 1892	料理 3 (On Cooking Part III.)	Mrs. De Sallis
May 1892	ドレスの良さ (The Virtues of Dress Part I.)	L. B. Walford (Mrs.)
June 1892	ドレスの良さ 2 (The Virtues of Dress Part II.)	L. B. Walford
July 1892	アマチュア写真家 (Amateur Photography)	Grace Wyld
Aug. 1892	火星 (The Planet Mars)	Edith Picton Warlow
Sep. 1892	女性の討論クラブの作り方	Eva Anstruther

	(How to Start a Girls' Debating Society)	
--	--	--

6年目 (Oct. 1890~Sep.1891)

掲載年月	テーマ	著者名
Oct. 1892	ドレスの洗練, 女性の視点から (The Refinement of Dress, From a Girl's Point of View)	Horatia Hardy
Nov. 1892	窓辺のガーデニング (Window-Box Gardening)	Edmund J. Baillie
Dec. 1892	クリスマス・ブック (Christmas Books)	記載なし, 目次にも。
Jan. 1893	女性参政権 (Women's Suffrage)	John Kirkpatrick
Feb. 1893	もてなしの手腕 (On the Art of Entertaining)	Louisa Parr
Mar. 1893	ケンブリッジからの手紙 (A Letter from Cambridge)	記載なし, 目次にも。
Apr. 1893	私たちのクラブ「お手伝いに来てください」 (Our Club "Come over and help us.")	Eleanor Bairdsmith
May 1893	女性のガーデニング (Gardening for Girls)	H. R. Vernon
June 1893	自然のスケッチ (Sketching from Nature Part I.)	Elie Toulmin-Smith
July 1893	自然のスケッチ2 多色 (Sketching from Nature Part II. Colour.)	Elie Toulmin-Smith
Aug. 1893	掲載なし	なし
Sep. 1893	女性だけの家族 (A Family of Misses.)	Mrs. Barbauld

この一覧を見ていて気づくことは、年を経るに従って「モリフクロウ」のテーマが、読者から賛成や反対の出にくいおとなしいものになっているという傾向である。「料理」や「絵画」, 「余暇活動としてのゴルフ」, 「火星」や「ガーデニング」では、読者から将来の自分の生き方を見据えた活発な意見を期待することはできないのであろう。

それゆえ、「モリフクロウ」のテーマが次第に、趣味や家庭生活を題材とするようになると同時に、「アタランタ手紙靴」も、「新規のアタランタ定期購読者を多く紹介した読者への賞」(May 1893)や「アタランタ奨学金と読書クラブ」の「優秀者リスト」(June 1893)というように、ありきたりな記事を載せるようになった。¹⁴⁵ この

¹⁴⁵ このことは、編集者が、ミード一人になったり、新しい人物が加わったりした事と関係がある可能性がある。6年目の「モリフクロウ」のテーマのみならず、『アタランタ』が全体的におとなしい内容になり、活発に意見を述べる読者の姿が見えなくなったのは、2人体制となった編集室の方針なのかもしれない。ちなみに、翌年の7年目には、ミードは編集者を辞している。

コーナーが発足した当初の、読者の熱い意見を載せることはなくなってしまったのである。3年目の R. K. ダグラス の「忘れ去られた気品」(Apr. 1890) や、A. J. チャーチ教授による「教育」(Dec. 1889)と4年目の「若い女性の本棚」(Apr. 1891) などに対しては、「アタランタ手紙靴」の中で読者からの活発な意見が多く載せられていた。

そこで、次の2節と3節では、1例として、チャーチ教授の書いた「教育」や「若い女性の本棚」に関する意見について、読者がどのような感想を持ったのかを見てみよう。チャーチ教授は、何年間も奨学金コンクールの審査員を務めたり、多くの記事を書いたりするなど、『アタランタ』では重要な執筆者の1人である。

第2節 チャーチ教授の「教育」と読者の意見

1889年12月号におけるチャーチ教授の「教育」(Education)に関する意見を要約す

下に、ATALANTA 1年目から6年目までの編集者と出版社のリストとその年度の特徴をあげてみる。

年度	編集者	出版社とその住所
1. Oct.1887~Sep. 1888	L. T. Meade Alicia A. Leith	Hatchards' Piccadilly
(特徴) 『アタランタ』の創刊。前身'Every Girl's Magazine'の編集者 Alicia A. Leith に、L. T. Meade が加わる。		
2. Oct.1888~Sep. 1889	L. T. Meade John C. Staples	Hatchards' Piccadilly
(特徴) 「アタランタ芸術分野の奨学金と懸賞」として月ごとに、人物画と風景画のお題が出る。(絵画に造詣の深い編集者 John C. Staples の影響か?)		
3. Oct.1889~Sep. 1890	L. T. Meade John C. Staples	Trischler & Co. 18 New Bridge Street E. C.
(特徴) 出版社の変更、「アタランタ芸術分野の奨学金と懸賞」の取りやめ、「モリフクロウ」や「アタランタ手紙靴」の開始		
4. Oct.1890~Sep. 1891	L. T. Meade	Trischler & Co. 18 New Bridge Street E. C.
(特徴) 編集者が、L. T. Meade 一人になった。		
5. Oct.1891~Sep. 1892	L. T. Meade	"ATALANTA" Office 5A, Paternoster Row.
(特徴) 出版社が「アタランタ・オフィス」となり、移転。		
6. Oct.1892~Sep. 1893	L. T. Meade A. B. Symington, M. A.	"ATALANTA" Office 5A, Paternoster Row.
(特徴) 編集者に A. B. Symington が加わった。		

ると次のようになる。

実務のための商業教育と科学教育が 英国文化の破滅を招く手ごわい敵であり、文学を駆逐してしまいそうな勢いであると危惧している。自然の研究は、人間の偉大さの概念を減少させる傾向がある。熱帯の地域のように、人間が自然に支配されていると精神的、道徳的な力が弱められるのである。

ダーウィンも若い頃は、詩に熱狂したが、年を取ると自然観察に没頭して、一篇の詩さえも読みたくなかったと書いている。この先、人間性の影響を受けずに成長した人間が増加することは嘆かわしいことである。

そこで女性には、伝統的な文学教育を期待する。英文学により心を涵養し、英国文化を低下させないためである。理系の才のある女性には、薬学、化学、内科医などを勧める。これらは、女性的な知力という天賦の才によって発展するだろう。

産業革命を経てイギリスは、様々な技術革新が進むことによって、大きく進歩してきた。科学の進歩が生活を向上させ、人々の目に見える形で恩恵を与えてきたのである。科学を重視する機運が盛り上がってきたことが、ラテン語やギリシャ語などの古典教育を支えてきたチャーチ教授に危機感を抱かせた。実生活との結びつきが希薄なこれらの古典教育が軽視される風潮を嘆き、文学者が商業の世界でも役立てられるようにフランス語やイタリア語、ドイツ語、英語を教育の基礎に据えるべきだと教育変革の必要性を唱え、文学教育は女性に委ねたいとチャーチ教授は考えている。

この文章の最後では、編集者のミードが次のようにコメントし、この論を読んだ読者からの活発な意見を求めている。

この論に対する皆様のご意見をお待ちしています。手紙やご意見は 12 月 20 日までに「モリフクロウ」と明記の上、編集者までお送りください。¹⁴⁶

これに対して 1890 年 2 月号の「アタランタ手紙鞆」では、5 人の読者の意見が掲載されている。以下の表は、各人の意見を抜粋、要約したものである。

筆名	主張
1. L. A. M.	ダーウィンの例に対して、プラトン、ロジャー・ベーコン、ゲーテの性格は科学によって損なわれたことはないと例を挙げて反論する。むしろ芸術家や詩人、画家、音楽家が官能主義に溺れて、悪の道へと走ったのではないのか。

¹⁴⁶ This paper invites discussion. All letters or remarks must reach the Editor not later than December 20, and must have the words "Brown Owl" on the cover. (*Atalanta*, Dec. 1889; p. 214.)

	<p>男性が肉体的, 精神的に弱くなり, 女性が肉体的, 精神的に強くなるのであれば, それこそが, 究極の平等に近づくと言えるのではないだろうか。高等な種族ほど, 性の差異はほとんどなくなってしまうものである。</p>
2. AMELIA	<p>体のある器官を使わないでいくと退化するように, 持っている才能を無視すると同じ事が起こるのではないか。知的欲求や金儲けばかり考えて行動していると, 芸術を鑑賞する能力が衰えてしまうと思う。それゆえ, それらを追及するのは, 審美眼や芸術を賞賛する能力を衰えさせない程度に限るべきである。</p> <p>純粹に科学を研究することが, 芸術の鑑賞能力の破壊であるならば, 逆もまた然りである。文学が科学的興味を失わせてしまう。男性が文学領域に興味を失ったことは女性にとって好都合である。というのも科学的才能に恵まれた女性は, 今や心に注目し始めたからだ。知的に上昇しようとするなら, 文学は手ごろな梯子である。</p>
3. Blackbird	<p>ティンダルやプロクター, チャールズ・キングズリーは, 科学が詩や想像力なしでは存在しないことを証明したのではなかったか。科学的発見は, それらの芽から生まれるのではないのか。自然に比べると人間は取るに足りないものであるが, 知識は自分一人の所有物にとどまらず, 時間と空間の壁を飛び越える。その喜びを感じた時, 人間の重要性に気づき, 神の存在を意識させてくれるのである。</p>
4. Alice	<p>古典文学の授業が, 男子校で消えつつあるのに, 同じ古典教育を女子は受けなければいけないのでしょうか。古典が金儲けに役立たないのなら, なぜ男性が見放した古典の教育を女性が受けねばならないのですか。古典を忘却の彼方に送ってしまわないためでしょうか。</p>
5. Katharine Bathurst	<p>チャーチ教授の科学教育の矮小化には賛成できません。アーノルドの論では, 熱帯の自然が芸術的才能を発達させ, 精神機能を促進させると述べられています。ダーウィンは, 1つの分野にだけ秀でた才能を持っていました。その才能に, 人々は多大な恩恵を受けたのです。古典教育には結果が伴いません。その上, 男性は職業のために学ぶが, 女性は知識のためだけに学ぶのです。肉体的に強いものが, 精神的にも強いというのが本当なら, 女性が肉体的に弱いというのはこれまでずっと知的活動が欠落していたからに他ならないのではないのでしょうか。精神力が肉体に勝るといふのなら, これこそが精神の究極の勝利ということになりはしませんか。</p>

147

ここにあるどの手紙からも, 読者たちが科学とヒューマニティは共存可能であると
考え, 科学一辺倒でも文学至上主義でもない柔軟な考え方をしている局面がうかがえ

¹⁴⁷ 以上5人の意見については, Feb. 1890, 「アタランタ手紙靴」 p. 341 参照。

る。権威ある大学教授の意見に関しても、そのまま素直に受け入れるのではなく、例を挙げ、説得性をもたせながら持論を展開して行く力強さを感じさせる。

読者の中には、「女余り」を深刻にとらえる者、そうでない者など様々な考え方、立場の者がいるであろうし、編集者が誌面に採用した意見がすべての読者のものであるとは限らない。しかしこれらの意見からは、編集者ミードが、誌面を割くべき価値があると判断した女性像の一端がうかがえるのである。

第3節 チャーチ教授の「若い女性のための本棚」と読者の意見

1891年4月号における「若い女性のための本棚」(A Girl's Library)の中でチャーチ教授は、自分が考える女性の本棚に並べたい理想的な本を挙げている。そこには、神学書、歴史書(ローマ、ギリシャ、イギリス、インドなどの)、伝記(マコーレー卿他)、これまで『アタランタ』に登場した詩人、エッセイスト、小説家などのおすすりめ本が載せられている。しかし、サッカレーの書いた作品は、女性には30歳になるまで読書をさせたくない、と述べている。この文章の最後に、編集者のミードは、チャーチ教授の「教育」の回と同じように、彼の「若い女性のための本棚」に対して読者を議論に誘うコメントを書き、後の「モリフクロウ」が、チャーチ教授の論に触発された読者からの活発な意見の交換の場となることを期待している。

次号の『アタランタ』5月号でミードは、「チャーチ教授の選んだ『女性の本棚のための本』にいくつかの反論が寄せられました。今時の女性の選択はそうではないと。そこで、25歳以下の女性で、本棚に並べるべき最良の本50冊を自分で選びたいと思う方は、そのリストをお送りください。5月10日必着。6月号には、その中から編集者がベストだと思う4人のリストを掲載したいと思います」¹⁴⁸と述べ、この話題に関して意見だけではなく、自分が本棚に並べて手元に置きたいと思う本を、具体的に50冊選び出して編集室まで知らせてくれるように読者を促すのである。

それを受け、1891年6月号の「モリフクロウ」でミードは、次のように述べ、この議論が実りあるものであったことを明らかにしている。

多くの女性が「女性のための本棚」の本のリストを送ってくれました。ほとんどが素晴らしい選択でした。中でもとても面白いと思えるリストがあったので、ここに紹介します。

それでは、投書女性達が、自分が理想的であると考えた図書50冊をリストアップした手紙を抜粋ではあるが、見てみよう。

筆名	内容
----	----

¹⁴⁸ May 1891, 「モリフクロウ」; p. 542.

1. Bookworm	500~600冊の本を所有している。 (リストアップ) 聖書に関するもの、歴史書、ベーコンのエッセイ、『胡麻と百合』、『高慢と偏見』、『虚栄の市』、『ジェイン・エア』、チョーサー、スペンサー、シェイクスピア、ブラウニング、『不思議の国のアリス』、『鏡の国のアリス』、『西へ向かえ』、チョーサーやテニソン、ロングフェローなどの詩、他。
2. Winifred Parnell	小説や歴史物は、図書館などで借りていつでも読むことができる。しかし、「詩集」に関しては、借りるなんてことは考えられない。詩人は生涯を通じての友人であり、詩は熟考し研究する対象であり、特別な時に読むものである。 (リストアップ) グラッドストーンのホーマー、イリアッド、『妖精の女王』、『天路歷程』、『ピープスの日記』、『イブリーナ』、ワーズワースの詩集、ゲーテの『ファウスト』、ブラウニング、『マダム・ダーブレの日記』、他。
3. Maud Pemberton	(リストアップ) マコーレーやベーコン、ラムのエッセイ、『不思議の国のアリス』、『鏡の国のアリス』、『西へ向かえ』、『水の子』、『アイバンホー』、『ジェイン・エア』、『デビッド・カパーフィールド』、詩人シェイクスピア、『アラビアン・ナイト』、コールリッジの『老水夫の歌』、他。
4. Katie Wragge	(リストアップ) 歴史書、科学書、マコーレーやベーコン、ラムのエッセイ、シェイクスピアやミルトン、ワーズワース、テニソン、ブラウニングの詩。『胡麻と百合』、『ガイ・マナリング』、『デビッド・カパーフィールド』、『西へ向かえ』、『フロス河の水車場』、他。

149

この表からは、当時の女性達がどのような書物を大切にしたいと思っていたかが読み取れる。4人の中で、3人までがキングズリーの海洋冒険小説『西へ向かえ』を挙げていることと、1人はチャーチ教授のアドバイスに反論するように、サッカレーの『虚栄の市』を挙げていることなどが特徴的である。

また、この中で2人が『ジェイン・エア』を候補に挙げていることは、注目に値する。これは、キングズリーの『西へ向かえ』を4人中3人が挙げているのに続く高評価である。多くの読者が書き送った本棚のリストから、編集者が『ジェイン・エア』を含むリストを選んでいることは、この書物を読者に読んでほしいという編集者ミー

¹⁴⁹ June 1891, 「モリフクロウ」; pp. 605-06 参照。

ドの気持ちの表れであろう。

さらには、「小説は、図書館などで借りて読めるが、詩集を借りることなど考えられない。詩人は、人生を通しての友達であり、詩集は常に手元に置いておきたい」と力説する女性の姿は、ミードの少女小説の中にも同じような場面が描かれていることから理解できるように¹⁵⁰、詩を愛する女性の姿は、まさにこの時代の女性の姿である。女性達の心の中では、詩に対する思い入れがことのほか強かったことが読み取れる。そして詩人は、高尚な文学者としての地位を占めていたことが、事実として浮かび上がってくるのである。

また、同号の「アタランタ手紙靴」には、上記のように読者が選んだ「女性のための本棚」の本のリストの他、チャーチ教授の選択に対する意見や反論が多く載せられ、活発に持論を展開する女性達の生き生きとした姿が映し出されている。彼女らの意見や反論を抜粋・要約して引用する。

筆名	主張
1. Nellie Maclagan	<p>なぜ、サッカレーは、30歳になってから読むべきなのですか。30歳の根拠は何ですか。『薔薇と指輪』もだめなのでしょうか。ならば、『パンチ』の古い巻も同様のはずです。私にとっては、サッカレーの文学は人生の師でした。</p> <p>「若い女性のための本棚」は、騒ぎすぎです。「若い男性のための本棚」と相違が無ければいけないのでしょうか。個人個人で好きなように本をそろえればいいのではないのでしょうか。</p>
2. “turquoise”	<p>わが友サッカレーのために反論したい。彼の作品で傷つくのは、あまりに弱々しい心の持ち主だけである。私は、ウィーダ¹⁵¹の書いた本は決して読まないが、「虚栄の市」は、10代で読み、それ以来何度も読み返している。正しい心の持ち主なら、彼の書物によって害されることはない。悪いものに対する知識は、良いものに対する知識から生まれる。</p> <p>私たち女性は温室育ちの植物のようにひよわではない。サッカレーの作品に描かれている優しい冷笑よりも、ひどいものに現実で出会わない限り、傷つくことはないのである。騎士道精神を持った男性は女性を大切に扱い、守り育てがちであるが、それは間違っている。私たちは蜂にならなければならない。どこに蜜があるか動き回って、自分で見つけねばならない。</p> <p>私は女性には、読書せよ、学習せよ、才能を磨けと言いたい。無価値な本を避け、良い本を見つけることを学んでほしい。</p>

¹⁵⁰ 『少女たちの世界』p. 99 参照。

¹⁵¹ Ouida というのは、マリー・ルイーゼ・デ・ラ・ラメーの筆名。『フランダースの犬』(1872)を書いた英国の小説家。

3. “Blackbird”	素晴らしい本は、男女に関わらず、どの国でも、また、時がたっても読まれます。本の取捨選択は本人の良識に任せるべきです。
4. G. E. E.	私のようにチャーチ教授の選んだ本が高くて買えない人は、廉価版や <i>National Library</i> が役に立ちます。3ペンスで、エッセイや詩、物語、旅行の本、説教書などが手に入ります。 イギリス文学は、美しい想像力、健全で正直な主義主張をはぐくんでくれ、私の聡明な相談役として、常に満足と誇りを持って頼りにしています。古典文学には、今日の多くの書物のように、不健全で自意識過剰なものではなく、女性が読むのに不十分なものは存在しません。

152

これらの手紙全体から透けて見える女性の姿は、守られるべき、傷つきやすい女性ではない。教養ある男性から押し付けられた推薦図書ではなく、自分が読み、判断し、良い本かそうでないかを決定する、つまり、意志を持ち誇り高く能動的な人生を送って行きたいと考える前向きな女性の姿である。

以上が、「教育」と「若い女性のための本棚」という2つのテーマで、チャーチ教授が述べた意見と読者からの反論である。そのどちらにも、当時の女性達の自信に満ちた主張があふれている。おそらく、「教育」のことや「読むべき本」のことなど、テーマに取り上げられなければ、読者の意識に上ることもなく、手紙を書いて反論しようという行動にならなかったであろう。「モリフクロウ」で展開された1つの論が触媒となって、読者の心の中に無意識のうちに形成されていた、何を学ぶべきか、どういふ本を読むべきかという自分なりの意見と、女性であるという自覚が結びついた時、チャーチ教授の論と持論との差異に目が向けられたのである。

ただし、惜しむらくは、これらの論争が、大学教授を引退した老年男性と25歳以下の若い女性達という、年齢の上ではかなりの差がある二者の論を展開することのみに終わってしまったということである。ジェネレーション・ギャップと性差が、浮き彫りになったやや皮相的な論議になっているという感が否めない。

たしかに『アタランタ』は、若い未婚の女性向けの雑誌である。しかしそこに、読者層である若い女性と権威ある執筆者たちといった二者以外の姿はなかなか見えない。これまで経験したことのない「女余り」に直面しているとはいえ、女性達がこれから目指すべき理想の姿を示すためには、もっとあらゆる年代の意見、性を超えた意見を聞くべきではなかったか。編集者ミードは、このような議論をもっと多角的な側面からとらえ、女性達にとって今最も必要な自立して生きる力をつけるための知識とか意見形成の契機となるきっかけを「モリフクロウ」として提供するのであれば、意見をさらに掘り下げ、異なった年齢層や立場からの意見を取り上げるべきであろう。そう

¹⁵² May 1891, 「アタランタ手紙靴」; p. 607 参照。

することで、はるかに中身の濃い、有意義な論争になったのではないかと思われてならない。

第7章 『アタランタ』にみられる日本

雑誌『アタランタ』の中には、日本に関する記事がいくつか確認できる。当時のイギリスは、鎖国を解き近代化を推し進めようとしていた日本に大きな関心を寄せていたことが見て取れる。そこで、この章では『アタランタ』の記事にみられる日本を取り上げる。英国人女性と日本人女性との触れ合いを描いた2作品と、「モリフクロウ」に掲載された日本人の手紙から、当時の日本の様子や女子教育に関する考え方を探りたい。

第1節 イトウ・ウタ (O-WUTA-SAN.)

『オウタサン』は、1890年6月号から7月号にかけて掲載された作品で、この著者はサラ・ジャネット・ダンカンである。この物語の主人公は在日イギリス人女性で、彼女の目から見た日本女性の様子や印象が、ユーモアと繊細さをもって描写されている。

ここに描かれているのは、礼儀作法や生け花、芸事、詩歌などの日本文化の素養がある「歌」¹⁵³という名の富裕層に属する若い未婚の日本女性である。彼女の兄はマツオという名で、英国留学を終えて帰国したばかりの人物である。本文で彼は、「日本人の人々の生活環境を、発展という近代的な考え方に沿って組織するのに熱心な若い紳士階級の一人」¹⁵⁴と表現されていることから分かるように、日本の近代化を望んで活動している。彼は、近代化のためには欧米を見習う必要があると考えている。マツオは友人である主人公に妹ウタを紹介する時、「土着の洗練されていない女性」と表現している点からみて、妹が修めてきた日本文化の素養には重きを置いていないことがわかる。当時の日本は、欧米に比べて、経済的、技術的に劣っていると考えられていた。そのことが、文化的に劣っているという考え方につながり、英語をしゃべれない事やナイフ・フォークを使えない事が、マツオの「妹は進歩的でない」という断定的口調になって表れている。

その日主人公は、菊まつりという極めて日本的な文化の中に身を置いていた。そこには、すべてがミニチュアで、芸術的で非現実的な雰囲気があふれていた。その場所に、素晴らしい着物を着て、白やピンクで化粧し、飾りたてた歌が現れた。主人公は、この日本女性が、何度も何度も日本のお辞儀をすることに対して「新たな発見」「感

¹⁵³ 引用はすべて以下のテキストに従い、本文引用末尾にページ数を記載する。Atalanta June 1890; p. 576 で、自分の名前である「ウタ」は「歌」(song)を表すのだと明らかにしている。

¹⁵⁴ p. 574.

動」を覚える。そしてすべてが一体となった日本の美を感じ取るのである。また、主人公は、この時の歌のことを「私のリアルな夢の極み (climax)」(p. 574) と表現し、「私はどうしようもないほどオウタサンが好きになった」(p. 575) と記している。

その後主人公は、歌が父親の意向により、翌週から徹底した外国の教育を受ける予定になっていることを耳にする。そして彼女は、漠然とではあるが、それが歌の人生にどのような変化をもたらすかについて不安を抱く。しかもその話は、歌自身が語るものではなく、兄をして主人公に語らせるものである。そこには、歌の意志は全く認められない。おそらく兄の進言もあったかもしれないが、外国の教育を受けさせることを決定したのは父親である。それまで培ってきた日本の文化的素養をあっさり捨てて、英会話やピアノ、洋服の着方などの教育を受けることに、歌自身は何の異も唱えなかったのであろうか。この後の歌の生活の様子からわかるとおり、彼女は家長の命じた通りの生き方を従容として受け入れ、懸命に努力をする。

彼女の生活態度は、あたかもこれまでずっと和服を着て、日本髪を結び、日本的な風景をバックに置かれていたマネキン人形が、客にさらにアピールするようにと、1日で洋風の衣装や髪型に変えられ、外国的な風景をバックに置かれているのと同じである。オウタサンは、良くできたマネキン人形のような存在で、人々に可愛がられ、大事にされている。

主人公は、歌が赤ん坊の時から諦めと満足の雰囲気の中で育ってきていることを知る。この日本女性は、自己主張することなく、甘やかされ、子守りの背中でなだめられて成長してきた。主人公は、歌の人生について次のように述べている。

たぶんこの結果彼女は、めったに声を上げて叫ぶことはなく、微笑みながら、人生の不運に耐えるのも悪くないという考え方を次第に受け入れるようになる。その考え方は日本では、標準的な考え方である。(p. 576)

その後主人公は、グランド・ピアノを前に痛ましいほど熱心に練習をする歌と再会する。彼女のいでたちは、西洋風の化粧と髪型をし、洋装であった。歌は、英会話の力が上達し、主人公に、ダンスを習い、テーブル・マナーも学んでいると英語で説明する。兄のマツオは、初めて妹を紹介してくれた時より、ずっと妹を誇りに思っている。これに対して主人公は、歌の洋服について、「ちっとも似合っていない」とし、彼女が作ったペーパー・フラワーのバラの花束に「ひどく醜いバラの造花」(hideous paper roses) という印象を持つ。¹⁵⁵

初めて会った時の和服を着ていた歌の歩き方を、主人公は「ちょこちょこ歩き」と表現する。堂々と大股で歩く洋服姿の欧米人とは異なり、和服を着た日本女性は、膝から上をあまり動かさないで歩く。この歩き方が主人公の言う「ちょこちょこ歩き」

¹⁵⁵ p. 604 参照。

という表現になったのであろう。ピアノから離れた歌は、「あいかわらずちょこちょこ歩きをしていた」(p. 604)と主人公は表現している。外見はすべて西洋風になったとしても、マネキン人形とは異なり、内面はすぐに変えられるものではない。動作やしぐさと外見のアンバランスに、主人公は、「似合わない」という印象を受けたに違いない。ペーパー・フラワーのバラの花束にしても、歌が作ったのは、ただ教えられたとおりに忠実に再現した模型のようなもので、彼女の花に対する愛情とか、バラの花の持つ可憐さをペーパー・フラワーで残したいという熱意や意欲は感じられなかったのであろう。

同じ場面で主人公は、歌が日本語版の「ホーム・スイート・ホーム」を歌うのを聞く。その曲を聴いた感想は、当時の日本が西洋文化のみを重視する傾向を持つことへの辛辣な批判ともなっている。

もしあなたが、この曲の持つ神聖ともいえるほどの表現を完全に剥ぎ取り、音の高低に不慣れな、痩せたかぼそい外国人の声で、正確に歌われるのを想像できるならば、それこそが、オウタサンの身につけた新しい教養を理解したことになるのです。(p. 604)

この話の中で、主人公は、ピエール・ロチ (Pierre Loti; 1850—1923) について言及している。フランス人のロチも同時期に日本を訪れ、様々な出来事を手記に残している。日本に訪れた急激な近代化という名の欧米化を、鹿鳴館で催された最初のヨーロッパ式舞踏会を引き合いに出して、次のように述べている。

命令は上からやってきた。天皇の布告は、宮廷の夫人たちに、ヨーロッパの姉妹たちと同じ服装をすることを命じた。人々は熱に浮かされたように生地を、型を、仕立屋を、できあいの帽子をとり寄せた。(中略) 古い儀式や千年来のしきたりの中に因習化したように見えたこの世界が、その神秘的な不易性を一日でかなぐり捨てたのである。¹⁵⁶

ロチは、しばらくの間ではあったが、長崎で菊という女性と結婚し、日本女性について間近で観察してきた人物である。彼は、長い伝統のある自国の文化をあっさりと捨て、西洋風に変える日本を理解できない。そして、西洋化を推し進める風潮に対して懐疑的になり、「我々を煙に巻く芝居のあと、彼女達はきっと、ヨーロッパ風の新御殿を見捨てて伝統的な日本家屋に行き畳の上でうづくまるのであろう。そして自分

¹⁵⁶ 船岡末利編訳 『ロチのニッポン日記——お菊さんとの奇妙な生活』有隣堂、1979年、177-79ページ。

自身を取り戻す。——そこらあたりのことは、我々にはもうなんにも分からない¹⁵⁷ と述べ、東洋から西洋へと何の執着もなく移行する日本は、必要ならば、また西洋文化にとどまることはなく、東洋文化に戻ってしまうのではないかと考えている。

歌は、封建的な家父長制度における理想的な日本女性の美德、すなわち、従順でなくてはいけないとか、両親には素直でなくてはいけないとか、兄には礼儀正しくあるべきなどの儒教的な教えの枠の中にとどまり続け、自己を確立することや、自我を主張することなど夢にも考えていない。これに対し西洋文化の根本には、個人の尊重がある。自己を確立できない彼女の態度とは相いれない西洋の文化を身にまとい、学んだとしても、彼女の内と外にアンバランスが生じるのは否めない。

主人公は、オウタサンもマツオサン同様に近代的な考えに適応してしまったのだ、と書き、自分は、この「近代化」を嫌い、あの菊まつりの古風で小柄な着物姿を懐かしく思い出す、と述べている。¹⁵⁸ 主人公は、書き出しの所で「リアルな夢の極み」という言葉を使ったが、この「極み」の後には降下しかないと見越していたのだ。日本文化の「極み」であった歌にとって、英語や西洋文化を学ぶことは所詮、本質を無視した模倣でしかなく、「極み」を超えることは不可能であった。

第2節 カミ (*My Japanese Handmaiden*)

この『私の日本人小間使い』は、1892年1月号に掲載された。著者は、ルイス・ロイドである。主人公である英国人女性と主従関係にある日本人小間使いを描いた作品である。小間使いのカミは、英語を学びたいという熱意のある少女である。

主人公は、当時の一般的な日本人が英語に強い関心を持っていたことを次のように述べている。

私たちの言葉は、日本人には説明のつかない魅力を持っているようで、日本人は、イギリス人同士が話をしていると、常に後ろからくっついてきて、他では受けることのできない英語レッスンを受けるのだと聞いたことを思い出した。¹⁵⁹

その一人であったカミは、主人公の家に6番目の使用人として雇われることになる。彼女は英語を「アメリカ」と呼び、それを学ぶことに熱心である。主人公は、この熱心さを理解し、アングロ・サクソンの女性が、外国に行って外国語を学ぶ際の行動の手本となるだろうとまで述べている。

『オウタサン』で描かれた女性、歌は裕福な家庭環境にいるが、自分の意志を持たず、言われるままに行動し、英会話や、マナーや服装など、洗練された欧米の文化を

¹⁵⁷ 船岡 ; 179-80 ページ 参照。

¹⁵⁸ p. 604 参照。

¹⁵⁹ 引用はすべて以下のテキストに従い、本文引用末尾にページ数を記載する。 *Atalanta* Jan.1892; p. 200.

取り入れた女性,すなわち父親や兄が望む通りの女性になるべく努力していた。一方,ここで描かれるカミは,階級としてははるかに低い労働者ではあるものの,自分の意志を持ち,英語を学ぶため,外国人の家庭に使用人として入りたいと思う。そのために自ら手はずを整えるといった行動力にあふれる女性として描かれている。オウタサンよりは,はるかに上昇志向が強く,著者も「特徴的な強情さ」(p. 202)と述べるほどの強い意志を持っている。¹⁶⁰

ただ,その「度を越えたほどの英語熱」(acute form of Anglomania; p. 201)から,使用人としての立場を忘れ,雇い主を困惑させることもある。しかしなぜ,そのようなカミを解雇しなかったかについて,雇い主である主人公は,「彼女の目の中に神が微笑みかけ,その微笑みそのまま留まっている。彼女は,大公妃のような威厳と子供のようなかわいらしさを持ち合わせている」(p. 201)と述べ,彼女の中に存在する神秘性や神道という宗教に根差したつましい生き方から感銘を受けている。また,「私たち(we)は彼女の魅力に大変ひきつけられていた」(p. 200)と述べた場面からは,カミという人物に,主人公のみならず,周りの人たちも魅力を感じていたことが理解される。さらには,彼女の動きの美しさや行動の中から読み取れる彼女の生き方に対して,次のように尊敬に似た感情さえ抱いている。

彼女の奉仕の中にあるのは,終わらせるべき義務ではなく,行われるべき儀式である。どのようにして人生を楽しんでいるのかはわからないが,一度だけ彼女が,人力車の車夫にとっても丁寧なお辞儀をしているのを見て驚いたことがある。(p. 201)

キリスト教と本質的に異なり,すべてのものに神が宿ると考える神道の影響で,カミの動作の一つ一つが,主人公にとっては新鮮で,意味深いものとして映る。彼女は,主人公のところに毎夕,英語のレッスンを受けにやってくる。主人公は,このレッスンにより,カミの真摯でつましい熱意を通して,日本特有の神道について学ぶこととなる。教えてくれたことに対して,丁寧にお礼を述べ,大事そうに新聞紙の余白を破り取ったものには書き込む。その動作が,主人公の心に強い印象を残す。

歌は,英会話を習う傍ら,辞書と文法書の手助けを借りながら,ウォルター・スコットを読んでいると語っている。これに対し,カミは体系的な学問としての英語には全く興味がない。また,アルファベットを覚えることはいっさいしない。ただ耳から

¹⁶⁰ 毎日2度は風呂に入ると描写される歌は,富裕層の人間であり,上流階級に属している可能性があるのに対し,カミは労働者階級に属している。もし,カミがその貪欲なほどの知識欲や上昇志向で努力し,もっと知的な職業に就いたならば,下層中流階級に社会階層を上ることもありうる。

聞いた言葉を、そのまま墨筆を使い日本の文字で、縦書きに書き写していく。この2人の女性の英語の学び方の違いは、日本の階級差を反映しているものの、最後に主人公に与えた印象に関しては、その両者間に雲泥の差がある。

この作品の書き出しの所で、主人公は、日本に対して、特徴的な表現を使用している。それは、「文化の発達した国からごく最近到着したばかり」(I had arrived too recently from civilized countries; p. 200) という言葉や、日本を指して「すべてが遅れている国」

(a country where everything was done backwards; p. 200) という表現である。日本は、欧米諸国に比べて社会的、文化的に遅れた国であると考えていることが分かる。

しかしその後、このような主人公の認識に変化が生じたことが読み取れる場面がある。それは、イギリスへの帰国の途に就く主人公の心情が語られる場面である。イギリスへ帰る主人公を喜ばせようと内緒でカミは、荷造りをする。長靴は帽子箱に入っていて、帽子はショールの革紐入れに、イブニング・ドレスは骨董品棚の一番下に、といった具合に、まったくちぐはぐな詰め方である。このことはやはり、オウタサンの階級とは異なり、カミは文化的に遅れた日本人という印象を与える。しかしそれにもかかわらず、主人公は、その優しさや礼儀正しさに強く印象付けられる。また、その強い気持ちから、ごたまぜの荷物を詰めなおすことができないままに、東京から横浜まで旅をするのである。前節のオウタサンと主人公の間には交わされなかった心の交流が、カミとこの主人公の間にみられたことが、この場面から読み取れる。

カミと離れていくことが、「とても貴重な珍しい品物を手放すような感じがした」と表現していることや、「カミのことを神秘的である、と感じたことを後悔しなかった」と述べていることは、作品の最初に描かれた日本の印象とは対照的である。主人公の心の中にカミや日本という国に対して、感謝や尊敬の気持ちが生じたことが読み取れる。

最後に、カミの中に神秘性を見出したことに後悔はしなかったという、この作品における主人公の印象は、日本そのものへの印象に他ならない。この印象は、歌のけなげな変容ぶりが、日本の急速な欧米化を象徴し、その本質を無視したうわべの模倣が、主人公にやるせなさを感じさせたのとは対照的であると言わねばならない。

これまで第3章で取り上げてきた2作品はどちらも、イギリス人作家が日本人との交流を、イギリス人の視点から描いた作品であった。2人の日本人女性は、実在の人物であるとは言い切れず、作家自身による日本での体験に基づく虚構であるという可能性もあると思われる。

これに対し次の節では、実在の日本人女性を取り上げる。彼女が実際『アタランタ』に投書し、掲載された手紙について検証する。そこからは、イギリス人の目のフィルターを通さない、ありのままで生き生きとした日本のアタランタ像が浮かび上がってくる。

第3節 日本のアタランタとしての福澤滝

第5章では、『アタランタ』の内容から「モリフクロウ」と「アタランタ手紙靴」を取り上げた。「モリフクロウ」では、1つのテーマに沿って担当執筆者が意見を述べる。そして、それを読んだ読者が自分の感想を手紙に書き、2か月後の「アタランタ手紙靴」にそれが紹介されるというものであった。それゆえ、「モリフクロウ」と「アタランタ手紙靴」は、読者の声を反映することができ、『アタランタ』の中でも、読者の関心が高い記事であるということが言えよう。

その「モリフクロウ」の内容は、テーマに沿って述べられた意見だけではなく、様々な国に住む女性が生活の様子を知らせたり、編集者ミードが、おすすめ本を紹介したりと工夫をこらしたつくりになっている。この節では、「モリフクロウ」に取り上げられた日本人女性の投書をもとに検証を加え、当時の日本人アタランタ¹⁶¹の人物像を探る。

1892年6月号の「モリフクロウ」で編集者のミードは、「ベルギーでの女性の生活」(A Girl-life in Belgium)と並んで、東京に住む女性 タキ・フクザワ (Taki Fukuzawa)の投書を取り上げ、「日本人の独身女性の生活」(Japanese Girl-life)を紹介している。¹⁶² この文章は、正確で流暢な英語で書かれていて、編集者のミードは原文をそのまま載せていると記し、次のようにその投書を紹介している。

東京から、日本での独身女性の生活についての手紙を受け取りました。その内容の正確さは保証いたします。筆者は若い日本人女性で、文面は原文のままです。

そして、タキによる「日本の独身女性の生活」の説明が始まる。書かれた日付は、*July 20, 1891.* とあり、『アタランタ』に掲載される1年近く前に書かれたものであることが分かる。そこにはまず、未婚の日本女性の生活は過渡期にあり、自由を満喫できる人生へと変化しつつあることが述べられている。それゆえ、女性の生活には一律の基準が存在しない事や、教育についても基準が無く、「寄宿学校に通う人もいれば、個人で雇ったプライベート・ティーチャーに教育を受ける人もいる」と、それぞれの家庭状況に応じたやり方で教育を受けていることが述べられている。その後の説明は、当時の女子教育に対する一般的な考え方を反映していて興味深い。

しかし、どちらの教育を受ける人も、英会話を習います。寄宿学校生を除いては、授業の大半を音楽と裁縫が占めます。(p. 560)

¹⁶¹ 初めに見てきたとおり、この雑誌『アタランタ』は、若き女狩人のごとき「アタランタ(読者たち)に大きな期待を寄せるつくりとなっている。それゆえ日本において、『アタランタ』を読み、投書を寄せたこの女性は、日本のアタランタであると言えよう。

¹⁶² *Atalanta*, June 1892, p. 560.

約 20 年前までは、女子教育はとても軽んじられていました。女性にとって教育は全く無駄なものとされていたのです。それゆえ教育は、女性の人生の中で大きく変化したものの一つです。(p. 560)

その後、教育を修了した女性は、どのような生活を送るかとか、どのようにして結婚相手を見つけるのかなどが書かれている。ヨーロッパの女性と異なり、日本では未婚の男女が知り合う機会が少ないので、娘が適齢期に達したと判断した親が、自分の知り合いの中から娘にふさわしい相手を選ぶことや、もし娘が相手を気に入らなかつたら、両親には結婚を命令したり、説得したりする力は無いと述べる。次の求婚者を探し出し、前と同様に娘に尋ねる。そして、娘が同意する人物に巡り合うまでその手順が続けられる、と書き、それは娘自身が結婚相手を選ぶのと同じであり、ただ、親が娘にふさわしいと思う人物に限定し、娘がその中から選ぶというプロセスをたどると説明する。このことは、タキ自身やタキの親の人生観や物事に対する考え方を象徴している点において興味深い。

彼女は、締めくくりの言葉として、若者より年配の人間はいろいろな経験があり、物事に対する理解力も優れていることを指摘し、日本人女性の中でこの結婚相手の選び方に不満を持っている者はいないと記している。このタキの描く日本人女性の生活に関し、ミードは親の意見を信頼し尊重する日本人女性の考え方に理解を示し、イギリスの読者の中にも参考にして、みならうべき人もいるだろうと述べている。

この投書を『アタランタ』に送ったタキ・フクザワは、1876 年に福澤諭吉の 4 女として生まれた福澤滝である。『アタランタ』への投書については、当時の「時事新報」という日刊紙の記事に「日本女子の生活」として、掲載されているので、その記事を確認してみたい。記事の前書きには、次のように記されている。

左の一編は^{ロンドン}倫敦発行アタランタ雑誌中の一節を翻訳したるものなり此一節は福澤先生の令嬢たき子が英語作文の^{したた}課業に認めたるを教師の手により本国へ送りしものと見え右の雑誌に掲載せられたり末文雑誌記者の論評に日本女子に^{しんじ}心事の順良なる英女子をして之を学ばしめ利益ある可しとの一語は我教育社会に於て特に注意す可き所のものなり¹⁶³

このことから、滝は英作文の授業の一環としてこの手紙を書いたことがわかる。本

¹⁶³ 明治 25 年 (1892 年) 7 月 14 日, 第 3394 号

国とあることから、教師はイギリス人であること、日本の女子教育にあつては順良な心を持つことが大切であり、イギリス人の編集者もその部分を賞賛していることなどが読み取れる。「時事新報」は、父福澤諭吉が創刊した日刊紙である。このことは、次のように福澤諭吉の自伝の中に書かれている。

……「時事新報」という新聞紙を始めました。（中略）全国中にいささか独立の生計をなして、多少の文章思想もありながら、自分自身は政治上にも商売上にも野心がなくて、あたかも世間の外に超然としている者は、おこがましくも自分の他に適當の人物が少なからう、と心の中に自問自答して、ついに決心して新事業に着手したものが、すなわち時事新報です。¹⁶⁴

この日刊紙は、福澤諭吉の言葉どおり、中立な立場で政治を論じる新聞であり、当時高い評価を受けていた。滝は、『アタランテ』に掲載されたこの手紙を書いた時は、15歳ほどであった。その3年後の1894年に結婚し、姓を「志立」と改めている。ここに書かれた内容から彼女は、気が強くて才気にあふれ、英語が堪能な富裕層の若い女性であるという印象を受ける。自身のもとへ、父諭吉が結婚候補者の話を持ってきたのであろうか。その中で、自分が気に入った人物以外は結婚相手として考えない。それはあたかも、多くの結婚希望者の中、自分より足の速い男性と結婚すると公言したギリシャ神話の美しく足の速い女狩人アタランテの姿をほうふつとさせる。

いったい滝はどのような女性であったのだろうか。福澤研究センター通信には、次のように滝の人となり描かれ、行動力があり、力強く人生を歩む女性としての人生が看取される。

志立は、阪急東宝グループの創始者小林一三によれば、「小肥りで、血色のよい澁刺たる洋装の女性」で、明治20～30年代の慶応義塾の学生にとって憧れの的であった。大正年間には新しい女性の生活や生き方について『新女界』などに寄稿し、東京基督教女子青年会の創設に関わり、大正7(1918)年から昭和17(1942)年まで、その会長も務めた。晩年には、徳川無声や丸山真男と対談し父について語っている。昭和45年3月5日に亡くなった。¹⁶⁵

滝の父親であり教育者でもあった諭吉は、自著の中で子育てについて次のように述べている。父の、この考え方が、タキの人生や考え方に大きく影響を与えていたこと

¹⁶⁴ 福澤諭吉、斎藤孝編訳『現代語訳 福翁自伝』ちくま新書912、筑摩書房、2012年；241-42ページ。

¹⁶⁵ 福澤研究センター通信 第16号 2012年3月31日発行版。

は疑問の余地がない。

私に九人の子供があるが、その九人の中のどれを可愛がってどれを可愛がらないということは本当にちょいともない。四男五女の男の子と女の子と違いのあるわけもない。世間では男子が生まれるとたいそうめでたがり、女の子でも健康であればまずまずめでたいなんて、自然と差別があるようだが、こんな馬鹿げたことはない。女の子だったら何が悪いか。私は九人の子がみんな娘だって少しも残念と思わぬ。¹⁶⁶

滝の立場は、第1節で登場した歌の立場とまったく対照的である。『オウタサン』の主人公は、日本では、生まれたのが男子であるか女子であるかで周りの大人の対応に大きな違いがあることを指摘している。それは、歌の兄が生まれた時は、親族や友人が大きな鯛を下げてお祝いに駆けつけるが、歌の誕生には鯛はもたらされず、人々の心に愛情や関心と呼びおこしただけであった、という場面である。さらに主人公は、日本では女性は自己抑制を学び、意志表示をしないことが重要であるということを知る。そして、それを無意識の中で理解していく歌の様子を次のように描いているのである。次の引用は、第1節と重複するが、歌と滝の人生を比較する上で、重要であると考えるので、再度引用する。

たぶんこの結果彼女は、めったに声を上げて叫ぶことはなく、次第に、微笑みながら、人生の不運に耐えるのも悪くないという考え方を次第に受け入れるようになる。その考え方は、日本では標準的な考え方である。(p. 576)

女性でありながら意志をもたない人形のように育てられた歌と、女性でありながら男性と変わることなく育てられた滝の2人の人生は、あたかも19世紀のイギリスの上流階級の若い女性と、次第に力をつけてきた中流階級の若い女性との関係と同様に思えてならない。人形のように、家事を複数の召使に行わせ、嫁ぐ日までは父に従い、結婚後は夫に従う生活であった上流階級の女性と、「余った女」のあおりを受け、不本意ながらも人生の岐路に立たされ、自立を余儀なくされたことから、力強く社会進出への道を開いていった中流階級の女性の姿である。

滝は、手紙の中で述べている通り「今や日本女性の生活は、大きく変化しつつあります。つまり、閉じ込められた生活から、自由が満喫できる生活への変化です。標準というものが存在しない」(p. 560)という時代の過渡期にあって、その上進歩的な考え方を持つ父親の教育を受けた。そして彼女は、女性達の先頭に立ち、理想に向かっ

¹⁶⁶ 『現代語訳 福翁自伝』235-36 ページ。

て行動する人生を送った。これはまさしく、編集者としてミードが若い女性に求めた理想像と一致する。このような滝の姿は、様々なものが変化する時代にあって、父の薫陶を受け、教養を蓄え、自信を持って力強く進むアタランタの姿に他ならない。

これまで『アタランタ』に見られる日本人の女性3人の姿を見てきた。歌の姿には、イギリスの上流階級の女性のイメージを重ねることができる。同様にカミからは、貪欲なほどの学習意欲と上昇志向を持つ、労働者階級の女性の姿が見えてくる。そして滝には、『アタランタ』の読者層である中流階級の才気煥発な女性のイメージがある。

『アタランタ』に取り上げられた3人の日本人女性が、3つの階級を代表しているように感じられるのは偶然の一致であろうか。そして、この時代の牽引力となったのは、歌のような女性ではなく、物事に意欲的に取り組むカミに象徴される労働者階級とつながりの強い下層中流階級や、自信にあふれ実力を備えた滝に象徴される中層・上層中流階級の女性達であったことをしかと銘記しなくてはならない。

まとめ

第二部では、ミードの作品『少女たちの世界』の中での『ジェイン・エア』の描写から、ミードはこの時代を生きていく女性の模範を主人公ジェインの中に見出し、『少女たちの世界』の読者に『ジェイン・エア』を推薦する気持ちを持っていたのであろうという結論を得た。

『少女たちの世界』を出版した翌年ミードは、雑誌『アタランタ』の編集者に就任し、「女余り時代」を生きる読者の教育を念頭に置いて、この雑誌に様々な企画を盛り込んだ。すなわち、結婚に頼らず就職し自立した人生を送りたい女性のための就職ガイダンスである「女性の雇用」や、教養を身につけ文章力を強化したいと願う読者を対象として通信教育を盛り込んだ「アタランタ奨学金と読書クラブ」などである。この「アタランタ奨学金と読書クラブ」から奨学金を受けた読者が、研鑽をつみ4年後作家として再度『アタランタ』に登場したという事実からは、この雑誌が女子教育に貢献したことが裏付けられた。

さらに、「女性の雇用」は、リトグラファーや女医など、実際その仕事に従事している人々による職業紹介の記事である。この記事の検証から、編集者は単に仕事内容を紹介するだけでなく、就職を望む読者の意識を変えるように促す意図を持っていたことが判明した。それはすなわち、自活することが必要であるから世の中に出て働く、という理由だけではなく、労働のもう1つの側面、つまり自分の能力を活かすことが他の人のためになり、すばらしいことである、という面を強調した考え方である。これこそ、労働し賃金を稼ぐということを恥と感じ、ためらう中流階級の女性を呪縛から解放する言葉に他ならない。

また、「モリフクロウ」や「アタランタ手紙^{かばん}靴」では、読者の生の声が聞こえるよ

うに企画されていた。『アタランタ』に掲載された記事に関する活発な意見のやり取りが、「アタランタ手紙^{かばん} 靴」に掲載され、編集者には読者の意見形成を活性化させる意図があったのであろうという結論に達した。「モリフクロウ」には、日本を含む様々な国に住む読者からの「女性の生活の様子」や「女子教育」についての手紙が載せられており、『アタランタ』を読むことで、外国の女性の生活についての知識も得られるようになっていた。

さらに、『アタランタ』の中の日本人を物語の中心に据えた2作品を分析することによって、日本に対してイギリスが関心を寄せていたという事実が、この雑誌にも影響を与えていたことが見て取れた。

この雑誌の中での『ジェイン・エア』の評価については、「間違いなく後世にまで残る名作である。」(1889.3)という書評が載せられている。さらに、「若い女性が自分の本棚に置きたい本、50冊」(1891.5)の中で、編集者がベストだと思ふ4人の本のリストが掲載されているが、その中で2人が『ジェイン・エア』を挙げている。これは、キングスリーの『西へ向かえ』を4人中3人が挙げているのに続く高評価である。編集室には、多くの読者から本のリストが送られてきたが、この中から選ばれた4人の内の2人が『ジェイン・エア』を選んだという事実から、この本がヴィクトリア後期でも、高い評価と人気を受けていたことと、ミードがこの小説を読者に紹介したいという意図を持っていたことが明らかになった。

体面を気にして、ガヴァネスという低賃金で重労働、そして苦勞の多い職業に固執するよりも、自分に合った職業で自活する道を選び、快適な「個」として生きていくことがより賢明で、人生を謳歌できるというアドバイスが掲載されている。

それまで女性は、一個の人間として完全ではないという考え方があり、ガヴァネスにしても、専業主婦の「家庭の天使」にしても、常に集団の中の一構成員という扱いであった。しかし、「女余り」の時代を経験し変化が現れ、女性であっても「個人」を中心に置いた考え方が重要視されるようになってきたのである。ここで紹介されている職業も、集団に属さなくても技能さえあれば、1人でやっていける職業であることが理解される。このように女性を、不完全な弱い人間とみなすのではなく、完全な一個人であると認めるところから、女性の地位向上が進んでいった。

以上のことから第二部では、作家として、また雑誌編集者として、ミードの理想とした読者像は、『ジェイン・エア』の主人公の持つ美德や意志の強さを受け継ぎ、必要ならば集団を離れ「個」として立って行ける強靱な精神を持ち合わせている女性であることが明らかとなった。

結論

ヴィクトリア中期に出版され、大きな反響を呼んだ『ジェイン・エア』の主人公は、一切の外面的なメリット、例えば美貌、経済力、有力な縁故などを持たず、内面の美德だけが優れているヒロインとして設定された。そして自分一人の力で人生を切り開いていく強さも備えていた。内なるプライドを保ち、自分を厳しく律し神の御心に叶う道を探すジェインが、中流階級のモラルティを体現した姿となっていることが、この作品が色あせることなく、人々の心をひきつけた理由である。

ただ、非現実的で強引なプロットでハッピー・エンドを作り出さなければいけないほど、女性が自立して生きていくのは容易ではなかったことも理解される。またこの時代は、女性達が、次第に社会へと進出していく過渡期であり、価値観が少しずつ変化していく時期である。作品の中には、当時の女性が抱えていた鬱屈した気持ちと共に、おそらく作者ブロンテが抱えていたと推測される矛盾も、階級差、性差や人種に対する描写となって映し出されている。

しかし、ジェインの力強い生き方に多くの読者が共感し、人間が目指すべき1つの理想像として受け入れられたことは事実である。孤独なガヴァネスが、最終的に結婚相手を見つけ、従来通りの幸福を手に入れた。「家庭の天使」として家庭に入ったことで、ジェインの「個」としての志の高さが際立った作品として完結してしまい、協調して生きる「個」と「集団」とのかかわりは、見られない。また彼女が抱えていた悩みや苦しみは、ストーリーの中では「独白」という形のみで提供され、読んだ者の心の中に読後の印象という形で共有されるにとどまっている。

その後、ヴィクトリア後期になって「女余り」のイメージが女性に与える焦燥感が深刻さを増し、女性達は結婚相手がなかなか見つからないことと、ガヴァネスの過剰による劣悪な労働条件に悩まされるようになった。そのような時代に自らも作家として活躍していたミードは、1887年『アタランタ』の編集者に就任した。

前年1886年に出版した彼女の代表作『少女たちの世界』と『ジェイン・エア』との関係からは、新しい女性の理想像という共通項が浮かび上がる。『少女たちの世界』の中での『ジェイン・エア』の描写から、ミードはこの時代を生きていく女性の模範を主人公ジェインの中に見出し、『少女たちの世界』の読者に『ジェイン・エア』を推薦する気持ちを持っていたのであろうという結論を得た。この理想像を「ジェイン・エアの娘たち」と定義づける。

ミードは、雑誌『アタランタ』の編集者に就任し、「女余り時代」を生きる読者の教育を念頭に置いて、この雑誌に様々な企画を盛り込んだ。たとえば「女性の雇用」や「アタランタ奨学金と読書クラブ」、「モリフクロウ」によって、読者たちの教養を高め、必要な情報を取り入れさせようとした。そしてこの雑誌から奨学金を受け、作家になり、本を出版した読者も存在した。この雑誌が女子教育の一端を担った事実を示している。

「女性の雇用」では、様々な職業が紹介されているが、それらは、技能がありさえすれば、女性が集団に属する必要はなく、自活していける職業であることから、この雑誌の編集者、ミードは、女性を不完全な弱い存在としてではなく、独立した1個人として扱っていることが理解される。

それまで女性は、集団の1員として自分の役割を果たして生きていく人生が一般的であると思われてきた。しかし、次第に「個」として快適な人生を送ることも価値のある選択肢の1つであると考えられるようになってきた。ミードの選択した職業リストはこの考え方に基づいている。そして、孤独なガヴァネスとして屈辱に耐え良家に入るよりも、自分に合った職業に就き充実した生活を送ることの方が重要であるとし、女性たちの意識を変えるように促した。

ジェインが目指した前向きに生きる独立した「個」という理想を実践した「娘たち」は、そこにとどまらなかった。「家庭の天使」として家庭に入ったことで完結してしまうことはなく、協調して生きる「個」と「集団」とのかかわりを作り出したのである。

「個」として抱えていた悩みや苦しみを「集団」として共有し、団結して社会変革や女性の社会進出に道を開いた。これは、それまで表面に現れることの無かった「余った女」の将来を切り開くエネルギーである。

女性を不完全な存在とみなすのではなく、「独立した1個人」としての自覚を持った娘たち、雑誌『アタランタ』の読者たちをはじめとするこの時代を生きる未婚の女性達は、他人を理解し協調して生きていこうとする力や度量、寛大さを手に入れることができた。そして、従来とは異なるガヴァネス像や女医、リトグラファー、速記者といった「新しい存在」としての強いエネルギーを秘めた力となりえたことを本稿の結論とする。

謝辞

本論文は、鹿児島大学大学院人文社会科学研究所博士後期課程地域政策科学専攻における博士学位請求論文としてまとめたものである。このような成果を得るまでには、多くの方々のご指導とご助言をいただいた。本論文を書き終えるに際し、これまでかかわっていただいたすべての方々に感謝の意を表したい。

主旨導教員としてご指導いただいた鹿児島大学法文学部の梅内幸信教授には、筆者の鹿児島国際大学大学院在籍中から、文学研究に関する心構えや情熱を教えていただいた。それと同時に、研究することの喜びや楽しさを教えていただいたことが、ともしれば本道を見失いがちになる筆者にとって、大きな指標となった。時間をかけて、粘り強く論文の内容や作成法などを熱心にご指導いただいた。定年退官後も、副指導教員として論文作成に関して的確なご指摘をいただいたことが、筆者にとって大きな力となってくれた。教授の多大なるご高配なしにこの論文の完成はあり得ず、衷心より感謝を申し上げたい。

また、梅内教授退官後筆者の主旨導教員をお引き受けくださった竹内勝徳教授にも心からの謝意を表したい。新たな主旨導教員として、論文提出の際には親身にご指導、ご助言いただいた。

指導教員以外の本学の先生方からも多くの示唆に富むご指導をいただいた。研究科入学初年度の必修科目である「文化総合政策論」、 「プロジェクト研究」の担当教員としてご指導いただいた同学部の高津孝教授と渡辺芳郎教授には、研究分野の異なる院生が共同研究によって地域の課題を考察していくことの重要性について、叱咤激励をいただきながらご指導いただいた。

同学部の三輪伸春教授（現在、鹿児島大学名誉教授）には、学問全般に関して高い視点から示唆に富むご指導をいただいた。また大和高行教授には、学問に向き合う際の厳しく真摯な、そして熱い研究姿勢を学ばせていただいた。福澤滝関係の資料を慶応大学や大分県の福澤諭吉記念館に照会する際にも、大いにご尽力いただいた。

そして、鹿児島国際大学大学院教授を退官された樋口陽子教授は、筆者を『ジェイン・エア』の世界に導き、東京に帰られた後もブロンテ関係の高著をお送りくださるなどのご配慮をいただいた。

研究を進める上で院生諸氏の存在も大きかった。特に福ヶ迫加那氏には投稿論文、プロジェクト研究の発表などに際して、常に細やかな心遣いでご助言や激励の言葉をいただいた。福ヶ迫氏の的確なアドバイスにより、論文の方向性に関して迷うことなく進むことができたことを感謝申し上げたい。また研究科同期の町泰樹氏、星野元興氏にも、お互いに切磋琢磨しながら研究に望む機会をいただいた。これらの皆様に深謝する次第である。

最後に、筆者がイギリス文化に興味を持つきっかけとなった3年間のロンドン生活を体験させてくれ、徳之島在住中の6年間のフェリー通学を支え、温かく見守ってく

れた夫，健一に心から感謝したい。

参考文献

- *Atalanta*. Vol. 1-1, 1-2, 2-1, 2-2. (Oct.1887- Sep. 1889) Tokyo: Athena Press, 2008.
- *Atalanta*. Vol. 3-1, 3-2, 4-1, 4-2. (Oct.1889- Sep. 1891) Tokyo: Athena Press, 2009.
- *Atalanta*. Vol. 5-1, 5-2, 6-1, 6-2. (Oct.1891- Sep. 1893) Tokyo: Athena Press, 2010.
- Alexander, Christine and Margaret Smith. *The Oxford Companion to the Brontës*
Oxford : Oxford University Press, 2003.
- Altick, Richard Daniel. *The Presence of the Present : topics of the day in the Victorian novel*.
Columbus : Ohio State University Press, 1991.
- Barker, Juliet. *The Brontës : A Life in Letters* . New York: The Overlook Press, 2002.
- Briggs, Raymond. *The Mother Goose Treasury* .Tokyo: Yohan Publications 1980.
- Brontë, Charlotte. *Jane Eyre*. Edited by Margaret Smith With an introduction and revised
notes by Sally Shuttleworth New York : Oxford University Press, 2000.
- Brontë, Charlotte. *The Professor*. Herts: Aldine Press, 1974.
- Brontë, Charlotte. *Shirley*. Herts: Aldine Press, 1974.
- Brontë, Charlotte. *Villette*. Herts: Aldine Press, 1974.
- Burney, Fanny. *Evelina or The History of a Young Lady's Entrance into the World 1778 :*
The Project Gutenberg EBook Release Date: July 1 , 2004 [EBook #6053].
- Gaskell, Elizabeth. *The Life of Charlotte Brontë*. London: Penguin Books, 1997.
- Gilbert, M. Sandra and Susan Gubar. *The Madwoman in the Attic*. Second Edition New
Haven and London : Yale University Press, 2000.
- Guy, John. *Victorian Life*. Great Britain: Ticktock Publishing, 1997.
- Hawthorn, Jeremy. (Edited) *The Nineteenth-Century British Novel* (Stratford-upon-Avon
Studies, second series) London: Edward Arnold, 1986.
- Hawthorn, Jeremy. (Edited) *The Nineteenth-Century British Novel* (Stratford-upon-Avon
Studies, second series) London: Edward Arnold, 1986.
- Higuchi, Akiko. *College Records of Patrick Brontë at St. John's College* (英文) 『鹿児島
国際大学国際文化学部論集 4-1』鹿児島国際大学国際文化学部, 2003年。
- Higuchi, Akiko. *The Discrepancy Between Spoken Language and Written Language:*
“Bessie's Song” in *Jane Eyre*. (英文) 『学習院大学言語共同研究所紀要 第22号』
学習院大学言語共同研究所, 1998年。
- Houghton, E. Walter. *The Victorian Frame of Mind, 1830-1870*. New Haven: Yale
University Press, 1957.
- Loti, Pierre. *Madame Chrysantheme*. The Project Gutenberg EBook Release Date: March 12,
2005 [EBook #15335].
- Malham-Dembleby, John. *The Key to the Brontë Works* The Walter Scott Publishing, New
York, 1911.

- McCord, Norman. *British History 1815-1906* Oxford: Oxford University Press.1991.
- Meade, Elizabeth Thomasina. *A World of Girls: The Project Gutenberg EBook*
www.gutenberg.org Release Date: June 22, 2008 [EBook #25870].
- Meade, Elizabeth Thomasina. *A Princess of the Gutter: SLUM FICTION: Representation of
Life in London's East End, 1880-1920 Selected and with an introduction by Takanobu
Tanaka, Volume 7* , Tokyo, Athena Press, 2011.
- Mitchell, Sally. *The New Girl; Girl's Culture in England, 1880-1915*. New York:
Columbia University Press, 1995.
- Notsu, Yuriko. *Disenchanting the Fairy Tale: A Reading of "Jane Eyre"*. (英文) 英文学
研究英文号 47, 日本英文学会, 東京, 2006年3月15日発行。
- O'Neill, Judith (ed.) *Critics on Charlotte and Emily Brontë*. Florida: University of Miami
Press, 1972.
- Reynolds, Kimberley. *Girls Only?* Temple University Press, Philadelphia, 1990.
- Shuttleworth, Sally. *Charlotte Brontë and Victorian Psychology*. Cambridge Univ. Press,
Cambridge 1997.
- Smith, Margaret. *The Letters of Charlotte Brontë with a selection of letters by family and
friends Volume Two 1848-51* Clarendon Press, Oxford, 2000.
- Teachman, Debra. *Understanding Jane Eyre* Greenwood Press, Westport, 2001.
- Thaden, Barbara. *Student Companion to Charlotte & Emily Brontë* Greenwood Press,
Westport, 2001.
- Winnifrith, Tom. and Chitham, Edward. *Charlotte and Emily Brontë*. Houndmills: The
Macmillan Press, 1989.
- *The Victorian Governess* <http://www.english.uwosh.edu/roth/governess.htm>
- 青山誠子『女たちのイギリス文学』開文社出版, 2003年。
- 青山誠子『ブロンテ姉妹 人と思想 128』清水書院, 1994年。
- 青山誠子編著『女性・ことば・ドラマ——英米文学からのアプローチ』彩流社, 2000
年。
- 秋田茂編著『パクス・ブリタニカとイギリス帝国』イギリス帝国と20世紀 第1
巻, ミネルヴァ書房, 2004年。
- 新井潤美『へそ曲がりの大英帝国』平凡社新書, 2008年。
- 新井潤美『不機嫌なメアリー・ポピンズ イギリス小説と映画から読む「階級」』平
凡社新書, 2005年。
- 井野瀬久美恵『女たちの大英帝国』講談社現代新書 1407, 1998年。
- 井野瀬久美恵『大英帝国という経験』興亡の世界史第16巻, 講談社, 2007年。
- 井野瀬久美恵編『イギリス文化史入門』昭和堂, 1994年。
- 岩田託子・川端有子『図説英国レディの世界』河出書房新社, 2001年。
- 内田能嗣編『ヴィクトリア朝の小説—女性と結婚—』英宝社, 1999年。
- ウォルポール, ホレス『オトラントの城』井出弘之訳, 国書刊行会, 1983年。
- 大山敏子『女性と英文学』篠崎書林, 1966年。
- オールティック, D. リチャード『ヴィクトリア朝の緋色の研究』村田靖子訳, 国書

- 刊行会，1988年。
- ・オールティック，D. リチャード『二つの死闘』井出弘之訳，国書刊行会，1993年。
 - ・オールティック，D. リチャード『ヴィクトリア朝の人と思想』要田圭治・大嶋浩・田中孝信訳，（株）音羽書房鶴見書店，1998年。
 - ・神山妙子編『愛と結婚——イギリス小説の場合』国研出版，1989年。
 - ・川北稔編『イギリス史』新版世界各国史11，山川出版社，2001年。
 - ・川北稔・指昭博編『周辺からのまなざし——もうひとつのイギリス近代』山川出版社，2000年。
 - ・川端有子「アタランタ 別冊解説」，アティーナ・プレス，2009年。
 - ・川本静子『ガヴァネス（女家庭教師）ヴィクトリア時代の〈余った女〉たち』中公新書，1994年。
 - ・河野多恵子他『図説「ジェイン・エア」と「嵐が丘」——ブロンテ姉妹の世界』河出書房新社，1996年。
 - ・河村貞枝『イギリス近代フェミニズム運動の歴史像』明石書店，2001年。
 - ・木谷勉『帝国主義と世界の一体化』山川出版社，世界史リブレット40，1997年。
 - ・木畑洋一『イギリス帝国と帝国主義——比較と関係の視座』有志舎，2008年。
 - ・木畑洋一・秋田茂編著『近代イギリスの歴史——16世紀から現代まで』ミネルヴァ書房，2012年。
 - ・木原貴子・依岡道子「ヴィクトリア朝後期における女性の知的職業——雑誌 *Atalanta* の役割——」『名古屋女子大学紀要 人文・社会編』2002年。
 - ・木原貴子・依岡道子「ヴィクトリア朝における知的職業に携わる女性達（2）——雑誌編集に関わる女性——」『名古屋女子大学紀要 人文・社会編』2003年。
 - ・ギッシング，ジョージ『余計者の女たち』太田良子訳，ギッシング選集第三巻，秀文インターナショナル，1988年。
 - ・君塚直孝『ヴィクトリア女王——大英帝国の“戦う女王”』中公新書，2007年。
 - ・ギヤスケル，エリザベス『シャーロット・ブロンテ傳』網野菊訳，実業之日本社，1942年。
 - ・ギヤスケル，エリザベス『シャーロット・ブロンテの生涯』山脇百合子訳，ギヤスケル全集7 大阪教育図書，2005年。
 - ・ギルバート，サンドラ・グーバー，スーザン『屋根裏の狂女——ブロンテと共に』山田晴子・菌田美和子訳，朝日出版社，1986年。
 - ・小池滋『もうひとつのイギリス史—野と町の物語—』中公新書，1998年。
 - ・小関隆編『世紀転換期イギリスの人びと アソシエーションとシティズンシップ』人文書院，2000年。
 - ・コンラッド，ジョーゼフ『闇の奥』中野好夫訳，岩波文庫，1989年。
 - ・斎藤美洲編『イギリス文学史序説 社会と文学』中教出版，1978年。
 - ・サザーランド，ジョン『ジェイン・エアは幸せになれるか？——名作小説のさらなる謎』みすず書房，1999年。

- ・指 昭博『図説イギリスの歴史』河出書房新社，2004年。
- ・サンプルソン，ジョージ『ケンブリッジ版イギリス文学史Ⅱ』平井正穂監訳，研究社，1984年。
- ・サンプルソン，ジョージ『ケンブリッジ版イギリス文学史Ⅲ』平井正穂監訳，研究社，1977年。
- ・白井義昭『シャーロット・ブロンテの世界——父権制からの脱却』彩流社，1992年。
- ・鈴木万里「「恋愛」と「近代家族」——18世紀前半の英国小説に見られる恋愛観の変化」日本ジェンダー研究第8号（2005）。
- ・スコット，ウォルター『アイヴァンホー』（上下）菊池武一訳，岩波書店，1981年。
- ・スピヴァク，C. ガーヤットリー『ポストコロニアル理性批判』上村忠男訳，月曜社，2003年。
- ・セシル，デイヴィッド『イギリス小説鑑賞——ヴィクトリア朝初期の作家たち』鮎川乗光，都留信夫，富士川和男訳，開文社出版，1983年。
- ・セラーズ，ジェイン『シャーロット・ブロンテ』川成洋監訳，中野里美・瀬戸美菜子訳，大英図書館シリーズ 作家の生涯，ミュージアム図書館，2000年。
- ・ダーレンドルフ，ラルフ『なぜ英国は「失敗」したか？』天野亮一訳，TBSブリタニカ，1984年。
- ・高山宏『奇想天外・英文学講義 シェイクスピアから「ホームズ」へ』講談社，2000年。
- ・ダビディーン，デイヴィッド『大英帝国の階級・人種・性—W・ホガースにみる黒人の図像学』松村高夫，市橋秀夫訳，同文館出版，1992年。
- ・鶴見良次『マザー・グースとイギリス近代』岩波書店，2005年。
- ・東田雅博『大英帝国のアジア・イメージ』ミネルヴァ書房，1997年。
- ・富山太佳夫『笑う大英帝国—文化としてのユーモア』岩波新書，2006年。
- ・富山太佳夫，向井秀忠，丹治愛，由井哲哉，近藤存志，能澤慧子，川端康雄，菅靖子『ヴィクトリア朝の文芸と社会改良』音羽書房鶴見書店，2011年。
- ・富山太佳夫『シャーロック・ホームズの世紀末』青土社，1993年。
- ・富山太佳夫『方法としての断片』南雲堂，1985年。
- ・トレヴェリアン，M. ジョージ『イギリス社会史2』松浦高嶺・今井宏共訳，みすず書房，2000年。
- ・ナイチンゲール，フロレンス『看護覚え書』湯楨ます，薄井坦子，小玉香津子，田村真，小南吉彦訳，現代社，1985年。
- ・中岡洋『『ジェイン・エア』を読む』開文社出版，1995年。
- ・中岡洋『ブロンテ姉妹—その知られざる実像を求めて—』日本放送出版協会，2008年。

- ・中岡洋編著『シャーロット・ブロンテ論』開文社出版，2001年。
- ・中岡洋/内田能嗣[編]『ブロンテ姉妹を学ぶ人のために』世界思想社日本放送出版協会，2005年。
- ・長島伸一『世紀末までの大英帝国—近代イギリス社会生活史素描—』法政大学出版局，1987年。
- ・長島伸一『大英帝国 最盛期イギリスの社会史』講談社，1989年。
- ・夏目康子『マザーグースと絵本の世界』岩崎芸術社，1999年。
- ・バンクス夫妻『ヴィクトリア時代の女性たち—フェミニズムと家族計画—』河村貞枝訳，創文社，1980年。
- ・平田雅博『イギリス帝国と世界システム』晃洋書房，2000年。
- ・姫岡敏子『ヨーロッパの家族史』山川出版社，世界史リブレット117，2008年。
- ・フーコー，ミシェル『狂気の歴史——古典主義時代における』田村俣訳，新潮社，1984年。
- ・フーコー，ミシェル『精神疾患と心理学』神谷美恵子訳，みすず書房1988年。
- ・福澤諭吉『現代語訳 福翁自伝』斎藤孝編訳，ちくま新書912，筑摩書房，2012年。
- ・ブロンテ・シャーロット『シャーロット・ブロンテ初期作品集Ⅰ』岩上はる子監訳，鷹書房弓プレス，1999年。
- ・ブロンテ・シャーロット『シャーロット・ブロンテ初期作品集Ⅱ』岩上はる子監訳，鷹書房弓プレス，2001年。
- ・保坂高殿，小林稔，小河陽訳『新約聖書Ⅴ』パウロの名による書簡 共同書簡 ヨハネの黙示録，岩波書店，1997年。
- ・堀内真由美『大英帝国の女教師——イギリス女子教育と植民地』白澤社，2008年。
- ・松村昌家編『パンチ』素描集 19世紀のロンドン』，岩波文庫，1999年。
- ・松村昌家『十九世紀ロンドン生活の光と影 リージェンシーからディッケンズの時代へ』世界思想社，2003年。
- ・松村昌家編 山口恵利子，福田真人，中島俊郎，大田垣裕子『日本とヴィクトリア朝英国——交流のかたち』大阪教育図書株式会社，2012年。
- ・水田珠枝『ミル「女性の解放」を読む』岩崎書店，1984年。
- ・村岡健次『ヴィクトリア時代の政治と社会』ミネルヴァ書房，1995年。
- ・村岡健次『近代イギリスの社会と文化』MINERVA 西洋史ライブラリー54，ミネルヴァ書房，2002年。
- ・メイヒュー，ヘンリー『ヴィクトリア朝ロンドンの下層社会』松村昌家，新野緑編訳，ミネルヴァ書房，2009年。
- ・モアズ，エレン『女性と文学』青山誠子訳，研究社，1980年。
- ・山根木加名子『現代批評でよむ英国女性小説——ウルフ，オースティン，ブロンテ，エリオット，ボウエン，リース』鷹書房弓プレス，2005年。
- ・山脇百合子『英国女流作家論』北星堂，1979年。
- ・要田圭治・大嶋浩・田中孝信編『英文学の地平 ——テキスト・人間・文化』音羽

- 書房鶴見書店，2009年。
- ・吉田良夫『英国女性作家の世界』大阪教育図書（株），2004年。
 - ・リース，ジーン『サルガッソーの広い海』小沢瑞穂訳，みすず書房，1998年。
 - ・レントン，アリス『歴史のなかのガヴァネス 女性家庭教師とイギリスの個人教育』河村貞枝訳，高科書店，1998年。
 - ・ロチ，ピエール『ロチのニッポン日記——お菊さんとの奇妙な生活』船岡末利編訳，有隣堂，1979年。
 - ・ロビンP. アンセル『中世動物譚』関本栄一・松田英訳，博品社，1993年。
 - ・渡辺千枝子「『ジェイン・エア』の成功の秘密：ドッペルゲンガー（Doppelgänger）の探求」，『水の流れに：松浦暢教授古稀記念論集』（松浦暢教授古稀記念論集刊行委員会）所収，2000年。
 - ・度会好一『ヴィクトリア朝の性と結婚 ——性をめぐる26の神話』中公新書，1997年。
- ・ブロンテ全集
- 1 『教授』海老根宏他訳 みすず書房，1995年。
 - 2 『ジェイン・エア』小池滋訳，みすず書房，1995年。
 - 3 『シャーリー(上)』都留信夫訳，みすず書房，1995年。
 - 4 『シャーリー(下)』都留信夫訳，みすず書房，1995年。
 - 5 『ヴィレット(上)』青山誠子訳，みすず書房，1995年。
 - 6 『ヴィレット(下)』青山誠子訳，みすず書房，1995年。
 - 12 『シャーロット・ブロンテの生涯』E. ギヤスケル，中岡洋訳，みすず書房，1995年。

参考資料 (1) 『アタランタ』掲載記事一覧 ・

『アタランタ』1年目の特徴

年月 Oct.1887~Sep. 1888

編集者 L. T. Meade, Alicia A. Leith

出版社とその住所 Hatchards' Piccadilly, London

特徴 1) 『アタランタ』の創刊。

前身'Every Girl's Magazine' の編集者, アリシア・リースが引き続き, 企画や編集に携わった。

2) **Employment for Girls** の企画

アタランタの内容とその特徴 (1年目)

その内容

ページ (区分)	タイトル, 内容	執筆者名
----------	----------	------

Oct. 1887 (No. 1)

扉絵	Old Songs.	F. Somerville Morgan
詩, 飾り文字	Greek Atalanta.	Edwin Arnold
連載小説(1) イラスト	Neighbours.	Mrs. Molesworth
詩, イラスト	The Dairy Maids of Dort.	Mary B. Dodge
読み物, 自然科学 (火山)	Earth's Fiery Fountains.	C. F. Gordon-Cumming
読み物	A Worthy Son of England.	J. S. Herford
詩, イラスト	Flower Fairies.	Philip Bourke Marston
読み物, イラスト	At the Play Two Thousand Years Ago. The Infancy of the Greek Drama.	Professor Church
ペルシャの諺より	When the world was created, by order Divine... 「神が人に下された言葉の量を 10 とすると, そのうち 9 は女が取った。」	
連載小説(1) イラスト	A Tale of Three Lions. アラン・クォーターメイン (キングソロモンの洞窟を発見した人物) とその息子 Harry の冒険	H. Rider Haggard
詩, イラスト	My Lady Wakes.	Mary Macleod
読み物	Lizzie's Pianoforte Class.	Lady Lindsay

詩	An Open Secret.	M. E. B.
詩, イラスト	All Contrary.	Blue Jay
読み物, イラスト	Embroidery and Lace. 様々なレース刺繍のデザイン例の紹介	F. Mabel Robinson
「アタランタ奨学金と読書クラブ」. English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Sir Walter Scott	<i>Guy Mannering.</i>	Andrew Lang
Scholarship Competition Questions	1. What seems to you to have been Scott's Ideal of a Prose Romance? 2. Discuss the plot of <i>Guy Mannering.</i>	
Search Passages in English Literature.	英文学作品クイズ (作者当て, 作品当て)	
「アタランタ奨学金と読書クラブ」のルールの説明		
Supplement	「懸賞作品コンクール」について	
Extra Supplement	Hospital Reports; 病院からの子供用ガウン, パジャマ寄付のお願い “Every Girl's Cot” への寄付のお願い	
Employment for Girls (Preface)	次号以下で紹介する「女性に開かれた様々な職業の紹介」の概略	The Editor
広告	T. Woolmer's の本の紹介	
	Every Girl's Books の年間版。(Hatchards')	

Nov. 1887 (No. 2)

扉絵	Forgiven.	E. K. Johnson, R. W. S.
詩, イラスト	Harebells.	H. E. Hamilton King
連載小説(2) イラスト	Neighbours.	Mrs. Molesworth
読み物, 自然科学 (蛙類) イラスト	Froggies.	C. Lloyd Morgan
詩	The Hypocrite.	記載なし
連載(1) イラスト	Fairy Folk All. What fairies were and what they did. (Brownie)	Louise Imogen Guiney
連載小説(2) イラスト	A Tale of Three Lions.	H. Rider Haggard
物語詩, イラスト	The Wise Men of Gotham.	Harriet Power
読み切り小説	The Tambourine Girl.	L. T. Meade

詩, イラスト	Variations on Nursery Rhymes. Hush-a-bye, Baby.	Blue Jay
読み物	In a Fire, Keep Cool. (船のデッキで火事が起きた時, 他の乗客に知られることなく, 無事鎮火できた話)	J. S. Herford
読み物, イラスト	Our Painter, Sir John Millais.	Helen Zimmern
読み物, イラスト	Waterloo. Letter, hitherto unpublished, from an Officer who fought in the Battle of Waterloo.	Sarah Tytler
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Coleridge	Coleridge's Poems	Richard Garnett
Scholarship Competition Questions	I. Which are your favourite poems, and why? II. Discuss Coleridge's claims to be considered (a) "a natural fountain of melody," or (b) a master of "pure nature-painting." III. "Coleridge was to demonstrate that the supernatural only needs to be treated with sincerity and conviction, to become poetically as real as the natural."— Illustrate this statement in detail from any one or more of his poems.	
Search Passages in English Literature.		英文学作品クイズ (作者当て, 作品当て)
Employment for Girls.	Sick Nursing. (給料, 日課などの説明)	Jane Wilson (ワークハウス病院看護師協会名誉秘書)
「懸賞作品コンクール」の優秀エッセイ紹介		
Supplement	「懸賞作品コンクール」の結果発表 "Atalanta Cot"の報告, Hospital Reports.	

Dec. 1887 (No. 3)

扉絵	"A Matinée Musicale."	E. Blair Leighton
詩, イラスト	The Mother's Choice.	F. E. Weatherly
連載小説(3) イラスト	Neighbours.	Mrs. Molesworth
読み物, イラスト	The Professor's Dream of Ancient Days. ブリテン島の太古の時代の住人たち	Arabella B. Buckley
詩, イラスト	Mine Enemy.	Theo. Gift.

読み物	Lady Nelly. A Misinterpretation.	L. B. Walford
バラッド イラスト	The Drummer Boy of Kent. A Story from the French Wars, 1431.	C. S. Pratt
連載 (1) イラスト	Famous Old Story-tellers. 1. Tales and Romances	Oscar Fay Adams
ショート・ストーリー	The Christmas Rose.	Marcia Tyndale
詩, イラスト	A Christmas Carol.	Christina G. Rossetti
絵	Madonna Della Granduca.	Raphael
連載小説(3), イラスト	A Tale of Three Lions.	H. Rider Haggard
連載 (1)	On the Writing of Novels I. (読者の創作力を伸ばすことにも力を入れていたことを表す企画, 以下はその主張) 1. Practice writing something original every day. 2. Cultivate the habit observation. 3. Work regularly at certain hours. 4. Read no rubbish. 5. Aim at the formation style. 6. Endeavour to be dramatic. 7. A great element of dramatic skill is Selection. 8. Avoid the sin of writing about character. 9. Never attempt to describe any kind of life. 10. Learn as much as you can about men and women. 11. For the sake of forming a good natural style and acquiring command of language, write poetry.	Walter Besant
絵	Rival Companies. A Rehearsal.	記載なし
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Charles Lamb	<i>Essays of Elia.</i> <i>Charles Lamb.</i>	Professor Church
Scholarship Competition Questions	I. "Hang the Age. I will write for Antiquity." What did Lamb mean by these words, and what light do they throw on the temper of his work? II. What is humour? Illustrate from your Author. III. Draw a portrait of Lamb as he appears in the <i>Essays</i> .	
Search Passages in English Literature		英文学作品クイズ (作者当て, 作品当て)

Employment for Girls.	The Civil Service. (The Post Office.)	Millicent Garret Fawcett
Supplement	「懸賞作品コンクール」 について Hospital Reports.	

Jan. 1888 (No. 4)

扉絵	Of Certain White Doves.	M. Ellen Edwards
詩, イラスト	Of Certain White Doves.	Ella Fuller Maitland
読み物	A Golden Silence.	John Strange Winter
詩, イラスト	In Winter.	Mary Macleod
連載小説(4) イラスト	Neighbours.	Mrs. Molesworth
詩	For the New Year.	F. E. Weatherly
連載 (1)バラッド イラスト	Ballad of All Countries (England). Robin Hood and the Widow's Sons.	記載なし
連載 (2) イラスト	Famous Old Story-tellers. 2. The Arabian Nights.	Oscar Fay Adams
連載小説(1) イラスト	The Lady of the Forest.	L. T. Meade
連載 (1) イラスト	Our English School of Art. I . The Royal Academy.	J. Penderel Brodhurst
読み物, イラスト	On Musical Analysis.	C. Hubert H. Parry
読み物, イラスト	The Story of the Key. "Clef du Clef."	Geraldine Butt.
詩	To a Child. (From the Greek.)	C. R. Haines
絵, 詩	A Child Asleep.	Elizabeth Barrett Browning
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Jane Austen	<i>Emma.</i>	Miss Thackeray (Mrs. Richmond Ritchie)
Scholarship Competition Questions	I. What do you conceive to have been the limits of Jane Austen's genius? II. Discuss the delineation of character in Emma. III. What is a Novel of Manners?	
Search Passages in English Literature		英文学作品クイズ (作者当て, 作品当て)
本の紹介	From Cover to Cover.	Edward Salmon

Employment for Girls.	Type-writing.	Ethel Comyns.
「懸賞作品コンクール」 について		
「アタランタ」購読希望者の料金。 1. Simple Subscriber; 2s. 6d. a year. 2. Privileged Subscriber; 5s. a year.		
「奨学金コンクール」 (1887-88) のエントリー資格について 1. 毎月の課題に対して 12 回の中で 8 回以上提出すること。 2. 「優秀者リスト」 に名前が載ること(3 回以下は不可)		
Atalanta- Opinion of the Press. The best sixpenny-worth lady's pictorial. この雑誌に対する新聞の書評		
Supplement.	「懸賞作品コンクール」 の優秀作品発表 “Atalanta Cot” について	

Feb. 1888 (No. 5)

扉絵,	The Valentine.	A. Hopkins, R.W.S.
詩	The Valentine.	Blue Jay
連載小説(5) イラスト	Neighbours.	Mrs. Molesworth
戯曲, イラスト	St. George of England. The national legend. (聖ジョージとエジプトの王家の娘. サ ブラの物語)	The Countess of Jersey
読み物, 自然科学 連載 (1)	Earth's Boiling Fountains. Hot spring について。料理, 湯あみに使 う。フィジーの人々はキリスト教徒にな る前は, 人肉を Hot spring でゆでて調理 していたことなどを記す。 (p. 262)	C. F. Gordon-Cumming
詩	A Candlemas Dialogue	Christina G. Rossetti
伝記, イラスト	Rosa Bonheur (画家) パリ画壇の人物。 ウサギの絵, ライオンの絵。	Henry Bacon
連載小説(2) イラスト	The Lady of the Forest.	L. T. Meade
連載 (3), イラスト	Famous Old Story-tellers. 3. Æsop.	Oscar Fay Adams
読み物, イラスト	Marjory's Doll.	Lord Brabourne

	A Story of Fairyland for the little ones.	
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Thomas Carlyle	<i>Heroes and Hero Worship.</i> <i>The Heroic in History.</i> <i>Life of Thomas Carlyle.</i>	Lucy Toulmin Smith
Scholarship Competition Questions	I. What is a hero? Illustrate from your author. II. “The Talent for Silence.” What does Carlyle mean by this phrase, and how does it affect his central idea? III. Give an outline of Cromwell drawn from the Sixth Lecture.	
Search Passages in English Literature.	英文学作品クイズ (作者当て, 作品当て)	
本の紹介	From Cover to Cover	Edward Salmon
Employment for Girls	Pharmacy	Isabella S. Clarke-Keer (Pharmaceutical Chemist)
「懸賞作品コンクール」 について		
Atalanta- Opinion of the Press	1月号と同じ内容	
Supplement.	「懸賞作品コンクール」 の優秀作品発表 “Atalanta Cot” について	

Mar. 1888 (No. 6)

扉絵,	The Thought of Youth.	Gustav Pope
詩, 装飾	Up, Bonny Bird!	J. Logie Robertson
連載小説(6) イラスト	Neighbours.	Mrs. Molesworth
読み物, 自然科学 連載 (2)	Earth's Boiling Fountains II. ニュージーランドの間欠泉など。	C. F. Gordon-Cumming
連載 (2) イラスト	Fairy Folk All. Puck —and Poets' Fairies.	Louise Imogen Guiney
連載 (4) イラスト	Famous Old Story-tellers. 4. Mother Goose.	Oscar Fay Adams
バラッド イラスト	The Story of an <u>Ambuscade</u> . (待ち伏せ)	Paul Hamilton Hayne
連載 (2), イラスト	Our English School of Art. II. South Kensington.	J. Penderel Brodhurst
詩	Snowdrops.	E. Leith

連載小説(3) イラスト	The Lady of the Forest.	L. T. Meade
バラッド, イラスト	Kilcolman Castle.	Harriet P. Spofford
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Charles Dickens	<i>David Copperfield.</i>	R. E. Francillon
Scholarship Competition Questions	<p>I. “Pathos is the secret of the in-looking contemplative spirit, and Dickens shows no signs of looking deeper than his eyes could see.”</p> <p>II. “We are becoming such a flock of sheep, that the more pronounced characters seem to us much more caricature-like than they really are.”</p> <p>III. “Charles Dickens succeeded in showing a curiously stupid grown-up world what a child’s needs, and wrongs, and rights, are. . . . That is a great thing to have done.”</p> <p>Discuss any one of these comments, and illustrate your answer from <i>David Copperfield</i>, or generally from the works of Dickens.</p>	
Search Passages in English Literature.	(英文学作品クイズ (作者当て, 作品当て))	
本の紹介	From Cover to Cover.	Edward Salmon
Supplement		
「懸賞作品コンクール」 について		
Supplement.	「懸賞作品コンクール」 の優秀作品発表 “Atalanta Cot” について	

Apr. 1888 (No. 7)

扉絵	Katharine Janfarie.	Heywood Hardy
連載 (2)バラッド イラスト	Ballad of All Countries. Scotland. Katharine Janfarie.	記載なし
絵	An Easter Fantasy	記載なし
連載(1) イラスト	The White Man’s Foot.	Grant Allen
連載(2)	On the Writing of Novels II .	Walter Besant
絵	Eventide.	Hans W. Schmidt
読み物, イラスト	The Children of the Great City. Children’s Country Holiday Fund.	Henrietta O. Barnett
詩	An Easter Text.	Emilie Poulsson
読み物, イラスト	The Crow and the Fox.	Clara Doty Bates

読み物,	On Musical analysis II.	C. Hubert H. Parry
詩, イラスト	A Child Flower.	Lady Lindsay
連載(1) イラスト	A Jewel of Price.	Arnold Hamlyn
絵	Easter Lilies.	W. L. Tayler
詩, イラスト	Confirmation.	H. E. Hamilton King
連載小説(4) イラスト	The Lady of the Forest.	L. T. Meade
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Lord Macaulay	<i>Essays on Lord Clive.</i> <i>Warren Hastings.</i> <i>Madame D'Arblay.</i> <i>Croker's Edition of Boswell's Life of Johnson.</i>	Canon Creighton
Scholarship Competition Questions	I. What, in your opinion, are Macaulay's chief characteristics (merit or otherwise) as an Essayist? Illustrate from the Selected Essays. II. Analyse and criticise in detail any one of the under-mentioned Essays.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
本の紹介	From Cover to Cover.	Edward Salmon
Employment for Girls	House Decoration.	Agnes Garnett
「懸賞作品コンクール」 について		
Supplement	「懸賞作品コンクール」 の優秀者発表, Hospital Reports.	

May 1888 (No. 8)

扉絵	"The Child in the Midst."	M. L. Gow, R. I.
詩, イラスト	"The Child in the Midst." (Founded on an Old Legend.)	Christian Burke
絵	Hail! Bounteous May!	H. Childe Hassam
連載(2) イラスト	The White Man's Foot.	Grant Allen
絵	A Study.	E. Gulland

読み物	Lost on the Prairie.	Frances A. Humphrey
読み物, イラスト	Child Faces. (様々な画家の描く幼児や少女の顔の解説)	Julia Cartwright
読み物, イラスト	The Lights of Paris. (パリの人々と街灯の歴史)	Isabel Smithson
読み物, イラスト	Miss L. M. Alcott. (<i>Little Women</i> . 『若草物語』の作者)	Edward Salmon
連載小説(5) イラスト	The Lady of the Forest.	L. T. Meade
読み物, イラスト	The Gold Fish.	Lady Lindsay
連載 (5) イラスト	Famous Old Story-tellers. V. The Brothers Grimm.	Oscar Fay Adams
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
John Keble	<i>The Christian Year</i> .	Charlotte M. Yonge
Scholarship Competition Questions	I. Estimate Keble's rank as a Poet. II. Which is your favourite poem in the <i>Christian Year</i> ? Give reasons for choice.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
Employment for Girls	Chromo-Lithography	Clo. Graves
本の紹介, イラスト	From Cover to Cover.	Edward Salmon
「懸賞作品コンクール」 について		
Supplement	「懸賞作品コンクール」 の優秀者発表, Report of "ATALANTA COT"	

June 1888 (No. 9)

扉絵	Kincora	J. C. Staples
連載 (3)バラッド イラスト	Ballad of All Countries (Ireland). Kincora. 在りし日の the palace of Kincora に対するの哀歌。	Mac Liag
連載(3) イラスト	The White Man's Foot.	Grant Allen
連載 (3) イラスト	Girls Who Won Success. 1. A Painter Elizabeth Thompson (Lady Butler).	Sarah Tytler

詩	The Ivory Gate.	E. Leith
絵	Dorothy.	J. B. Y.
読み物, イラスト	Don: The Story of a Greedy Dog.	F. Anstey
連載 (3), イラスト	Our English School of Art. III. The Herkomer school (Hertfordshire).	J. C. Staples
ショート・ストーリー	Another Atalanta. (卵から芋虫, さなぎと変化し, 蝶として飛び立つまでの話)	Marcia Tyndale
詩, イラスト	The First of June.	H. E. Hamilton King
連載小説(6) イラスト	The Lady of the Forest.	L. T. Meade
詩, イラスト	A Letter to the Rats.	L. M. Fogg
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Charles Kingsley	<i>The Water-Babies.</i>	Thomas Hughes
Scholarship Competition Questions	I. What problems of modern life does Kingsley deal with in <i>The Water-Babies</i> ? II. Discuss Kingsley's powers as a writer of fiction.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
本の紹介	Notes about Books.	Augustine Birrell
Employment for Girls.	Shorthand.	Miss Reynolds
Supplement	「懸賞作品コンクール」の優秀者発表, Report of "ATALANTA COT", Hospital Reports.	

July 1888 (No. 10)

扉絵	The Foundling.	Percy Macquoid, R. I.
連載(4) イラスト	The White Man's Foot.	Grant Allen
詩, イラスト	Childhood Land.	F. E. Weatherly
連載 (6) イラスト	Famous Old Story-tellers. VI. La Fontaine.	Oscar Fay Adams
詩, イラスト	The Little Princess. (自由を持つ乞食少女と裕福な王女と)	Geraldine Butt.

	の生活の比較)	
読み物, イラスト	Etelka's Choice.	Susan Coolidge
詩	The Rain Drops. (ペルシャでは, 雨の粒が牡蠣の殻に入って真珠が生み出されると信じられていた)	Sir Edwin Arnold
連載 (3) イラスト	Fairy Folk All. III. The Passing of the Little People.	Louise Imogen Guiney
絵	Nightingale.	Hume Nisbet
連載 (2)	Girls Who Won Success. II. A Doctor. Elizabeth Garrett Anderson, M. D.	Sarah Tytler
連載小説(7) イラスト	The Lady of the Forest.	L. T. Meade
詩	The Prayer of <u>Siddartha</u> . (Suggested by "The Light of Asia.") 釈迦の出家する前の名前。仏教に題材をとった詩。	A. R. Williams
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Longfellow	<i>Longfellow's Poems.</i>	Archdeacon Farrar
Scholarship Competition Questions	Criticize (a) Longfellow's poetical work generally— or (b) <i>The Golden Legend or Evangeline</i> in detail.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
本の紹介	Notes about Books.	Augustine Birrell
Employment for Girls	Medicine.	Miss Edith Huntley, M. D.
Supplement	「懸賞作品コンクール」の優秀者発表, Report of "ATALANTA COT", Hospital Reports.	

Aug. 1888 (No. 11)

扉絵	Waiting for Father.	H. G. Massey
詩	A Dream Garden.	Katharine Tynan
連載(5) イラスト	The White Man's Foot.	Grant Allen
読み物	Dwarf Lions.	Lloyd Morgan
絵	<u>Sigurd</u> . (北歐神話, シグルズ。竜を退)	W. L. Taylor

	治して財宝を手に入れる。ゲルマン神話では Siegfried。)	
読み物, イラスト	The Temple of Music. A Parable.)	May Kendall
読み物	Iphigenia.	Anna Swanwick
詩, イラスト	Youth's Return.	Hamilton Aïdé
読み物, イラスト	The Rewards of Industry. (中国, 唐王朝の時代の話)	Dr. Garnett
連載小説(8) イラスト	The Lady of the Forest.	L. T. Meade
絵	Evening in a Nursing School.	Walter Firle
連載 (3) イラスト	Girls Who Won Success. III. A Servant of the Sick and Poor. Florence Lees (Mrs. Dacre Craven)	Sarah Tytler
読み物	Cleobule's Lesson.	Professor Church
詩	Proven !	Mosse Macdonald
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Mrs. Gaskell	<i>Wives and Daughters.</i> <i>Cranford. Sylvia's Lovers.</i>	Mrs. L. B. Walford
Scholarship Competition Questions	I. Discuss the contrast offered by <i>Sylvia's Lovers</i> to <i>Cranford</i> , and again by <i>Cranford</i> to <i>Wives and Daughters</i> . II. Is Mrs. Gaskell more at home in high or in humble life? Support your answer from any or all of the above-named three novels.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
本の紹介	Notes about Books.	Augustine Birrell
Employment for Girls	Medicine II .	Miss Edith Huntley, M. D.
ショート・ストーリ ー	All Things Are Not What They Seem. 夜中のすさまじい叫び声は実は鳥 (eagle, owl) の鳴き声であったという 話	T. S. A. Herford
Supplement	「懸賞作品コンクール」 の優秀者発表 Report of "ATALANTA COT"	

扉絵, 詩	Showing the White Feather.	A. Wardle
バラッド	Ballade of St. Michael.	Mary Macleod
連載(6) イラスト	The White Man's Foot.	Grant Allen
詩,装飾	Triolets .	Charles Sayle
連載 (3)	Girls Who Won Success. IV. A Singer Mary Davies.	Sarah Tytler
詩	Concerning Mermaids.	George C. Warr.
絵	A Windfall.	M. Ellen Edwards
絵	A Corn Field.	Constable
読み物, イラスト	Summer Lanes.	F. Mabel Robinson
読み物, イラスト	Alcestis. (ゼウス, アドメタスと美しい アルセステイス, ヘラクレス, アポロ, ハデスなど。)	Eleanor Baird Smith
詩, イラスト	The Squirrel & the Bluebottle Fly. リスとパーティをしようとしたハエが, パイやプディング, クリーム, ゼリー, ケーキ, 木の実, リンゴを注文し, ダイ ニングルームに置いていたが, トカゲ, カッコー, かたつむりなどに食べられ, 驚いて気を失う。リスに介抱され, 二人 で月の光に照らされたワインを飲む話。	Blue Jay
読み物, イラスト	The Decoration of China. (カップ, 花瓶 などの陶器の話)	Cosmo Monkhouse
連載小説(9) イラスト	The Lady of the Forest.	L. T. Meade
詩	Leaves in Early Autumn.	Robin Allen
読み物	Tra La.	W. Vernon Young
詩	In Arcadie.	Edward F. Strange
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Elizabeth Barrett Browning	<i>Poems.</i>	Mrs. Humphry Ward
Scholarship Competition Questions	<p>I. "Mrs. Browning represents the prevailing English philosophy of life, the prevailing English passions and sentiments, with extraordinary fidelity and power."</p> <p>II. "Mrs. Browning had certainly many of the poet's best gifts. . . . Her distinguishing mark as a poet is a certain sustained power, not perhaps of</p>	

	passion, but of intense expansive feeling, which is almost the same thing, but not quite.” Discuss one or both of above comments.	
Atalanta Scholarship のファイナルコンペティションについてのお知らせ。 これまで3回以上「優秀者リスト」に名前が載った人を対象とする。		
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
本の紹介	Notes about Books.	Augustine Birrell
Employment for Girls	Needle work.	Sophy Loch
Supplement	「懸賞作品コンクール」の優秀者発表, アリシア・リースが編集者を降りるというお知らせ。 Report of “ATALANTA COT”, Hospital Reports.	

『アタランタ』2年目の特徴

年月 Oct.1888~Sep. 1889

編集者 L. T. Meade, John C. Staples

出版社とその住所 Hatchards' Piccadilly, London

特徴 1) Atalanta Fine Art Scholarships & Prizes の創設

月ごとに, 人物画と風景画のお題が出る。(芸術に造詣の深い John C. Staples の影響か?)

Oct. 1888 (No. 1)

扉絵	Exultate Deo.	E. J. Poynter, R. A.
詩	Exultate Deo.	C. G. Rossetti
連載(1)	Miss Shafto.	W. E. Norris
連載 (1) 動物の紹介, イラスト	At the Zoo. 1. Cousin Sarah. (禿げ頭チンパンジー)	C. Lloyd Morgan
絵	Study of a Girl's Head in Chalk.	H. W. Piper
読み物, イラスト	Children from Modern Pictures.	Lucy Toulmin Smith
読み物, イラスト	A Young Angel, and a Young Girl.	Jean Ingelow 絵 Hume Nisbet
詩, イラスト	The Children of Lir.	Katharine Tynan
連載 (1)	A Sage of Sixteen. (賢人)	L. B. Walford
絵	Evelina.	M. Ellen Edwards

連載小説(1), イラスト	Old-fashioned Girls. I Evelina. (1) Stories from the Old Tales and Novels.	Edited by L. T. Meade
詩	Lavender.	Lady Lindsay
本の紹介	Notes about Books.	記載なし
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Miss Edgeworth	<i>Ennui</i> .	Miss Thacheray
Scholarship Competition Questions	I. Voltaire says, <i>Le style, c'est l'homme</i> . Discuss this with reference to Miss Edgeworth. II. What do you judge to have been Miss Edgeworth's views respecting the art of fiction? Support your answer from any of her books.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
読み物	On the Study of the Works of Raphael	G. D. Leslie, R. A.
Atalanta Fine Art Scholarships and Prizes の開催について		
Supplement	Hospital Report, 「優秀者リスト」など 「懸賞作品コンクール」は3か月に1回になる。インドや植民地に住む人も応募できるようにする。男性の応募も歓迎する。	

Nov. 1888 (No. 2)

扉絵	The Common Joys.	A. Hopkins, R. W. S.
詩	The Common Joys.	Janet Logie Robertson
連載 (2)	Miss Shafto.	W. E. Norris
詩	Late Autumn.	Frederick Noel-Paton
絵	Late Autumn.	F. Noel-Paton
読み物, イラスト	Medal Children of the Renaissance.	Frances H. Throop
詩	The Dull November Day.	Janet S. Berger
絵	The Children's Crusade.	Edmund H. Garrett
バラッド, イラスト	Little Alix (AD. 1213). A Story of the Children's Crusade.	Susan Coolidge
連載 (2) 動物の紹介	At the Zoo. II. Sally's Poor Relations.	C. Lloyd Morgan
詩, イラスト	The Stolen Leaves.	記載なし
連載(2)	A Sage of Sixteen.	L. B. Walford

連載小説(2), イラスト	Old-fashioned Girls. I Evelina. (2) Stories from the Old Tales and Novels.	Edited by L. T. Meade
学校紹介	Holloway College. (トマス・ホロウェイが建て、寄贈した女子教育のためのカレッジ)	Alfred J. Church
本の紹介	Notes on Books. エドワード・リアの詩, その他。 <i>Life and Nature Studies</i> はクリスマスプレゼントにおすすめてです。	記載なし
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Walter Savage Landor	<i>Imaginary Conversations.</i>	H. D. Trail
Scholarship Competition Questions	I. What are the chief characteristics of Landor as a writer? Show what you consider to be his peculiar merits or failings. II. "Apart from the treasures of thought and imagination, of wit and humour, of philosophy and eloquence, in which they abound, the <i>Imaginary Conversations</i> deserve a place among the highest in English literature as imperishable models of style." Illustrate this statement in detail from one or more of the Conversations.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
Atalanta Scholarship Competition (1887-88)	"Studies serve for delight, for ornament, and for ability."(Bacon's Essays, L. Of Studies.) Apply this to the books recommended for reading during the past year. Examiner; T. H. Stokoe	
読み物	The Ideal Art School.	J. Sparkes, Principal of the National Art Training school, South Kensington
Supplement	「懸賞作品コンクール」について, Hospital Report, 「優秀者リスト」	

Dec. 1888 (No. 3)

扉絵	Daffodils	G. Koberwein-Terrell
詩	"All Ends in Song."	Fuller Maitland
連載 (3)	Miss Shafto.	W. E. Norris
読み物, 自然科学	Birds in London.	E. Whymper

イラスト	ハシボンガラス, キツツキ, カワセミ, シギ, ヤマシギ, 渡り鳥の話	
戯曲, イラスト	Carrottina, the Gardener's Daughter. Or, The Pleasant Peasant and the Dreadful Duke. A Mysterious Melodrama Written Expressly for Children of All Ages and Sizes.	George Grossmith
読み物	Lizzie's Golden Wheelbarrow.	Lady Lindsay
詩, イラスト	Holiday Visitors.	記載なし
読み物, イラスト	Yum-Yum a Pug.	John Strange Winter
読み切り, イラスト	Princess Mayblossom.	Annette Lyster
絵, 詩	The Star in the East. (イエスが生まれた時の出来事)	M. Ellen Edwards
詩	In a Norman Church.	Victor Plarr
読み物	In Dulci Jubilo. A Tale of Christmas Eve.	Marcia Tyndale
詩, イラスト	A Castle in Spain.	Mary E. Wilkins
読み切り, イラスト	The Silver Hen.	Mary E. Wilkins
絵	Une Âme Au Ciel	Bouguereau
連載 (3)	A Sage of Sixteen.	L. B. Walford
読み切り, イラスト	Such a Little Thing.	L. B. Walford
詩, イラスト	The Christmas Fleet.	Blue Jay
読み切り	Emmy.	Katharine S. Macquoid
本の紹介 イラスト	Notes on Books. (Christmas Books)	記載なし
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Washington Irving	<i>Sketch-Book.</i>	Clementina Black
Scholarship Competition Questions	I. Discuss Washington Irving's claims to be considered an original or representative writer. In his genius distinctively American or English? II. Give a critical analysis of any of his Sketches.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
連載 (1), 絵画に ついて	Art Teaching as It Was and as It Is.	W. P. Frith, R. A.

第2回 Atalanta Scholarship (1888-89) の要綱	
Supplement	Hospital Report, 「優秀者リスト」
広告	<i>The Salon</i> (月刊雑誌, art, fashion, music, drama の評論雑誌) の紹介

Jan. 1889 (No. 4)

扉絵	Me too!	Alice Reeve
詩, イラスト	On the Last Day of the Year.	Ella Fuller Maitland
連載(4)	Miss Shafto.	W. E. Norris
イラスト	Waiting for Partners.	Brend'amour
詩, イラスト	The Glastonbury Thorn.	H. E. Hamilton King
読み物	The Toddlethwaite Prize.	Elizabeth Stuart Phelps
詩	Topsy-turvy. (混乱状態)	Blue Jay
連載 (3) 動物の 紹介, イラスト	At the Zoo. III. The King of Beasts. (ライオン)	C. Lloyd Morgan
絵	Waiting Her Turn.	E. Gulland
連載(1), イラスト	The Adventure of David Vane and David Crane.	J. T. Trowbridge
詩, イラスト	Ingé, The Boy-King. (ノルウェーで 1137 - 1240 まで起こった市民戦争の最中, 1206 年の出来事に題材をとり作られた詩)	Hjalmar Hjorth Boyesen
連載(4)	A Sage of Sixteen.	L. B. Walford
絵	Homewards. A Winter Evening in Russia.	A. Kowalski
本の紹介 イラスト	Notes on Books. (Stories of the Season)	記載なし
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
John Keats	<i>Keats's Poems.</i>	Richard Garnett
Scholarship Competition Questions	I. Trace, as well as you can, the growth and development of Keat's poetical powers, taking for study <i>Endymion</i> , <i>Hyperion</i> , and <i>The Eve of St. Agnes</i> . II. Dividing poetry into three great classes—lyric, epic, and dramatic—in which should you consider lay Keat's chief strength? Give reasons for choice.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
連載 (2) , 絵画につ いて	Art Teaching as it was and as it is. (Conclusion.)	W. P. Frith, R. A.

Supplement	「懸賞作品コンクール」の結果報告, 次回のお題 Hospital Report, 「優秀者リスト」
広告	Messrs. Hatchard's List から書籍の紹介, ミードの <i>A Child of the Revolution</i> 他。

Feb. 1889 (No. 5)

扉絵	Wintry Weather	L. Bourges
詩, イラスト, 五線符付き	The Cricket Fiddler. A Recitation for Young Violinist.	Clara Doty Bates Music by Julius Eichberg
連載 (5)	Miss Shafto.	W. E. Norris
連載 (1), イラスト	Lady Augusta Stanley. Reminiscences. 「思い出」 (ウェストミンスター寺院にこの女性 の墓がある。)	By the Author of "Chronicles of the Scönberg-Cotta Family."
詩	To One Who Rejoices.	E. H. Hickey
連載 (2) イラスト	The Adventure of David Vane and David Crane.	J. T. Trowbridge
絵	A Violin Recital.	記載なし
連載 (4) 動物の 紹介, イラスト	At the Zoo. IV. Bruin the Bear.	C. Lloyd Morgan
読み切り, イラスト	Who Ate the Queen's Lunch. (孔雀が窓から忍び込んで, 準備した女王の ランチを台無しにした話)	Susan Coolidge
連載 (5)	A Sage of Sixteen.	L. B. Walford
詩, イラスト	The Valentine.	Blue Jay
本の紹介	Notes on Books.	記載なし
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Robert Browning	<i>Poetical Works</i> . Vol. VI. <i>Selected Poems</i> .	Edmund Gosse
Scholarship Competition Questions	What are the principal qualities you note in Browning's poetry? Illustrate your answer from any of his poems.	
第1回「奨学金コンクール」の結果報告 第1席 Florence Mary Wilson		The Rev. T. H. Stokoe
Search Passages in English	作者当て, 作品当てクイズ	

Literature (英文学作品クイズ)		
絵画のコツ	Light and Colour in Landscape Painting.	Alan Wright
Supplement	「懸賞作品コンクール」 について (1月号と同じ) Hospital Report, 「優秀者リスト」	
広告	Allen & Hanburys' Infants' food. 利用者の喜びの声。Sold Everywhere.	
	Montserrat Lime Fruit Juice & Cordials. (非アルコール果汁飲料)	

Mar. 1889 (No. 6)

扉絵	Little Ruth.	F. A. Hopkins
詩, イラスト	The Crocus.	Harriet Eleanor Hamilton King
連載 (6)	Miss Shafto.	W. E. Norris
連載 (2) , イラスト	Lady Augusta Stanley. Reminiscences. 「思い出」	By the Author of "Chronicles of the Scönberg-Cotta Family."
詩	Of Beauty.	Ella Fuller Maitland
連載(3) イラスト	The Adventure of David Vane and David Crane.	J. T. Trowbridge
詩	A Song of Earth.	V. J. Leatherdale
連載 (1), イラスト	The Seal Maiden. A Legend of the Orkneys.	Julian Corbett Author of "For God and Gold."
読み切り, イラスト	Children in Italian Sculpture.	F. Mabel Robinson
詩, イラスト	Grandmother's Boy.	Frederic E. Weatherly
絵	Vacuna.	F. G. Hobden
連載 (6)	A Sage of Sixteen.	L. B. Walford
詩	The Boy <u>Disciple</u> . 「門弟」	E. H. Hickey
Atalanta Scholarship and Reading 優秀賞, FFlorence M. Wilson のエッセイ, 肖像		
本について	Notes on Books.	記載なし
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Charlotte Brontë	<i>Villette</i> .	A. Mary F. Robinson (Madame James Darmesteter)
Scholarship Competition	I. "Every great novelist has one or two moral qualities which their works express in a sovereign degree. Discuss this statement with respect to Charlotte	

Questions	Brontë . II. Give an outline sketch of the story of <i>Villette</i> .	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
絵画のコツ	Brush-Marks	Alan Wright
Supplement	Hospital Report, 「優秀者リスト」	
広告	Messrs. Hatchard's List から書籍の紹介, ミードの <i>A Child of the Revolution</i> 他。	

Apr. 1889 (No. 7)

扉絵	The Earl's Love	Gordon Browne
詩, イラスト	The Earl's Love. (Hugh O'Neil (アイルランドの伯爵で, 北アイルランドのアルスターの王子)と Mabel Bagnall (イングランドの貴婦人) の結婚。当時の 17 世紀初頭は, アイルランド人とイングランド人の結婚は法律で禁止されていた)	Katharine Tynan
連載 (7)	Miss Shafto.	W. E. Norris
詩	A Farewell Proposal.	J. B. Selkirk
読み切り, イラスト	Readers at the British Museum. (読書する人たちの様々な姿。)	Amy Levy
詩	Gold and Silver.	Constance Milman
連載 (2) イラスト	The Seal Maiden. A Legend of the Orkneys.	Julian Corbett Author of "For God and Gold."
読み切り	Philip Bourke Marston. (詩人)	Edward F. Strange
連載 (4) イラスト	The Adventure of David Vane and David Crane.	J. T. Trowbridge
詩	In Her Garden.	E. E. Kitton
連載 (7)	A Sage of Sixteen.	L. B. Walford
読み切り, 自然科学, イラスト	Fairy-Rings and How They Are Made. (キノコ, カビ)	Arabella B. Buckley
詩	In the Violet-Time.	Sidney A. Alexander
読み切り	Feathers and Fashion. 女性の装飾品としての鳥の羽について(愛鳥精神に訴える。Birds are Nature's police, whose duty it is to repress insect criminals.)	Theodore Wood, F. E. S.

本について	Notes on Books.	記載なし
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Lord Tennyson	<i>Tennyson's Works.</i>	W. J. Courthope
Scholarship Competition Questions	I. Show in what ways you consider Tennyson to be the representative poet of the Victorian era. II. Give an outline of the Arthurian legend as found in the <i>Idylls of the King</i> . III. Criticise in detail <i>Maud</i> , <i>The Princess</i> , or <i>Locksley Hall</i> .	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
絵画について	On the Drawings of the Old Masters (ボッティチェリ, ダビンチ, ミケランジェロ, ラファエロなどの絵)	Mrs. Henry Ady (Julia Cartwright)
Supplement	「懸賞作品コンクール」について, 女性だけではなく, 男性の参加も待っています。 “the August Candidate” がパロディ部門で第1位 Hospital Report, 「優秀者リスト」	

May 1889 (No. 8)

扉絵	Nora	C. La Creevy
詩	May Month.	Blue Jay
連載 (8)	Miss Shafto.	W. E. Norris
詩	The Modern Judas.	E. Nesbit
読み切り, イラスト	Little People in the Studio.	C. La Creevy
連載 (3) イラスト	The Seal Maiden. A Legend of the Orkneys.	Julian Corbett
詩, イラスト	The Ballad of Pandava.	A. Mary F. Robinson
連載 (5) イラスト	The Adventure of David Vane and David Crane.	J. T. Trowbridge
追悼記事	The Rev. J. G. Wood.	Edward Salmon
読み切り	Molly McGrath.	Catherine Mary MacSorley
詩	While the Grass Grows.	E. H. Hickey

連載 (8)	A Sage of Sixteen.	L. B. Walford
本について	Notes on Books.	記載なし
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Thackeray	<i>Esmond. Vanity Fair.</i>	V. J. Leatherdale
Scholarship Competition Questions	I. What method of dealing with History does Thackeray adopt in his historical novel? Show what you consider to be their distinguishing features. II. It has been said that Thackeray's use of satire is carried to an inartistic degree in his novels. How far do you consider this criticism justified?	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
絵画のコツ	The Principles of Compositions: Mr. Ruskin's view.	記載なし
Supplement	Hospital Report, 「優秀者リスト」	
広告	Allen & Hanburys' Infants' food.	

June 1889 (No. 9)

扉絵	Companions in Misfortune	M. Ellen Edwards
詩, イラスト	The Butterflies' <u>Pedigree</u> . 「由来, 起源, 家系」	E. Leith
連載 (9)	Miss Shafto.	W. E. Norris
読み切り, イラスト	Going on the Stage.	L. F. Austin
絵	In a Roman Studio: The <u>Mimic</u> . (物まね)	L. Bechi
連載 (6) イラスト	The Adventure of David Vane and David Crane.	J. T. Trowbridge
詩, イラスト	The Stay-at-home. (After Claudian.)	W. C. Green
読み切り, イラスト	A Pair of Silk Stockings.	The Author of "Mehalah."
読み物 (絵画) イラスト	Flower Painting (Water-colours).	Lady Lindsay
連載 (5) 動物の 紹介, イラスト	At the Zoo. V. Seals and Sea-Lions.	C. Lloyd Morgan
連載 (9)	A Sage of Sixteen.	L. B. Walford

本について	Notes on Books.	記載なし
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Nathaniel Hawthorne	<i>The House of the Seven Gables.</i> <i>Twice-Told Tales.</i>	Richard Garnett
Scholarship Competition Questions	I. What have you remark in Nathaniel Hawthorne's stories concerning (a) choice of subject, (b) method of dealing with it, (c) artistic workmanship?	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
絵画のコツ	Light and Shade.	記載なし
Supplement	Hospital Report, 「優秀者リスト」	
広告	Frederick Warne & Co. の本。すべて, 1 シリングです。 本屋または, 駅の売店 にて。	
	Messrs. Hatchard's List から書籍の紹介, ミードの <i>Deb and the Duchess</i> . 他	

July 1889 (No. 10)

扉絵	In the Time of Roses	Zimmermann
詩	Victus Victor. Father Joseph Damien. Went to Molokai Leper Island, 1873. Died 1889.	Mary Macleod
連載 (10)	Miss Shafto.	W. E. Norris
詩	When We Are All Asleep.	R. S. Hichens
外国紀行文, イラスト	A Florentine Palazzo. (サン・ロレンツォ, ダンテの生家, サン・マルコ寺院など)	Julia Cartwright
連載 (7), イラスト	The Adventure of David Vane and David Crane.	J. T. Trowbridge
連載 (6) 動物の紹介	At the Zoo. VI. The Mermaid. (生きている人魚, マナティ, ジュゴン)	C. Lloyd Morgan
連載 (1), イラスト	The Story of a Spring Morning.	Mrs. Molesworth
読み切り (自然科学)	"Striking <u>Ile.</u> (=Oil)" ガソリン, 石油の話	C. F. Gordon-Cumming
詩	A Summer Night.	G. H. F. N.
詩	The <u>Evangel</u> of Venus. 「福音, 良い知らせ」	J. Logie Robertson

本について	Notes on Books.	記載なし
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
George Eliot	<i>The Mill on the Floss.</i> <i>Scenes of Clerical Life.</i>	Sarah Tytler
Scholarship Competition Questions	I. Give a sketch of any one of the characters from <i>The Mill on the Floss</i> or <i>Scenes of Clerical Life.</i> II. Show as far as you can wherein lies the special excellence of George Eliot as a novelist.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
絵画のコツ	The Translation of colour into “Black and White.”	掲載なし
Supplement	コンサート開催のお知らせ “Atalanta Cot” 基金の慈善興行 「懸賞作品コンクール」の結果報告と次回のテーマ Hospital Report, 「優秀者リスト」	

Aug. 1889 (No.11)

扉絵	The Heart of the Country	Allan Barraud
詩	From the Heart of the Country.	Christian Burke
連載 (11)	Miss Shafto.	W. E. Norris
詩, イラスト	Home Sweet Home.	Harriet Prescott Spofford
読み切り, イラスト	Gul Baba, “Father of Roses.”	John C. Carpenter
詩	To One Whose Love Lies Dying.	Ella Fuller Maitland
連載 (2) イラスト	The Story of a Spring Morning.	Mrs. Molesworth
歌唱法について	“Drawing-room” Singing, and How to Improve It.	H. C. Deacon
読み切り	The Pilgrim of Beachy Head.	Holcombe Ingleby
連載 (7) 動物の紹介, イラスト	At the Zoo. VII. Horns and Antlers. (角や枝角をもつ動物)	C. Lloyd Morgan

本について	Notes on Books.	記載なし
詩	In My Garden.	G. H. F. N.
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
John Ruskin	<i>Sesame and Lilies.</i> <i>The Crown of Wild Olive.</i>	Lucy Toulmin Smith
Scholarship Competition Questions	I. In <i>Sesame and Lilies</i> what is Ruskin's real object in directing you how and what to read? Include in your answer what his "kingship" and his "queenly power" signify. II. What are the three conditions of noble war? Give a short abstract of "War" in <i>The Crown of Wild Olive</i> .	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て，作品当てクイズ	
絵画のコツ	Some Hint to Beginners in Art from the Teaching of Mr. Ruskin.	掲載なし
Supplement	Hospital Report, 「優秀者リスト」	
広告	Messrs. Hatchard's List から書籍の紹介	ミード <i>A Child of the Revolution</i> . 他

Sep. 1889 (No. 12)

扉絵	Going a Milking	Alice Reeve
詩	Their Childhood's Home.	Violet M. King
連載 (12)	Miss Shafto.	W. E. Norris
紀行文 イラスト	A Brief Account of How We Ascended the Peak of Tenerife. Dec. 19 th , 1887.	Commodore A. H. Markham, A. D. C.
読み切り	After Seventeen Centuries and a Half. (ローマの豪族 (Fundanius) の娘, ミニシア・マルセラの墓。彼女は 12 歳 11 か月 7 日で亡くなった。17 世紀半経過した今でも, 彼女の話は人々の涙を誘う)	Professor Church
絵	Moonrise in Italy.	W. H. J. Boot
連載 (8) 動物の紹介, イラスト	At the Zoo. VIII. The Ostrich.	C. Lloyd Morgan
都市の紹介, イラスト	The <u>Seylla</u> of To-day. (「スキュラ岩」イタリア本土と Sicily 島の間のメシーナ海峡にある危険な岩礁。)	記載なし
詩	Who Shall Have the Roses?	Blue Jay

詩, イラスト	The East <u>Neuk</u> . (=Nook 「人里離れた所」)	Lady Lindsay
連載 (3) イラスト	The Story of a Spring Morning.	Mrs. Molesworth
読み切り, イラスト	A New Guinea Sketch. Two Floras.	Hume Nisbet
絵	Juvenile Gossips.	L. Dockray
読み切り	A Genoese Artist. A True Incident.	J. S. A. Herford
本について	Notes on Books.	記載なし
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English Men and Women of Letters of the 19 th Century.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Matthew Arnold As a Poet.	Matthew Arnold's <i>Selected Poems</i> .	Edward Dowden
Scholarship Competition Questions	"Poetry is a criticism of life." Discuss this with reference to Matthew Arnold's works. Show whether or not you consider it a true definition of the highest poetry.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
絵画のコツ	Outlines of a Course of Study in Art.	記載なし
Supplement	Hospital Report, 「優秀者リスト」	
広告	Messrs. Hatchards' List から書籍の紹介 Mrs. Molesworth の本, 他	

『アタランタ』3年目の特徴

年月 Oct.1889~Sep. 1890

編集者 L. T. Meade, John C. Staples

出版社とその住所 Trischler & Co. 18 New Bridge Street E. C. London.

3年目 (Oct. 1889 to Sep. 1890)

出版社が, Hatchards' から Trischler & Co. に変わった。

特徴

1) 「アタランタ奨学金と読書クラブ」の変更

毎回一人の作家を取り上げて解説したり, 推薦図書を提示したりするやり方やその作家についての小論文を書かせることは, 変更がない。賞金の与え方, 金額が変更した。

月ごとの「優秀者リスト」の中での最優秀作品に1ギニー, 次席作品に半ギニーが与えられる。

(毎月)

Final Competition である Scholarship Competition では, 年間の1位に20ポンドの奨学金を2年

間。2 位に 10 ポンドの奨学金。

2) 「懸賞作品コンクール」の項目の減少 (July 1890~Sep. 1890 までは中断)

最優秀作品を作ったものに与えられるのが書物ではなく、現金になった。

Oct. 1889 (No.25) の例 (4 つ)

21 歳以下, 1 位 1 ギニー, 2 位半ギニー,

1. 冒険ストーリー(1000 語以下)
2. 白黒または色つきの水彩の絵, テーマは「秋」

16 歳以下, 1 位 15 シリング, 2 位 7 シリング 6 ペンス相当の品

1. おもちゃ(どんなものでも)の自叙伝(創造童話) 500 語以内
2. 総帆を上げた船の絵

Feb. 1890 (1 つ)

1. Historical Ballad (100 語以内) 年少年長に分けて。

Apr. 1890 (1 つ)

Walter Scott の小説についてのエッセイ (年長, 年少に分けて)

1 年目.....10 のテーマ, Oct. 1887 以降おおよそ 8 個ぐらい。

2 年目.....年長年少合わせて 8 のテーマ (Oct. 1888)。3 か月に 1 度が変わった。

3) Fine Art Competition の取りやめ (Oct. 1889 号に)

もともとは, John C. Staples が編集者に加わった Oct. 1888 号に開始された。彼は, 3 年目も編集者として名前が載っているが, 4 年目には編集者を降りている。

4) Search Question の変更

半年ごとの集計で, 最も正解率の高かった人に賞金が出るようになった。

1 位 2 ギニー, 2 位 1 ギニー。応募の際には, 必ずクーポンを貼付すること。

5) 「モリフクロウ」と「アタランタ手紙靴」の掲載が始まった

Oct. 1889 (No. 1)

扉絵	The Gleaners	Rudolf Blind
詩	To a Child Who Asked Me for a Poem.	The Hon. Roden Noel
連載(1)	A Rough Shaking.	George Macdonald
読み物, イラスト	More about Miss Edgeworth.	Miss Thackeray
絵	The Choice of the Caskets. 『ベニスの商人』の舞台の 1 シーン。	F. Barth

詩, イラスト	Woods of Warwick.	Harriet Prescott Spofford
連載 (1)	Very Young.	Jean Ingelow
読み物, イラスト	The Luck of Edenhall.	Amanda B. Harris
詩	A Story of the Evil Eye. (邪悪な目を持つ男の話。)	Victor Plarr
連載 (1)	Wednesday the Tenth. A tale of the South Pacific.	Grant Allen
連載(1), イラスト	Old-fashioned Girls. Stories from the Old Tales and Novels. Cecilia or, memoirs of an heiress a hundred years ago.	Edited by L. T. Meade
「モリフクロウ」	Society.	L. B. Walford
	Atalanta branch of the Selborne Society の自然保護活動の会員募集。洋服の装飾のために鳥類を殺すことや自然破壊に反対を唱える活動。	L. T. Meade
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English men & women of Letters.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Spenser	<i>Faerie Queene</i>	Richard Garnett
Scholarship Competition Questions	1. Give an outline sketch of the First <i>or</i> Second Book of the <i>Faerie Queene</i> , dealing with it as a romance and an allegory. 2. Show, as far as you can, in what way the <i>Faerie Queene</i> reflects the spirit of the age in which it was written.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
Supplement	「懸賞作品コンクール」の今回のお題 “Atalanta Cot”, Hospital Reports, 「優秀者リスト」	

Nov. 1889 (No. 2)

扉絵	Palazzo Ducale, Venice	Clara Montalba, R. W. S.
詩	Of Celia's Roses.	Ella Fuller Maitland
連載 (2)	A Rough Shaking.	George Macdonald
絵	A Procession. (Festival of St. John —Venice)	Clara Montalba, R. W. S.

読み物（紀行文）, イラスト	Recollections of Venice.	Lady Lindsay
連載（2）	Very Young.	Jean Ingelow
詩	De Profundis.	Katharine Tynan
読み物（女性と職 業）	How an American Girl Became a Journalist. Margery Blunt.	Sara Jeannette Duncan
詩, イラスト	The Roses of St. Elizabeth.	Maxwell Gray
連載（2）	Wednesday the Tenth. A tale of the South Pacific.	Grant Allen
詩	Love.	A. R. Williams
連載（2）, イラスト	Old-fashioned Girls. Stories from the Old Tales and Novels. Olivia and Sophia Primrose.	Edited by L. T. Meade
絵	The Clown's Supper.	Konrad Kaulbach
「モリフクロウ」	Occupations	Sara Tytler
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English men & women of Letters.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Francis Bacon	<i>Advancement of Learning.</i> Bacon's <i>Essays.</i>	Agnes M. Clerke
Scholarship Competition Questions	1. What charges of discredit have been brought against Learning? What errors of judgement serve to bring Learning into contempt? What should be the chief end of Knowledge? 2. Give an abstract, in your own words, of Bacon's views respecting <i>Truth, Friendship, and Studies.</i>	
「奨学金コンクール」 (1888-89) について。 Scholarship Essay のテーマ “Humour and Pathos are closely akin.” このことについて, 1 年間に 読んだ推薦図書を踏まえて述べなさい。審査員 Alfred J. Church		
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
Supplement	Hospital Reports; Report of the London Branch of the Hospital Work Society. Report of the Wirral Branch of the Hospital Work Society. 「優秀者リスト」	

Dec. 1889 (No. 3)

扉絵	Olaf the Sea King	G. F. B.
バラッド, イラスト	<u>Olaf</u> the Sea King. ノルウェーの国王, 守護聖人。	Kate Putnam Osgood
連載 (3)	A Rough Shaking.	George Macdonald
詩	The Baboushka (A Ballad of Christmas)	Graham R. Tomson
読み物, イラスト	Wonderful Christmases of Old. (昔のクリスマスの様子)	Hezekiah Butterworth
読み切り	Mr. Gregory's Misadventure.	W. E. Norris
読み物	Our Grandmother's Education.	C. M. Yonge
連載 (3)	Very Young.	Jean Ingelow
連載 (3), イラスト	Old-fashioned Girls. Stories from the Old Tales and Novels. Lizzy; and the Touchy Lady. (Miss Mitford's <i>Our Village</i> .)	Edited by L. T. Meade
絵	A Woodland Path in Winter.	E. Wilson
読み物, イラスト	The Carrying Away of Hildegardis.	La Motte Fouque
詩	To Lynette, Born on Innocents' Day.	Mosse Macdonald
連載 (3)	Wednesday the Tenth. A tale of the South Pacific.	Grant Allen
バラッド, イラスト	Whittington's Advancement.	記載なし。
脚本	A Latter Day Young Lady. Charade in Action; In Three Acts.	Prof. F. T. Palgrave
読み物	The Difficulty of a Darling.	L. B. Walford
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English men & women of Letters.		
作家	推薦図書	担当執筆者
John Milton	<i>L' Allegro and Il Penseroso</i> ; The First and Third Books of <i>Paradise Lost</i> .	Lucy Toulmin Smith
Scholarship Competition Questions	1. Contrast the characteristics of <i>L' Allegro</i> and <i>Il Penseroso</i> (mirth and thoughtfulness), and show some of the pleasures belonging to each. 2. Which do you consider the six finest passages in the First and Third Books of <i>Paradise Lost</i> ? And give your reasons.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	Education.	Prof. A. J. Church
	チャーチ教授の「教育論」に対する意見募集	
		編集室

「アタランタ手紙靴」	「モリフクロウ」の感想, Society についての読者の意見。
Hospital Reports; Report of the Jackanapes Branch of the Hospital Work Society. Report of the London Branch of the Hospital Work Society.	
「優秀者リスト」	
Messrs. Hatchards' の本の宣伝広告。	

Jan. 1890 (No. 4)

扉絵	Study of a Head	Th. Tschumakoff
詩, イラスト	The Little New Year. (Triplet.)	F. W. Rolfe
連載 (4)	A Rough Shaking.	George Macdonald
詩	Poem.	Blue Jay
絵	Miss Fenton as Polly Peachum	Hogarth
絵	Dignity and Impudence	Landseer
読み物, イラスト	Students' Day at The National Gallery.	J. Penderel Brodhurst
絵	The Valley Farm	Constable
連載 (4)	Very Young.	Jean Ingelow
Atalanta Fine Art Scholarships Comopetition の優秀作品の発表。		
連載 (4)	Wednesday the Tenth. A tale of the South Pacific.	Grant Allen
詩	A Carol for My Son.	C. Bain
連載 (1), イラスト	Schools in the Past.	Dorothea Beale, Principal of Ladies' College, Cheltenham.
連載 (1)	A Matter of Taste. (A Cabinet Study.)	F. Anstey
詩	His Little Shoes.	Clo. Graves
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English men & women of Letters.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Joseph Addison	<i>Selection from the 'Spectator'</i>	Prof. Church
Scholarship Competition Questions	What has the Spectator to remark concerning— (a) The ladies of his own age; (b) True and false wit; or, (c) Taste in Literature.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	Recitation <i>versus</i> Action	Charlotte M. Mason
「アタランタ手紙靴」	「モリフクロウ」の感想, Occupation についての読者の意見。	
「懸賞作品コンクール」の優秀作品紹介。		

Report of the “Atalanta Cot”
Report of the London Branch of the Hospital Work Society.
「優秀者リスト」

Feb. 1890 (No. 5)

扉絵	L'appel Au Soir	Jules Breton
詩	Sir Plume to Sacharissa: Who Is Cross.	Ella Fuller Maitland
連載 (5)	A Rough Shaking.	George Macdonald
詩	A Sad Case. (by an Old Doll)	C. I. M. Bain
連載 (1)	Dumps.	Mrs. Parr
絵	Lavoisier et Sa Femme	J. L. David
特集記事, イラスト	Famous Pictures from the Paris Exhibition. 1889 年開催のパリ万国博覧会で展示された絵 (1789-1878) の解説。	Julia Cartwright
連載 (2) , イラスト	Schools of Today. 中流階級の女性のための昼間部の学校について。20 年前には、ほとんど存在しなかったことや、個人の家をプライベート・スクールに変えた学校との相違点などを指摘。	Dorothea Beale, Principal of Ladies' College, Cheltenham.
連載 (2)	A Matter of Taste. (A Cabinet Study.)	F. Anstey
詩, イラスト	The One in the Middle.	Margaret Eyttinge
連載 (1)	Celebrated Lady Novelists. I Ann Radcliffe, and the “Mysteries of Udolpho.”	Sarah Tytler
詩	Dolly's Garden.	M. Hedderwick Browne
絵	How They Learn the New Spring Tunes.	記載なし。
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English men & women of Letters.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Fanny Burney (“Madame D'Arblay.”)	<i>Evelina</i>	L. B. Walford
Scholarship Competition Questions	1. Point out what you consider Miss Burney's distinctive merits or shortcomings as a writer of fiction. 2. Sketch the story of <i>Evelina</i> .	
Search Passages in English	作者当て, 作品当てクイズ	

Literature (英文学作品クイズ)		
「奨学金コンクール」 (1888-89) の優秀賞発表。審査員 A. J. Church の講評。		
「モリフクロウ」	On Fashion in Manner.	Miss Anne Thacheray
「アタランタ手紙靴」	「モリフクロウ」の感想, 12月号の P. Church の Education に対する反論。(L. A. M., Amelia 他3名)	
Hospital Reports, 「優秀者リスト」		

Mar. 1890 (No. 6)

扉絵	A Mountain Torrent	E. Farren
詩	“That Can Sing Both High and Low.”	Blue Jay
連載 (6)	A Rough Shaking.	George Macdonald
絵	Wintry Cloud and Cold.	M. Clarke
詩, イラスト	A Song for March.	Mary Macleod
連載 (2)	Dumps.	Mrs. Parr
絵	Moscow—Russian Prisoners on the March.	E. Répine
読み物, イラスト	Two Extremes in Russia.	L. Toulmin Smith
連載 (3)	A Matter of Taste. (A Cabinet Study.)	F. Anstey
読み物	Home Education.	Mrs. Creighton
連載 (1)	Quite Another Story. A Sequel to ‘Very Young.’	Jean Ingelow
詩, イラスト	Fairy Jewels.	Frank Dempster Sherman
「奨学金コンクール」 (1888-89) の優秀エッセイ。 “Humour and Pathos Are Closely Akin.” (Gladys E. Meyrick)		
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English men & women of Letters.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Oliver Goldsmith	Goldsmith’s Works	W. Minto.
Scholarship Competition Questions	Dr. Johnson says of the <i>Vicar of Wakefield</i> , that it is “a fanciful performance, with nothing of real life in it, and very little of nature.”—Discuss this criticism, and give your own opinion with regard to the truth of it.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	On the study of Nature	C. Lloyd Morgan
「アタランタ手紙靴」	Recitation <i>versus</i> Action に対する意見	

Hospital Reports, 「優秀者リスト」

Apr. 1890 (No. 7)

扉絵	Easter Morning	記載なし。
詩, イラスト	Early April.	The Hon. Roden Noel
連載 (7)	A Rough Shaking.	George Macdonald
絵	Rydal.	L. Russell
読み物	Oxford and Cambridge Colleges for Women.	The Hon. Eva KnatchBull-Hugessen
絵	Donati's Comet ドナーティ (イタリアの天文学者) が 1858 年に見つけた彗星の名前。分光器を用いて, 初めて彗星のスペクトルを観察した。	記載なし。
詩, イラスト	Caroline Herschel.	Harriet Prescott Spofford
連載 (3)	Dumps.	Mrs. Parr
詩, イラスト	A New Song.	E. Seeley
連載 (2)	Quite Another Story. A Sequel to 'Very Young.'	Jean Ingelow
連載 (4), イラスト	Old-fashioned Girls. Stories from the Old Tales and Novels. Lady Juliana Douglas.	Edited by L. T. Meade
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English men & women of Letters.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Pope	Pope's Poems.	Richard Garnett
Scholarship Competition Questions	1. Give your own opinion as to Pope's rank as a poet. State reasons for your criticism. 2. Criticize in detail <i>The Rape of the Lock</i> .	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	The Forgotten Graces. From a Man's Point of View.	R. K. Douglas
「アタランタ手紙靴」	On Fashion in Manner. についての意見。女性らしい振る舞いや行動について。	

「懸賞作品コンクール」の今回のお題と前回の優秀作品の発表。
“Atalanta Cot”, Hospital Report, 「優秀者リスト」

May 1890 (No. 8)

扉絵	Lesbia	E. Gulland
詩, イラスト	Flowers from a Garden.	Blue Jay
連載 (8)	A Rough Shaking.	George Macdonald
詩, イラスト	Kate Cunningham's Ride.	A. Werner
連載 (2)	Celebrated Lady Novelists. II. Miss Ferrier: The Author of "Marriage."	L. B. Walford
詩	Tom and Kitty.	The Rev. Frederick Langbridge, M. A.
連載 (4)	Dumps.	Mrs. Parr
読み物, イラスト	Warwick Brookes and His Pencil-Pictures.	T. Letherbrow
連載 (3)	Quite Another Story. A Sequel to 'Very Young.'	Jean Ingelow
詩, イラスト	The Fairy Prince.	Marian Douglas
読み物, 肖像画	A Born King. Alphonso X III of Spain.	Adela Orpen
読み物	Mary Stuart's Books.	Prof. Church
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English men & women of Letters.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Moore.	Moore's poems	Justin Huntly M'Carthy, M. P.
Scholarship Competition Questions	1. Give an outline sketch of the Romance of <i>Lalla Rookh</i> . 2. Mention any poems, or passage in poems, which seem to you most characteristic of Moore's genius. Give reasons for choice.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	“Coming Out”	Mrs. Molesworth
「アタランタ手紙靴」	The Study of Nature への意見。「とても興味深いものでした。」他	
Hospital Reports, 「優秀者リスト」		
Search Passages in English の今年度半期の優秀者発表。		

June 1890 (No. 9)

扉絵	A Simple Story	M. Ellen Edwards
詩, イラスト	The Secret of the Nightingale.	The Hon. Roden Noel
連載 (9)	A Rough Shaking.	George Macdonald
バラッド, イラスト	The <u>Friar</u> of Orders Grey. (托鉢修道士)	記載なし。
連載 (5)	Dumps.	Mrs. Parr
絵	Pride Will Have a Fall.	Reduced from a drawing by one of our Prize Winners.
絵	Portrait of a Lady.	Piero Della Francesca
読み物, イラスト	The Museum Poldi-Pezzoli. (A Treasure-House in Milan.) 宗教画など。	Helen Zimmern
連載 (4)	Quite Another Story. A Sequel to 'Very Young.'	Jean Ingelow
詩	Salvage.	Mary Gorges
連載 (1)	O-Wuta-San.	Sara Jeannette Duncan
詩	The High Prize.	Esther Walker
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English men & women of Letters.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Byron.	<i>Childe Harold's Pilgrimage, Manfred</i>	Professor Dowden
Scholarship Competition Questions	1. State what you consider to be the prevailing train of thought in <i>Manfred</i> . 2. Give an account of the wandering of Childe Harold (Canto III. and Cant IV.)	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	Sunday-School Teaching. "Whoever teaches, learns more."	Eleanor Bairdsmith
	The Forgotten Graces. への意見が多数寄せられたので, これを受けてダグラス教授は The Forgotten Graces. のパート 2 で読者の意見に答えます。	L. T. Meade
「アタランタ手紙 靴」	4 月号 The Forgotten Graces.への読者の反論。	
Hospital Reports, 「優秀者リスト」		

扉絵	Madame Lebrun and Her Daughter	Mme. Vigee Lebrun
詩, イラスト	<u>Dirge</u> . (葬送歌, 哀歌)	Eller Fuller Maitland
連載 (10)	A Rough Shaking.	George Macdonald
絵	The Skylark.	J. Finnemore
連載 (2)	O-Wuta-San.	Sara Jeannette Duncan
連載 (6)	Dumps.	Mrs. Parr
詩	A Song of An Owl.	George Hare Leonard
読み物 (紀行文), イラスト	A Journey and A Journal. Dorothy Temple (23 歳) のアイルランド旅行記。	Katharine Tynan
連載 (5)	Quite Another Story. A Sequel to <i>Very Young</i> .	Jean Ingelow
読み物	Religious Plays and Ober-Ammergau.	L. Toulmin Smith
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English men & women of Letters.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Dr. Oliver Wendell Holmes	<i>Autocrat of the Breakfast Table.</i>	Harriet Waters Preston
Scholarship Competition Questions	State some of the Autocrat's views concerning Authors—Friendship—Youth and Age—Sympathies and Antipathies.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	The Forgotten Graces—II.	Prof. Douglas
	次回の「モリフクロウ」には, 水泳を教えるプロの方が寄稿します。乞うご期待。	L. T. Meade
「アタランタ手紙靴」	5 月号 <i>Coming Out</i> . への読者の意見。共感する意見が多い。	
「懸賞作品コンクール」 中断のお知らせ。(10 月号まで), 前回の優秀者発表。		
Hospital Reports, 「優秀者リスト」		

Aug. 1890 (No. 11)

扉絵	Portrait of Mrs. Bairdsmith	W. B. Richmond, A. R. A.
詩	The Night My Love Comes Home.	F. E. Weatherly
連載 (11)	A Rough Shaking.	George Macdonald
絵	<u>Singhalese</u> Fishing Boats. (シンハラ人。 スリランカの主要民族)	C. F. Gordon Cumming

読み物 (紀行文) イラスト	The Cruise of the "Castle Jermyn." 熱帯の海と共に暮らすスリランカの人々。	Constance F. Gordon Cumming
連載 (7)	Dumps.	Mrs. Parr
詩, イラスト	The London Necropolis Woking. (イングランド南部 Surrey 州の中部の町ウォーキングの共同埋葬墓地にて)	Mrs. Hamilton King
読み物	To Penny Reading Reciters. (By One of Themselves.)	記載なし。
絵	Lock on the Thames. (船に閘門を通過させる)	記載なし。
連載 (6)	Quite Another Story. A Sequel to 'Very Young.'	Jean Ingelow
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English men & women of Letters.		
作家	推薦図書	担当執筆者
De Quincey	<i>Joan of Arc. The Spanish Military Nun.</i>	Edward Garnett
Scholarship Competition Questions	"In <i>The Spanish Military Nun</i> and <i>Joan of Arc</i> , De Quincey has turned history into romance in a manner that has no parallel." Illustrate this from either of the chosen Essays.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	On Teaching to Swim.	D. G. Thomas
「アタランタ手紙靴」	7月号 <i>Sunday-School Teaching</i> に対する読者の意見。「筆者は日曜学校で教えることを喜びとするような女性はいません, と言っているが, 私の住むアイルランドでは大半の教師は愛情を持って子供に接し, 学級経営もうまくいっています。」「筆者のバードスミス先生は, 教えることが嫌いだったのでしょう」などの意見。	
「優秀者リスト」		
広告	Warner's "Safe" Cure. 「れっきとした証拠。」他。	

Sep. 1890 (No. 12)

扉絵	In Disgrace	H. Kaulbach
詩	A Morning Song.	Edward Strange
連載 (12)	A Rough Shaking.	George Macdonald

詩	The Old Home.	Mary Gorges
絵	Harvest Time.	Peter Macnab
読み物, イラスト	Harvest-Time and Its Customs.	Peter Macnab
連載 (8)	Dumps.	Mrs. Parr
読み物, イラスト	<u>Picardy</u> and <u>Artois</u> . (両方ともフランス北部の1地方)	Sarah Tytler
連載 (7)	Quite Another Story. A Sequel to 'Very Young.'	Jean Ingelow
読み物	The <u>Talismans</u> . (護符, お守り)	Dr. Garnett
絵	The Last Sheaf.	Georges Laugée
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 English men & women of Letters.		
作家	推薦図書	担当執筆者
Bulwer Lytton	<i>The Last Days of Pompeii</i> . <i>The Caxtons</i> .	Charles Kent
Scholarship Competition Questions	1. Paint as vivid a picture as you can of life in Pompeii in the last days before its destruction. 2. Mention some of the chief incidents in the life of Pisistratus Caxton.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	The Use of A Yearly Dress Allowance.	Eleanor Bairdsmith
	ダグラス教授の <i>The Forgotten Graces—II</i> に対する読者の意見2件とそれを受けてのミードのコメント。 For my part, I feel deeply grateful to Professor Douglas for giving us such an interesting subject to consider. I should be glad to receive suggestions from any readers of <i>Atalanta</i> with regard to questions of the day that the Brown Owl might discuss.	L. T. Meade
「アタランタ手紙靴」	ダグラス教授の <i>The Forgotten Graces</i> に対する読者の意見。	
「優秀者リスト」		
広告	Warner's "Safe" Cure. 「この薬が私の命を救いました。」他。	

『アタランタ』4年目の特徴

年月 Oct.1890~Sep. 1891

編集者 L. T. Meade,

出版社とその住所 Trischler & Co. 18 New Bridge Street E. C. London

特徴 1) 編集者が、ミード一人になった

J. C. スティプルズは、イラストを描いたりして時々顔を出す。(Jan. 1891 の「モリフクロウ」に *Women in Contemporary Art* を寄稿している。)

彼が力を入れていた美術(絵画)系の企画の減少。

2) 「アタランタ奨学金と読書クラブ」の変更

月ごとの「優秀者リスト」の中の最優秀作品に1ギニー、次席作品に半ギニーが与えられるのは前年と変わらないが、1席を取ったエッセイは、広告のページに掲載されるようになった。

(May 1891 から最後のページに記載。)

これまでは、各号に一人の作家を取り上げていたが、4年目はシェイクスピアを取り上げ、年間を通じて、初期の喜劇、中期の歴史劇などのようにジャンルを区切って説明をしている。

3) Mrs. Hodgson Burnett が、執筆者に加わった。

(*The Quite True Story of an Old Hawthorn Tree*; Oct. 1890) には、Author of “Little Lord Fauntleroy” と但し書きがついている。バーネット(Frances Eliza Burnett, 1849-1924) は、英国生まれの米国の作家。*Little Lord Fauntleroy* (1886) は「19世紀の後半、アメリカ合衆国とイギリス両国で大ベストセラーとなった。それが理由となり、主人公の着ていたフォントルロイ・スーツが、当時大流行していた。

4) ベビーフードや歯磨き、コルセットなどの広告が目立つようになった。

「(こども雑誌の)売上が少々落ち込んだ1890年末期から、資金調達のため服飾品、薬、歯磨き粉などの商品の広告が載るようになった。BOP (*The Boy's Own Paper*) は規制が厳しく、スポーツ用品とココアの広告しか載せられなかったが、GOP (*The Girl's Own Paper*) にはコルセットなど服飾品、ミシン、薬などの広告が載っていて、華やかである。」(岩田託子・川端有子 『図説英国レディの世界』河出書房新社、2001年、88ページ。)

このGOPと同様のことが、この時期の『アタランタ』にも見られる。

5) 「モリフクロウ」に、ミードによる書物の紹介が掲載されるようになった。

正式に、Index に *Notes on Books* と名前が載ったのは、この4年目から。

6) *Voices from My Book* が初お目見え (Recitation Study; Oct. 1890~May 1891)

詩や文学作品を取り上げて、読み聞かせで人にストーリーをうまく伝えるコツを教える。強く読むところとか、あまり感情を込めないとか、少し間を多めにとるなど。

7) 作家名を出さず、*The Author of The Atelier Du Lys. A Child of the Revolution.* として、*A Younger Sister.* (June 1891~Sep. 1891) の作品が連載されている。

A Child of the Revolution. は、*Atalanta* の前身 *Every Girl's Magazine* に掲載されていた。

8) ワーグナーのオペラを3回に分けて扱う。

Illustrations from Wagner's Operas (July 1891~Sep. 1891)

9) 南フランスの旅行記をイラストと共に、10回にわたって掲載。

In the Sunny South of France (Oct. 1890~ Sep. 1891)

10) 「モリフクロウ」の中身が濃くなった。

i) 外国における女子教育や、若い女性の生活の様子を記した手紙が紹介される。

‘Girl’s Life in Germany’ (ドイツの女学校の様子; Nov. 1890) の手紙と、それを読んだ読者からの意見 (Jan. 1891, Mar. 1891; 「アタランタ手紙靴」) や *Russian and Greek girls’ lives* (Sep. 1891)

ii) 「モリフクロウ」で取り上げられたテーマに沿って、読者からの意見を求める記述がある。

Ex. “This paper invites discussion. All letters or remarks must reach the Editor not later than April 20th, and must have the words “Brown Owl.” on the cover. (Apr. 1891; p. 477)

11) 「アタランタ手紙靴」に読者からの生き生きとした投稿が寄せられる。

i) 1例として、Feb. 1891 に、ロンドンのサザークの貧しい地区を教区に持つ *St. Jude’s Church* の牧師の娘から、「図書館設立のための古本提供のお願い」が載せられていることが挙げられる。

ii) March 1891 には、“There is no luck about the house.” の替え歌で“Never Say, Die!” 「へこたれるな！」という大胆な歌詞が載せられている。作者は、*House keeping* のヒントになると思います、とコメントしている。「おいらは、正直なアイルランド人。天井の蜘蛛の巣を払いたいの、モップを買ってくれないケチな女主人。彼女が外出したら、ほうきの柄にそいつの幼い息子を結び付けて、そのもじゃもじゃ頭で天井の掃除をしよう。へこたれないぞ、なんたっておいらは、パットの息子パディだもん。」

iii) 「モリフクロウ」のチャーチ教授による「少女の本棚におすすめの本」 (Apr. 1891) へ

の読者の意見を募集したところ、多くの反響があった。

アタランタの内容 (4年目)

Oct. 1890 (No. 1)

扉絵	Pygmalion and Galatea	E. Burne-Jones, A. R. A
詩	“Yea, I have a goodly heritage.” (豊穡の地への感謝, 神への感謝)	Christina G. Rossetti
連載 (1)	Imogen.	Mrs. Molesworth
連載 (1) 音読のテクニック	Voices from My Books; Recitation Study. (Kathleen の Ballad (5 連の詩)を音読 で, 人にストーリーをうまく伝えるコ ツ)	Arthur Burrell
詩	At the Last.	A. R. Williams
連載 (1) Burne-Jones の作品 からのイラスト	The Art of Burne-Jones. The Morning of the Resurrection. やその 他の絵についての解説。	Julia Cartwright
バラッド, イラスト	Nous N’irons Plus Au Bois. (フランス語の歌, 五線譜付き)	Mme. La Marquise de Pompadour
連載 (1) 旅行記, イラスト	In the Sunny South of France. (リヨン)	C. J. Wills
読み物, イラスト	The Quite True Story of an Old Hawthorn Tree. (セイヨウサンザシの木に起こる出来事を, 木自身に語らせる。)	Mrs. Hodgson Burnett (Author of <i>Little Lord Fauntleroy</i>)
詩	A Ring of Gyges. (ギリシャ神話, ギューゲー ス〈百手の巨人の一人〉)	Katherine Tynan
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
作家	推薦図書	担当執筆者
Shakespeare (Introductory)	<i>Shakespeare Primer.</i> <i>Shakespeare’s Mind and Art Stratford-on-Avon.</i>	Lucy Toulmin-Smith
Scholarship Competition Questions	Give a sketch of Shakespeare’s life, distinguishing facts from probabilities, and bring in such plays as are dated.	
Books for Study	<i>Shakespeare Primer. Shakespeare’s Mind and Art.</i>	
11月の課題図書	<i>Two Gentlemen of Verona. Comedy of Errors. Love’s Labour Lost. Midsummer</i>	

	<i>Night's Dream.</i>	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ (All readers of <i>Atalanta</i> may compete.)	
「モリフクロウ」	The Art of Pleasing.	Louisa Parr
	“Forgotten Graces.” に対する反論, 「若い女性よ, 学問をきなさい。」	
	Notes on Books.	L. T. Meade
「懸賞作品コンクール」	テーマは5つ。Boys and girls are alike invited to compete.	
Hospital Reports. 「優秀者リスト」		
広告	Warner's "Safe Cure" 腎臓の病気にお困りの方に, お勧めします	

Nov. 1890 (No. 2)

扉絵	Le Petit Poucet	H. Lejeune
詩	June's Long Fled. (夏の盛りの美しさを懐かしむ)	Frederic Langbridge
連載(2)	Imogen.	Mrs. Molesworth
詩	A Unit.	Janet Sinclair Berger
絵	“It was the shroud of dead nature: but a shroud that seemed to prefigure a lovely resurrection; for the very death robe was beautiful.”	Miss Robinson
連載(2) 音読のテクニック	Voices from My Books. A Plantation Ghost Story.	Arthur Burrell
連載(2), Burne-Jones の作品 からのイラスト	The Art of 'Burne-Jones'. (鉛筆線画のテクニック, 服のドレープ, 顔, 指先, 足などの描き方。)	Julia Cartwright
読み切り	The Night-Hawks.	Eva Knatchbull-Hugessen
連載(2) 旅行記, イラスト	In the Sunny South of France. (ウィーン)	C. J. Wills
詩, イラスト	Will O' The Wisp.	Mary Macleod
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
作家	推薦図書	担当執筆者
Shakespeare (Early Comedy)	<i>The Two Gentlemen of Verona.</i> <i>The Comedy of Errors.</i>	George Saintsbury

	<i>A Midsummer Night's Dream.</i> <i>Love's Labour's Lost.</i>	
Scholarship Competition Questions	1. Describe the plot of <i>Love's Labour's Lost</i> or of <i>The Two Gentlemen of Verona</i> . 2. Discuss the character of Julia (<i>The Two Gentlemen of Verona.</i>), or of Biron (<i>Love's Labour's Lost.</i>). 3. Mention any points of resemblance in <i>Two Gentlemen of Verona</i> , <i>Love's Labour Lost</i> , and <i>Midsummer Night's Dream</i> .	
12月の課題図書	(Early History) <i>Henry VI. Richard III.</i>	
<p>「奨学金コンクール」 (1889-1890) の案内 これまでの12回の「優秀者リスト」のうち、5回以上掲載された149名は「アタランタ奨学金のエッセイ・コンクール」にエントリーする権利があります。</p> <p>Subjects For Scholarship Essay.</p> <p>I . Compare the Classical and Romantic Schools of Poetry; illustrating from Poets of the year.</p> <p style="text-align: center;">OR,</p> <p>II . Trace the development of the modern Novel from the days of Goldsmith to those of Bulwer Lytton.</p> <p>Only one question must be answered. Papers must be sent in by December 1st, and must contain not more than 2000 words.</p> <p style="text-align: right;">Examiner; Alfred J. Church, M. A.</p>		
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て、作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	Grumbles.	L. B. Walford
	Girl Life in Germany.	
	Notes on Books.	L. T. Meade
The Atalanta Letter-bag	<p>‘Dress Allowance’ への意見。「洋服代」は、一生懸命に縫ってくれるお針子さんに支払われるべきもので、洋服店の店主に別荘を作らせるために使われるのは、間違っています。</p> <p>“Grumblebore Grimston.” 他。</p>	
「優秀者リスト」		
広告	Warner's "Safe" Cure 腎臓の病気にお困りの方に、お勧めします	

Dec. 1890 (No. 3)

扉絵	Light of Light	Marianne Stokes
詩、飾り文字	A Christmas Song.	Charlotte Bain

読み切り, イラスト	The Were-Wolf.	Clemence Housman
詩	The Dusty Miller.	C. J. M. B.
戯曲	Cupid's Cunning. A Comedietta in Two Acts.	Frederick Langbridge
絵	It is sad to walk alone. (腰の曲がった老婆が海辺を一人で散歩している絵。)	H. H. Stanton
読み切り	Sunset Land. A Legend.	Marcia Tyndale
絵	Miss H. Richmond.	W. B. Richmond
読み物, イラスト	Children in Modern Art.	Julia Cartwright
読み切り	Madelaine Leroux.	Katharine S. Macquoid
詩	A Swing.	記載なし
バラッド, イラスト	Sir Walter's Honour.	Margaret J. Preston
読み切り	Three Feet of Obstinacy.	L. B. Walford
詩, イラスト	Town Cats in the Country.	Mary Macleod
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
作家	推薦図書	担当執筆者
Shakespeare (Early History)	<i>Henry VI. (three parts)</i> <i>Richard III.</i>	George Saintsbury
Scholarship Competition Questions	1. Give a portrait sketch of the two little Princes in <i>King Richard III.</i> 2. Mention any ways with regard to style, construction, or character-studies, in which you consider <i>King Richard III.</i> superior to the <i>First part of King Henry VI.</i>	
1月の課題図書	(Early Tragedy) <i>Romeo and Juliet.</i>	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	Notes on Books. お金持ちの親戚から「アタランタ」読者へのクリスマス・プレゼントとしての本は「シェイクスピア研究」の本や Henry Irving の <i>Shakespeare</i> が良いでしょう。他。	L. T. Meade
「アタランタ手紙靴」	10月号“Art of Pleasing”に対する意見“	
「優秀者リスト」		
広告	Warner's "Safe Cure" 腎臓の病気にお困りの方に, お勧めします	

Jan. 1891 (No. 4)

扉絵	Divided	Alice Havers
詩, 飾り文字	A New Year Fantasy.	Graham R. Tomson
連載(3)	Imogen.	Mrs. Molesworth
絵	Outside.	K. E. Edwards
読み物 (美術) イラスト	Engraved Medals. With Some Examples from the Modern French School.	John C. Staples
読み切り, イラスト	In the Wild Wood. (A tale of Old New England.) アメリカ大陸での話	Frances A. Humphrey
古いバラッド, 連載 (1), イラスト	The Doleful Death and Dirge of Harpalus.	
読み物	Crayfishes. (ザリガニ, 甲殻類)	C. Lloyd Morgan
連載(3) 旅行記, イラスト	In the Sunny South of France. (ビエンヌ, バランス)	C. J. Wills
詩	The New Year –Friend or Foe?	Marcia Tyndale
連載(3) 音読のテクニック	Voices from My Books. The Lady or the Tiger. (Abridged.) By kind permission of Mr. David Douglas of Edinburgh. (アメリカの小説家, ストックトンのショート・ストーリーの, 効果的な音読の仕方)	Arthur Burrell
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
作家	推薦図書	担当執筆者
Shakespeare (Early Tragedy)	<i>Romeo and Juliet.</i>	R. K. Douglas
Scholarship Competition Questions	Compare and contrast the characters of Juliet (<i>Romeo and Juliet</i>) and Julia (<i>Two Gentlemen of Verona</i>).	
2月の課題図書	(Middle History) <i>King John. Richard II.</i>	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	Our Christmas Entertainment. (Cinderella and Father Christmas の劇)	Florence Pike
	Women in Contemporary Art. I. Alice Havers.	John C. Staples
	Notes on Books.	L. T. Meade

「アタランタ手紙靴」	‘Girls’ Life in Germany’ の記事に対する読者の意見
「優秀者リスト」	
広 告	Mellin’s Food ベビーフード, 幼児用ビスケット
	Oriental Tooth Paste
	Salt Regal 消化不良, 頭痛, 胃腸のガスたまりに。

Feb. 1891 (No. 5)

扉絵	The Countess Kathleen	Gordon Browne
詩, 絵	The Charity of the Countess Kathleen. (West Ireland の民話をもとにした詩)	Katharine Tynan
連載(4)	Imogen.	Mrs. Molesworth
詩	Hope. (<i>Aged Seven.</i>)	記載なし
読み物	Of the Ballade. バラードに関する解説。 Mr. W. E. Henley が, 歌川豊国の浮世絵 にインスピレーションを受けて作った バラード, <i>On a Toyokuni-Colour-Print</i> 他 を例に挙げて説明する。	Gleeson White
絵	The Road to the Village.	A. D. McCormick
読み物, イラスト	Through Some London Galleries.	Alan Wright
詩	First Snowdrops.	G. H. F. N.
読み切り	The Two Midshipmen: A Tale of the East African Coast.	Arthur Lee Knight
詩	The Rival Bard: A Protest.	V. J. Leatherdale
古いバラッド, 連載 (2), イラスト	The Doleful Death and Dirge of Harpalus.	
連載(4) 旅行記, イ ラスト	In the Sunny South of France. (フランス南 東部バランスを移動しオランジュへ。)	C. J. Wills
読み物, イラスト	Fairies in the Box. (妖精の出てくるおと ぎ話について)	Miss Thackeray
詩	The Garden of Sleep.	Mary Macleod
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
作家	推薦図書	担当執筆者
Shakespeare (Middle History)	<i>Richard II. King John.</i>	Professor Church

Scholarship Competition Questions	1. Mention two or three of what you consider the finest scenes in either <i>Richard II.</i> or <i>King John</i> . Give reasons for choice. 2. Contrast the characters of <i>King John</i> and <i>Richard III.</i>	
3月の課題図書	(Middle Comedy) <i>Merchant of Venice</i> .	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「奨学金コンクール」 (1889-90)の結果発表。最優秀者 Hilda Oakley 審査官 A. J. Church の総評。		
「モリフクロウ」	On House Keeping.	Eleanor Bairdsmith
	Notes on Books. Girl-life in Portugal	L. T. Meade
	The Daughter of the Vicar of St. Jude's からの要請。 ロンドンの南, サザークで最も貧しい地区の1つにあるジュード教会で, 少女の会が作られました。小さな図書館を作りたいと思います。古本, 雑誌の寄付をお願いします。	
	「アタランタ手紙靴」 'Grumbles' の記事に対する意見	
「優秀者リスト」		
広告	Mellin's Food ベビーフード, 幼児用ビスケット	
	Jews Bury and Brown's Oriental Tooth Paste 類似品にご注意を。	

Mar. 1891 (No. 6)

扉絵	Captive Andromache.	Sir Frederick Leighton, P. R. A.
詩	Sing to a Star. (His Mother's Song.)	Sarah M. B. Piatt
絵	Paul & Fishers	Aib Richter
連載(5)	Imogen.	Mrs. Molesworth
連載(4) 音読のテクニック	Voices from My Books. <i>Carcassonne</i> .	Arthur Burrell
詩	The Voice of God. (神の言葉を賢い男も優しい女も理解せず, 純粋で善良な子供のみが理解したという話。)	Ida J. Lemon
絵	The Summer Moon.	Sir Frederick Leighton
読み物, イラスト	Sir Frederick Leighton, P. R. A.	Wilfred Praeger
Atalanta Scholarship Essay. (1889-90)	On the Classical and Romantic Schools of Poetry.	Hilda Oakley

絵	The Old Stone Stile.	G. F.
詩	A Vision of Spring.	Kate Carter
読み切り	Green Fields.	Lady Blanche Lindsay
絵 (彫塑)	Athlete Wrestling with a Python. (Apollo が Delphi においてピュトン「ニシキヘビの大蛇」を退治しているところ)	Sir Frederick Leighton, P. R. A.
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
作家	推薦図書	担当執筆者
Shakespeare (Middle Comedy)	<i>Merchant of Venice.</i>	R. K. Douglas
Scholarship Competition Questions	Discuss the character of Shylock.	
4月の課題図書	(Later History) <i>Henry IV . Henry V.</i>	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	A Good time.	L. B. Walford
	A treatise by Aristotle on “The Constitution of Athens.” に関する記事	A. J. Church
	Notes on Books.	L. T. Meade
「アタランタ手紙靴」	‘Girl Life in Germany’ の記事に対する意見 替え歌 “Never Say, Die!” (家の天井の蜘蛛の巣を, 女主人の息子のもじゃもじゃ頭で掃除した使用人の話。)	
「優秀者リスト」		
広 告	Mellin’s Food ベビーフード, 幼児用ビスケット	
	Jews Bury and Brown’s Oriental Tooth Paste 類似品にご注意を。	

Apr. 1891 (No. 7)

扉絵	Une Pastorale.	George Hitchcock
詩, イラスト	Flowers at Easter.	The Hon. Roden Noel
連載(6)	Imogen.	Mrs. Molesworth
読み切り, イラスト	A Buddhist Story. From the Chinese.	Robert K. Douglas
絵	Princess Amelia, 6 th Daughter of George III.	Sir W. Beechey, R. A.

読み物	Art and Literature Represented in the Guelph Exhibition. (人々の肖像画)	Alice Corkran
連載 (5) 旅行記, イラスト	In the Sunny South of France. (アヴィニョン)	C. J. Wills
読み切り	Primo Tenore.	F. C. Prayne
詩	Song for April.	D. Alexander
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
作家	推薦図書	担当執筆者
Shakespeare (Later History)	<i>King Henry IV, parts 1 and 2.</i> <i>King Henry V.</i>	Lucy Toulmin-Smith
Scholarship Competition Questions	1. Compare the characters of <i>Henry V.</i> and his father. 2. Sketch the portraits of Harry Hotspur and his wife Kate.	
5月の課題図書	(Later Comedy) <i>Much Ado about Nothing. Twelfth Night. As You like It.</i>	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	A Girl's Library. チャーチ教授の考える女性にとっての最良の本。神学, 歴史 (ローマ, ギリシャ, イギリス, インドなど), 伝記 (マコーレー卿ほか), これまで「アタランタ」に登場した詩人, エッセイスト, 小説家, しかし, サッカーは, 女性は30歳になるまで読ませたくない, と記す。 This paper invites discussion. All letters or remarks must reach the Editor not later than April 20 th , and must have the words "Brown Owl" on the cover. の表記あり。	Prof. A. J. Church
	Notes on Books.	L. T. Meade
「アタランタ手紙」	'Housekeeping' の記事に対する意見 「ためになった。」「楽しかった。」「女の子たちには housekeeping をやらせるべき。」など。	
「優秀者リスト」		
広告	Mellin's Food ベビーフード, 幼児用ビスケット	
	Jews Bury and Brown's Oriental Tooth Paste 類似品にご注意を。	

扉絵	May	W. B. Richmond, A. R. A.
詩	“The Sweet O’ the Year.”	Mary MacLeod
連載(1)	A Younger Sister.	By the Author of the “The Atelier du Lis“, “A Child of the Revolution.”&c., &c. (どちらも <i>Every Girl’s Magazine</i> に掲載されていた)
読み切り, イラスト	Patty. <i>A Sketch.</i>	L. R.
詩	May-Day Eve.	Edward F. Strange
絵	Miss Wormald.	W. B. Richmond. A. R. A.
読み物, イラスト	W. B. Richmond, A. R. A.	Wilfred Praeger
音読のテクニック 連載(5)	Voices from My Books. <i>Lord Ronald’s Bride.</i> from Bulwer Lytton’s <i>Kenelm Chillingly.</i> ここは明るく, ここは激しく, ここは囁くように, などの指示がなされている。	Arthur Burrell
連載(7)	Imogen.	Mrs. Molesworth
連載(6) 旅行記, イラスト	In the Sunny South of France. (ポークリューズ)	C. J. Wills
詩	Playing Truant.	C. I. M. B.
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
作家	推薦図書	担当執筆者
Shakespeare (Later Comedy)	<i>As You like It. Twelfth Night.</i> <i>Much Ado about Nothing.</i>	Edward Garnett
Scholarship Competition Questions	1. Describe the plot of <i>Twelfth Night</i> or <i>As You like It.</i> 2. Give any reasons for supporting that the three comedies treated of this month belong to the same period of Shakespeare’s genius.	
6月の課題図書	(Middle Tragedy) <i>Julius Caesar. Hamlet.</i>	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	Flirtation. (男女のいちゃつき, 浮気, 戯れの恋)	Luisa Parr
	様々な国に住む若い女性から, その生活ぶりを記した手紙が届いています。今後誌面が許す限り, 紹介していくつもりです。今回は, ウプサラに住む Helena Nyblom さんの “Girl Life in Sweden” を紹介します。	L. T. Meade

	チャーチ教授の A Girl's Library.の本棚に並べたい書物に対する反論募集。25 歳以下の女性で、自分の本棚に並べたい本 50 冊を選んで送ってください。編集者がベストだと思う 4 人のリストを掲載します。	L. T. Meade
	Notes on Books.	L. T. Meade
「アタランタ手紙靴」	L. B. Walford 'A Good time.' の記事に対する意見 I cannot agree with all that the 'Brown Owl' hoots this month. などの意見。	
「優秀者リスト」		
広 告	Mellin's Food ベビーフード, 幼児用ビスケット	
	Jews Bury and Brown's Oriental Tooth Paste 類似品にご注意を。	
	Y & N Diagonal Corset	

June 1891 (No. 9)

扉絵	St. George at Venice	Everard Hopkins
詩	St. George. (<i>At Venice and at Windsor.</i>)	Everard Hopkins
連載(2)	A Younger Sister.	By the Author of the "The Atelier du Lis", "A Child of the Revolution." &c., &c.
詩	Lavender and Pansies.	Graham R. Tomson
絵	The Common. (New England Art Club の展示絵のスケッチ)	Francis Bate
絵	The Court of Cards.	Alexander Roche
読み物, イラスト	The New English Art Club. (1885 年に設立)	Alan Wright
詩	Returning Spring.	Violet M. King
読み切り	Spiders. (蜘蛛の習性について)	C. Lloyd Morgan
詩, イラスト	White or Grey. (灰色ウサギが, 妖精を水の中から救助して白ウサギになった話)	Ethel Coxhead
読み切り	The Haunted Ghost. "Bad Baronet" "a mighty great rascal" と形容される Sir Roderick Shane の話。オレンジ公ウィリアムが銃殺死体で発見された Ballykillin Castle での出来事。	E. J. Goodman

詩, イラスト	West End Fair, September 1806.	Anna Letitia Barbauld
連載 (7) 旅行記, イラスト	In the Sunny South of France. (ニーム) 「ニーム」フランス南部 Gard 県の都市。 円形競技場, 水道橋などローマ時代の遺跡がある。	C. J. Wills
読み切り	An Indian Lover.	Ella J. Hunter
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
作家	推薦図書	担当執筆者
Shakespeare (Middle Tragedy)	<i>Julius Caesar. Hamlet.</i>	Professor Church
Scholarship Competition Questions	1. <i>Hamlet</i> has been said to be a tragedy of reflection, as distinguished from a tragedy of action. Discuss this statement. 2. Of which character's course of action do you most approve, Mark Antony's or Brutus's? Give reasons for choice. (<i>Julius Caesar</i>)	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	Engagements. (婚約, 婚約期間)	Luisa Parr
	少女の本棚のための本のリスト 50 冊。ベスト 4。 Bookworm, W. Parnell, M. Pemberton, Katie Wragge	L. T. Meade
	Notes on Books.	L. T. Meade
「アタランタ手紙靴」	4 月号の Prof. Church の「女性のための本棚」に対する読者の反論。4 件。	
「優秀者リスト」		
広告	Mellin's Food ベビーフード, 幼児用ビスケット	
	Jews Bury and Brown's Oriental Tooth Paste 類似品にご注意を。	
	Y & N Diagonal Corset	

July 1891 (No. 10)

扉絵	A Fair Critic	Lockhart Bogle
詩, イラスト	The Wind that Kissed the Roses.	Helen Marion Burnside
連載(3)	A Younger Sister.	By the Author of the "The Atelier du Lis", "A Child of the Revolution."&c., &c.
絵	Purity. (From the Tapestry Gallery in Florence.)	G. B. Termin

読み物, イラスト	A Tapestry Gallery in Florence. (タペストリーの芸術作品。テーマがキリスト教に由来するものやメディチ家が所有する物など。)	Helen Zimmern
読み切り	Philippine. (女の子の名前)	Katharine S. Macquoid
詩	The Brook. (<i>From the German of Goethe.</i>)	C. R. Haines
連載(1) 詩, イラスト	Illustration From Wagner's Operas. 1. The Flying Dutchman.	Reginald Savage
連載 (8) 旅行記, イラスト	In the Sunny South of France. (アルル地方)	C. J. Wills
読み切り	St. Cecilia.	William Tirebuck Author of <i>Great Mind in Art. &c.</i>
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
作家	推薦図書	担当執筆者
Shakespeare (Later Tragedy)	<i>Macbeth. King Lear.</i>	George Saintsbury
Scholarship Competition Questions	1. "The usurping King of Scotland is nearly as much a critic of life as the dispossessed Prince of Denmark." Discuss this statement. 2. Compare contrast the characters of Launce (<i>Two Gentlemen of Verona</i>), Feste (<i>Twelfth Night</i>), Touchstone (<i>As You like It</i>), and Fool in <i>King Lear</i> .	
8月の課題図書	<i>Anthony and Cleopatra. Coriolanus.</i>	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロ ウ」	Marriage.	Luisa Parr
	Notes on Books.	L. T. Meade
「アタランタ手 紙靴」	5月号 Flirtation. に対する意見	
「優秀者リスト」		
広 告	Mellin's Food ベビーフード, 幼児用ビスケット	
	Jews Bury and Brown's Oriental Tooth Paste 類似品にご注意を。	
	Y & N Diagonal Corset	

Aug. 1891 (No. 11)

扉絵	The Little Model.	E. Gulland
----	-------------------	------------

連載(4)	A Younger Sister.	By the Author of the "The Atelier du Lis", "A Child of the Revolution."&c., &c.
詩, イラスト	By the Sea.	M. Hedderwick Browne
連載(2), イラスト	Illustration From Wagner's Operas. 2. Tannhauser (タンホイザー)	Reginald Savage
連載 (1)	Bob. A Stupid Fellow.	Lady Carmarthen
詩	Castles in the Air.	Margarat Amour
読み物, イラスト	Edge Hill and Compton Winyates. (チャールズ1世, エリザベス女王, オリバー・クロムウェルなどの肖像画や風景画。)	Julia Cartwright
連載 (9) 旅行記, イラスト	In the Sunny South of France. (モンマジュール, サンレミ)	C. J. Wills
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
作家	推薦図書	担当執筆者
Shakespeare (Historical Classical Tragedy)	<i>Anthony and Cleopatra. Coriolanus.</i>	Dr. Garnett
Scholarship Competition Questions	1. <i>Anthony and Cleopatra</i> and <i>Coriolanus</i> are a pair of kindred dramas, with strong affinities and deep contrasts. Discuss this statement. 2. Sketch the character of <i>Coriolanus</i> .	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	The Amateur Accompanist.	Gillington, A. R. A. M
	Notes on Books.	L. T. Meade
「アタランタ手紙 靴」	Flirtation, Engagements, Marriage に対する意見	
「優秀者リスト」		
広 告	Mellin's Food ベビーフード, 幼児用ビスケット	
	Jews Bury and Brown's Oriental Tooth Paste 類似品にご注意を。	

Sep. 1891 (No. 12)

扉絵	The Heart of the Country	R. Epp
詩, イラスト	A Song of Nereids.	The Hon. Roden Noel

連載(5)	A Younger Sister.	By the Author of the “The Atelier du Lis“, “A Child of the Revolution.”&c., &c.
読み切り, イラスト	What America Does for Her Girls. (合衆国における女子高等教育事情) Bryn Mawr College の女子学生の部屋や 体育館, 研究室の様子。 [大学紹介] Vassar College, Wellesley College, Bryn Mawr College, Sage College	Lucy Toulmin Smith
連載 (2)	Bob. A Stupid Fellow.	Lady Carmarthen
絵	An Empty Sky- A World of Heather.	記載なし
連載(3), イラスト	Illustration From Wagner’s Operas. 3. The Meistersingers of Nuremberg.	Reginald Savage
連載 (10) 旅行記, イラスト	In the Sunny South of France. (ローヌ)	C. J. Wills
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
作家	推薦図書	担当執筆者
Shakespeare (Romantic Comedy)	<i>Cymbeline. The Winter’s Tale.</i> <i>The Tempest.</i>	Dr. Garnett
Scholarship Competition Questions	1. Sketch the story of <i>The Tempest</i> . 2. Mention any particulars in which you consider <i>Cymbeline</i> and <i>The Winter’s Tale</i> defective from an artistic and dramatic point of view.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	Golf as a Pastime for Girls.	Carita Mary Yendys
	ロシアとギリシャの女子の生活と教育	
	Notes on Books.	L. T. Meade
「アタランタ手紙 鞆」	Marriage に対する意見	
「優秀者リスト」		
広 告	Mellin’s Food ベビーフード, 幼児用ビスケット	
	Jews Bury and Brown’s Oriental Tooth Paste 類似品にご注意を。	

『アタランタ』5年目の特徴

特徴

年月 Oct.1891~Sep. 1892

編集者 L. T. Meade. (前年に引き続きミード一人。)

出版社とその住所 “Atalanta” Office, 5A Paternoster Row. (Trischler & Co.から変更)

1) 1887年度の第1回「アタランタ奨学金と読書クラブ」の奨学金獲得者である F. Mary Wilson が作家として再び名前が登場する。

Feb. 1892 の「モリフクロウ」に、彼女が *A Primer on Browning* というタイトルで書いた本についての書評が掲載されている。(p. 309)

次の号の「モリフクロウ」では、編集者のミードが F. Mary Wilson は第1回の奨学金獲得者であることを記している。(p. 372)

2) 広告のページに「アタランタ奨学金と読書クラブ」の各月の1席, 2席のエッセイが掲載されるようになった。(復刻版に **Advertisement** が多く含まれるようになったが、創刊の年から、『アタランタ』に広告のページがあったかどうかは不明である。)

広告は、Mellin's Food, Jewsbury & Brown's Oriental Tooth Paste, Y&N Corset, Mother Seigel's Syrup などが、常時顔を出す。4年目より多くなった。

Sunlight soap の CM.....春の大掃除に合わせた広告 (May 1892)

洗濯用の石鹼は、上, 中流階級の若い女性とはあまり縁がないように思える。

❖CM をうつということは、購読者層に売れると考えたからである。

上, 中流階級の若い女性の中で、洗濯をする女性の増加か、あるいは洗濯をする労働者階級にも読まれるようになったのか？

Atalanta 編集室から、広告募集の広告が出る。(May 1892)

出版社が、“ATALANTA” OFFICE となったことと何か関係があるのかもしれない。

資金難か？

広告主へ

「アタランタ」は英国の中で最も広告を出すのに適した手段 (mediums) の一つです。どこに住んでいる母親たちや娘たちにも届くからです。

広告料については、Messrs. F. Charles & Co., 129 Fleet St. London, EC. へお申し込みください。

詳細について送ります。

3) 1891 12月号に、クリスマス特別増刊号 “The Tragedy of Aida Noble” という挿絵入りで、94 ページ分の描き下ろし作品が載った。

作者は、W. Clark Russell。これまでの「アタランタ」にはなかった初めての試み？

4) 「モリフクロウ」には、前年同様、いろいろな国の少女の生活の様子が時々紹介される。「モリフクロウ」ではなく、「アタランタ手紙靴」に掲載されることもある。

▶Christmas-time in Australia (Mar. 1892; 「アタランタ手紙靴」)

▶ベルギーの girl-life と共に、日本の東京に住む少女の girl-life が紹介される。(1891. 7. 20 付, タキ・フクザワ ; p. 560) (June 1892; 「モリフクロウ」)

▶Education of Girls in Russia (Sep. 1892; 「アタランタ手紙靴」)

5) 1892年7月号に、ケンブリッジ大学の成績優秀者の中の女学生の名前が掲載されている。Moral Science Tripos や Mathematical Tripos など。

6) 「アタランタ奨学金と読書クラブ」の題材が、文学ではなく、ヴィクトリア朝前期 (1837-65) の歴史を扱うようになった。

7) 「アタランタ手紙靴」に4年目ほど、読者の意見が載らなくなった。

(「モリフクロウ」の話題が、あまり議論を呼ぶものを取り上げなくなったせいかな?)

アタランタの内容 (5年目)

Oct. 1891 (No. 1)

扉絵	Love and Life	G. F. Watts, R. A.
詩	Of Love and Life.	Mary Macleod
連載 (1)	A Battle and a Boy.	Blanche Willis Howard Author of <i>One Summer, Guenn,</i> etc.
絵	Death Crowning Innocence.	G. F. Watts, R. A.
連載 (1), イラスト	G. F. Watts, R. A.	Julia Cartwright
詩	“Where Love Is, There Is God Also.”	Antonia R. Williams
連載 (1)	Miss Pinkerton’s Pupils. - Lola.	Louisa Parr
絵	The Gateways, Rothenburg.	Thos. R. Macquoid, R. I.
連載 (1), イラスト	Rothenburg on the Tauber.	Katherine S. Macquoid
絵	The Dental Hospital. (猫の歯医者)	Louis Wain
詩	The Dental Hospital.	E. Nesbit

絵	“The girl rose and walked to the house, looking at the flowers in her hand.”	G. A. Storey, A. R. A.
連載 (1), イラスト	Maisie Derrick.	Katherine S. Macquoid
詩	To My Bullfinch.	Lady Lindsay
読み物	Long-nose, Long-neck, and Stumpy. 動物園にいる動物の体の構造について。 象, キリン, カバなど。	C. Lloyd Morgan
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
時代	内容	担当執筆者
The Victorian Era (First Half; 1837-65)	Lecture I . Introductory—Popular Notions on the Study of History—Views of Ancient and Modern Authors—Is History a Science? —Definitions—Method of Study—Place of History in Education	John Kirkpatrick, L. L. D., Professor of History at Edinburgh University
Scholarship Competition Questions	Write a short Essay on one only of the following subjects: (1) History as a science and as an art. (2) Place of History in Education.	
この時代の歴史を学ぶ ための文献	<i>Growth of Democracy.</i> by Rev. J. F. Bright D. D. <i>History of England.</i> by Rev. W. N. Molesworth <i>A Short History of Our Own Times.</i> by J. McCarthy	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	On Cooking	Mrs. De Salis
	Notes on Books.	L. T. Meade
「アタランタ手紙靴」	‘Amateur Accompanist’ についての意見 5 件 好意的	
「優秀者リスト」		
広告	Mellin’s Food ベビーフード, 幼児用ビスケット	
	Jewsbury and Brown’s Oriental Tooth Paste 類似品にご注意を。	
	Y & N Diagonal Seam Corset	
Atalanta —Advertisements	Mother Seigel’s Curative Syrup	
	「アタランタ奨学金と読書クラブ」 ; First Prize Essay, Second Prize Essay.	
	Egerton Burnett’s Royal Serges 王室御用達です。	
	「懸賞作品コンクール」 と Prize Awards	
Atalanta Cot への義捐金		

Nov. 1891 (No. 2)

扉絵	Miss Mary Fox with Spanish Pointer	G. F. Watts, R. A.
連載 (2)	A Battle and a Boy.	Blanche Willis Howard
絵	G. F. Watts. From the Picture by Himself.	G. F. Watts, R. A.
絵	Master Arthur Prinsep	G. F. Watts, R. A.
連載 (2), イラスト	G. F. Watts, R. A. (人物画, 風景画など。)	Julia Cartwright
連載 (2)	Miss Pinkerton's Pupils. - Lola.	Louisa Parr
連載 (1)	Women Worth Knowing. I. —Mary E. Wilkins.	Albert D. Vandam
詩	Shooting Stars.	Violet Hunt
絵	"Drusilla was careful to see that she was well fitted."	G. A. Storey, A. R. A.
連載 (2), イラスト	Maisie Derrick.	Katherine S. Macquoid
詩, イラスト	The Legend of the Lily.	Oliver Herford
連載 (2), イラスト	Rothenburg on the Tauber.	Katherine S. Macquoid
詩	"When Eros Came..." (Epic of Hades.)	G. H. F. N.
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
時代	内容	担当執筆者
The Victorian Era (First Half; 1837-65)	Lecture II. Subject of the Lectures—Retrospect of a Thousand Years—The Constitution and Its Evolution—Heroes and Martyrs—Political, Social, and Religious Questions to Be Solved.	John Kirkpatrick
Scholarship Competition Questions	1. What do you understand by "civil and religious liberty"? Discuss and illustrate. 2. Sketch in outline a few of the chief landmarks in the history of the English nation, explaining very briefly the significance of each. 3. Write a very short account of the public life and work of any two of the following men: William the Conqueror; Simon de Montfort; Edward I.; John Wickliffe; William III. Two only of the above three questions to be answered.	
Scholarship Competition (1890-91)	Subject for Scholarship Essay 1. Trace the development of Shakespeare's dramatic powers. 2. Was Shakespeare a moralist? 3. A Dialogue between Shakespeare's heroines.	

	(いずれか1つを2000語以内で)	
	(Examiner) Alfred J. Church	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	On Cooking (part II.) Fry, Broil, Grill, Steam	Mrs. De Salis
	Notes on Books.	L. T. Meade
「アタランタ手紙靴」	‘Golf’ についての意見4件, 好意的。「初心者は, 力ではなくテクニックが必要なこと, 学ぶのには長い時間が必要であることも強調すべきです。」などの意見。	
「優秀者リスト」		
広告	Mellin’s Food ベビーフード, 幼児用ビスケット	
	Jewsbury and Brown’s Oriental Tooth Paste 類似品にご注意を。	
Atalanta —Advertisements	Mother Seigel’s Curative Syrup	
	「アタランタ奨学金と読書クラブ」 ; First Prize Essay, Second Prize Essay.	
	Sunlight Soap 洗濯石けん	
	Ridge’s Food 幼児, 病弱者に。	
	雑誌「アタランタ」をクリスマスプレゼントにどうぞ。(8シリング)	
	Van Houten’s Pure Soluble Cocoa	

Dec. 1891 (No. 3)

扉絵	Dettaglio Della Vergine Col Divin Figlio.	Sandro Botticelli
絵,詩	Keep Tryst, Keep Tryst with Jesus Christ.	C. B.
詩	For the Master.	Charlotte Bain
連載 (3)	A Battle and a Boy.	Blanche Willis Howard
詩	The Song of Cassandra.	Ella Fuller Maitland
読み切り, イラスト	Romance of Chivalry.	Professor John W. Hales
詩	The Norseman.	Neville Mayhew
読み物, イラスト	Angels in Art. 宗教画, マリアとキリスト, 幼い天使の 絵など。	Helen Zimmern
読み切り	The Yellow Dragon Vases.	L. T. Meade
歌, 音階とイラスト	Illustrations from Wagner’s Operas.	Reginald Savage

付き	<i>Lohengrin.</i>	
連載 (3), イラスト	Maisie Derrick.	Katherine S. Macquoid
詩	The Mistakes of Life.	Mary Gorges
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
時代	内容	担当執筆者
The Victorian Era (First Half; 1837-65)	Lecture III. Her Majesty Queen Victoria—Keynotes of the New Era—Political Parties—Rebellion in Canada—The Chartists—Irish Troubles—Lord Melbourne Resigns—The Bedchamber Question.	John Kirkpatrick
Scholarship Competition Questions	1. What may be regarded as the key-notes of the early part of the Victorian Era? 2. Describe briefly the condition of Canada at this period. What do you consider the essentials of self-government? 3. Who were the Chartists? What, and how far commendable, were their political demands? One or two only of these three questions may be answered.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	Christmas Books おすすめ本 <i>The Blue Poetry Book.</i> (Andrew Lang)	L. T. Meade
「アタランタ手紙靴」	‘On Cooking’についての意見 4 件, 好意的, 料理の知識は 女性にとって必要です, など。	
「優秀者リスト」		
広告	Mellin’s Food ベビーフード, 幼児用ビスケット	
	Jewsbury and Brown’s Oriental Tooth Paste 類似品にご注意を。	
	Y & N Diagonal Corset	
Atalanta —Advertisements	Mother Seigel’s Curative Syrup 消化不良に。	
	「アタランタ奨学金と読書クラブ」 ; First Prize Essay, Second Prize Essay.	
	Van Houten’s Pure Soluble Cocoa	
	The “Niagara” Wave & Rocking Bath. Seaside at Home 家で海水浴気分。	
	Organette. 誰でも弾けます。	
Trischler & Co. の新刊本。(1890年9月まで雑誌「アタランタ」の出版社)		
ATALANTA Extra Christmas Number 1891		

The Tragedy of Ida Noble. by W. Clark Russell
挿絵付きで、94 ページ。

Jan. 1892 (No. 4)

扉絵	Two Little Penitents	Alice Reeve
詩, イラスト	January.	Elsie Kendall
連載 (4)	A Battle and a Boy.	Blanche Willis Howard
読み切り, イラスト	My Japanese Handmaiden.	Louise Lloyd
読み切り, イラスト	Royal Favourites. Highland Pony, Hound など。	Adela E. Orpen
連載 (1)	A Fairy's Love.	Mrs. Comyns Carr
絵	A Funny Story. (擬人化された猫の集会。)	Louis Wain
詩	The Joke.	E. N.
絵	Madame Albani, as Desdemona, in the Opera of Otello.	<i>From a Photograph by Messrs. Window & Grove.</i>
連載 (2)	Women Worth Knowing. II. Madame Albani .	Albert D. Vandam
詩	Sic Vos Non Vobis.	Arthur M. C. Taylor
読み切り, イラスト	The Poor Lovers.	E. Nesbit
連載 (1)	Life in a Shakespearian Company on Tour. 「シェイクスピアの靴磨きになりたかったな。近くで彼を賞賛するために。」 (サッカーの言葉)	Walter Shaw Sparrow
連載 (4), イラスト	Maisie Derrick.	Katherine S. Macquoid
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
時代	内容	担当執筆者
The Victorian Era (First Half; 1837-65)	Lecture IV. Irish Troubles—Lord Melbourne Resigns—The Bedchamber Question—Lord Melbourne Again—The Queen's Marriage—Wars in China, Afghanistan, and Egypt.	John Kirkpatrick
Scholarship Competition	1. State your views on Party Government. Illustrate from the above lecture. 2. What social and political lessons does the history of Jamaica teach?	

Questions	3. Discuss the policy or impolicy of the Afghan and Syrian Wars. One or two only of these three questions may be answered.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て，作品当てクイズ	
「モリフクロ ウ」	On Cycling for Girls.	Robert Cochrane
	Notes on Books	L. T. Meade
「アタランタ手紙靴」	慈善活動についての要請。(牧師から女子会運営の資金協力や手紙を書くこと，本を寄付することの要請。)	
「優秀者リスト」		
広告	Mellin's Food ベビーフード，幼児用ビスケット	
	Jewsbury and Brown's Oriental Tooth Paste 類似品にご注意を。	
	Mother Seigel's Curative Syrup 消化不良に。	
「懸賞作品コンクール」, Prize Award		
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 ; First Prize Essay, Second Prize Essay.		
広告	Van Houten's Pure Soluble Cocoa	
	Sunlight Soap 洗濯石けん	
	Trischler & Co. の本。 <i>Atalanta</i> . (A Gift book.) 他。	

Feb. 1892 (No. 5)

扉絵	On the Way to the Meet	Aimé Morot
詩	My Valentine.	Mosse Macdonald
連載 (5)	A Battle and a Boy.	Blanche Willis Howard
絵	Portrait of the Princess Eleanora of Mantua.	<i>From the Picture by Porbus il Giovane</i>
読み物，イラスト	Children of the Old Masters. (ラファエロ，ムリーリョ，クリストファーノ・アッローリなどの絵に描かれた子供たち。)	Helen Zimmern
連載 (2)	A Fairy's Love.	Mrs. Comyns Carr
連載 (2)	Life in a Shakespearian Company on Tour. Part II.	Walter Shaw Sparrow
詩	On the Prairie.	Mary Macleod
絵	An Indian Horse Race.	Remington

読み物, イラスト	Lawn Tennis at Duffleton.	Arnold Hamlyn
絵	The Family Doctor. (擬人化された豚の医者と患者たち)	記載なし
連載 (5), イラスト	Maisie Derrick.	Katherine S. Macquoid
詩	Childhood.	Gustav Hartwig (Translated by A. Edenborough)
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
時代	内容	担当執筆者
The Victorian Era (First Half; 1837-65)	Lecture V. Parliamentary Privilege—Dawn of Free Trade—Lord Melbourne Resigns—Sir Robert Peel—Social and Educational Questions.	John Kirkpatrick
Scholarship Competition Questions	1. What do you understand by a privilege? Under what circumstances may a privilege be useful? Illustrate. 2. Define and discuss “protection.” Who pays the difference in price between protected goods and those which are free from duty? 3. Mention and explain the chief social questions of the period (1842-47). One or two only of these three questions may be answered.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「奨学金コンクール」 (1890-91)	優秀エッセイの発表。 審査員 Alfred J. Church の講評。	
「モリフクロウ」	Fancy Painting	Elie Smith
	Henry VIII. at the Lyceum Theatre.	M. M.
	A Primer on Browning. (Macmillan) by Miss F. Mary Wilson の本について	L. T. S.
	1月14日に皇太子夫妻の長男 (the Duke of Clarence and Avondale; 28歳) が亡くなった事, 数週間前に婚約したばかりだったこと	L. T. Meade
	Music of the Month.	V. Cecil Cotes
「アタランタ手紙靴」	Atalanta Branch Selborne Society の新メンバー紹介, 会員数 54 人になったことなど。	
「優秀者リスト」		
広告	Mellin's Food ベビーフード, 幼児用ビスケット	
	Y & N Diagonal Seam Corset	

	Jewsbury and Brown's Oriental Tooth Paste 類似品にご注意を。
	Mother Seigel's Curative Syrup 消化不良に。
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 ; First Prize Essay, Second Prize Essay.	
広告	Van Houten's pure soluble Cocoa
	<i>A Rude Awakening.</i> by Mrs. A. Phillip の本の広告。
	雑誌 <i>Home Cheer</i> の定期購読のおすすめ。
	Dr. J. Collis Browne の Chlorodyne は、咳、風邪、ぜんそく、気管支炎、下痢、痛風、歯痛、リュウマチなど様々な痛みを緩和します。

Mar. 1892 (No. 6)

扉絵	Auld Robin Gray	Mrs. Jopling
詩, イラスト	The Sad Rhyme of Queen Valentine.	E. A. Andrews
連載 (6)	A Battle and a Boy.	Blanche Willis Howard
絵	Autumn.	Mrs. Jopling
読み物, イラスト	Women in Contemporary Art. Mrs. Jopling	Wilfred Praeger
バラッド	A Ballad of Port Blair. (1891年11月1日竜巻で大破したエンタープライズ号を、当時アンダマン諸島にあったインドの犯罪者植民地の女性流刑地囚人たちが勇敢にも6人の生存者を救出したという実話をもとにした詩。)	H. D. Rawnsley
読み物(自然科学), イラスト	Lowly Weeds in River, Pond and Ocean. (藻, 海草, 昆布, わかめなどの水生植物と, クラゲ, ヒトデ, うに, ナマコ, ゴカイ, 巻貝類, ウミウシ, イカ, エビ, カニ, 魚類などとの共存関係について。)	Arabella B. Buckley
連載 (3)	A Fairy's Love.	Mrs. Comyns Carr
「奨学金コンクール」 (1890-91), 第1席エッセイの掲載。 Is Shakespeare a Moralist? Susan H. Cunliffe		
詩, イラスト	The Angels.	Rex Hallward
連載 (6), イラスト	Maisie Derrick.	Katherine S. Macquoid

詩	Two Graves (<i>January 20th, 1892.</i>)	Annie Matheson
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
時代	内容	担当執筆者
The Victorian Era (First Half; 1837-65)	Lecture VI. Religious Movements—O’Connell and Repeal—Cobden and Bright—Education—Ireland Again—Ministerial crisis—Sir Robert Peel Returns, Repeals the Corn Laws, Resigns.	John Kirkpatrick
Scholarship Competition Questions	1. Explain and discuss “religious movements,” “the Maynooth Grant,” and “godless education.” 2. Describe shortly the political condition of Ireland during Peel’s administration. 3. State the arguments for and against the Corn Laws. What were the chief results of their repeal? One or two only of these three questions may be answered.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て，作品当てクイズ	
「モリフクロ ウ」	Fancy Painting II.	Elie Smith
	Music of the Month	V. Cecil Cotes
	<i>Hamlet</i> . at the Haymarket Theatre.	M. M.
	Notes on Books. 先月号で紹介した本, A <i>Primer on Browning</i> を書いた Miss F. Mary Wilson は, 「奨学金コンクール」の第 1回奨学金, 90ポンドの獲得者です。	L. T. Meade
「アタランタ手紙靴」	‘On Cycling for Girls’ についての意見1件, 好意的。 Christmas-time in Australia という読者からの投稿。	
「優秀者リスト」		
広告	Mellin’s Food ベビーフード, 幼児用ビスケット	
	Mother Seigel’s Curative Syrup 消化不良に。	
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 ; First Prize Essay, Second Prize Essay.		
広告	Van Houten’s Pure Soluble Cocoa	
	Sunlight Soap 洗濯石けん	
	雑誌 <i>Household Companion</i> の定期購読のおすすめ。	
	Dr. J. Collis Browne の Chlorodyne は, 咳, 風邪, ぜんそく, 気管支炎, 下痢, 痛風, 歯痛, リュウマチなど様々な痛みを緩和します。	

Atalanta Gift Book 購入のおすすめ
『アンクルトムの小屋』 『ロビンソン・クルーソー』, <i>Swiss Family Robinson</i> 年少向けに, 平明で読みやすい表現に書き換えてあります。

Apr. 1892 (No. 7)

扉絵	The Beautiful Princess	Everard Hopkins
詩, イラスト	April and I.	Frederick Langbridge
絵	Moonrise in Spring.	E. Wilson
連載 (7)	A Battle and a Boy.	Blanche Willis Howard
詩	The Baby's Name.	Roma White
絵	Angelica Kauffmann.	From the Portrait painted by Herself.
読み物, イラスト	The Autograph Portraits Gallery in Florence. (14 枚の自画像, ルーベンス, ダヴィンチ, ラファエロなど。)	Helen Zimmern
詩	A Violin-maker in the North.	Lady Lindsay
読み切り	The Ending of the Way.	R. L. Barth
詩	Spring Song.	Marcia Tyndale
読み切り, イラスト	The Angel of the Mist.	Mabel Hickson
読み切り, 肖像画付き	Miss Clough, Principal of Newnham College, Cambridge.	Jane Lee, Vice-Principal of Old Hall, Newnham College
連載 (7), イラスト	Maisie Derrick.	Katherine S. Macquoid
絵	The Dancing Lesson.	記載なし
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
時代	内容	担当執筆者
The Victorian Era (First Half; 1837-65)	Lecture VII. Russell's Administration: Home Affairs—Famine and Rebellion in Ireland—Trade and Finance—The Chartists Again—Great Exhibition—Ecclesiastical Notes—Ministers Defeated.	John Kirkpatrick
Scholarship	1. Who was Lord John Russell? What were the chief characteristics of his	

Competition Questions	<p>policy?</p> <p>2. Describe and discuss the measures taken by Government for the relief of Ireland during the famine.</p> <p>3. State your views on any two of the following topics of the period:— (a) Free-trade; (b) Chartism; (c) Ecclesiastical questions; (d) Great Exhibition.</p> <p>One or two only of these three questions may be answered.</p>	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て，作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	On Cooking Part III.	Mrs. De Salis
	<p>“The Times.” at Terry’s Theatre. コメディ</p> <p>ー</p> <p>上昇志向の強い夫婦 (Mr. & Mrs. Egerton-Bompas) の娘 (Beryl) は Lurgashall 子爵と婚約する。息子 (Howard) は，ウエールズ人の女家主 (Mrs. Hooley) の型破りな娘(Honorina) と結婚するという話。</p>	M. M.
	Notes on Books.	L. T. Meade
	Music of the Month.	V. Cecil Cotes
「アタランタ手紙靴」	<p>Flower Mission to Young Women in London Work-room という催しに，花を持って来ててください，と言う要請。</p> <p>“Why don’t you come to us with the flowers?”</p>	
「優秀者リスト」		
広告	Mellin’s Food ベビーフード，幼児用ビスケット	
	Y & N Diagonal Corset	
	Jewsbury and Brown’s Oriental Tooth Paste 類似品にご注意を。	
	Mother Seigel’s Curative Syrup 消化不良に	
ATALANTA 「懸賞作品コンクール」の今回のテーマ，前回の結果発表。		
「アタランタ奨学金と読書クラブ」；First Prize Essay.		
広告	Van Houten’s Pure Soluble Cocoa	

May 1892 (No. 8)

扉絵	A Cottage Home in England	Mrs. Allingham
絵	May “Swallows Arrive.”	F. L. Fuller

連載 (8)	A Battle and a Boy.	Blanche Willis Howard
絵	The Harvest Moon.	Mrs. Allingham
読み物, イラスト	Women in Contemporary Art. Mrs. Allingham.	Lucy Toulmin Smith
読み切り	The Boy Jones.	J. Laurence Hornibrook
詩	The Song of the Strength of Our Selves.	Kate Carter
詩, イラスト	May.	R. Heber
連載 (8), イラスト	Maisie Derrick.	Katherine S. Macquoid
詩	Love and Fame.	M. T. Marshall
絵	“But Winter Lingerin Chills the lap of May.” Gemini—the Twins In May, the Sun enters this sigh of the Zodiac.	F. L. Fuller
紀行文, イラスト	On and Off the Beaten Track in Holland. Rotterdam, The Canal, The East Gate, Delft	Charles T. J. Hyatt
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
時代	内容	担当執筆者
The Victorian Era (First Half; 1837-65)	Lecture VIII. Russell’s Administration: Foreign Affairs—Spain—Cracow—Portugal—Switzerland—French Revolution—Austria, Italy, and Hungary—Greece—Mr. Finlay and Don Pacifico—Palmerston Triumphant—India and the Colonies—Palmerston Rebuked and Dismissed—Exit Russell.	John Kirkpatrick
Scholarship Competition Questions	1. Explain, shortly, Palmerston’s policy with regard to Italy. 2. What do you understand by the doctrines of neutrality and intervention? 3. Discuss, generally, the British foreign policy of 1846-52. One or two only of these three questions may be answered.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	The Virtues of Dress Part I .	L. B. Walford (Mrs.)
	“Walker, London.”	M. M.
	Notes on Books.	L. T. Meade
A Second Concert for the Benefit of the “ATALANTA Cot” Under the Patronage of H. R. H. Princess Christian Albert Hall. メンデルスゾーン作曲「真夏の夜の夢序曲」, ハイドン作曲「おもちゃの		

シンフォニー」など。	
「優秀者リスト」	
広告	Mellin's Food ベビーフード, 幼児用ビスケット
	Mother Seigel's Curative Syrup 消化不良に。
「アタランタ手紙 靴」	Flower Mission to Young Women in London Work-room への援助要請。 (Hilda Oakeley)
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 ; First Prize Essay, Second Prize Essay.	
広告	Sunlight Soap 洗濯石けん Spring Cleaning のシーズン。 衣服, 毛布, 床すべてをこの石けんできれいにしましょう。
	雑誌「アタランタ」に広告を掲載しませんか?この雑誌は, どこに住んで いる若い既婚, 未婚女性のもとにも届くので, 英国の中で最も広告を 出すのに適した手段(medium)の一つです。
	Van Houten's Pure Soluble Cocoa

June 1892 (No. 9)

扉絵	School Board in the Cottage	T. Faed, R. A.
絵	June "The Nightingale doth tell his tale in melody."	F. L. Fuller
詩	Nightingale; A Rhapsody (in Ireland).	Katharine Tynan
読み切り	Nathan Wood's Love Story.	Frank Pope Humphrey
絵	"Summer Time."	H. W. B. Davis, R. A.
読み物, イラスト	At a Private View of the Royal Academy.	L. B. Walford
読み物(自然科学), イラスト	Sweet Little Buttercup. Bulbous Buttercup, Creeping Buttercup, Meadow Buttercup などキンポウゲの種 類の違いによって, 葉, 根の形や咲く時 期, 場所が異なることを紹介。	Edward Malan, F. L. S. (Fellow of the Linnean Society) 「リンネ協会」(動植物の研究 をする英国の団体) 会員。
絵	Spring Cleaning.	William Strutt
詩, イラスト	The Walking Doll.	C. J. M. B.
連載 (9), イラスト	Maisie Derrick.	Katherine S. Macquoid
絵	Going with the Wind.	Hilda Montalba
読み物, イラスト	A Dutch Painter at Home.	Lina Mollett
詩	A Swan.	A. R. Williams
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		

時代	内容	担当執筆者
The Victorian Era (First Half; 1837-65)	Lecture IX. Lord Derby's Administration—Death of the Duke of Wellington—Napoleon III.—Lord Aberdeen's administration—Domestic Affairs—Crimean war—Palmerston succeeds Aberdeen—Peace of Paris—Persia—India.	John Kirkpatrick
Scholarship Competition Questions	1. Contrast the British Army system with that of Germany or of France. 2. Discuss the policy and the results of the Crimean War. 3. Explain the chief principles of the Liberals, Conservatives, and Peelites respectively at this period. One or two only of these three questions may be answered.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て，作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	The Virtues of Dress Part II.	L. B. Walford (Mrs.)
	<i>The Mountebanks.</i>	M. M.
	A Girl-life in Belgium, Japanese girl-life (Taki Fukuzawa)	
「アタランタ手紙 鞆」	“The Virtues of Dress” に対する批判的な意見 2 件。また、「服装の乱れ」は「人格の乱れ」に通じるのではないかという指摘も。	
「優秀者リスト」		
広告	Mellin's Food ベビーフード，幼児用ビスケット	
	Y & N Diagonal Corset	
	Jewsbury and Brown's Oriental Tooth Paste 類似品にご注意を。	

July 1892 (No. 10)

扉絵	On Her Way to School	L. Caillé
絵	July “By the River.” 擬人化されたカワセミ 2 羽	F. L. Fuller
連載 (1)	My Terminal Moraine.	Frank R. Stockton (Author of <i>Rudder Grunge</i> , <i>The Lady or the Tiger</i> , etc.)
絵 (胸像)	St. John the Baptist.	Donatello
読み物，イラスト	The Works of Donatello. (ドナテッロの作品紹介)	Helen Zimmern

読み物, イラスト	Love and Alchemy. (舞台は中国。Lake Hangchow を見つめる Mr. Pan のストーリー)	Prof. R. K. Douglas
詩	The Moat.	Constance Milman
連載 (1)	Some Recent English Poets Part I .	Hon. Roden Noel
詩	To a Child.	Ella Fuller Maitland
絵	“White with blossom lay the meadows.”	記載なし
詩, イラスト	A Song of Summer.	Elinor M. Sweetman
読み物, イラスト	On Board a P. and O.	M. E. Rowan
連載 (10), イラスト	Maisie Derrick.	Katherine S. Macquoid
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
時代	内容	担当執筆者
The Victorian Era (First Half; 1837-65)	Lecture X. Indian Mutiny—China—Orsini’s <i>Attentat</i> —Derby’ Administration—India Act—Domestic Affairs—Palmerston Again—Gladstone’s Finance—Italy.	John Kirkpatrick
Scholarship Competition Questions	1. Write a short essay on India in 1857-58. 2. Discuss the question of Parliamentary Reform as in 1859. 3. What do you regard as the chief domestic events of 1858-60? One or two only of these three questions may be answered.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	Amateur Photography.	Grace Wyld
	The Disaster at the Oil City in Pennsylvania. June 5 th の油田火災。122 人焼死, 200 人以上行方不明の大惨事の報告。	C. F. Gordon-Cumming
	Notes on Books.	L. T. Meade
今年度のケンブリッジ大学で最高の成績を収めた女性達の紹介。 Moral Sciences Tripos (道徳・哲学・倫理学における優等及第生) Miss E. E. Read, Girton. 男子の優秀者はいませんでした。彼女は昨年 Mathematical Tripos で 26 位, Wrangler (ケンブリッジ大学の数学学位試験の 1 級学位合格者) に相当する成績でした。 他, 今年度の Mathematical Tripos, Classical Tripos, Historical Tripos などで優秀な成績を収めたガートンカレッジ並びにニューナムカレッジの女子学生の氏名記載。		

	The Fairy Postman (絵)	Mrs. Wansey Smith
	Music of the Month	V. Cecil Cotes
「アタランタ手紙靴」	記載なし。	
「優秀者リスト」		
広告	Mellin's Food ベビーフード, 幼児用ビスケット	
	Mother Seigel's Curative Syrup . "If you can't get back your waste time, then don't waste it."	
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 ; First Prize Essay, Second Prize Essay.		
広告	Van Houten's Pure Soluble Cocoa	
「懸賞作品コンクール」 のお題, 並びに前回の Prize Award の発表。		

Aug. 1892 (No. 11)

扉絵	Mount Etna (イタリアシシリー島にある活火山) from Taormina (イタリアシシリー島東岸にある保養地)	Hume Nisbet
詩	Girlhood.	Frederic E. Wetherley
連載 (2)	My Terminal Moraine.	Frank R. Stockton (Author of <i>Rudder Grunge</i> , <i>The Lady or the Tiger</i> , etc.)
絵	Greek Theatre, Taormina.	記載なし
紀行文 (1), イラスト	A Sicilian City. Part I .	Julia Cartright
読み物	Brunhild.	Lady Lindsay
詩	From a Dryad. (木と森の精, ドリュアス)	Ella Fuller Maitland
絵	The Cottage beneath the Wood.	Mrs. Allingham
連載 (2)	Some Recent English Poets Part II .	Hon. Roden Noel
絵	August "Come unto these yellow sands, and then take hands."	F. L. Fuller
連載 (11)	Maisie Derrick.	Katherine S. Macquoid
詩	To One far off.	Mary Gorges
絵	Love Whispering to a Shepherd.	Louisa, Marchioness of Waterford. &Smith.
連載 (1), イラスト	Lady Waterford's Drawings.	Evelyn M. Woolward
詩	My Sweetheart.	Blue Jay
読み物 (自然災害)	A Fiery Flood in Pennsylvania.	C. F. Gordon-Cumming

「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
時代	内容	担当執筆者
The Victorian Era (First Half; 1837-65)	Lecture XI. Italy Again—Army and Volunteers—Commerce and Finance—Paper—Duty—American War—Affair of the Trent—Death of Prince Albert.	John Kirkpatrick
Scholarship Competition Questions	1. Explain briefly how Italy gained her independence in 1860, and how far her cause was furthered by Great Britain. 2. State and discuss in outline the principles of Mr. Gladstone's finance from 1860 to 1865. 3. Trace the chief causes of the American War of 1861-65, and describe the affair of the <i>Trent</i> . 4. Sketch the career of Prince Albert. One or two only of these four questions may be answered.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	The Planet Mars. (天文学, 火星についての基礎知識)	Edith Picton Warlow
	Music of the Month	V. Cecil Cotes
前回の「懸賞作品コンクール」の中で A Story in words of one syllable. のテーマに関する Prize Award の発表。		
「優秀者リスト」		
広告	Mellin's Food ベビーフード, 幼児用ビスケット	
	Y & N Diagonal Corset	
	Jewsbury and Brown's Oriental Tooth Paste 類似品にご注意を。	
	Mother Seigel's Curative Syrup . "If you can't get back your waste time, then don't waste it."	
「アタランタ手紙靴」	'Golf for Girls' (Sep. 1891) への付加的知識やアドバイス	
広告	Sunlight Soap 王室御用達, 白さが違います。	
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 ; First Prize Essay, Second Prize Essay.		
広告	Van Houten's Pure Soluble Cocoa	

Sep. 1892 (No. 12)

扉絵	Spring in Autumn	Sydney Cowell
----	------------------	---------------

詩	The Crown of the Year	Christian Burke
連載 (3)	My Terminal Moraine.	Frank R. Stockton (Author of <i>Rudder Grunge</i> , <i>The Lady or the Tiger</i> , etc.)
絵	Saracen Gateway, Taormina.	Hume Nisbet
紀行文 (2), イラスト	A Sicilian City. Part II.	Julia Cartright
連載 (3)	Some Recent English Poets Part III.	Hon. Roden Noel
読み物	The Wraith (幽霊) of Turville.	Evelyn J. Sharp
詩, イラスト	Summer.	M. R. Milford
連載 (2), イラスト	Lady Waterford's Drawings. Part II.	Evelyn M. Woolward
絵	September.	F. L. Fuller
連載 (12)	Maisie Derrick.	Katherine S. Macquoid
絵	The Sound of Many Waters.	Sir John Millais
「アタランタ奨学金と読書クラブ」		
時代	内容	担当執筆者
The Victorian Era (First Half; 1837-65)	Lecture XII. The Cotton Famine—Affair of the <i>Alabama</i> —The Ionian Islands—Denmark—Ecclesiastical Affairs—Dissolution of Parliament—Death of Palmerston—Conclusion.	John Kirkpatrick
Scholarship Competition Questions	1. State in outline the chief issues between North and South in the American Civil War. How did the War affect Great Britain? 2. Mention and discuss either the most important foreign or the chief domestic affairs of the last few years of our period. One or two only of these three questions may be answered.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	How to Start a Girls' Debating Society ガートン・カレッジやニューナム・カレ ッジみたいな知的な場所ではなく, 家事 トラブルであふれている家でにディバ ートの方法を考えてみましょう。	Eva Anstruther
	来年度は“Master of Romance” R. L. Stevenson が「アタランタ」に登場します。 どんな魔法を読者にかけるか, 乞うご期	L. T. Meade

	待。	
「アタランタ手紙鞆」	'Education of Girls in Russia'	記載なし
「優秀者リスト」		
広告	Mellin's Food ベビーフード, 幼児用ビスケット	

『アタランタ』6年目の特徴

年月 Oct.1892~Sep. 1893

編集者 L. T. Meade, A. B. Symington, M. A.

出版社とその住所 "Atalanta" Office , 5A Paternoster Row.

特徴 ミードが編集者として携わった最後の年。

企業がらみの広告や懸賞が目立って増加したことが特徴。

記事に対する読者の意見を活発に取り入れていた前年と違い、全体的におとなしくなった印象。

ミードが編集者を降りると同時に、この雑誌の特徴の一つであった「アタランタ奨学金と読書クラブ」の企画が無くなり、優秀な読者に奨学金を与える制度がなくなった。

このことは、1893年9月号の「アタランタ奨学金と読書クラブ」の最後のページに1892-93.の「奨学金コンクール」のテーマが載せられていることから理解できる。これまでこのテーマは、翌年度の10月号と11月号で発表し継続されてきたが、この年度の最終号で発表されたということは、ミードが編集者を降りる新年度 (Oct. 1893~) からは、この企画は打ち切りということの意味している。

1) 1892年12月号から表紙が消えた。

毎回 Robert L. Stevenson の *David Balfour* で始まる。

Robert L. Stevenson (1854 - 94) 小説家, 詩人, 随筆家。『宝島』『ジキル博士とハイド氏』

2) 「アタランタ奨学金と読書クラブ」が、「アタランタ奨学金と読書クラブ」 and **School of Fiction** となり、フィクションを書くものになった。

それに伴い、毎月のテーマも読者の創造性を重視するものになった。

3) 1892年10月号の「懸賞作品コンクール」入賞者の中に、アタランタが読者対象とする10代後半から20代前半よりはるかに歳の若い人たちが登場する。

Description in verse of sea-side or country place に13歳, Flower painting にも13歳,

Historical Alphabet Competition に Arnold C. Gover (8歳) など。

4) 5年度の「アタランタ奨学金と読書クラブ」は、ヴィクトリア朝前期の歴史をずっと取り扱っていたため、**Scholarship Competition (Nov. 1892)** の問題も歴史に変わった。審査員もチャーチ教授からジョン・カークパトリックに変わった。

次のテーマのうち1つを選び、エッセイを書け。

I 1837 - 65 における国際的なイギリスの地位と影響

II 1837 - 65 におけるイギリスの政治的、社会的進展

Examiner John Kirkpatrick, LL. D., Professor of History in the University of Edinburgh.

5) 5年目にあったクリスマス特別号がない

6) **The Dead Child** の詩 (1893年2月号 ; p. 358)

当時、幼児の死亡率が高かった。

7) 精密なイラストなのか写真なのかわからないもの

たとえば、紀行文のイラストやマリー・アントワネットの扇 (1893年5月 ; p. 541) の精緻さ。

Index には、Illustration と書いてある。Illustration 「実例、挿絵、イラスト、説明図」。日本語で一般的に使われている「イラストレーション」とやや意味が離れる。

8) 「懸賞作品コンクール」の Award の優秀作品 (忘れ去られた地名を多く盛り込んだもの) を次の「懸賞作品コンクール」の問題に使っている。

(Apr. 1893; p. 526) の優秀作品、Nellie B. Williams による The Recluse (世捨て人) が同じ号の「懸賞作品コンクール」の21歳以下のテーマに取り上げられている。忘れ去られた地名をリストアップする問題。

9) 牧師の娘の活躍.....住む場所から判断できる。(rectory, vicarage)

▶1893年5月号、「アタランタ手紙靴」の Race Competition の第2位の賞品は、Yost タイプ社のタイプライター(21ギニー相当)。Salisbury の Wilton Rectory に住む Mary Oliver が受賞。(p. 593)

▶1893年7月号に載っていた5月の prize paper “A Narrow Escape” は、Cainscross Vicarage に住む Margaret E. Cornford

▶1893年8月号の Oxford Scholarship Awards(p. 784) の優秀なレポート提出者は、Hanborough Rectory に住む Adelaide M. Wymne-Wilson 。

オックスフォード大学で学ぶことができる権利が得られる。

▶1893年8月号 (p. 785; Advertisement, a) の Anagram Competition の入賞者の中に牧師の娘が2人いる。Mary Tinkler The Vicarage Caunton, Newark, Notts. と Rev. J. Denny George Methwold Vicarage, Stoke Ferry, S. O., Norfolk.

10) 1893年6月号から活字が大きなものに変化。

11)1893年6月号に、Yost社の広告が掲載。

Yost社が、9) でタイプライターを賞品として出した次の号に、*Atalanta* 1年目の The Employment of Women. と同じ名前の広告 The Employment of Women. を掲載している。仕事のあっせん? 広告?

「自社のタイプライターを購入した女性には、内職のあっせんご相談に応じております。」

12) 「アタランタ手紙靴」 が、まったく平凡で、つまらないものになってしまった。5年目は、読者の声を多く載せていて、活気があった。

この年度の、レター・バッグには ‘The Atalanta Cot’ (慈善事業) の収支決算や、優秀作品を作った読者には、特定の小売店 (Messrs. Nicholson and Co.) のみで使用できる商品券を与えるという、小売店とタイアップしたかのような *Atalanta Popular Prizes Award* の発表 (Mar. 1893) が掲載されるようになった。

次第に平凡な雑誌になってきた印象がある。元気よく走り続けていた女性アタランタが自らの意志で競走をやめて、おとなしくヒッポメネスの妻になったような感じ。

CM がらみの記事が多くなったり、全体的におとなしい印象になってしまったりしたのは、今年度から新しく加わった編集者 (A. B. Symington) の影響、方針かもしれない。(2, 3年目に絵画に造詣が深い J. C. Staples が編集者として加わった時、文学に加えて絵画に関する記事や絵画コンテストが大幅に増加したことからも、「アタランタ」が編集者の影響を大きく受けていることが見て取れる。ちなみに、この年を最後にミードは編集者を降りている。)

アタランタの内容 (6年目)

Oct. 1892 (No. 1)

扉絵	A Reading from Homer	Laurens Alma Tadema, R. A.
詩	The Ballad of Lord Langshaw.	Robert Buchanan
連載 (1)	Can This Be Love?	Mrs. Parr

		Author of <i>Dumps</i> , Dorothy Fox.
詩, イラスト	Elder-Flower. (ニワトコの花)	H. E. Hamilton King
読み物(有名な作曲家の作品とその生涯について) 連載(1)	Characters of the Great Composers and Characteristics of Their Works. Johann Sebastian Bach. Georg Friedrich Händel.	Ernst Pauer
詩	Old Lovers.	E. Nesbit
絵(自画像)	Laurens Alma Tadema, R. A.	Laurens Alma Tadema, R. A.
読み物, イラスト	Laurens Alma Tadema, R. A. "As the Sun Colours Flowers, So Art Colours Life."	Julia Cartwright
読み物	Three Fair Rebels. (An International Episode.)	Frank Pope Humphrey
絵	Youth will Needs Have Dalliance	G. A. Storey, A. R. A.
バラッド, 連載(1) イラスト	"The house of Tudor, and The House of Stuart In Ballad and Verse." Youth will Neads[sic] Have Dalliance, attributed to King Henry VIII.	記載なし
読み物	The Evening <u>Lychnis</u> . センノウ(ナデシコ科。赤, 桃, 白の花をつける。)	Edward Malan, F. L. S. Author of <i>Sweet Little Buttercup</i> .
詩	A Fancy.	M. J. Marshall
読み物	Mary's Brother.	Mrs. Oliphant
読み物(カトラリーの歴史), イラスト	The Dinner-table in the Olden Time.	Adela E. Orpen
詩, イラスト	The Corn-Keeper.	Laurence Housman
「アタランタ奨学金と読書クラブとフィクションの学校」		
テーマ		担当執筆者
Style in Fiction.		W. E. Norris
Scholarship Competition Questions	Studies in Style. Write to the best of your ability a Paper on any <i>one</i> of the following subjects:- A. A dialogue between two well-known characters. (After the model of Landor's <i>Imaginary Conversations</i> .) B. An Account of any Historical Incident—in the style of Macaulay. C. Description of an Imaginary Episode; the Heroine has lost her way in a lonely tract of country, and night is approaching. Describe the situation.	

Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)		作者当て, 作品当てクイズ
The 「モリフクロ ウ」	The Refinement of Dress. (<i>From a Girl's Point of View</i>)	Horatia Hardy
	Scotland's Invitation to Lady Students. (スコットランドのエディンバラ, グラスゴー, アバディーン, セント・アンドリュース, 4つの大学の大学改革) 女性の大学進学希望者へのアドバイス。女子学生は人文科学の分野に入学, 卒業できる。医学や科学の分野も近い将来同様になる。	John Kirkpatrick
	Notes on Books.	L. T. Meade
Atalanta Letter-bag	<i>A Battle and a Boy</i> は, 新鮮で健全な話でした。巷にあふれている血も凍るような強奪事件や殺人などの, 扇情的で感傷的なものと違って好ましいストーリーでした。(Zoë Eppstein)	
「優秀者リスト」		
広 告	Mellin's Food ベビーフード, 幼児用ビスケット	
	Mother Seigel's Curative Syrup.	
	Sunlight Soap "Does your wife do her own washing?"	
「懸賞作品コンクール」の今回のお題。前回の優秀者の発表。		
「アタランタ奨学金と読書クラブ」; First Prize Essay.		
広告	Van Houten's Pure Soluble Cocoa	

Nov. 1892 (No. 2)

扉絵	"My Lady's Coming."	Albert Lynch
詩	My Lady's Coming.	Edward F. Strange
連載 (2)	Can This Be Love?	Mrs. Parr Author of <i>Dumps, Dorothy Fox.</i>
絵	November.	A. L. Bowley
絵	Mors Vitæ Solamen.	Everard Hopkins
連載 (1), イラスト	Charlotte Corday.	Everard Hopkins
詩	A Daisy.	E. H. Hickey
絵	The Three Fates.	Michelangelo
読み物, イラスト	Michelangelo.	G. A. Storey, A. R. A.

	(ミケランジェロ像, ダビデ像の創造)。	
連載 (1)	A Young Mutineer.	L. T. Meade
読み物 (有名な作曲家の作品とその生涯について)	Characters of the Great Composers and Characteristics of Their Works. Joseph Haydon. Amadeus Mozart.	Ernst Pauer
連載 (2)		
詩, イラスト	The Violin Player.	Victor Plarr
読み物	In Far Pomerania.	Mary E. Hullah
詩, イラスト	“The Last Gift.”	Meta Orred
詩	“Well Done, ‘Calliope’!” March 16 th 1889.	H. D. Rawnsley
「アタランタ奨学金と読書クラブとフィクションの学校」		
テーマ		担当執筆者
The Novel of Manners.		L. B. Walford
Scholarship Competition Questions	<p>Studies in Composition.</p> <p>1. Sketch the portraits of a family-group of three characters. Place them in any circumstances you prefer.</p> <p>2. Describe an imaginary incident,—The unexpected meeting of two visitors, who dislike each other, in the house of a lady who wishes to be very friendly with both.</p> <p>In connection with the above lecture, members of the Reading-Union are recommended to read any of the following books:—Jane Austen’s novels, Miss Edgeworth’s <i>Tales of Fashionable Life</i>, Miss Ferrier’s <i>Marriage</i>, Miss Burney’s <i>Evelina</i> and <i>Cecilia</i>.</p>	
<p>Atalanta Scholarship Competition(1890-91)</p> <p>Write an Essay on out of the two following subjects.</p> <p>I . Britain’s position and influence among nations in the years 1837 - 65.</p> <p>II . Britain’s political and social progress in the years 1837 - 65.</p> <p>Candidates are recommended to confine their attention to a few of the most memorable features of our national or our international history during the period indicated.</p> <p>Examiner John Kirkpatrick, LL. D., Professor of History in the University of Edinburgh.</p> <p>Award;</p> <p>I . A Scholarship of 20, tenable for two years.</p> <p>II . A prize of Ten Pounds.</p>		
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	Window-Box Gardening.	Edmund J. Baillie
	Mrs. Pfeiffer が亡くなり, 多くの遺産を女子教育のために寄付したこと	

	(肖像画) Lord Alfred Tennyson	G. F. Watts, R. A.
	(詩) Morituri Te Salutamus.	Mary Macleod
	Notes on Books.	L. T. Meade
Atalanta Letter-bag	「アタランタ奨学金と読書クラブ」の9月分の First Prize Essay 掲載。	
「優秀者リスト」		
広 告	Mellin's Food 冬の夜に最適なパズルを無料進呈中。	
	Y & N Diagonal Seam Corset	
	Jewsbury and Brown's Oriental Tooth Paste 類似品にご注意を。	

Dec. 1892 (No. 3)

扉絵	“The Star of Bethlehem”	E. Burne-Jones, A. R. A.
連載 (1)	David Balfour. Memoirs of His Adventures at Home and Abroad.	Robert Louis Stevenson
詩	The Dead-Tryst.	Katharine Tynan
絵	A Mighty Hunter. (猫の絵)	Henriette Ronner
読み物, イラスト	Kittens and Cats of Henriette Ronner	Arnold Hamlyn
連載 (3)	Can This Be Love?	Mrs. Parr Author of <i>Dumps</i> , <i>Dorothy Fox</i> .
絵	The Last Sacrifice.	Everard Hopkins
連載 (2), イラスト	Charlotte Corday.	Everard Hopkins
詩	The Christmas-Tree. (From the German of Gustav Hartwig)	A. R. Williams
バラッド, 連載 (2) イラスト	“The house of Tudor, and The House of Stuart In Ballad and Verse.”	<i>Fragment of Loyalist Song.</i>
連載 (1)	Journalistic London.	Alice Corkran
絵	The Annunciation. (受胎告知)	E. Burne-Jones, A. R. A.
絵	Rosa Triplex.	D. G. Rossetti
読み物, イラスト	Some Painters of the Century.	Julia Cartwright
連載 (2)	A Young Mutineer.	L. T. Meade
詩	The Winter Dressmaker.	Olive Montagu Walford
読み物, イラスト	Child Art.	Hume Nisbet

連載 (1)	“Good Genius.” A New <u>Anecdote</u> of Sir Walter Scott. (逸話, 秘話)	Isabella Fyvie Mayo.
絵	“A Garden white lay all the land.”	記載なし。
詩	The Flying Years.	Christian Burke
読み物	A Mercy by the Way. 1685.	E. Nesbit and Oswald Barron
詩, イラスト	The Owl Homestead.	Mary Macleod
「アタランタ奨学金と読書クラブとフィクションの学校」		
テーマ		担当執筆者
Colour in Composition.		S. Baring- Gould
Scholarship Competition Questions	Studies in Composition. 1. Describe a bit of <i>Pension</i> life abroad, or a London Boarding-House, with the characters there met with, and work some light incident out of the assemblage. 2. A Village Girl, transported from her cottage with its homely surroundings, has come to be a servant in a large London fashionable mansion. Describe the scene of her arrival.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	Christmas Books	記載なし
Atalanta Letter-bag	(告示) 6名の新規購読者を紹介した人には, 「アタランタ」1891-92年度版の製本を差し上げます。この版には, 当代きっての作家の作品, 多くのイラストが記載されています。	
「優秀者リスト」		
広告	Mellin's Food 冬の夜に最適なパズルを無料進呈中。	

Jan. 1893 (No. 4)

扉絵	“An <u>Escapade</u> ” (冒険, 脱出)	Elizabeth Gardner
連載 (2)	David Balfour. Memoirs of His Adventures at Home and Abroad.	Robert Louis Stevenson
詩	Winter Woodland.	Maxwell Gray
絵	The New Year.	Reginald Hallward
読み物, イラスト	Lord Tennyson. With a Few Personal Reminiscences.	Hon. Roden Noel
連載 (4)	Can This Be Love?	Mrs. Parr

		Author of <i>Dumps</i> , Dorothy Fox.
絵	St. Paul's, From Bankside.	Hume Nisbet
読み物, イラスト	Amongst the Thames <u>Barges</u> (はしけ, 平底荷船)	Hume Nisbet
連載 (3)	A Young Mutineer.	L. T. Meade
イラスト	"Luke Claus Stanislaus, the King's son, had a sorrow."	Laurence Housman
詩	Royal Heart.	Laurence Housman
読み物, 肖像画	A Master of Romance. R. L. Stevenson.	Alexander H. Japp
詩, イラスト	The Legend of the Christmas Rose.	Mary Macalpine
「アタランタ奨学金と読書クラブとフィクションの学校」		
テーマ		執筆担当者
On Vision in Literature.		Katharine S. MacQuoid
Scholarship Competition Questions	Studies in Composition. 1. Paint imaginary scene. A critical moment has come in the life of the hero or heroine. Two courses of action lie before him or her. Describe the situation. 2. A scene of danger. Introduce as few or as many characters as you prefer.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)		作者当て, 作品当てクイズ
「モリフクロウ」	Women's Suffrage	John Kirkpatrick
	Michaelmas Term at Girton and Newnham	記載なし。
	Notes on Books.	L. T. Meade
「アタランタ手紙靴」	"Atalanta Cot" の収支報告, コンペの収益金は3 シリング。	
「優秀者リスト」		
広告	Mellin's Food ユニークで面白いパズル。2 ペンス同封してお送りください。	
	Y & N Diagonal Seam Corset	
	Jewsbury and Brown's Oriental Tooth Paste 類似品にご注意を。	
	Mother Seigel's Curative Syrup. Two Men Wrong—One Man Right 「あんた1年以内に死ぬよ。」「あんた3年もたないよ。」「お前は死なないさ, Seigel のシロップを試してみた?」 Seigel のシロップを飲みましょう。	
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 (11月) 優秀作品発表。		
Popular Prize の今月号のお題と前回の優秀作品発表。		

Feb. 1893 (No. 5)

扉絵	“Suspense”	L. C. Henley
連載 (3)	David Balfour. Memoirs of His Adventures at Home and Abroad.	Robert Louis Stevenson
詩	Winter Sunset.	Katharine Tynan
絵	The Lake of Geneva.	Art Reproduction Co.
読み物, イラスト	Winter Resorts. “Now is the winter of our discontent.”	L. T. Meade
連載 (5)	Can This Be Love?	Mrs. Parr Author of <i>Dumps, Dorothy Fox</i> .
詩	Fairy-Land.	E. Nesbit
絵	Fairy-Land.	May Bowley
読み物(有名な作曲家の作品とその生涯について) 連載 (3) 肖像画	Characters of the Great Composers and Characteristics of Their Works. Louis Van Beethoven. Carl Maria Von Weber.	Ernst Pauer
詩	The Dead Child.	Ernest Dowson
連載 (2)	Journalistic London. Part II.	Alice Corkran
詩	Farringford Lawn. (In the days that are no more.)	Mary Brotherton
絵	Judy.	Everard Hopkins
連載 (4) ,	A Young Mutineer.	L. T. Meade
詩	A Song.	R. G. O.
絵	The Morning of the Year.	記載なし
連載 (2) 肖像画	“Good Genius.” Jenny Lind (Madame Goldschmidt).	Isabella Fyvie Mayo.
「アタランタ奨学金と読書クラブとフィクションの学校」		
テーマ		執筆担当者
The Mystery of Style.		William Watson
Scholarship Competition Questions	Studies in Composition. Describe an imaginary scene, based on one of the following subjects:— 1. “They bore within their breasts the grief That fame can never heal, The deep, unutterable woe	

Which none save exiles feel.”	
2. “He heard it, but he heeded not,—his eyes Were with his heart, and that was far away.”	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ
「奨学金コンクール」 (1891-92) 結果発表。 1 席, (£20 を 2 年間) 女性 2 名, 賞金は折半。 次席, (£10) 女性 2 名, 賞金は折半。	
「モリフクロウ」	On the Art of Entertaining Louisa Parr
	A Few Reminiscences of Tennyson (II). Roden Noel
	先月号 ‘Women’s Suffrage’ の記事に対する 意見。「結婚によって女性は政治的興味を失 ってしまうという彼(John Kirkpatrick)のは間 違いです。」 B. A., London
	Notes on Books. L. T. Meade
Atalanta Letter-bag	Atalanta Branch of the Selborne Society の秘書が辞任します。希望者を募集 中。
「優秀者リスト」	
Popular Prize の優秀作品発表。	
広告	Mellin’s Food 子供が健やかに育ちます。
	Mother Seigel’s Curative Syrup.
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 (12 月) 優秀作品発表。	

Mar. 1893 (No. 6)

扉絵	Jean Ingelow	<i>From a Photograph by Barrauds, Oxford Street.</i>
連載 (4)	David Balfour. Memoirs of His Adventures at Home and Abroad.	Robert Louis Stevenson
詩	Early Honours.	Horace G. Groser
連載 (1), イラスト	Literary London. Walter Besant, Mrs. Parr, Mrs. Macquoid, Miss Thackeray など文壇で活躍してい る人たちの生活。写真や肖像画。	Robert K. Douglas

連載 (6)	Can This Be Love?	Mrs. Parr Author of <i>Dumps</i> , <i>Dorothy Fox</i> .
詩	Study of a Pool.	J. Logie Robertson
絵	On the Shore.	Philip Sadée
読み物, イラスト	A Painter of the Hague. Adapted from the Dutch by A. Werner.	A. Werner
連載 (5)	A Young Mutineer.	L. T. Meade
読み物(有名な作曲家の作品とその生涯について) 連載 (4) 肖像画	Characters of the Great Composers and Characteristics of Their Works. Franz Schubert. Felix Mendelssohn-Bartholdy.	Ernst Pauer
読み物, イラスト	The Poetic Charm of Old Ruins.	Alexander Lamont
連載 (3) 肖像画	“Good Genius.” The Brownings.	Isabella Fyvie Mayo.
読み物	The Purple Crocus.	Edward C. Malan, F. L. S.
詩	Atalanta.	H. M. Waithman
「アタランタ奨学金と読書クラブとフィクションの学校」		
テーマ		執筆担当者
The Short Story.		Lanoe Falconer ‘Author of <i>Mademoiselle Ixe.</i> ’
Scholarship Competition Questions	Studies in Composition. Relate one short incident, complete in itself. Subject left to Competitor’s choice.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	A Letter from Cambridge.	記載なし。
	Notes on Books.	L. T. Meade
「アタランタ手紙 靴」	Atalanta Race’のお知らせ。詳しくは「アタランタ」の管理人まで。返信切手を添えてください。	
Popular Prize の優秀作品発表。		
「優秀者リスト」		
広告	Mellin’s Food 子供が健やかに育ちます。	
	Mother Seigel’s Curative Syrup.	
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 (1月) 優秀作品発表。		

Apr. 1893 (No. 7)

扉絵	A Girton Girl. "The guise that fits my brave girl-student best."	Gordon Browne
詩	A Girton Girl.	Sir Noel Paton
連載 (5)	David Balfour. Memoirs of His Adventures at Home and Abroad.	Robert Louis Stevenson
詩	An April Song.	Annie Matheson
連載 (2) , イラスト	Literary London. Christina Rossetti, Mrs. Molesworth など 文壇で活躍している人たちの生活。写真 や肖像画。	Robert K. Douglas
連載 (6)	A Young Mutineer.	L. T. Meade
読み切り, イラスト	Spring Flowers.	E. Montpellier
連載 (7)	Can This Be Love?	Mrs. Parr Author of <i>Dumps</i> , <i>Dorothy Fox</i> .
読み物, イラスト	Sir Noel Paton.	Kineton Parkes
読み物	A Tale of Pets.	E. Conder Grey
読み物(有名な作曲家の作品とその生涯について) 連載 (5) 肖像画	Characters of the Great Composers and Characteristics of Their Works. Robert Schumann. Frédéric Chopin.	Ernst Pauer
読み物	The Rose of Love.	E. Nesbit
「アタランタ奨学金と読書クラブとフィクションの学校」		
テーマ		執筆担当者
The Historical Novel		Prof. A. J. Church
Scholarship Competition Questions	Studies in Composition. Sketch the outline of a Plot of an Historical Story. Lay the scene in whichever period you prefer, and indicate to what extent real personages and incidents will be introduced.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	

「モリフクロウ」	Our <u>Club</u> “Come over and help us.” 労働者階級の未婚女性のためのガールズクラブへの 支援要請。	Eleanor Bairdsmith
	Flower Missions.	Janetta G. Weatherley
	Appeal for joining the“ Society for the Protection of Birds.”	Hannah Poland
	Notes on Books.	L. T. Meade
Atalanta Letter-bag	“Atalanta. Cot” の収支決算書, 寄付した人名と金額。コンペの収益金は2 シリング6ペンス。	
「優秀者リスト」.		
Atalanta Competition の優秀作品発表。		
広告	Mellin’s Food 子供が健やかに育ちます。	
	Jewsbury and Brown’s Oriental Tooth Paste 類似品にご注意を。	
	Y & N Diagonal Seam Corset	
	Mother Seigel’s Curative Syrup.	
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 (2月) 優秀作品発表。		
「懸賞作品コンクール」 の今回の作品のお題発表と前回の作品の優秀者発表。		

May 1893 (No. 8)

扉絵	“When all the World is Young.”	S. Wright
連載 (6)	David Balfour. Memoirs of His Adventures at Home and Abroad.	Robert Louis Stevenson
詩	The Last Work.	記載なし
イラスト	Marie Antoinette’s Marriage Fan.	記載なし
読み物, イラスト	The Fan.	Mrs. Parr
連載 (7)	A Young Mutineer.	L. T. Meade
バラッド, イラスト	The Life Lamp.	E. Nesbit and Oswald Barron
連載 (4) 肖像画	“Good Genius.” John Greenleaf <u>Whittier</u> . With two hitherto unpublished Poems. ホイットィアー(1907-92), アメリカの詩	Isabella Fyvie Mayo.

	人・奴隷制廃止論者：Snow - Bound 『冬ごもり』 (1866) 通称 “the Quaker Poet.” He edited various periodicals and wrote poetry for the abolitionist cause.	
連載 (8)	Can This Be Love?	Mrs. Parr Author of <i>Dumps</i> , <i>Dorothy Fox</i> .
読み物	A Justice of the Peace.	A. Hammond
絵	May.	A. L. Bowley
「アタランタ奨学金と読書クラブとフィクションの学校」		
テーマ		執筆担当者
On the Art of Writing Fiction for Children.		Mrs. Molesworth
Scholarship	Studies in Composition.	
Competition	Tell a short Story that will prove interesting to Children under the age of fourteen	
Questions	years.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)		作者当て，作品当てクイズ
「モリフクロウ」	Gardening for Girls	H. R. Vernon
	Oxford 大学での奨学金，20 ポンドを3年間。大学近くの下宿に住み，大学の教育カリキュラムを受ける権利を得るための，エッセイのコンテストを行います。25歳以下 (<i>Oxford Scholarships</i>) エッセイのタイトルは The Force of Example. 審査員は，Prof. R. K. Douglas.	記載なし
	The Zenana Mission. (インド婦人室伝道会，インド女性の衛生，教育思想の改善をはかるキリスト教伝道会)	L. T. Meade
Atalanta Letter-bag	Atalanta Race Competition の開催のお知らせ。 新規の定期購読者を多く紹介した読者への賞，1位ピアノ (80ギニー)，2位タイプ・ライター (21ギニー)，3位チェーン付き金時計 (15ギニー) などが与えられます。	
「優秀者リスト」		
Atalanta Competition の優秀作品発表。		
広告	Mellin's Food 子供が健やかに育ちます。	
	Mother Seigel's Curative Syrup.	
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 (3月) 優秀作品発表。		

June 1893 (No. 9)

扉絵	“The Squire’s Daughter”	Edwin Long, R. A.
連載 (7)	David Balfour. Memoirs of His Adventures at Home and Abroad.	Robert Louis Stevenson
詩, イラスト	June.	Mary Macleod
絵	Summer Snow.	L. Dockray
読み物	Artistic London.	Mabel F. Robinson
絵	A Study.	Henriette Ronner
読み物, イラスト	More about <u>Henriette Ronner</u> . 犬や猫を描いた画家。	John Mollett
連載 (9)	Can This Be Love?	Mrs. Parr Author of <i>Dumps, Dorothy Fox</i> .
バラッド, 連載 (3) イラスト	“The House of Tudor, and the House of Stuart In Ballad and Verse.”	記載なし
連載 (4)	“Good Genius.” John Greenleaf Whittier. part II.	Isabella Fyvie Mayo.
詩	House and Home.	Katharine Tynan
絵	An Army of Lilies.	L. Dockray
読み物	The Struggles of Plants for a Livelihood.	G. Sutherland
読み物	The Cowslip. Brother Bartholomew. “There he dwelt with the King.”	Edward C. Malan, F. L. S.
「アタランタ奨学金と読書クラブとフィクションの学校」		
テーマ		執筆担当者
A Story to Tell		Louisa Parr
Scholarship Competition Questions	Studies in Composition. Give the outline of an imaginary Ghost Serial Story. The story to consist of Four Parts; each part to contain Four Chapters. Trace the progress of the tale, chapter by chapter.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)		作者当て, 作品当てクイズ
「モリフクロウ」	Sketching from Nature. Part I.	Elie Toulmin-Smith
	Notes on Books.	L. T. Meade
「アタランタ手紙靴」	「アタランタ奨学金と読書クラブ」の「優秀者リスト」 (April)	

広告	The Employment of Women. 法廷弁護士 Mr. H. S. 某によると、タイプライターは、就職難に悩む女性の問題を解決します。この観点から、ヨースト・タイプライター社は、当社でタイプを購入された女性で、在宅で書類を書き写す仕事の収入について相談したい方に一定の職をあっせんいたします。
	Mellin's Food 子供が健やかに育ちます。
	Jewsbury and Brown's Oriental Tooth Paste 類似品にご注意を。
	Y & N Diagonal Seam Corset
	Mother Seigel's Curative Syrup.
「アタランタ奨学金と読書クラブ」(4月) 優秀作品発表。	

July 1893 (No. 10)

扉絵	“A Vigil” (寝ずの番)	L. F. Muckley
連載 (8)	David Balfour. Memoirs of His Adventures at Home and Abroad.	Robert Louis Stevenson
絵	The Sea-gulls' Home.	L. Dockray
詩	For the Princess May. (May 19, 1893)	Alexander H. Japp
絵	From the Bridge, Dol.	Thos. Macquoid, R. I. del
読み物, イラスト	On the Breton Border. フランス, ブルターニュ地方の境界付近。	Katharine S. Macquoid and Gilbert S. Macquoid
連載 (10)	Can This Be Love?	Mrs. Parr Author of <i>Dumps</i> , <i>Dorothy Fox</i> .
読み物	Painting “In Little.” Miniature of Angels, Saints から始まったペンダントの中の肖像。	Adela Orpen
絵	The Wrong Sort of a Holiday. (A day only, and nobody to care for them.) いたずらっ子たち。	Dorothy Tennant (Mrs. H. M. Stanley) and others
読み物, イラスト (写真)	The Children's Country Holidays. 週に1ペンス稼ぐイースト・エンドの子守りの少女の写真や, 右頬の下に友人との口論の経歴(記憶)をとどめた少年の写真など。	L. T. Meade

「アタランタ奨学金と読書クラブとフィクションの学校」		
テーマ		執筆担当者
On the Development of Character in Fiction		Maxwell Grey
Scholarship Competition Questions	Studies in Composition. Sketch the Portrait of <i>one</i> person—man, woman, or a child. Place him or her in any circumstances you prefer, but trace the <i>development of character</i> through the progress of the story, whether for good or ill. Tito, in George Eliot's <i>Romola</i> , is a splendid example of this sort of study.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て、作品当てクイズ	
「モリフクロウ」	Sketching from Nature Part II. Colour.	Elie Toulmin-Smith
	Notes on Books.	L. T. Meade
「アタランタ手紙 靴」	Report of the A. Cot in the Royal Alexandra Hospital, Rhyl. の収支決算。 アタランタの応募作品を売った益金は10シリング。	
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 (5月) 優秀作品発表。		
広告	Mellin's Food 子供が健やかに育ちます。	
「優秀者リスト」		
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 (5月) 優秀作品発表。		
「懸賞作品コンクール」 の今回のお題と前回の優秀者。		

Aug. 1893 (No. 11)

扉絵	Mount Etna in Eruption, July, 1902.	Hume Nisbet
連載 (9)	David Balfour. Memoirs of His Adventures at Home and Abroad.	Robert Louis Stevenson
読み物, イラスト	The Work of the Della Robbias. 聖母と子のテラコッタ・レリーフ (浮彫)	Helen Zimmern
詩	With a Rose.	Lady Lindsay
連載 (11)	Can This Be Love?	Mrs. Parr Author of <i>Dumps</i> , <i>Dorothy Fox</i> .
読み物, イラスト	George Eliot's Country. Ellaston	E. Montpellier
連載 (5) 肖像画	"Good Genius." Harriet Beecher Stowe 『アンクル・トム	Isabella Fyvie Mayo.

	の小屋』の作者。	
詩	Where the Rainbows Rest.	Christian Burke
読み物, イラスト	The Evolution of the Pianoforte. ピアノの進化の解説。	Alfred Alfieri
「アタランタ奨学金と読書クラブとフィクションの学校」		
テーマ		執筆担当者
The Novel with a Purpose.		Mabel F. Robinson
Scholarship Competition Questions	Studies in Composition. Write an Essay of not more than 500 words, giving your own views with regard to the subject treated of in this month's Paper.	
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	
Oxford Scholarship Awards の奨学金 (5月号に掲載) のエッセーコンテストでの奨学金獲得者, 2名発表。うち1名は牧師の娘 (Hanborough Rectory 在住) である。審査員, R. K. Douglas の読後評の記載あり。		
「モリフクロウ」	今回は休載。	
「アタランタ手紙靴」	Popular Prize (No. V) Awards. Anagram Competition. の受賞者発表。 Words to be used-“The Marriage of the Duke of York and the Princess May.” アナグラムの優秀者10名には, Messrs. Nicholson & Co. で使用できる半ギニーの商品券をお送りします。	
「優秀者リスト」		
広告	Mellin's Food 子供が健やかに育ちます。	
	Jewsbury and Brown's Oriental Tooth Paste 類似品にご注意を。	
	Y & N Diagonal Seam Corset	
	Mother Seigel's Curative Syrup.	
「アタランタ奨学金と読書クラブ」 (6月) 優秀作品発表。		

Sep. 1893 (No. 12)

連載 (10)	David Balfour. Memoirs of His Adventures at Home and Abroad.	Robert Louis Stevenson
絵	The Silver Thames	L. Dockray
絵	“O, a rare merry place is the Land of Coçaigne.”	C. I. M. Bain

詩	The Land of Cocaigne.	May Bowley
読み物	The Homeland.	Dagmar
詩	The Temple of the Wood.	Janet Logie Robertson
絵	“Come live with me, and be my love.”	記載なし
古いバラッド, イラスト	The Passionate Shepherd to His Love.	Christopher Marlowe
絵	“These delights my mind might move to live with thee, and be thy love.”	記載なし
古いバラッド, イラスト	The Nymph’s Reply.	Sir Walter Raleigh
読み物	A Stupendous Enterprise	Benjamin Taylor, F. R. G. S.
詩	Song for Music.	Marion Buchanan
読み物, イラスト	By Mere and Tarn in Yorkshire.	L. Toulmin-Smith
連載 (12)	Can This Be Love?	Mrs. Parr Author of <i>Dumps</i> , <i>Dorothy Fox</i> .
詩	“Rogues.” (Defective flowers are called “Rogues” by Gardeners.)	B. J. Pennington
絵	Brynhild, the Valkyr.	Margaret L. Hooper
読み物	<u>Brynhild, the Valkyr.</u> 北欧神話の主神にして、知識・文化・戦争・死者の神である Odin に仕える侍女（ワルキューレ）の一人。戦死した英雄たちの霊を Valhalla に導く。	M. L. Hooper
「アタランタ奨学金と読書クラブとフィクションの学校」		
テーマ		執筆担当者
From the Editor’s Standpoint.		L. T. Meade
Scholarship Competition 1892-93. Subject An Original Story, not more than 4000 words in length. All members of the Reading Union under the age of twenty-five years, whose names have appeared five or more times in the 「優秀者リスト」, are eligible to compete. (By Dec. 1 st , 1893.)		
Search Passages in English Literature (英文学作品クイズ)	作者当て, 作品当てクイズ	

「モリフクロウ」	A Family of Misses.	Mrs. Barbauld
「アタランタ手紙靴」	Popular Prize (No. VI) Awards. Epitaph Competition. 5つの優秀作品が送られました。Messrs. Nicholson & Co. で使用できる1ギニーの商品券を贈ります。	
	ATALANTA Branch of the Selborne Society. の紹介。(会の趣旨は、不必要な自然の破壊や、服や装飾品に使われる羽毛を採るために鳥を殺すことをやめさせること。美しい自然の景観を守るなど。「アタランタ」支部の会員にミードの名前が記載されている。)	
「優秀者リスト」		
広告	Mellin's Food 子供が健やかに育ちます。	
	Jewsbury and Brown's Oriental Tooth Paste 類似品にご注意を。	
	Y & N Diagonal Seam Corset	
	Mother Seigel's Curative Syrup.	
「アタランタ奨学金と読書クラブ」(7月) 優秀作品発表。		

